

取扱説明書

AMAZONE

UX 11200

スプレーヤー



MG6669
BAG0101.9 11.17
Printed in Germany

初期設定を行う前に、
本取扱説明書をよくお読みください。
今後必要になる場合に備え、安全な場所
に保管してください！

ja



本書をよくお読みください

取扱説明書を読み、その内容を遵守することは面倒で余計なことだと思われるかもしれませんが。しかし、この機械が優良であると人から見聞きし、機械を購入し、後はすべて独りでにうまくいくと信じるだけでは不十分です。それでは自分自身に損害を与えるだけでなく、意に反した作動が起きた場合の原因を自分ではなく機械のせいにもしかねません。良い成果を得るには、使い方を良く理解し、機械の各設備が持つ使用目的について知り、操作方法に精通する必要があります。そうすることで初めて、機械にも自分自身にも満足することができるのです。それを果たすことが、本取扱説明書の目的です。

ライブツイヒ

プラークヴィッツ、1872年



識別データ

メーカー: AMAZONEN-WERKE
H. DREYER GmbH & Co. KG

機械の識別番号:

タイプ: UX 11200

許容システム圧力 (bar) : 最大 10 (bar)

製造年:

工場:

基本重量 (kg) :

許容総重量 (kg) :

最大荷重 (kg) :

メーカーの所在地

AMAZONEN-WERKE
H. DREYER GmbH & Co. KG
Postfach 51
D-49202 Hasbergen / Germany
電話: + 49 (0) 5405 50 1-0
E-mail: amazone@amazone.de

交換部品の注文

交換部品のリストは、www.amazone.deの交換部品ポータルで自由に閲覧可能です。

担当の AMAZONE 代理店にご注文ください。

文書番号： MG6669

編集日： 11.17

© Copyright AMAZONEN-WERKE H. DREYER GmbH & Co. KG, 2017

All rights reserved.

AMAZONEN-WERKE H. DREYER GmbH & Co.

KGの許可なく本書の一部または全部を複製することを禁じます。

本取扱説明書は、機械の全バージョンに対して有効です。

全ての装備が、追加装備との区別無く記載されています。

このため、お客様の機械に取り付けられていない装備や特定の国・地域でしか入手できない装備についても、記載されている可能性があります。お客様の機械の装備については、納品書を確認するか、販売店に詳細をお問い合わせください。

本取扱説明書の内容は、全て締め切り時点の情報に基づいています。機械の開発は継続されているため、機械と本取扱説明書の内容に相違が生じることがあります。

内容や図、記述が異なるという理由では、いかなる請求も行うことはできません。

掲載図は概略を示すものであり、模式図とお考えください。

お客様が機械を売却する際は、機械に取扱説明書が付属していることをご確認ください。

はじめに

顧客の皆様

このたびは、弊社 AMAZONEN-WERKE, H. DREYER GmbH & Co. KGの高品質で豊富な製品の中から当機をお選びいただき、ありがとうございます。そのご信頼に対し深く御礼申し上げます。

機械を受け取ったら、輸送中に損傷を受けていないか、また部品がすべて揃っているか確認してください。納品書と照らし合わせ、注文した特殊装備も含め、すべてが機械に備わっていることを確認してください。ただちに問題を指摘していただかないと、不具合を修正することができません。

初期設定を行う前に、本取扱説明書（特に安全に関する注意事項）をよく読み、十分に理解してください。注意深くお読みいただいて初めて、ご購入いただいた機械のすべての長所が活用可能になります。

初期設定を行う前に、機械を操作する人が全員、本取扱説明書を読んだことを確認してください。

不明点や疑問点がある場合は、本取扱説明書を参照するか、担当の弊社サービスパートナーまでお問い合わせください。

定期的にメンテナンスを実施し、磨耗部品や損傷部品を適宜交換することで、機械の寿命を伸ばすことができます。

ユーザーからの評価

読者の皆様

弊社では定期的に取り扱説明書をアップデートしております。よりユーザー本位の取扱説明書に改良していくため、皆様からのご意見は大変参考になります。

AMAZONEN-WERKE

H. DREYER GmbH & Co. KG

Postfach 51

D-49202 Hasbergen / Germany

電話： + 49 (0) 5405 50 1-0

E-mail: amazone@amazone.de

1	ユーザー向けの情報	13
1.1	本書の目的	13
1.2	本取扱説明書での位置の記載	13
1.3	使用している記号	13
2	一般的な安全上の注意事項	15
2.1	義務と責任	15
2.2	安全に関する記号の意味	17
2.3	組織としての対策	18
2.4	安全・保護装置	18
2.5	通常の安全対策	18
2.6	ユーザートレーニング	19
2.7	通常の操作時の安全対策	20
2.8	残留エネルギーによる危険	20
2.9	メンテナンスと修理作業、不具合の修正	20
2.10	設計変更	21
2.10.1	交換・消耗部品および補助装置	21
2.11	清掃および廃棄処分	22
2.12	ユーザーの操作場所	22
2.13	機械上の警告マークとその他の記号	23
2.13.1	警告マークとその他の記号の位置	24
2.14	安全上の注意事項を守らないことによる危険	32
2.15	安全を重視した作業	32
2.16	ユーザーのための安全上の注意事項	33
2.16.1	安全および事故防止のための一般的な注意事項	33
2.16.2	油圧系統	37
2.16.3	電気系統	38
2.16.4	PTOの運転	39
2.16.5	牽引されている機械	40
2.16.6	ブレーキシステム	41
2.16.7	タイヤ	43
2.16.8	スプレーヤーの操作	44
2.16.9	清掃、メンテナンス、修理	45
3	積載	47
4	製品の説明	49
4.1	各種アセンブリの概要	49

4.2	安全・保護装置	51
4.3	液体回路	52
4.4	トラクターと機械の間の供給ライン	53
4.5	走行用の装備	54
4.6	意図された用途での使用	55
4.7	定期的な装置の点検	56
4.8	ある種の農薬を使用することの影響	57
4.9	危険区域と危険箇所	58
4.10	銘板とCEマーク	59
4.11	適合	59
4.12	最大許容散布量	60
4.13	技術データ	61
4.13.1	本体	61
4.13.2	残留物	62
4.13.3	機械本体とモジュールの重量	65
4.13.4	許容総重量とタイヤ	67
4.14	騒音発生データ	68
4.15	必要なトラクター装備	69
5	機械本体の構造と機能	70
5.1	機能	70
5.2	制御装置	72
5.3	プロペラシャフト	76
5.3.1	プロペラシャフトの連結	79
5.3.2	プロペラシャフトの連結解除	80
5.4	油圧接続	81
5.4.1	油圧ホースラインの連結	83
5.4.2	油圧ホースラインの連結解除	84
5.5	エアブレーキシステム	85
5.5.1	自動荷重対応式制動力調整器 (ALB)	86
5.5.2	ブレーキシステムの連結	87
5.5.3	ブレーキシステムの連結解除	89
5.6	油圧式ブレーキシステム	90
5.6.1	油圧式ブレーキシステムの連結	90
5.6.2	油圧式ブレーキシステムの連結解除	90
5.6.3	非常ブレーキ	90
5.7	パーキングブレーキ	92
5.8	折り畳み式の輪止め	93

5.9	ブレーキシステムなしの機械用のセーフティチェーン	94
5.10	タンデム軸	95
5.11	ハイドロニューマチック・サスペンション	96
5.12	油圧式サポートスタンド	97
5.13	散布液タンク	98
5.13.1	アジテーター	99
5.13.2	梯子付きのメンテナンス用プラットフォーム	100
5.13.3	散布液タンク充填用の吸入口 (オプション)	101
5.13.4	散布液タンクの圧力充填用接続部 (オプション)	101
5.14	洗浄水タンク	102
5.15	缶洗浄装置がある薬液混合タンク	103
5.16	Ecofill 充填接続部 (オプション)	105
5.17	ハンドウォッシュ装置	106
5.18	ポンプ装置	107
5.18.1	油圧ポンプ駆動 (オプション)	107
5.19	フィルタ装置	108
5.19.1	充填用ストレーナー	108
5.19.2	吸引フィルタ	108
5.19.3	自浄式圧力フィルタ	109
5.19.4	ノズルフィルタ	110
5.19.5	薬液混合タンクのボトムストレーナー	110
5.20	運搬ボックス	111
5.21	底面の作物保護パーツ (オプション)	111
5.22	外部洗浄装置 (オプション)	112
5.23	カメラシステム	113
5.24	作業灯	114
5.25	コンフォート仕様	115
5.26	操作端末	116
5.27	AmaPilot / AmaPilot+ マルチファンクションハンドル	117
6	スプレーヤーブームの構造と機能	118
6.1	Super (スーパー) L ブーム	122
6.1.1	スパーサー	123
6.2	スプレーヤーブームを片側だけ広げた状態での作業	125
6.3	外側サイドアームの削減用ジョイント (オプション)	126
6.4	ブーム幅縮小 (オプション)	127
6.5	延長ブーム (オプション)	128
6.6	油圧式の傾き調節 (オプション)	129

6.7	ディスタンスコントロール (オプション)	129
6.8	散布ライン	130
6.8.1	シングルノズル	132
6.8.2	マルチノズル (オプション)	133
6.8.3	限界ノズル、電動または手動	134
6.8.4	電動末端ノズル切り替え (オプション)	134
6.8.5	電動追加ノズル切り替え (オプション)	134
6.9	自動の個別ノズル切り替え (オプション)	135
6.9.1	個別ノズル切り替え AmaSwitch	135
6.9.2	4つの個別ノズル切り替え AmaSwitch	135
6.10	液体肥料についての特別オプション装備	137
6.10.1	3 線ノズル (オプション)	138
6.10.2	散布ライン用ラインフィルタ (オプション)	138
6.10.3	7 穴ノズル / FD ノズル (オプション)	139
6.11	発泡マーカ (オプション)	140
6.12	リフティングモジュール (オプション)	141
7	運転開始	142
7.1	トラクターの適正を確認	143
7.1.1	トラクターの総重量、軸荷重、タイヤの許容負荷、 必要な最小バラスト値の実際の値の計算	143
7.1.2	機械を牽引したトラクターを運転するための前提条件	148
7.1.3	専用のブレーキシステムがない機械	151
7.2	トラクターにプロペラシャフトの長さを適合させる	152
7.3	トラクター/機械が不意に始動して走り出すことのないように固定	155
7.4	ホイールの取り付け	157
7.5	ブレーキシステムの初期設定	158
7.6	油圧システムをシステム設定ねじで設定	159
7.7	DoubleTrail 回転角度エンコーダー	161
8	機械の連結と連結解除	162
8.1	機械の連結	162
8.2	機械の連結解除	164
8.2.1	連結解除した機械の取り回し	165
9	輸送走行	167
10	機械の使用	170
10.1	散布作業の準備	173
10.2	散布液を準備	174

目次

10.2.1	充填/補充量の計算	178
10.2.2	残り散布範囲のための充填表	179
10.2.3	吸込口を介して散布液タンクを充填し、同時に薬剤を注入	181
10.2.4	ECOFILL での注入	184
10.2.5	充填接続部を介した散布液タンクの充填と、薬剤の注入	185
10.3	散布作業	188
10.3.1	散布液の散布	190
10.3.2	ドリフト低減対策	192
10.3.3	洗浄水を用いた散布液の希釈	193
10.4	残留物	194
10.4.1	散布作業終了時における散布液タンク内の余剰残留物の希釈と希釈した残留物の散布 ...	195
10.4.2	ポンプによる散布液タンクの排出	196
10.5	スプレーヤーの清掃	197
10.5.1	散布液タンクが空の状態でのスプレーヤーの清掃	198
10.5.2	危険な薬剤を交換する際のスプレーヤー集中清掃	199
10.5.3	化学清掃の実施	200
10.5.4	最終残留物の排出	201
10.5.5	散布剤タンクが空の状態で吸引フィルター を清掃する	202
10.5.6	散布剤タンクが充填された状態で吸引フィルタを清掃する	203
10.5.7	散布剤タンクが空の状態で圧力フィルター を清掃する	204
10.5.8	散布剤タンクが充填された状態で圧力フィルタを清掃する	204
10.5.9	外部の清掃	205
10.5.10	散布剤タンクが充填された状態でスプレーヤーを清掃する（作業の中断）	206
11	DoubleTrail	208
11.1	操作端末	209
11.2	道路走行モード	211
11.3	圃場モード	211
11.3.1	圃場モードのスイッチ ON と OFF	211
11.3.2	ステアリングプログラムトラックフォローステアリング	213
11.3.3	手動モードステアリングプログラム	213
11.4	軸の同期	214
11.5	テストとエラー	215
11.5.1	スイッチ ON テスト	215
11.5.2	エラーランプとエラーブザー	215
11.5.3	エラーメモリー	215
12	障害	216

13	清掃、メンテナンスおよび修理.....	218
13.1	清掃.....	220
13.2	冬季の保管および長期間使用しない場合.....	221
13.3	注油規定.....	224
13.3.1	注油ポイントの概要.....	225
13.4	メンテナンス計画 - 概要.....	229
13.5	軸とブレーキ.....	232
13.5.1	油圧式ブレーキ.....	240
13.6	パーキングブレーキ.....	241
13.7	タイヤ/ホイール.....	242
13.7.1	タイヤ空気圧.....	243
13.7.2	タイヤの装着（工場での作業）.....	243
13.8	連結装置の点検.....	244
13.9	油圧空気圧スプリングサスペンション.....	246
13.10	牽引装置.....	246
13.11	油圧系統.....	247
13.11.1	油圧ホースラインの記号.....	248
13.11.2	メンテナンス間隔.....	249
13.11.3	油圧ホースラインの点検基準.....	249
13.11.4	油圧ホースラインの取り付けと取り外し.....	250
13.11.5	オイルフィルタ.....	252
13.11.6	マグネット弁の清掃.....	253
13.11.7	油圧プラグのフィルター の清掃 / 交換.....	254
13.11.8	ハイドロニューマチック蓄圧器.....	255
13.11.9	油圧スロットルバルブの調整.....	255
13.12	ポンプ.....	258
13.12.1	オイル量の点検.....	258
13.12.2	オイル交換.....	259
13.12.3	清掃.....	259
13.12.4	吸引側と圧力側のバルブの点検と交換（工場での作業）.....	260
13.12.5	ピストンダイヤフラムの点検と交換（工場での作業）.....	261
13.13	蓄圧器のダイヤフラム を点検し、交換する（工場での作業）.....	263
13.14	流量計のキャリブレーション.....	263
13.15	システム内の石灰化を除去.....	264
13.16	スプレーヤーのキャリブレーション.....	265
13.17	ノズル.....	268
13.17.1	ノズルの取り付け.....	268
13.17.2	ダイヤフラムバルブの取り外し（ノズルから液体が垂れている場合）.....	269

目次

13.18	ラインフィルタ	269
13.19	スプレーヤーのテストに関する注意事項	270
13.20	ボルト締め付けトルク	272
13.21	スプレーヤーの廃棄	273
14	散布表	274
14.1	フラットスプレー / ドリフト防止 / インジェクタ / 空気混合ノズル、散布高さ 50 cm	274
14.2	液体肥料向けの散布ノズル	279
14.2.1	3線ノズルについての散布表、散布高さ 120 cm	279
14.2.2	7 穴ノズルの散布表	281
14.2.3	FDノズルの散布表	284
14.2.4	ドラッグホース装置の散布表	286
14.3	硝酸アンモニウム/尿素溶液 (AUS) 液体肥料噴霧換算表	289

1 ユーザー向けの情報

この「ユーザー向けの情報」の章では、本取扱説明書の使い方について説明します。

1.1 本書の目的

本取扱説明書について

- 本書には機械の操作方法・メンテナンスが記載されています。
- 本書には機械の安全で効率的な操作方法が記載されています。
- 本書は機械を構成する一部です。つねに機械または牽引車両と一緒に保管する必要があります。
- 今後必要になる場合に備え、安全な場所に保管してください。

1.2 本取扱説明書での位置の記載

本取扱説明書に書かれている方向は、すべて進行方向を基準としています。

1.3 使用している記号

操作手順と操作結果

ユーザーが実施しなければならない操作手順には、番号が振られています。記載されている順序を必ず守ってください。操作結果は、矢印で示されています。例：

1. 操作手順 1
- 操作手順1に対する操作結果
2. 操作手順 2

リスト

順番が重要ではないリストは、黒丸で箇条書きになっています。例：

- ポイント1
- ポイント2

図中の番号

丸カッコに入った数字は、図中のアイテム番号を示しています。1つめの数字は図の番号を意味し、2つめの数字は位置を指します。

例：（ 図 3/6 ）

- 図3
- 位置6

2 一般的な安全上の注意事項

本章では、機械の安全な操作に関する重要な情報が記載されています。

2.1 義務と責任

本取扱説明書の指示をお守りください

機械を安全に、かつ正常に操作するためには、基本的な安全上の注意事項と安全規則に関する知識が基本条件となります。

オペレーターの義務

オペレーターは、機械を使って作業する人々が以下の行動を取るよう管理する義務を負います。

- 基本的な作業場での安全上の注意事項と事故防止規則を守ること。
- 機械を使った作業方法について訓練を受けること。
- 本取扱説明書を読み、理解すること。

オペレーターは以下の義務を負います。

- 機械に取り付けられているすべての警告マークを判読可能な状態に維持すること。
- 損傷した警告マークは交換すること。

ユーザーの義務

機械を使って作業する人は全員、作業を開始する前に以下の行動を取る義務を負います。

- 基本的な作業場での安全上の注意事項と事故防止規則を守ること。
- 本取扱説明書の「一般的な安全上の注意事項」の章を読み、守ること。

- 本取扱説明書の「機械上の警告マークとその他の記号」の章（23 ページ）を読み、機械を操作するときは警告マークが表している安全上の注意事項を守ること。

- ご不明な点があればメーカーまでお問い合わせください。

機械取り扱い時の危険

本機械は最先端技術を駆使し、広く認められている安全規則を踏まえて製造されています。しかし、機械の操作は潜在的な危険を伴うものであり、以下のものに損害を与える可能性があります。

- ユーザーまたは第三者の健康と安全
- 機械
- その他の所有物

本機械を使用する場合は必ず、

- 本来の使用目的で使用してください。
- 安全技術上完璧な状態で使用してください。

安全性を損なう恐れのある不具合はただちに修理してください。

保証と賠償

弊社の「販売および納入の一般条件」が常に適用されます。これは遅くとも契約締結時までにオペレーターに提示されます。以下の1つ以上の事由に原因が求められる場合は、人的および物的損害に対する保証および賠償請求は無効となります。

- 機械の不適切な使用
- 機械の不適切な取り付け、初期設定、操作およびメンテナンス
- 安全装置に不具合がある状態または不適切に取り付けた状態、もしくは安全装置が機能しない状態で、機械を操作した場合
- 初期設定、操作およびメンテナンスに関する本取扱説明書の指示を無視した場合
- 無許可での機械の設計変更
- 磨耗する可能性のある機械部品を十分に監視していなかった場合
- 不適切に修理を実施した場合
- 不可抗力または異物の衝突による災害

2.2 安全に関する記号の意味

安全上の注意事項は、三角形の安全マークと目立つ警告文字によって表示されています。警告文字（危険、警告、注意）は、危険の度合いを表し、以下の意味があります。



危険

回避しなければ死亡または重傷（体の一部の損失または長期の傷害）を招くことになる、差し迫った高い危険を示します。

指示に従わなかった場合、ただちに死亡または重傷を負うことになります。



警告

回避しなければ死亡または（命にかかわる）重い怪我を招く可能性がある、中程度の危険を示します。

指示に従わなかった場合、死亡または命にかかわる重い怪我を負う可能性があります。



注意

回避しなければ軽傷または中程度の怪我や物的損害を招く恐れのある低い危険を示します。



重要

機械を正しく操作するために必要な行動や、義務付けられる特別な行為を示します。

これらの指示に従わないと、機械の不具合や環境への悪影響を招く恐れがあります。



注記

操作のヒントや特に役立つ情報を示します。

これらの指示は、お使いの機械のすべての機能を最大限に活用するのに役立ちます。

2.3 組織としての対策

オペレーターは、使用する農薬についてメーカーが提供する情報に基づき、以下のような必要な個人用保護具を提供する必要があります。

- 耐薬品性の手袋
- 耐薬品性のオーバーオール
- 耐水性のある靴
- 安全マスク
- 呼吸保護
- 保護メガネ
- 皮膚の保護剤、その他



本取扱説明書は、

- 必ず機械を操作する場所に保管してください。
- ユーザーとメンテナンス担当者が、常に容易に閲覧できるようにしてください！

すべての安全装置を定期的に点検してください。

2.4 安全・保護装置

機械を作動させる前に毎回、すべての安全・保護装置が正しく取り付けられ、完全に機能することを確認してください。すべての安全・保護装置を定期的に点検してください。

故障した安全装置

安全・保護装置が故障していたり、取り外されていると、危険な状況を招く恐れがあります。

2.5 通常の安全対策

本取扱説明書に記載のすべての安全上の注意事項に加え、一般的な各国の事故防止および環境保護に関する規則を遵守してください。

公道を走行する場合は、各国の道路交通法を守ってください。

2.6 ユーザートレーニング

トレーニングを受け、指示を受けた人だけが、機械を使って作業することができます。操作およびメンテナンス作業を担当する人の責任を明確にする必要があります。

現在トレーニング中の人は、必ず経験を積んだ人の監督のもとで、機械を使った作業を行ってください。

作業 \ 人	当該作業について専門的なトレーニングを受けた人 ¹⁾	訓練を受けたユーザー ²⁾	専門トレーニングを受けた人 (専門工場*) ³⁾
積載/運搬	X	X	X
運転開始	--	X	--
セットアップ、部品の設置	--	--	X
運転	--	X	--
メンテナンス	--	--	X
トラブルシューティング	X	--	X
処分	X	--	--

記号の意味：

X..可能

--..禁止

- 1) 特定の作業を引き受けることができ、しかるべき資格のある会社のためにこの作業を実施することができる人。
- 2) 使い方を教わった人とは、割り当てられた作業の内容や、不適切な行動を取った場合に起こりうる危険について教わり、必要に応じてトレーニングを受け、必要な保護具と保護対策についての知識を持った人のことです。
- 3) 専門家としての技術トレーニングを受けた人は、専門家と見なされます。専門トレーニングを受け、該当する規則についての知識を持っているため、担当する作業について判断し、潜在的な危険を察知することができます。

備考：

専門トレーニングは、該当する分野での数年間に及ぶ経験から得られる能力に匹敵します。



機械のメンテナンス・修理作業について「工場での作業」と書かれている場合は、その作業は専門工場だけが実施可能です。専門工場の作業者は、適切かつ安全な方法で機械のメンテナンス・修理作業を実施するための、適切な知識と最適な補助装置（工具、リフトおよびサポート機器）を所有しています。

2.7 通常の操作時の安全対策

機械の操作は、すべての安全・保護装置が完全に機能する場合のみ、行ってください。

少なくとも毎日 1

回、機械に目に見える損傷がないか点検し、安全・保護装置の機能をチェックしてください。

2.8 残留エネルギーによる危険

機械には、機械、油圧、空気圧、電気/電子的な残留エネルギーが残っている場合がありますので、注意してください。

適切な手段を使って、操作補助者に周知してください。詳細については、本取扱説明書の該当する章を参照してください。

2.9 メンテナンスと修理作業、不具合の修正

指定された設定 / メンテナンス / 検査作業を適切な時期に実施してください。

コンプレッサや油圧系統などのすべての媒体が不意に作動しないよう、安全を確保してください。

交換作業を実施する際には、大型のアセンブリは入念にリフト装置に固定してください。

ボルトの締め付けを定期的に点検し、必要に応じて締め直してください。

メンテナンス作業の終了後、安全装置が正しく機能するか点検してください。

2.10 設計変更

AMAZONEN-WERKEによる許可なく、機械を変更、拡張または改造してはなりません。このことは、支持部品を溶接する場合にも当てはまります。

一切の拡張または改造作業は、AMAZONEN-WERKEの書面による承認が必要です。AMAZONEN-WERKEが承認した改造および付属部品だけを使用してください。これは、例えば、国内および国際規制に準拠して型式承認が有効であり続けるようにするためです。

正式な型式承認を得ている車両、または有効な型式承認もしくはドイツ道路交通法に基づく道路交通の承認を得た車両に取り付けられる装置は、当該承認により指定された状態でなければなりません。



警告

支持部品の故障による、つぶれ、切断、閉じ込め、引き込まれ、または衝撃の危険。

以下のことは固く禁止されています。

- フレームやシャシーにドリルで穴を開けること
- フレームやシャシーの既存の穴のサイズを拡大すること
- 支持部品を溶接すること

2.10.1 交換・消耗部品および補助装置

完璧な状態ではない機械部品は、ただちに交換してください。

AMAZONEN-WERKEによる純正部品、またはAMAZONEN-WERKEが許可した交換部品および消耗部品以外は使用しないでください。第三業者による交換部品や消耗部品を使用した場合、要求に即しかつ安全上正しく設計され製造された保証はなくなります。

AMAZONEN-

WERKEは、認可されていない交換・消耗部品または補助装置を使用したことで生じた損害について、一切責任を負いかねます。

2.11 清掃および廃棄処分

使用済み物質の取り扱いと廃棄処分については、慎重に行ってください。特に、

- 潤滑システムのシステムおよび装備について作業を行うとき、および
- 溶剤を使って清掃を行うとき

2.12 ユーザーの操作場所

本機械は、トラクターの運転席に座っている 1 人の人だけが操作可能です。

2.13 機械上の警告マークとその他の記号



機械に取り付けられている警告マークはすべて、常に清潔で判読可能な状態に維持してください。判読できない警告マークは交換してください。警告マークは、注文番号（例：MD078）を使って代理店から取り寄せてください。

警告マーク - 構成

警告マークは、機械の危険エリアを示し、残留リスクについて警告するためのものです。これらのエリアには、永続的な危険や予期しない危険が存在します。

警告マークは次の2つの欄で構成されます。



欄1

三角形の安全マークで囲まれた、どのような危険かを示すマークです。

欄2

危険回避の方法を示したマークです。

警告マーク - 説明

注文番号と説明の欄は、隣の警告マークに対する説明です。警告マークの説明は、つねに以下の順になっています。

1. 危険の説明。

例：切断の危険！

2. 危険回避に対する指示を守らないことによる影響。

例：手や指に重傷を負う原因となります。

3. 危険回避のための指示。

例：機械部品に触れるときは、完全に動かなくなるまで待ってください。

2.13.1 警告マークとその他の記号の位置

警告マーク

次の図は、機械における警告マークの設置場所を示したものです。



図 1



図 2



図 3

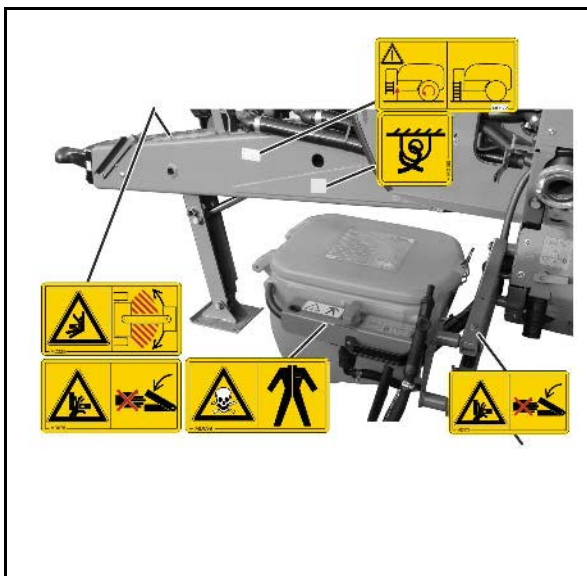


図 4



図 5

注文番号と説明

警告マーク

MD 078

可動機械部品に触れることで、手や指が押しつぶされる危険。

この危険は、手や指などの体の一部を失うことを含む、重傷の原因となります。

プロペラシャフト/油圧系統が接続されている状態でトラクターのエンジンが稼働している間は、絶対に危険箇所には手を伸ばさないでください。



MD082

機械の上に乗るときに、踏み板や台から落下する危険。

この危険は、体の一部に重傷や場合によっては致命傷を負う原因となります。

作動中は、機械の上に乗ったり登ったりすることは禁止されています。ステップやプラットフォームが装備された機械の場合も同様です。

機械の上に誰も乗っていないことを確認してください。



MD 084

機械部品の下降中に旋回範囲内に立っていることにより、体全体が押しつぶされる危険。

体の一部に重傷や場合によっては致命傷を負う原因となります。

- 機械部品の下降中に機械の旋回範囲内に立っていることは禁止されています。
- 部品を下降する前に、下降する可能性のある機械部品の旋回範囲から外に出るように補助者に指示してください。



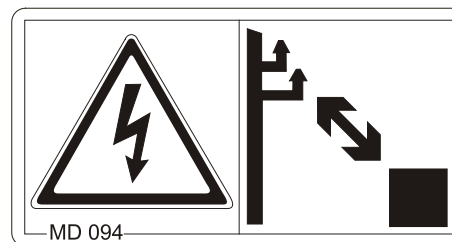
一般的な安全上の注意事項

MD094

うっかり高架送電線に触れたり、高圧の送電線の禁止されている範囲内に入ることによる、感電またはやけどの危険。

この危険は、体の一部に重傷や場合によっては致命傷を負う原因となります。

機械部品を内側および外側に旋回させるときは、高架送電線から十分な距離を確保してください。



定格電圧	送電線からの安全な距離
～ 1 kV	1 m
1 ～ 110 kV	2 m
110 ～ 220 kV	3 m
220 ～ 380 kV	4 m

MD 095

機械を作動させる前に、本取扱説明書と安全に関する注意事項をよく読み、指示を守ってください！



MD 096

油圧ホースラインから漏れ出た高圧油圧油による危険。

この危険は、漏れ出た高圧油圧油が皮膚から体内に入ること、重傷さらには死に至る原因となる可能性があります。

- 油圧ホースラインの漏れは、絶対に手や指でふさごうとしないでください。
- 油圧ホースラインに対するメンテナンス作業を実施する前に、本取扱説明書の記載をよく読み、指示を守ってください。
- 油圧油によって怪我を負った場合は、ただちに医師の診察を受けてください。

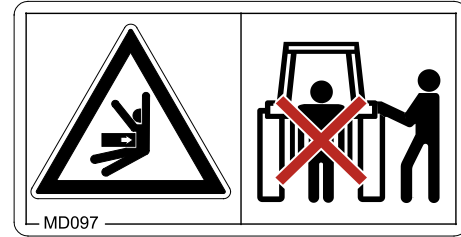


MD097

機械の連結および連結解除時に、トラクターの後部と機械の間で押しつぶされる危険や衝突する危険があります。

この危険は、深刻な重傷や場合によっては致命傷の原因となる可能性があります。

- トラクターの 3 点式油圧システムの作動時には、トラクターの後部と機械の間に人がいてはいけません。
- トラクターの 3 点式油圧システム用操作部での操作は以下に従ってください。
 - トラクター横の所定の操作場所でのみ操作。
 - トラクターと機械の間の危険エリア内にいる場合は、絶対に操作しないでください。

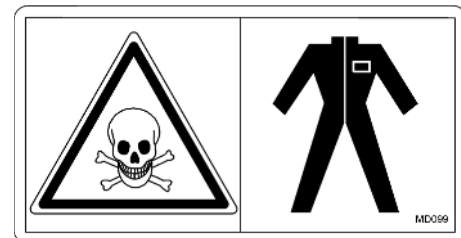


MD 099

不適切な取り扱いにより、危険物質に触れる危険。

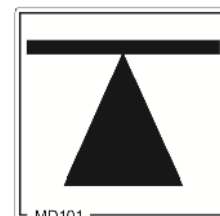
体の一部に重傷や場合によっては致命傷を負う原因となります。

危険物質に触れる前に、防護服を着用してください。取り扱う物質に関するメーカーによる安全上の注意事項を守ってください。



MD101

このマークは、リフト装置（ジャッキ）を置くためのジャッキポイントを示します。



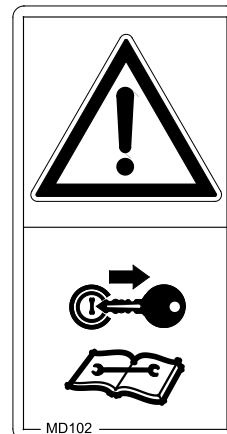
一般的な安全上の注意事項

MD 102

機械に対する作業（例：取り付け、調整、故障解決、清掃、メンテナンス、修理）時に、不意にトラクターと機械が作動して走り出すことによる危険。

この危険は、深刻な重傷や場合によっては致命傷の原因となる可能性があります。

- 機械に対する作業を始める前に、不意に作動して走り出すことがないように、トラクターと機械を固定してください。
- 作業のタイプに応じて、本取扱説明書の該当する章をよく読み、指示を守ってください。

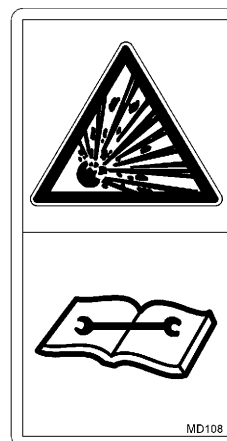


MD108

高圧のガスとオイルを含む蓄圧器を原因とする、高圧で漏れる油圧油による危険、および爆発の危険。

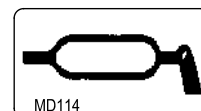
この危険は、漏れ出た高圧油圧油が皮膚から体内に入ること、重傷や場合によっては致命傷の原因となる可能性があります。

- メンテナンスまたは修理作業を実施する前に、本取扱説明書の記載をよく読み、指示を守ってください。
- 油圧油によって怪我を負った場合は、ただちに医師の診察を受けてください。



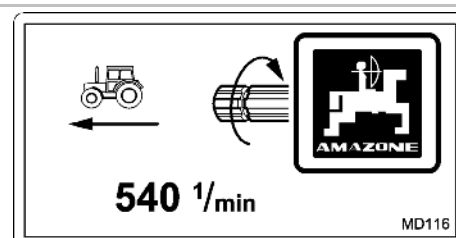
MD 114

このマークは、潤滑ポイントを示します。



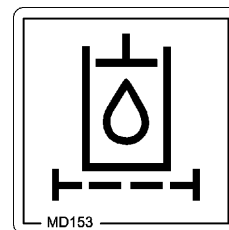
MD 116

このマークは、最大ドライブ回転数（最大 540 min⁻¹）と機械側ドライブシャフトの回転方向を表します。



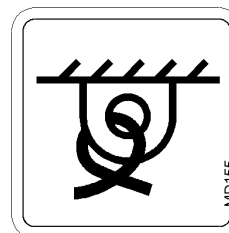
MD 153

このマークは油圧オイルフィルタを示します。



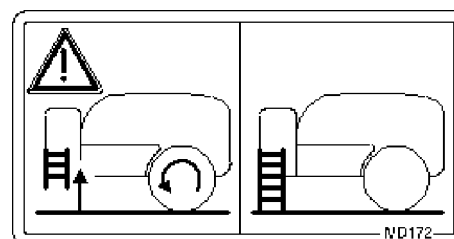
MD155

このマークは、本機械を安全に運搬できるよう、本機械を運搬車両につなぎ留めておくための固定ポイントを示します。



MD172

走行位置で走行する場合、作業台用のはしごを上旋回させてください！

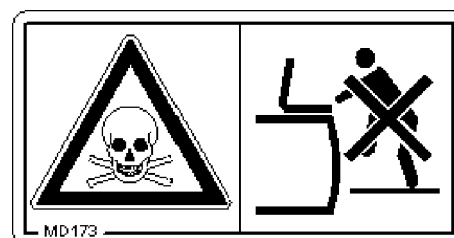


MD 173

散布液タンク内の有毒な蒸気が原因となる、健康に有害な物質を吸い込む危険。

体の一部に重傷や場合によっては致命傷を負う原因となります。

決して散布液タンクの中に入らないでください。

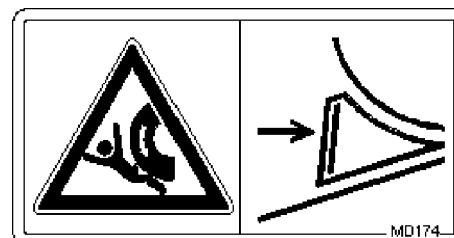


MD174

機械が不意に前進することによる危険があります！

この危険は、全身に重傷や場合によっては致命傷を負う原因となります。

機械をトラクターから連結解除する前に、機械が不意に走り出さないように固定してください。このためには、パーキングブレーキや輪止めを使用してください。



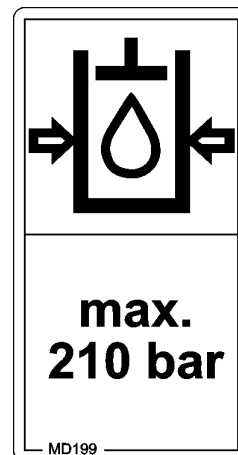
MD175

ボルトの締め付けトルクは510 Nmです。



MD199

油圧系統の最大運転圧力は 210 bar です。

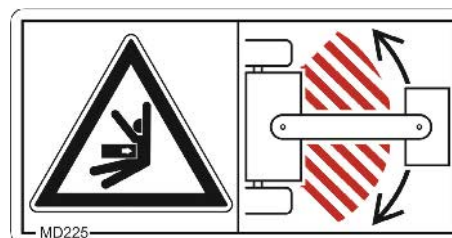


MD 225

トラクターと牽引している機械の間にある牽引バーの旋回範囲内に立っていることにより、体全体が押しつぶされる危険があります。

体の一部に重傷や場合によっては致命傷を負う原因となります。

- トラクターのエンジンが稼動しており、トラクターが不意に走り出すことがないように固定されていない間は、トラクターと機械の間の危険エリアに立ち入ってははいけません。
- トラクターのエンジンが稼動しており、トラクターが不意に走り出すことがないように固定されていない間は、現場にいる人に対し、トラクターと機械の間の危険エリアから立ち去るように指示してください。

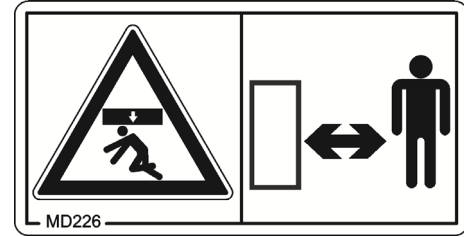


MD 226

吊り下げた物や上昇した機械部品の下に立っていることにより、体全体が押しつぶされる危険。

体の一部に重傷や場合によっては致命傷を負う原因となります。

- 吊り下げた物や上昇した機械部品の下に立つことは禁止されています。
- 吊り下げた物や上昇した機械部品からは十分に安全な距離を取って離れてください。
- 吊り下げた物や上昇した機械部品から補助者全員が十分に安全な距離を取って離れていることを確認してください。



ME 976

必要なタイヤ空気圧は 2.5 bar です。



2.14 安全上の注意事項を守らないことによる危険

安全上の注意事項を守らないと、

- 人に対しても、機械や環境に対しても危険となる可能性があります。
- すべての保証規定が適用されないことがあります。

特に、安全上の注意事項を守らないと、以下の危険が生じる恐れがあります。

- 作業区域の安全を確保しないことによる、人への危険。
- 機械の重要な機能の故障。
- 所定のメンテナンス・修理方法の不履行。
- 機械的・化学的影響による、人への危険。
- 油圧油の漏れによる環境への危険。

2.15 安全を重視した作業

本取扱説明書に記載の安全上の注意事項に加え、各国で一般に適用される作業場での安全および事故防止規則を順守してください。

警告マークによる事故防止の指示を守ってください。

公道を走行する場合は、該当する各国の道路交通法を守ってください。

2.16 ユーザーのための安全上の注意事項



警告

走行可能性と運転安全性が不完全であることによる、つぶれ、切断、閉じ込め、引き込まれ、または衝撃の危険。

機械とトラクターを作動させる前に、必ず走行可能性と運転安全性を点検してください。

2.16.1 安全および事故防止のための一般的な注意事項

- これらの指示のほかに、一般に適用可能な各国の安全および事故防止規則を守ってください。
- 機械上の警告マークとその他の記号には、安全な機械の操作についての重要な情報が記載されています。これらの情報を守ることは、あなたの安全に役立ちます！
- 機械を作動させて発進する前に、機械の周囲を点検してください（子供がいないか）。はっきり見渡せることを確認してください！
- - 機械の上に乗って移動したり、機械に物を載せて移動させたりしてはいけません。
- 機械を取り付けた / 牽引するトラクターを、常に完全に制御できる状態で運転してください。
そのためには、あなた個人の能力、路面・交通・視界・天候の諸条件、さらにはトラクターの走行特性および取り付けた機械または牽引する機械の影響を考慮に入れてください。

機械の連結と連結解除

- 機械の連結と輸送には、必ず適切なトラクターを使用してください。
- 機械をトラクターの 3 点式油圧システムに連結する場合には、トラクターと機械の接続カテゴリは必ず一致しなければなりません。
- 規則に従い、機械を指定の装置に連結してください。
- 機械をトラクターのフロント側および/またはリア側に連結することにより、以下を超過してはいけません。
 - トラクターの許容総重量

- トラクターの許容軸荷重
- トラクターのタイヤの許容負荷
- 機械を連結または連結解除する前に、トラクターと機械が不意に走り出さないように固定してください。
- トラクターを機械に近づける最中に、連結する機械とトラクターの間に人がいてはいけません。

誘導して手伝う人は、車両の横にいて、車両の間には停車しているときだけ立ち入ることができます。
- 機械をトラクターの3点式油圧システムに取り付けたり、3点式油圧システムから取り外す前に、トラクター油圧システムの操作レバーを不意に上昇または降下することがない位置に固定してください。
- 機械の連結および連結解除時には、（備わっている場合には）支持装置を各位置に置いてください（安定性を確保してください）。
- 支持装置の作動時には、つぶれや切断による負傷の危険があります。
- 機械をトラクターに連結する際、またはトラクターから連結解除する際には、特に注意してください。トラクターと機械の間の連結箇所にはつぶれや切断の危険があります。
- 3点式油圧システムの作動時には、トラクターと機械の間に人がいてはいけません。
- 連結された供給ラインは
 - すこしたるみがある状態で、カーブ走行時に引っ張られたり、折れたり、あるいは擦れることがないようにしなければなりません。
 - 他の物体で擦れることがあってはいけません。
- クイックカップリング用のリリースロープはゆるく垂れ下がっていないければならず、機械を降下したときに勝手に作動してはいけません。
- 連結解除した機械は、必ず倒れることがないようにして置いてください。

機械の使用

- 作業を開始する前に、機械のすべての装備と作動工元素ト、およびそれらの機能を理解していることを確認してください。機械が作動し始めてから理解しようと思っても、間に合いません！
- 体にフィットしない、ルーズな服は着用しないでください。ルーズな服は、ドライブシャフトに引き込まれる危険が高くなります！
- すべての安全装置が取り付けられており、安全位置にある場合のみ、機械を作動させてください。
- 取り付けた機械または牽引する機械の最大荷重と、トラクターの許容軸荷重および許容支持荷重を遵守してください。必要に応じて、タンクを満タンにせずに使用してください。
- 機械の作業区域内に立つことは禁止されています。
- 機械の回転・旋回範囲内に立つことは禁止されています。
- 人力を超えた力（例：油圧）で作動させる機械部分には、つぶれや切断の危険があります。
- 人力を超えた力で作動する機械部品を操作するときは、必ず指定された安全な距離の内側には誰もいないことを確認してください。
- トラクターから離れるときは、不意に走り出さないようにトラクターを固定してください。
そのためには、
 - 機械を地面に置いてください。
 - パーキングブレーキをかけてください。
 - トラクターのエンジンを停止してください。
 - イグニッションキーを抜いてください。

機械の輸送

- 公道を走行する際は、各国の道路交通法を守ってください。
- 輸送走行前に、以下のことを確認してください。
 - 供給ラインが正しく接続されているか
 - 照明システムが損傷していないか、正しく作動するか、汚れていないか
 - ブレーキおよび油圧系統に明らかな故障がないか

- パーキングブレーキが完全に解除されているか
- ブレーキシステムの機能
- トラクターの操舵力と制動力が常に十分に発揮されるようにしてください。

トラクターに取り付けた、またはトラクターで牽引している機械と、フロントバラストおよびリアバラストは、トラクターの走行挙動と操舵力および制動力に影響します。
- 必要な場合にはフロントバラストを使用してください。

十分な操舵力を保証するためには、常にトラクターの自重の 20 % 以上がトラクター前輪軸にかかっていなければなりません。
- フロントバラストとリアバラストは、規則に従い必ず所定の固定箇所に固定してください。
- 取り付けている/牽引している機械の最大積載荷重と、トラクターの許容軸荷重および許容支持荷重を遵守してください。
- トラクターは、かかる力（トラクターと取り付けた機械/牽引している機械）に対して指定されている制動減速度を守らなければなりません。
- 走行開始前に、ブレーキが正しく作動するか確認してください。
- 機械を取り付けているか牽引している場合には、カーブを走行する際に機械の幅が突出していることと回転質量を考慮してください。
- 機械を 3 点式油圧システムまたはトラクターのリフトアームに固定している場合には、輸送走行前にトラクターのリフトアームの側面のロックを十分に行ってください。
- 輸送走行前に、旋回式の機械パーツはすべて走行位置にセットしてください。
- 輸送走行前に、旋回式の機械パーツが動いて危険が発生することのないように、旋回式の機械パーツを走行位置で固定してください。固定には、所定の走行安全用留め具を使用してください。
- 輸送走行前に、取り付けた機械または牽引している機械が不意に上昇したり降下したりすることのないように、3 点式油圧システムの操作レバーをロックしてください。
- 輸送走行前に、照明、警告設備、保護装置などの必要な輸送装備が機械に正しく取り付けられているか確認してください。

- 輸送走行前に、上側リンクピンと下側リンクピンが不意に外れることがないように、リンチピンでしっかり固定されているかどうか、目視検査してください。
- 走行速度は、周囲の交通の流れに合わせて調節してください。
- 山の斜面を走る前に、低いギアに切り替えてください。
- 輸送走行の前に原則として各ホイールブレーキをオフにしてください（ペダルをロック）。

2.16.2 油圧系統

- 油圧系統には高圧がかかっています。
- 油圧ホースラインが正しく接続されていることを確認してください。
- 油圧ホースラインを接続するときは、機械とトラクターの両方の油圧系統の圧力を抜いてください！
- 折り畳んだり、旋回させたり、押したりするなどの、構成部品の油圧または電気による動作を直接操作するためのトラクターの操作部をブロックしてはいけません。対応する操作部を離すと、それぞれの動作が自動的に停止します。これは以下のような装置の動作には当てはまりません。
 - 継続して行われる動作
 - 自動制御される動作
 - 機能に応じてフロート位置または圧力位置を要求
- 油圧系統の作業を行う前に、
 - 機械を置いてください。
 - 油圧系統の圧力を抜いてください。
 - トラクターのエンジンを停止してください。
 - パーキングブレーキをかけてください。
 - イグニッションキーを抜いてください。
- 油圧ホースラインは、少なくとも毎年 1 回、正しく作動するかどうか専門工場で点検を受けてください。
- 損傷・磨耗が見つかった場合、油圧ホースラインを交換してください。必ず AMAZONE 純正油圧ホースラインを使用してください。
- 油圧ホースラインの使用限度は6年間です。この期間には、最大2年間の保管期間も含まれます。正しく保管・使用した場合でも、ホースおよびホース接続部は経年劣化するため、使用期間の制限が設けられています。ただし、経験値から使用期間を特定することも可能です（特に、潜在的な危険を考慮に入れる場合

)。熱可塑性プラスチック製のホースおよびホース接続部の場合は、他の指針値が決め手となる可能性があります。

- 油圧ホースラインの漏れは、絶対に手や指でふさごうとしないでください。

漏れ出た高圧の油圧オイルが皮膚から体内に入り、重傷の原因となる可能性があります！

油圧油によって怪我を負った場合は、ただちに医師の診察を受けてください。感染の危険があります。

- 漏れている箇所を探すときは、深刻な感染の危険を防ぐため、適切な補助装置を使用してください。

2.16.3 電気系統

- 電気系統の作業を行うときは、必ずバッテリー（マイナス端子）の接続を外してください。
- 必ず指定のヒューズを使用してください。定格の大きいヒューズを使用すると、電気系統が破壊され、火災の危険があります。
- バッテリーは必ず正しい順序で接続してください。まずプラス端子を接続してから、マイナス端子を接続します。バッテリーの接続を外すときは、まずマイナス端子の接続を外してから、プラス端子の接続を外します。
- バッテリーのプラス端子には、必ず適切な覆いを取り付けてください。間違ってアースと接触すると、爆発する危険があります！
- 爆発の危険。バッテリーの近くでは火花や裸火は避けてください！
- 本機械には、他の装置から電磁妨害の影響を受ける電子部品が装備されている可能性があります。この電磁妨害は、以下の安全上の注意事項を守らないと、人に危険を及ぼす可能性があります。
 - 電気装置を後付けして車載電源に接続する場合は、ユーザーの責任のもとで、設置することによって車両の電子機器その他の装置に不具合が生じないかどうか確認してください。
 - 後付けする電気・電子機器が、EMC 指令 2014/30/EU の有効なバージョンに適合しており、CE マークが付いていることに注意してください。

2.16.4 PTOの運転

- AMAZONEN-WERKEによって指定されている、規定に準拠した保護装置を備えたプロペラシャフトだけを使用できます。
- プロペラシャフトメーカーの取扱説明書の記載も守ってください。
- プロペラシャフトの保護パイプと保護カバーは損傷があつてはならず、またトラクターと機械のPTOの保護板が取り付けられており、正常な状態でなければなりません。
- 保護装置が損傷している状態での作業は禁じられています。
- プロペラシャフトの連結および連結解除は、以下の場合にのみ認められます。
 - PTOがOFFになっている
 - トラクターのエンジンを切っている
 - パーキングブレーキを引いている
 - イグニッションキーを抜いた状態
- プロペラシャフトの取り付けと固定を必ず正しく行うようにしてください。
- ワイドアングルプロペラシャフトを使用する場合は、ワイドアングルジョイントを常にトラクターと機械の間の回旋点に取り付けてください。
- プロペラシャフト保護パーツはチェーンをかけて固定し、連動することを防いでください。
- プロペラシャフトでは、走行位置および作業位置において、所定のパイプカバーが付けられていることを確認してください！（プロペラシャフトメーカーの取扱説明書の記載を守ってください！）
- カーブを走行する際には、プロペラシャフトの許容曲がり角度とスライド幅を遵守してください。
- PTOをオンにする前に、選択したトラクターのPTO回転数が機械の許容ドライブ回転数と一致するか確認してください。
- PTOをONにする前に、現場にいる人に機械の危険エリアの外へ出るよう指示してください。
- PTOを用いる場合、回転するPTOまたはプロペラシャフトのエリアには誰も立ち入ってははいけません。

- トラクターのエンジンがOFFになっている場合、PTOは絶対にオンにしないでください。
- 曲がり角度が大きすぎる場合、または必要ない場合には、PTOをOFFにしてください。
- 警告！PTO を OFF にした後、まだ回り続ける機械パーツの回転質量により負傷する危険があります。
機械パーツが完全に停止するまで、機械に近づき過ぎないようにしてください。すべての機械パーツが完全に停止してから、機械で作業することができます。
- PTOで駆動する機械またはプロペラシャフトを清掃、注油あるいは設定する前に、不意に始動したり走り出したりすることがないように、トラクターと機械を固定してください。
- 連結解除したプロペラシャフトは、所定のホルダ上に置いてください。
- プロペラシャフトを取り外した後、取り外した場所に保護スリーブを差し込んでください。
- 位置依存型のPTOを使用する際には、PTO回転数が走行速度に比例し、逆走時には回転方向も逆になることに注意してください。

2.16.5 牽引されている機械

- トラクターの連結装置と機械の牽引装置は、必ず許可された組み合わせで使用してください。
車両は、必ず許可された組み合わせで連結してください（トラクターと牽引された機械）。
- 単軸機械の場合には、連結装置でのトラクターの最大支持荷重を遵守してください！
- トラクターの操舵力と制動力が常に十分に発揮されるようにしてください。
トラクターに取り付けた、またはトラクターで牽引している機械は、トラクターの走行挙動と操舵力および制動力に影響します。特にトラクターへの支持荷重がある単軸機械で影響が大きくなります。
- 支持荷重のある直線型牽引バーで牽引装置の高さを設定できるのは、専門工場だけです！

2.16.6 ブレーキシステム

- ブレーキシステムの調整・修理作業は、専門工場または認定ブレーキサービス工場だけが実施可能です。
- 定期的にブレーキシステム全体の点検を受けてください。
- 何らかの不具合が見られた場合は、ブレーキシステムを使ってただちにトラクターを停止してください。ただちに不具合の修正を依頼してください。
- ブレーキシステムでの作業を実施する前に、機械を安全に駐車し、意図せず機械が下降したり走り出したりしないように機械を固定してください（輪止め）。
- ブレーキラインの近くで溶接、切断トーチを使った切断、またはドリル加工を行うときは、特に注意してください。
- ブレーキシステムの調整または修理作業を行ったあとは、必ずブレーキテストを実施してください。

エアブレーキシステム

- 機械を連結する前に、供給ラインとブレーキラインのカップリングヘッドにあるシールに汚れがある場合には汚れを取り除いてください。
- 連結した機械は、トラクターの圧力計が 5.0 bar を表示したらアプローチできます。
- 空気タンク内の液体は毎日排出してください。
- 機械なしで走行する前に、トラクターのカップリングヘッドを閉じます。
- 機械の供給ラインとブレーキラインのカップリングヘッドを、所定のダミーカップリングにかけてください！
- ブレーキ液を補充する場合、またはブレーキ液を新品に交換する場合には、必ず指定のブレーキ液を使用してください。ブレーキ液を新品に交換する場合、該当する規則を遵守してください！
- ブレーキバルブの規定された設定は変更しないでください！
- 空気タンクは次の場合に交換してください。
 - テンションベルト内で空気タンクが動く場合
 - 空気タンクが損傷している場合
 - 空気タンクで銘板がさびているか、しっかり固定されていない場合、または欠落している場合

輸出機械用の油圧ブレーキシステム

- 油圧式のブレーキシステムは、ドイツ国内では使用できません！
- 油圧オイルを補充する場合、または油圧オイルを新品に交換する場合には、必ず指定の油圧オイルを使用してください。油圧オイルを新品に交換する場合、該当する規則を遵守してください！

2.16.7 タイヤ

- タイヤとホイールの修理作業は、適切な設備と工具を備えた専門工場だけが実施可能です。
- 定期的に空気圧を点検してください！
- タイヤは規定空気圧に調整してください。タイヤの空気圧が高すぎると、爆発の危険があります。
- タイヤについて作業を実施する前に、機械を安全な場所に停止させ、不意に機械が下降したり走り出したりしないよう、機械を固定してください（パーキングブレーキ、輪止め）。
- すべての取り付けボルトとナットは、AMAZONEN-WERKEの指定どおりに締め付けてください。

2.16.8 スプレーヤーの操作

- 以下に関して、農薬メーカーの推奨事項を守ってください。
 - 防護服
 - 農薬への曝露についての警告情報
 - 投与、散布、清掃についての規則
- 農薬を取り扱う際には、農薬製造会社の安全性についての注意事項を守ってください。
- 認可されていない農薬の使用は禁じられています。
- 圧力がかかっているラインに付いているものを取り外さないでください。
- 充填するときは、散布液タンクの定格容量を超えてはなりません。



- 農薬を取り扱う場合は、適切な防護服（手袋、作業着、保護メガネなど）を着用してください。
- 換気ファンを備えたキャビンつきトラクターの場合には、外気供給用のフィルタを活性炭フィルタに交換してください。
- スプレーヤーにとっての農薬および物質の適合性についての情報を守ってください。
- こびりつきやすい、または凝固しやすい農薬は散布しないでください。
- 人、動物および環境の保護のため、誰もが立ち入れる場所の水を使ってスプレーヤーを充填しないでください。
- スプレーヤーを充填する場合は、必ず
 - 上水道の水を使用してください。
 - AMAZONE 純正の充填装置以外は使用しないでください。

2.16.9 清掃、メンテナンス、修理

- 散布液タンクには毒性のある蒸気が生じるため、散布液タンク内に入ることを原則的に禁じます。

散布液タンクの修理作業は、必ず専門工場に依頼してください！

- メンテナンス、修理および清掃作業は、原則として次の場合にのみ行ってください。
 - 駆動システムOFF
 - トラクターのエンジンは停止
 - イグニッションキーを抜いた状態
 - ボードコンピュータから機械プラグが抜かれている
- ナットとボルトの締め付けを定期的に点検し、必要に応じて締め直してください。
- 清掃、メンテナンス、修理作業を実施する前に、上昇した機械や機械部品が不意に降下しないよう、固定してください。
- コールタが付いた装置を交換する場合は、適切な工具と手袋を使用してください。
- オイル、グリース、フィルタを廃棄処分にするときは、適切な方法で実施してください。
- トラクターと取り付けられている機械に対して電気溶接作業を実行する前に、トラクターのオルタネータとバッテリーのケーブル接続を外してください。
- 交換部品は、少なくとも AMAZONEN-WERKE が決定した技術要件に相応している必要があります。
AMAZONE 純正交換部品ではこれが満たされています！
- 必ず化学的、機械的、熱的な要求を満たしたAMAZONE純正交換用ホースを使用してください。また、必ず V2A のホースクランプで取り付けてください。
- 硝酸アンモニウム/尿素溶液を用いた液体肥料の散布のために使用したスプレーヤーを修理する場合は、以下の点を守ってください。

散布液タンク内外の水分が蒸発すると、硝酸アンモニウム/尿素溶液の残留物により、塩が形成されることがあります。この結果、純粋な硝酸アンモニウムと尿素が生じます。未希釈の硝酸アンモニウムは、有機物（例：尿素）と混ざって、修理作業（例：溶接、研削、やすりかけ）中に高温にさらされると、爆発

する危険があります。

この危険を回避するには、硝酸アンモニウム / 尿素溶液の塩は水に溶けるため、散布液タンクまたは修理箇所を水でしっかりと洗い流してください。そのため、修理作業行う場合は事前にスプレーヤーを水でしっかりと洗浄してください。

3 積載

トラクターの積載と荷降ろし



警告

トラクターが適切でなく、機械のブレーキシステムがトラクターに接続されておらず、ブレーキ液が充填されていない場合、事故が発生する危険があります。



- 運搬車両に機械を積載するか、運搬車両から機械を降ろす前に、規則に従って機械をトラクターに連結してください。
- トラクターの性能が必要条件を満たしている場合にのみ、機械をそのトラクターに連結して輸送し、積み込みと積み下ろしができます。

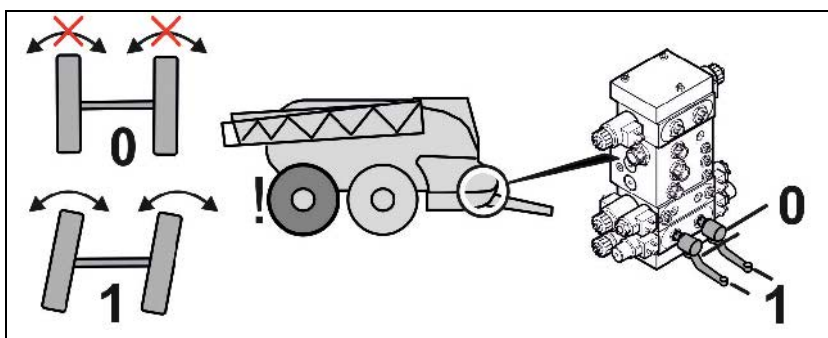
エアブレーキシステム:

- 連結した機械は、トラクターの圧力計が 5.0 bar を表示したらアプローチできます。

後側の軸をロックする

機械をトラックに対して後退させる前に、後側の軸をまっすぐな位置でロックしなければなりません (位置 0)。

積載後、軸を再びロック解除します (位置 1)。



固定ポイント



危険

マークが付いた5箇所の固定ポイントを使用して、本機械を運搬車両に固定する必要があります。

- 牽引バー (図 6/1) の左右にある 2 箇所の固定ポイント

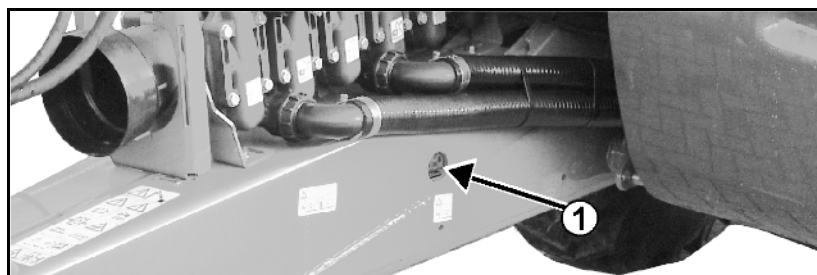


図 6

- ホイールの間にある左右の固定ポイント (図 7/1)

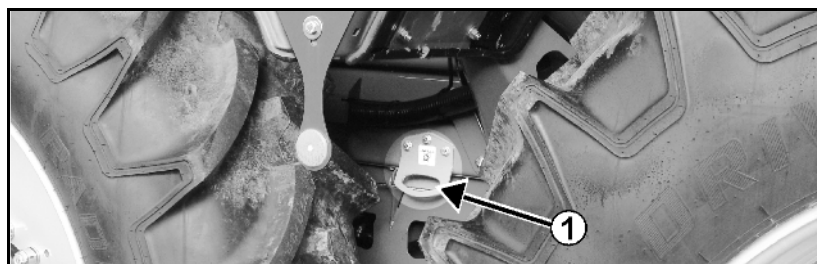


図 7

- 後側固定ポイント (図 8/1)



図 8

4 製品の説明

4.1 各種アセンブリの概要

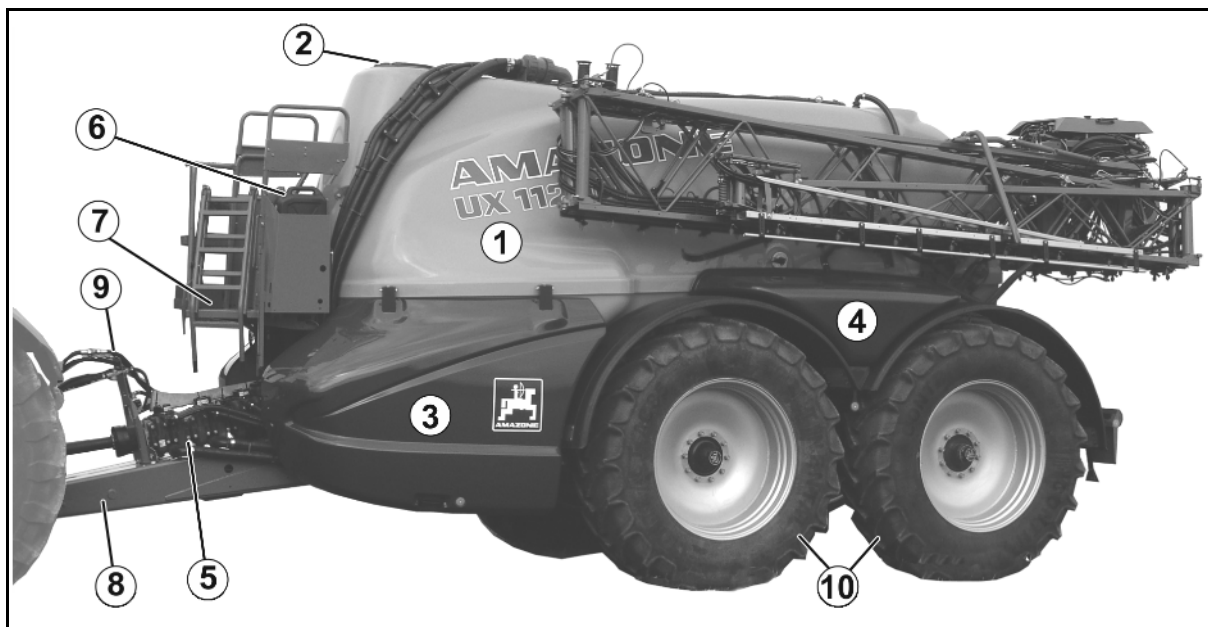


図 9

- (1) 散布液タンク
- (2) 散布液タンクの充填口
- (3) 旋回式カバーの背後の制御装置と薬液混合タンク
- (4) 洗浄水タンク 1
- (5) 散布ポンプとアジテーターポンプ
- (6) ハンドウォッシュタンク
- (7) 梯子付きのメンテナンス用プラットフォーム
- (8) 牽引バー
- (9) ホースホルダ
- (10) ホイールとタイヤ



図 10

- (1) 洗浄水タンク 2
- (2) 油圧式サポートスタンド
- (3) パーキングブレーキ、油圧ブロックおよび旋回式カバーの背後の運搬ボックス
- (4) ジョブコンピュータ
- (5) Super (スーパー) L ブーム

4.2 安全・保護装置

- Super (スーパー) L ブームが不意に展開するのを防ぐための移動用ロック機構 (図 11/1)

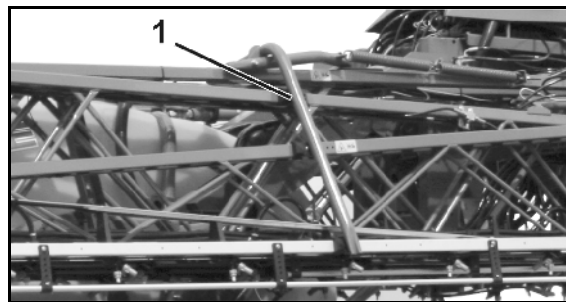


図 11

- 図 12:
メンテナンス用プラットフォームの手すり

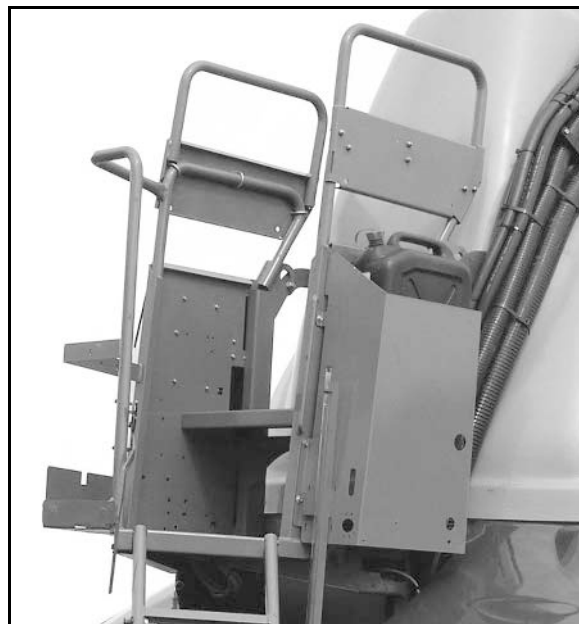


図 12

- 図 13/...
(1) プロペラシャフト保護パーツとチェーン
(2) 機械側の保護カバー

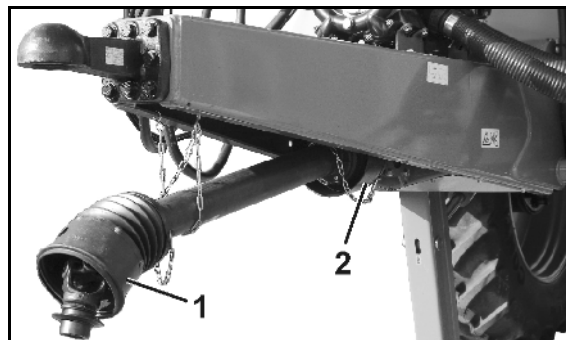


図 13

4.3 液体回路

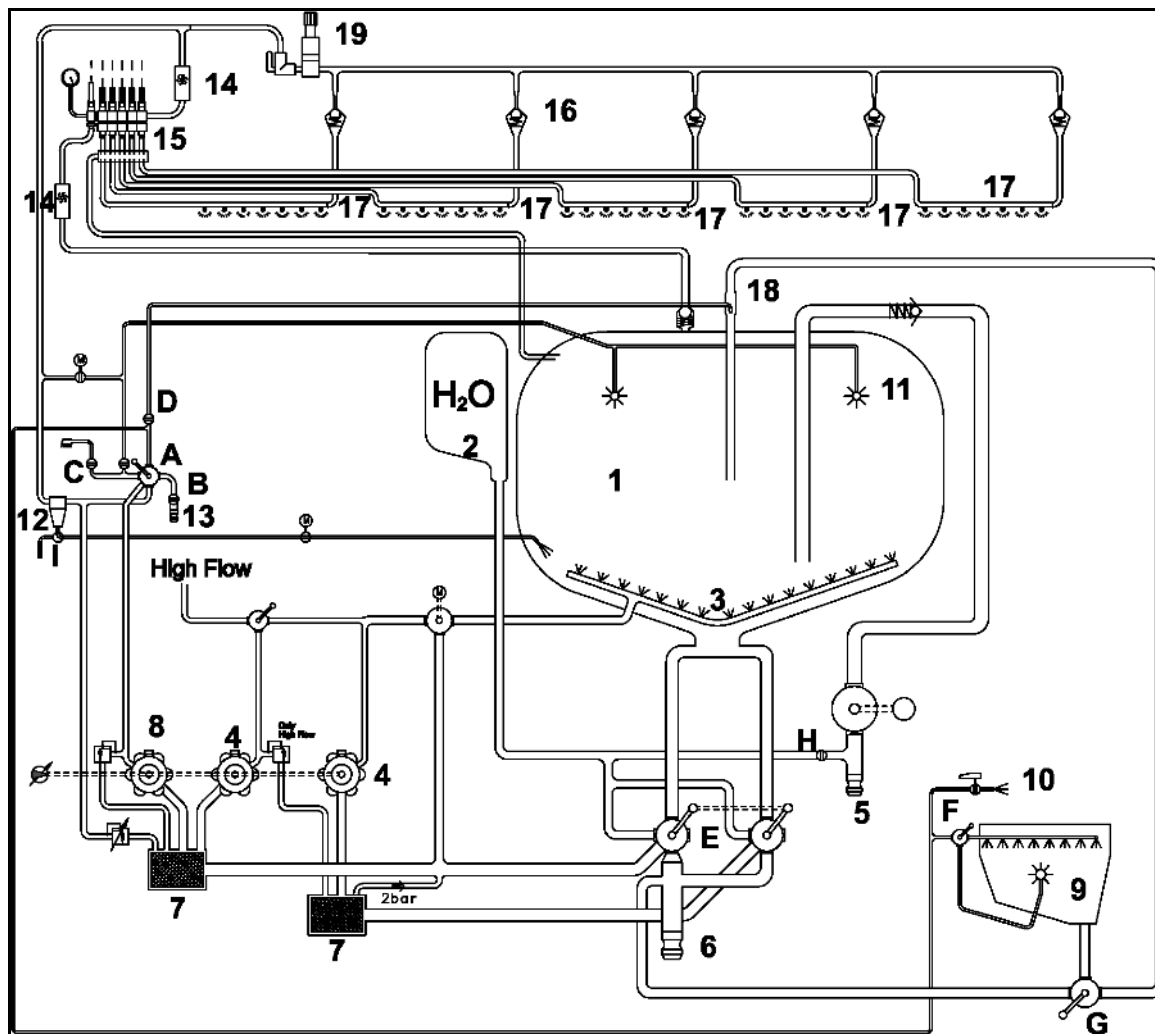


图 14

- | | | |
|---------------|-------------------|-------------------------------------|
| 1. 散布液タンク | 12. 圧力フィルタ | (A) 圧力装置の切り替え栓 (4 方向) |
| 2. 洗浄水タンク | 13. ポンプによる高速排出 | (B) 高速排出器の切り替え栓 |
| 3. アジテーター | 14. 流量計 | (C) 外部清掃切り替え栓 |
| 4. アジテーターポンプ | 15. ブームセクションバルブ | (D) インジェクタ切り替え栓 |
| 5. 圧力充填用 接続部 | 16. 圧力循環システム | (E) リングライン/薬剤缶洗浄切り替え栓 |
| 6. 吸引ホース充填接続部 | 17. 散布ライン | (F) 薬液混合タンクの吸引 / インジェクターを ON の切り替え栓 |
| 7. 吸引フィルタ | 18. インジェクタ | (G) 電動吸引装置 |
| 8. 散布ポンプ | 19. 圧力循環システム切り替え栓 | (H) 洗浄水充填の停止栓 |
| 9. 吸引装置 | | (I) 補助アジテーター / 圧力フィルター排出の切り替え栓 |
| 10. 吸引装置洗浄ホース | | |
| 11. 洗浄ノズル | | |

4.4 トラクターと機械の間の供給ライン

パーキング位置の供給ライン:

図 15/...

- (1) 油圧ホースライン (装備により異なる)
- (2) 照明用電気ケーブル
- (3) 操作端末用の機械プラグ付き機械ケーブル
- (4) 空圧ブレーキ用のカップリングヘッド付きブレーキライン

(上記の写真)

油圧式ブレーキへのコネクタ付きブレーキライン

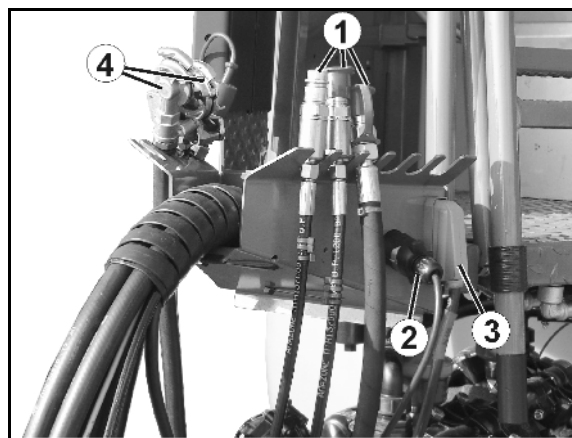


図 15

4.5 走行用の装備

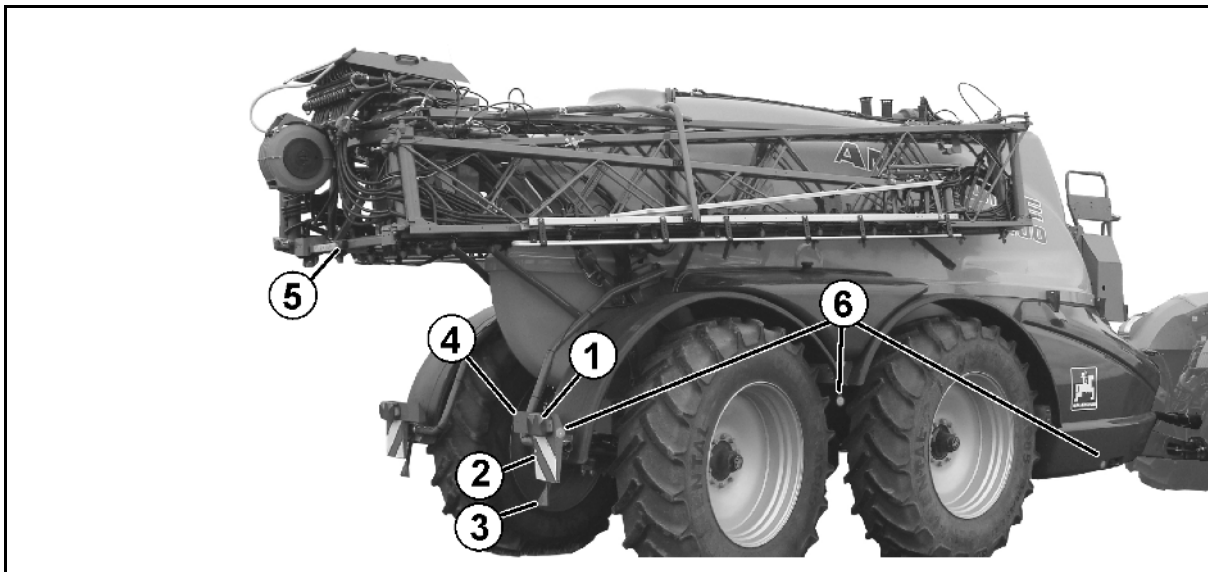


図 16

- (1) テールライト、ブレーキライトおよびターンインジケータ
- (2) 警告板 2 枚 (四角)
- (3) 赤色リフレクター 2 個 (三角型)
- (4) 照明付きライセンスプレート 1 個
- (5) 追加のブレーキライトと位置標示灯
- (6) 3×2個の黄色リフレクター (横から見た場合：最大距離3m)



照明設備のプラグをトラクターの 7 極ソケットに接続してください。



フランス仕様では、追加で側面の警告板とストロボ灯があり、追加のブレーキライトはありません。

4.6 意図された用途での使用

スプレーヤーは

- 懸濁液・乳濁液・混合液・液体肥料の形を取る農薬（殺虫剤、殺菌剤、除草剤その他）を運搬・散布するために使用することを意図しています。
- 最先端技術が用いられており、正しく設定し、計量を正確に行えば、作物に間違いなく効果を発揮し、同時に散布剤の経済的な利用と環境への負担の最小化を可能にします。
- 農業分野において、圃場の作物に対して使用することのみを目的に設計されています。

轍の上を正確にトラッキングさせるための AutoTrail コントローラを備えたステアリング機能付き牽引バーを使用することは、傾斜した地形の走行時には禁じられています（72 ページを参照）！

傾斜した地形での使用制限

- (1) 散布剤を完全に充填した状態で傾斜した地形を走行
- (2) 散布剤を部分的に充填した状態で傾斜した地形を走行
- (3) 残量の散布
- (4) 方向転換
- (5) スプレーヤーブームの折り畳み・展開

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
等高線沿いに走行時	15%	15%	15%	15%	20%
傾斜を上昇/傾斜を下降	15%	30%	15%	15%	20%

「使用目的」には以下のことも含まれます:

- 本取扱説明書のすべての指示を守ること。
- 検査およびメンテナンス作業の実施。
- AMAZONE 純正交換部品以外は使用しないこと。

以上で指定されたのとは異なる使い方は、禁止されており、不適切なものと見なされます。

不適切な使用によって生じた一切の損害については、

- オペレーターだけが責任を負います。
- AMAZONEN-WERKEは責任を負いかねます。

4.7 定期的な装置の点検

本機械には、欧州連合全域で有効な、装置の定期点検義務が課せられます (植物保護指令 2009/128/EC および EN ISO 16122) 。

資格を有する公認の整備工場による点検を、装置に対して定期的 to 実施してください。

装置点検実施の時期については、機械の検査票に記載されています。

図 17: 点検済証 (ドイツ)



図 17

4.8 ある種の農薬を使用することの影響

例えば Lasso や Betanal & Tramet、Stomp、Iloxan、Mudecan、Elancolan、Teridox といった、私たちに馴染みのある農薬に長時間（20時間）触れると、ポンプのダイヤフラムやホース、散布ライン、散布剤タンクが損傷する原因になるので注意してください。ここで言及したものは、あくまで例にすぎず、これだけにとどまりません。特に、2種類以上の農薬を無許可で混合することはおやめください。こびりつきやすい、または凝固しやすい物質は散布しないでください。

このような強力な農薬を使用する際は、散布液をセットしたら速やかに散布し、使用後は水を用いて念入りにスプレーヤーを洗浄するように推奨します。

バイトン製のポンプ用ダイヤフラムも交換部品として用意されています。これは溶剤を含む農薬にも耐性があります。ただし、低温で使用すると寿命が短くなります（例：霜が降りる中で AUS を使用した場合）。

AMAZONE スプレーヤーに使用されている素材およびコンポーネントは、液体肥料に対する耐性があります。

4.9 危険区域と危険箇所

危険区域とは、以下のものにより人が怪我を負う可能性のある機械の周辺区域を指します。

- 作業による機械と装置の動き
- 機械から放出される物質または異物
- 不意に上昇・下降する装置
- 不意に走り出すトラクターと機械

機械の危険区域の中には、永続的な危険または予期しない危険がひそんだ、危険箇所が存在します。警告マークは、これらの危険箇所を示し、実際上取り除くことができない残留リスクについて警告します。この場合、該当する章に記載されている特別な安全規則が有効です。

以下の場合には、機械の危険区域内には誰も立ち入ってはなりません。

- プロペラシャフト/油圧系統が接続された状態でトラクターのエンジンが稼働している場合。
- トラクターと機械が不意に作動して走り出すことがないような対策が取られていない場合。

操作する人が機械や装置を動かしたり、装置を走行位置から作業位置に（またはその逆に）切り替えることができるのは、機械の危険区域内に誰もいないときだけです。

危険箇所が存在する場所：

- トラクターとスプレーヤーの間。特に連結および連結解除時。
- 可動部品がある場所。
- 動いている機械の上。
- スプレーヤーブームの旋回範囲内。
- 有毒な蒸気が発生する散布液タンク内。
- 上昇した、固定していない機械または機械部品の下。
- 高架送電線の近くでスプレーヤーブームを展開する/折り畳むとき（送電線との接触による）。

4.10 銘板とCEマーク

銘板の記載事項：

- 車両 / 機械の識別番号：
- タイプ
- 基本重量 (kg)
- 許容 前軸荷重 / 支持荷重 kg
- 許容 後軸荷重 軸 1
- 許容 後軸荷重 軸 2
- 許容 総重量 (kg)
- 許容 システム圧力 (bar)
- 工場
- モデルイヤー

AMAZONE			
Amazonen-Werke H. Dreyer GmbH & Co. KG Am Amazonenwerk 9-13 D-49205 Hasbergen			
Fahrz.-/Masch.-Ident.-Nr.			
Typ			
Grundgewicht kg		zul. Gesamtgewicht kg	
zul. Achslast vorne / Stützlast kg		zul. Systemdruck bar	
zul. Achslast Achse 1 hinten kg		Werk	
zul. Achslast Achse 2 hinten kg		Modelljahr	

CE	Baujahr année de fabrication year of construction Год изготовления		
-----------	---	--	---

図 18

4.11 適合

指令/規格

- 本機械は次のものに適合しています。
- 機械指令 2006/42/EC
 - EMC指令 2014/30/EU

4.12 最大許容散布量



許可されている機械の最大散布量は、以下により制限されています：

- 法的に要求される攪拌出力

許可されている散布量は、攪拌強度が高くなければならない作用物質の場合に特に重要となります。

- 技術上の最大散布量である 200 l/min (HighFlowなし)。

攪拌出力に応じた許容散布量を検出

散布量の算出公式 (l/min)：

(1 分ごとの攪拌出力は、散布剤タンク容量の 5 % でなければなりません)

$$\begin{array}{lcl} \text{許容散布量} & = & \text{ポンプの定格出力} - 0.05 \times \text{散布剤タンク容量} \\ \text{[L/min]} & & \text{[L/min]} \quad \text{[L]} \\ & & \text{(64 ページを参照)} \quad \text{(61 ページを参照)} \end{array}$$

散布量の換算 (l/ha)：

- ノズルごとの散布量を検出します (許可されている散布量をノズルの数で分けます)。
- 散布表で、速度により異なるヘクタールごとの散布量を読み取ります (278 ページを参照)。

例： UX 11200、ポンプ P 750、Super L 36 m、72 ノズル、10 km/h

$$\text{許容散布量} = 735 \text{ l/min} - 0.05 \times 11200 \text{ l} = 175 \text{ l/min}$$

$$\rightarrow \text{ノズルごとの散布量} = 2.4 \text{ l/min}$$

H ₂ O												I/min	bar								AMAZONE
6	6,5	7	7,5	8	8,5	9	10	11	12	14	16		015	02	025	03	04	05	06	08	
440	406	377	352	330	311	293	264	240	220	189	165	2,2					6,0	3,8	2,7	1,5	
460	425	394	368	345	325	307	276	251	230	197	173	2,3					6,5	4,2	2,9	1,6	
480	443	411	384	360	339	320	288	262	240	206	180	2,4					7,1	4,6	3,2	1,8	
500	462	429	400	375	353	333	300	273	250	214	188	2,5					5,0	3,4	1,9		
520	480	446	416	390	367	347	312	284	260	223	195	2,6									

→ ヘクタールごとに許可されている散布量 = 288 l/ha

4.13 技術データ

4.13.1 本体

タイプ	UX 11200
散布液タンク	
実際の容量	12000 L
定格容量	11200 L
洗浄水タンク	900 L
メンテナンス用プラットフォームの充填高さ	1180 mm
許容システム圧力	10 bar
作業速度	4 ~ 18 km/h
作業幅	24 ~ 40 m
輸送幅	2.85 m
中央の切り替え機構	電動、セクションバルブカップリング
散布圧の調節	電動
散布圧の設定範囲	0.8 ~ 10 bar
散布圧の表示	散布圧のデジタル表示
吸引フィルタ	50 (80.100) メッシュ
アジテーター	自動
散布量の調節	車速感应式、ジョブコンピュータ経由
ノズル高さ	500 ~ 2500 mm

作業幅に応じたboomセクション

作業幅	数	boomセクションごとのノズル数
21 m	5	8-9-8-9-8
	7	6-6-7-4-7-6-6
	9	6-4-5-4-4-4-5-4-6
24 m	5	9-10-10-10-9
	7	6-6-8-8-8-6-6
	9	6-5-5-5-6-5-5-5-6
27 m	7	8-7-8-8-8-7-8
	9	6-6-6-6-6-6-6-6-6

製品の説明

作業幅	数	ブームセクションごとのノズル数
28 m	7	9-7-8-8-8-7-9
	9	7-6-6-6-6-6-6-7
30 m	9	8-7-6-6-6-6-7-8
32 m	9	8-6-7-7-8-7-7-6-8
33 m	9	7-8-7-7-8-7-7-8-7
	11	6-6-6-6-6-6-6-6-6-6-6
36 m	7	10-10-10-12-10-10-10
	9	9-9-7-7-8-7-7-9-9
36 m / 24 m	9	6-7-(9+1)-9-10-9-(9+1)-7-6
39 m	9	7-9-9-9-10-9-9-9-7
	13	6-6-6-6-6-6-6-6-6-6-6-6-6
40 m	9	8-9-9-9-10-9-9-9-8

4.13.2 残留物

技術的残留物 (ポンプ内のものを含む)

平らな場所		23 L
等高線に沿って	• 進行方向 15 %左側に	23 L
	• 進行方向 15 %右側に	23 L
傾斜方向に	• 15% 傾斜を登る場合	37 L
	• 15% 傾斜を下る場合	30 L

ブームの技術的残留物

作業幅	ブームセ クション 数	ブームセクション切り替え						個別ノズル切り替え		
		DUS なし			DUS あり			DUS pro あり		
		A	B	C	A	B	C	A	B	C
21 m	5	4.5 L	9.0 L	13.5 L	14.5 L	1.0 L	15.5 L	18.1 L	1.5 L	19.6 L
	7	5.0 L	10.5 L	15.5 L	17.0 L	1.0 L	18.0 L			
	9	5.5 L	16.0 L	21.5 L	23.0 L	1.5 L	24.5 L			
24 m	5	5.0 L	10.0 L	15.0 L	16.0 L	1.5 L	17.5 L	19.0 L	2.0 L	21.0 L
	7	5.0 L	11.5 L	16.5 L	17.5 L	1.5 L	19.0 L			
	9	5.5 L	17.0 L	22.5 L	23.5 L	2.0 L	25.5 L			
27 m	7	5.0 L	12.5 L	17.5 L	18.5 L	2.0 L	20.5 L	22.4 L	2.0 L	24.4 L
	9	5.5 L	17.5 L	23.0 L	24.0 L	2.0 L	26.0 L			
28 m	7	5.0 L	13.0 L	18.0 L	19.0 L	2.0 L	21.0 L	22.8 L	2.0 L	24.8 L
	9	5.5 L	17.5 L	23.0 L	24.0 L	2.0 L	26.0 L			
30 m	9	5.5 L	18.0 L	23.5 L	24.0 L	2.5 L	26.5 L	24.6 L	2.5 L	27.1 L
32 m	9	5.5 L	18.5 L	24.0 L	24.0 L	2.5 L	27.0 L	27.9 L	2.5 L	30.4 L
33 m	9	5.5 L	19.0 L	24.5 L	25.0 L	2.5 L	27.5 L	27.6 L	2.5 L	30.1 L
	11	6.0 L	23.0 L	29.0 L	29.5 L	2.5 L	32.0 L			
36 m	7	5.0 L	16.0 L	21.0 L	21.5 L	3.0 L	24.5 L	29.3 L	3.0 L	32.3 L
	9	5.5 L	19.5 L	25.0 L	25.5 L	3.0 L	28.5 L			
39 m	9	5.5 L	20.5 L	26.0 L	26.5 L	3.0 L	29.5 L	33.7 L	3.0 L	36.7 L
	13	6.5 L	28.0 L	34.5 L	35.0 L	3.0 L	38.0 L			
40 m	9	5.5 L	21.0 L	26.5 L	27.0 L	3.0 L	30.0 L	34.0 L	3.0 L	37.0 L

DUS : 圧力循環システム

A : 希釈可能

B : 希釈不可能

C : 全体

製品の説明

主要諸元：ポンプ装置

ポンプ装置			P 750
定格速度での吐出量	[L/min]	0 bar時	750
		10 bar時	735
電力消費量	[kW]		18.8
構造			12 シリンダー ピストンダイヤフラム式ポンプ
脈動減衰			蓄圧器

ポンプの駆動は

- 直接プロペラシャフトで行います。
- 駆動回転数 540 min⁻¹
- 直接油圧モーターで行います。
- 駆動回転数 540 min⁻¹

4.13.3 機械本体とモジュールの重量



基本重量（自重）とは、機械本体とモジュールの重量の合計です。

タイプ	UX 11200						
	[kg]						
ポンプ装備、ブレーキおよび接続装置を備えた機械本体	4285						
シャシー							
SingleTrail	990						
DoubleTrail	1660						
タイヤ（４本）							
380/90 R46 (LI173A8/173D)	1080						
380/90 R50 (LI175A8/175D)	1300						
480/80 R46 (LI158A8/158B)	1480						
480/80 R46 (LI177A8/177D)	1480						
520/85 R42 (LI162A8/162B)	1560						
520/85 R42 (LI169A8/165D)	1560						
580/70 R42 (LI161A8/158D)	1640						
650/65 R38 (LI164A8/161B)	1568						
650/75 R38 (LI169A8/169B)	1760						
650/65 R42 (LI168A8/165D)	1760						
スプレーヤーブーム							
作業幅 [m]	21	24	27/19/10	27/22/15	27/21/15	28	28/15
重量 [kg]	750	760	764	932	932	765	936
作業幅 [m]	30/15	32	33	36	36/30/24/12	39	40
重量 [kg]	964	1008	1008	1032	1136	1136	1138
散布ライン							
ブームセクション切り替え	18 - 42						
個別ノズル切り替え	32 - 163						
その他の特別装備	最大300						

$$\text{積載重量} = \text{許容総重量} - \text{基本重量}$$
**危険**

許容積載重量を超えることは禁止されています。

走行条件が不安定になり、事故の危険があります。

積載重量を慎重に計算し、使用する機械で充填可能な量を決めてください。すべての充填媒体で、散布剤タンクを満タンにできるわけではありません。

4.13.4 許容総重量とタイヤ



機械の許容総重量は、以下によって変化します。

- 許容支持荷重
- 許容軸荷重
- ホイールペアごとの許容タイヤ負荷



許容総重量は以下の合計になります。

- 許容支持荷重と
- より小さな以下の値
 - 両軸の許容軸荷重
 - 両軸のタイヤの耐荷重

許容総重量を検出するための値は、以下の表を参照してください。

許容支持荷重と軸荷重

許容支持荷重 : 3000 kg

許容軸荷重 (2 軸) : 20000 kg

両軸のタイヤの耐荷重

タイヤ	負荷インデックス	定格空気圧 [b]	許容タイヤ負荷 [kg]	
			40 km/h	50 km/h
380/90 R50	175A8/175D	2.4	27600	27600
480/80 R46	158A8/158B		17000	17000
520/85 R42	169A8/165D		23200	20600
380/90 R46	173A8/173D	2.2	26000	26000
480/80 R46	177A8/177D	1.8	29200	29200
650/75 R38	169A8/169B		23200	23200
520/85 R42	162A8/162B	1.7	19000	19000
580/70 R42	161A8/158D	1.6	18500	17000
650/65 R38	164A8/161B		20000	18500
650/75 R38	169A8/169B	1.5	23200	23200

4.14 騒音発生データ

作業に関わる発生値（音圧レベル）は 74 dB（A）です。この値は運転時にキャビンのドアを閉じた状態で、トラクターの運転手の耳の位置で測定しました。

測定装置: OPTAC SLM 5

音圧レベルの高さは、基本的に使用する車両により異なります。

4.15 必要なトラクター装備

機械と組み合わせて使用するトラクターは、性能が要件を満たしており、必要な油圧・電子接続部およびブレーキ装置用のブレーキ接続部を備えていなければなりません。

トラクターエンジン出力

110 kW (150 PS) 以上

電気系統

バッテリー電圧: • 12 V (ボルト)

照明用電気ソケット: • 7 極

油圧系統

最大作業圧力: • 210 bar

トラクターポンプ出力: • 油圧ブロック用に 150 bar で 25 L/min 以上 (Profi-folding の場合、オプション)
• 油圧ポンプ駆動用に 150 bar で 75 l/min 以上 (オプション)

機械の油圧オイル: • HLP68 DIN 51524

機械の油圧オイルは、市場に流通しているあらゆるトラクターのコンビ型油圧オイル回路に適しています。

トラクター制御装置 • 装備に応じて異なります (81 ページの 参照)。

ブレーキシステム (装備に応じて)

デュアルラインブレーキシステム • 供給ラインのカップリングヘッド (赤) 1 個
• ブレーキラインのカップリングヘッド (黄) 1 個

または

シングルラインブレーキシステム • ブレーキラインのカップリングヘッド 1 個

または

油圧式ブレーキシステム: • ISO 5676 に準拠した油圧カップリング 1 個



油圧ブレーキシステムは、ドイツといくつかの EU 諸国では使用できません !

PTO (装備に応じて)

必要回転数: • 540 min⁻¹

回転方向: • 後側からトラクターを見た場合の時計回り方向。

5 機械本体の構造と機能

5.1 機能

散布ポンプ (1) は、吸引室 (G)、吸引ライン (2)

および吸引フィルター (3) 経由で、以下のものを吸い上げます。

- 散布液を、散布液タンクから (4)。
- 洗浄水を、洗浄水タンクから (5)。洗浄水は散布システムの洗浄のために使用します。
- 清浄水を、外部吸込口 (6) から。

吸い込まれた液体は、圧力ホース (7) 経由で圧力装置切り替え栓 (A) に送られ、ここから以下のものに送られます。

- 自浄式圧力フィルター (8) 経由で、セクションバルブ (9) へ。
セクションバルブは、ついで液体を散布ラインに送ります。
圧力フィルター上の補助アジテーターの設定栓 (I) を使用して、散布液を攪拌するときの攪拌出力を上げることが可能です。
- インジェクタおよび薬液混合タンクへ。
散布液をセットするには、散布液タンクの充填に必要な量の薬剤を薬液混合タンク (10) に入れ、散布液タンクに吸引します。
- 直接散布液タンクに (4)。
- 内部または外部清掃 (C) へ。

アジテーターポンプ (11) は、散布液タンク内のメインアジテーター (12) への供給を行います。メインアジテーターが作動していると、散布液タンク内の散布液が均質になります。

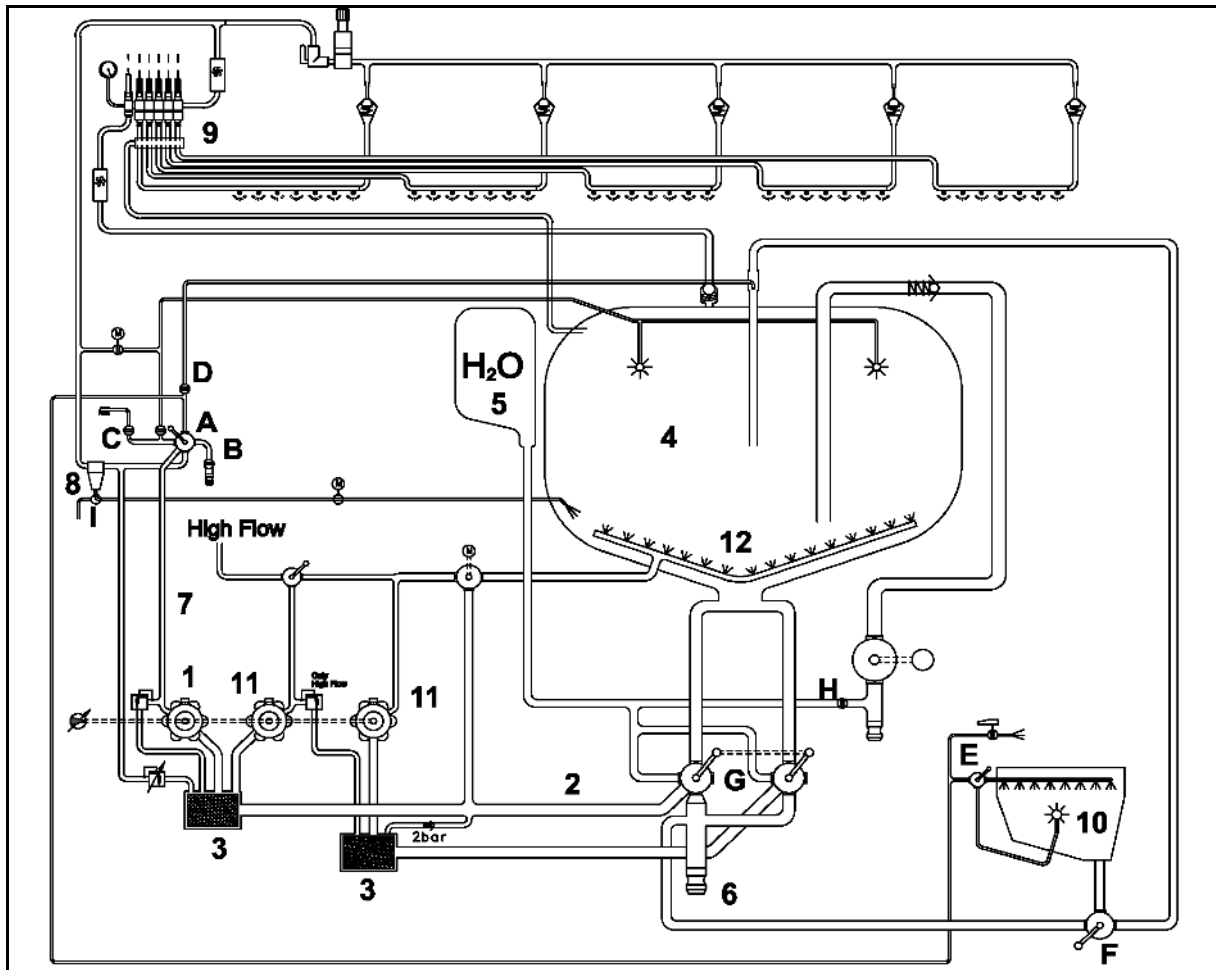


図 19

5.2 制御装置

各操作モードの設定は、制御装置の様々な操作エレメントを通じて、中央制御で行います。

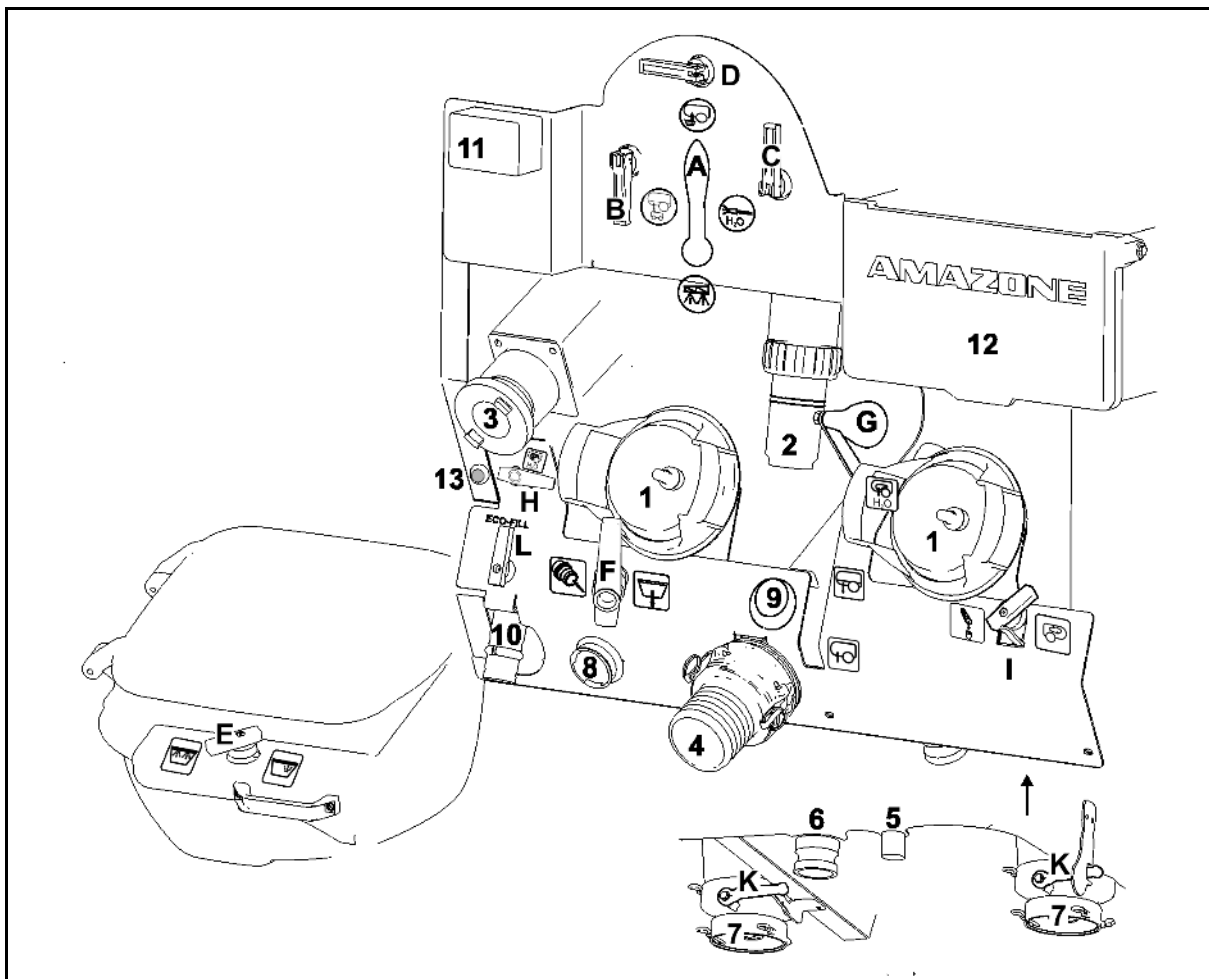


図 20

- (1) 吸引フィルタ
- (2) 圧カフィルタ
- (3) 圧カライン 3" による、洗浄水タンク / 散布液タンク充填接続部
- (4) 吸引ホース 4" による 散布液タンク充填接続部
- (5) 圧カフィルター出口
- (6) ポンプ経由で高速排出器
- (7) 吸引フィルター/散布液出口
- (8) Ecofill 洗浄スタンド
- (9) 吸引装置の操作用ボタン
- (10) Ecofill 接続部
- (11) 充填量インジケータ
- (12) 収納ボックス
- (13) 圧カラインを通じた散布液タンク充填用ボタン

• A - 圧カ装置の切り替え栓

-  散布作業
-  清掃
-  インジェクタモード
-  高速排出

- B - 高速排出器の切り替え栓
- C - 外部清掃切り替え栓
- D - インジェクタ切り替え栓

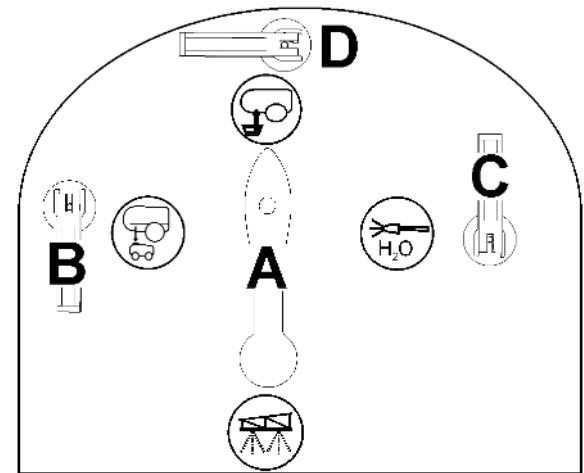


図 21

- E - リングライン/薬剤缶洗浄切り替え栓

- 0 ゼロ設定

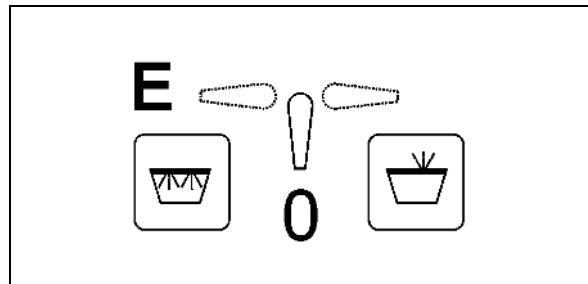


図 22

- F - 薬液混合タンクの
吸引 / インジェクターを ON
の切り替え栓

- 0 ゼロ設定

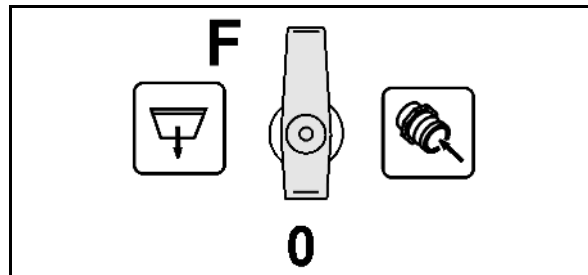
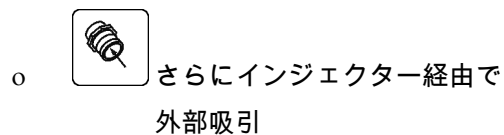
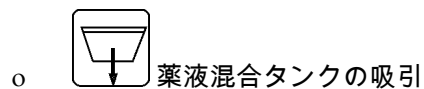


図 23

- G 吸引装置

吸引装置は電動式で、操作装置のボタンまたは
操作端末で操作します。

-  洗浄水タンクから吸引
-  散布剤タンクから吸引
-  吸引ホース経由での吸引

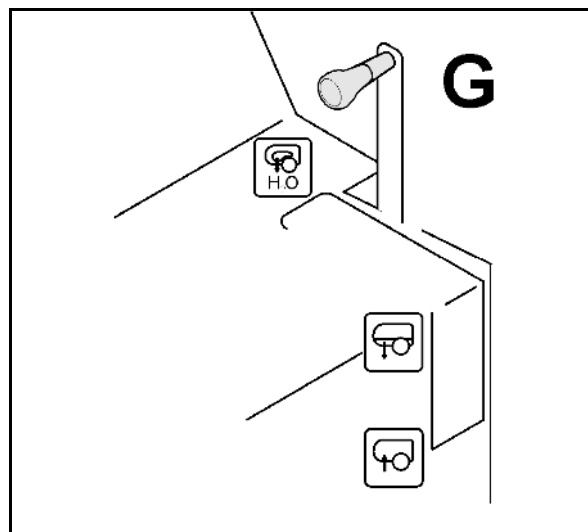


図 24

- H - 洗浄水タンク充填
切り替え栓

-  洗浄水の充填
- 0 ゼロ設定

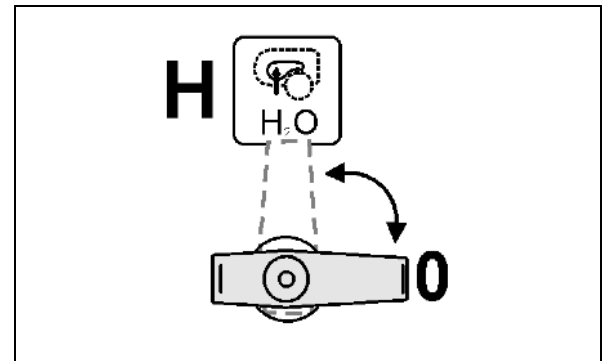


図 25

- I - 補助アジテーター切り替え栓

-  圧カフィルター内の残留量が
排出されます。

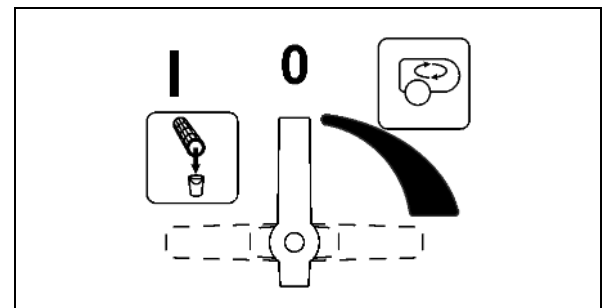


図 26

- L - Ecofill の切り替え栓

- Ecofill の充填用接続部を通じた Ecofill
の充填
- 0 ゼロ設定

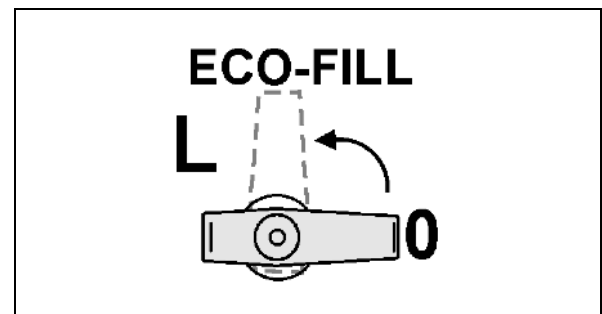


図 27



遮断栓はすべて

- ハンドルが流れ方向に向いていれば、開いています。
- ハンドルが流れ方向に対し90度の角度にあれば、閉じています。

5.3 プロペラシャフト

広角度プロペラシャフトにより、トラクターと機械の間で動力が伝達されます。

図 28:

- 直線型とヒッチ型牽引バー用の広角度プロペラシャフト (860 mm)
- ロシアのみ :
直線型とヒッチ型牽引バー用の広角度プロペラシャフト (860 mm)
- 開いている直線型牽引バー、U 字形金具用の広角度プロペラシャフト W100E (810 mm)

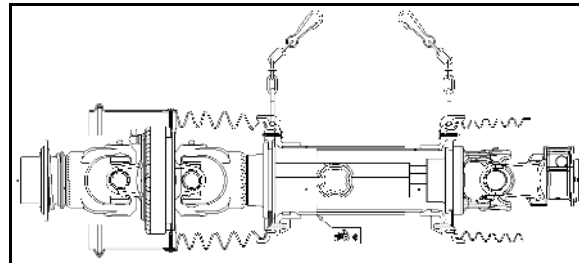


図 28



警告

トラクターと機械が不意に作動して走り出すことにより、押しつぶされる危険があります！

トラクターと機械が不意に作動して走り出すことのないように固定している場合にのみ、広角度プロペラシャフトとトラクターの連結および連結解除を実行してください。

**警告**

プロペラシャフトが固定されていないか、保護装置が損傷していることにより、閉じ込めと巻き込まれの危険があります。

- 保護装置がない場合、保護装置が損傷している場合、またはチェーンを正しく使用していない場合には、プロペラシャフトを使用しないでください。
- 使用する前に、必ず以下について点検してください。
 - プロペラシャフトのすべての保護装置が取り付けられ、正しく機能するかどうか。
 - どの運転状態でもプロペラシャフトの周りに十分な空きスペースがあるかどうか。空きスペースがないとプロペラシャフトが損傷します。
- プロペラシャフトがどの位置においても、十分な旋回スペースが確保されるように、チェーンをかけてください。チェーンは機械やトラクターのパーツにからまってははいけません。
- プロペラシャフトの損傷したパーツまたは欠落したパーツは、プロペラシャフトメーカーの純正パーツとすぐに交換してください。
プロペラシャフトの修理は必ず専門工場に依頼してください。
- 連結解除した機械において、プロペラシャフトを所定のホルダ内に置いてください。これによりプロペラシャフトを損傷や汚れから保護できます。
 - プロペラシャフトのチェーンで連結解除したプロペラシャフトを吊るさないでください。



警告

トラクターと駆動する機械の間の動力伝達エリアで、プロペラシャフトの保護されていない部分により閉じ込めと巻き込まれの危険があります。

トラクターと駆動している機械の間でドライブを完全に保護している場合にのみ、作業をしてください。

- プロペラシャフトの保護されていない部分は、トラクターの保護板や機械の保護カバーで常に保護していなければなりません。
- トラクターの保護板または機械の保護カバーが差し込まれているプロペラシャフトの安全装置および保護装置と 50 mm 以上重なっているかどうか確認してください。重なっていない場合には、機械をプロペラシャフトで駆動しないでください。



- 同梱のプロペラシャフトまたは同梱のプロペラシャフトのタイプを必ず使用してください。
- 同梱のプロペラシャフト取扱説明書を読み、これにしたがってください。プロペラシャフトを正しく使用し、メンテナンスを適切に行うことで、重大事故の発生を防いでください。
- プロペラシャフトの連結は、
 - 同梱のプロペラシャフト取扱説明書にしたがって行ってください。
 - 機械の許容駆動回転数を遵守して行ってください。
 - プロペラシャフトの正しい取り付け位置を守って行ってください。これについては「トラクターにプロペラシャフトの長さを適合させる」の章 (149 ページ) を参照してください。
 - プロペラシャフトの正しい取り付け位置を守ってください。プロペラシャフトの保護パイプにあるトラクターマークは、プロペラシャフトのトラクター側の接続部を表します。
- プロペラシャフトに過負荷クラッチまたはオーバーランクラッチが備わっている場合、この過負荷クラッチまたはオーバーランクラッチは常に機械側に取り付けなければなりません。
- PTO を ON にする前に、PTO 稼動についての安全上の注意事項を遵守してください (「ユーザーのための安全上の注意事項」 の章 (39 ページ) を参照) 。

5.3.1 プロペラシャフトの連結



警告

プロペラシャフト連結時に空きスペースがないことにより、押しつぶされる危険や衝突する危険があります。

機械をトラクターに連結する前に、プロペラシャフトとトラクターを連結してください。これにより必要な空きスペースが確保され、プロペラシャフトを安全に連結できます。

1. トラクターと機械の間に空きスペース（およそ 25 cm）が残る程度に、トラクターを機械に接近させてください。
2. これについては「トラクターが不意に始動して走り出すことがないように固定する」の章（155 ページ以降）を参照してください。
3. トラクターの PTO が OFF になっているか確認してください。
4. トラクターの PTO を清掃し、グリースを塗布してください。
5. プロペラシャフトのロック部分を、カチッと音を立ててはまるまで、トラクターの PTO に押し込んでください。プロペラシャフトを連結する際には、同梱のプロペラシャフト取扱説明書の内容および機械の許容 PTO 回転数を遵守してください。

プロペラシャフトの保護パイプにあるトラクターマークは、プロペラシャフトのトラクター側の接続部を表します。

6. プロペラシャフト保護パーツが一緒に回転しないように、チェーンで固定してください。
 - 6.1 チェーンはプロペラシャフトに対してできるだけ直角になるように固定してください。
 - 6.2 チェーンは、どのような運転状態でもプロペラシャフトの旋回範囲が十分に確保されるように固定してください。



注意

チェーンは機械やトラクターのパーツにからまってははいけません。

7. どのような運転状態においてもプロペラシャフトの周りに十分な空きスペースがあるか確認してください。空きスペースがないとプロペラシャフトが損傷します。
8. 空きスペースがなければ、これを確保してください（必要な場合）。

5.3.2 プロペラシャフトの連結解除



警告

プロペラシャフト連結解除時に空きスペースがないことにより、押しつぶされたり衝突したりする危険があります。

プロペラシャフトをトラクターから連結解除する前に、まず機械をトラクターから連結解除してください。これにより必要な空きスペースが確保され、プロペラシャフトの連結を安全に解除できます。



注意

プロペラシャフトの高熱の構成部品によってやけどする危険があります。

この危険は、手の軽傷または重傷の原因となります。

プロペラシャフトの高熱を帯びた部分に触れないでください（特にカップリングに注意してください）。

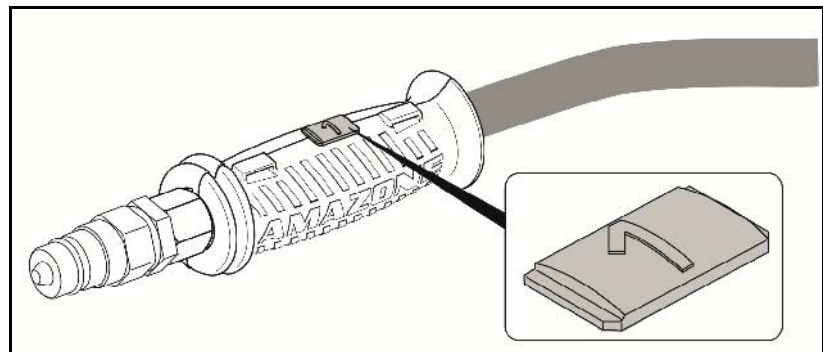


- 連結解除したプロペラシャフトは、所定のホルダ内に置いてください。これによりプロペラシャフトを損傷や汚れから保護できます。
プロペラシャフトのチェーンで連結解除したプロペラシャフトを吊るさないでください。
- 長期間使用しない場合には、その前にプロペラシャフトを清掃し、注油してください。

1. 機械をトラクターから連結解除します。これについては「機械の連結解除」の章、164 を参照してください。
2. トラクターと機械の間に空きスペース（およそ 25 cm）が生まれる程度に、トラクターを前進させます。
- 3.これについては「トラクターが不意に始動して走り出すことがないように固定する」の章（155 ページ以降）を参照してください。
4. トラクターの PTO からプロペラシャフトのロック部品を引き抜いてください。プロペラシャフトを連結解除する際には、同梱のプロペラシャフト取扱説明書の内容を遵守してください。
5. プロペラシャフトを所定のホルダにセットしてください。
6. プロペラシャフトを長期間使用しない場合には、その前にプロペラシャフトを清掃・注油してください。

5.4 油圧接続

- すべての油圧ホースラインにはグリップが備わっています。
各油圧機能をトラクター制御装置の圧力ホースに割り当てるために、グリップには識別番号または文字がついたカラーマークがあります。



機械には該当する油圧機能を識別するためのフォイルが貼り付けられています。

- 油圧機能に応じて、トラクター制御装置は様々な操作モードで使用できます。

ラッチ式、オイルの常時循環用	
ばね復帰式、アクションが実行されるまで操作	
フロート位置、制御装置内でオイルの自由な流れ	

機械本体の構造と機能

マーク		機能		トラクター制御装置	
青色	3		サポートスタンド (オプション)	上昇	複動式 
	4			下降	
ナチュ ラル色	1		SingleTrail		単動式 
黄色	3		リフティングモジュール (オプション)	上昇	複動式 
	4			下降	

Profi-folding :

マーク		機能	トラクター制御装置	
赤色	P	オイルの常時循環	単動式	
赤色	T	無圧での逆流		
赤色	LS	負荷感知型制御ライン		



警告

高圧で流れ出る油圧油による感染の危険。

油圧ホースラインを接続するとき、および接続解除するときは、機械とトラクターの両方の油圧系統の圧力を抜いてください。

油圧油によって怪我を負った場合は、ただちに医師の診察を受けてください。

Profi-folding:

逆流でのオイル最大許容圧力: 5 bar

従ってオイルの逆流ラインはトラクター制御装置に接続せず、大型のプラグカップリングで無圧の逆流ラインに接続します。



警告

オイルの逆流ラインには DN16

準拠のラインのみを使用し、ラインの長さは短くしてください。

空いている逆流ラインが正しく連結されている場合にのみ、油圧装置に圧力をかけてください。

一緒に納品されたカップリングスリーブを、圧力を抜いたオイルの逆流ラインに設置してください。

Profi-folding LS:

Profi-folding LS にはダイヤフラムアキュムレーターがあり、負荷感知モードに対応しています。



油圧系統が確実に支障なく機能するようにするために、機械は油圧式ポンプ駆動で Profi-folding LS を搭載したものを、負荷感知モードで使用してください。

5.4.1 油圧ホースラインの連結



警告

油圧ホースラインを正しく接続していないため油圧機能が正しく機能しないことにより、つぶれ、切断、閉じ込め、引き込まれ、および衝撃の危険があります。

油圧ホースラインを連結する際には、油圧プラグにあるカラーマークに注意してください。



- 機械をトラクターの油圧系に接続する前に、油圧オイルの適合性を確認してください。
鉱油は生物油と混合しないでください。
- 油圧オイルの最大許容圧力 210 bar を遵守してください。
- 清潔な油圧プラグだけを連結してください。
- 油圧プラグがカチッとロックされるまで、油圧プラグを油圧スリーブに差し込んでください。
- 油圧ホースラインが正しく連結され、連結箇所で漏れが発生していないか確認します。

1. トラクターの制御弁にある操作レバーをフロート位置 (ニュートラル位置) にしてください。
2. 油圧ホースラインをトラクターに連結する前に、油圧ホースラインの油圧プラグを清掃してください。
3. 油圧ホースラインをトラクター制御装置に連結してください。

5.4.2 油圧ホースラインの連結解除

1. トラクターのトラクター制御装置にある操作レバーをフロート位置（ニュートラル位置）に回してください。
2. 油圧スリーブから油圧プラグを外してください。
3. 油圧プラグと油圧ソケットに塵防止キャップをはめて、汚れを防いでください。
4. 油圧ホースラインをホース収納用ケースに入れます。

5.5 エアブレーキシステム



メンテナンス間隔を維持することは、デュアルラインブレーキシステムが正しく機能するために欠かせません。

図 29/...

(1) 操作ボタン付きリリースバルブ

- ストッパーまで押し込んで、ブレーキシステムを解除します（例えば連結解除したスプレーヤーの操車のために）。
- ストッパーまで引き出して、空気タンクの空圧によりスプレーヤーが再び制動されるようにします。

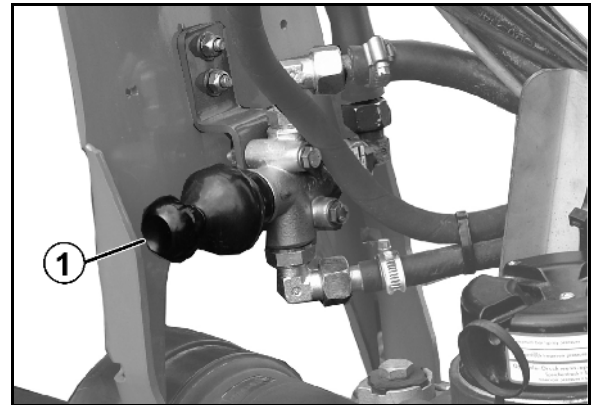


図 29

図 30/...

- (1) 空気タンク
- (2) 凝縮水用の排水バルブ
- (3) 点検用コネクター

ブレーキドラムには、ブレーキライニングの磨耗を補正するための自動調整式ブレーキレバーが備わっています。

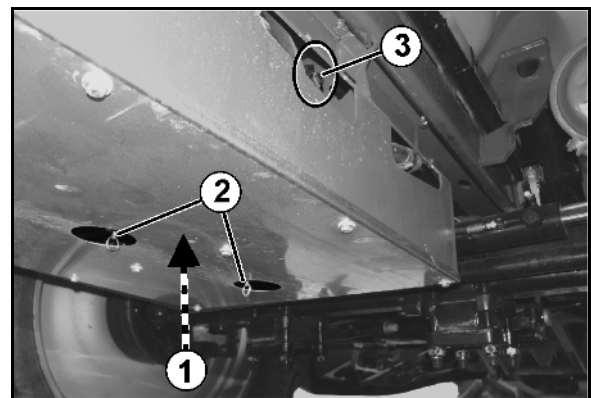


図 30

図 31/...

- (1) ブレーキラインのカップリングヘッド（黄色）
- (2) 供給ラインのカップリングヘッド（赤）

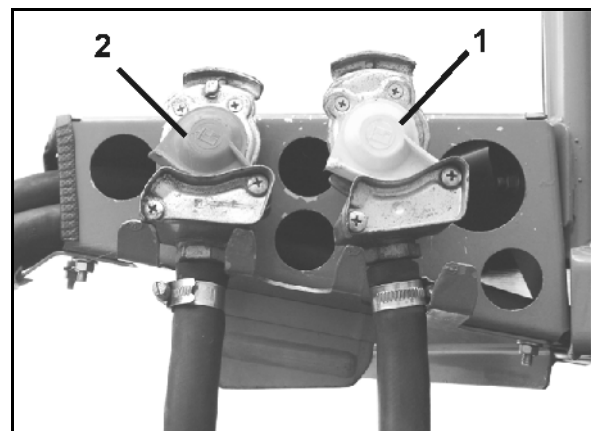


図 31

5.5.1 自動荷重対応式制動力調整器 (ALB)



警告

正常に機能しないブレーキシステムによる事故の危険！

自動荷重対応式制動力調整器の設定値は、変更してはいけません。

設定値は、ALB

銘板上に指定されている値と一致しなければなりません。

ブレーキドラムには、ブレーキライニングの磨耗を補正するための自動調整式ブレーキレバーが備わっています。

軸は、自動荷重対応式制動力調整器 (ALB) を備えています。

入力圧力 : 6.5 bar

軸荷重に応じた設定データ :

軸荷重 (軸ごと) [kg]	ペローズ圧力 [bar]	出力圧力 [bar]
2 x 3650	35	3.1
2 x 9500	105	6.5

5.5.2 ブレーキシステムの連結



警告

ブレーキシステムが正しく機能しないことによる、つぶれ、切断、閉じ込め、引き込まれ、および衝撃の危険があります！

- ブレーキラインと供給ラインの連結時には、以下に注意してください。
 - カップリングヘッドのシールが清潔になっている。
 - カップリングヘッドのシールによりしっかり密閉されている。
- 破損したシールはすぐに交換してください。
- 毎日初めて走行する前に、空気タンク内の液体を排出してください。
- 機械を連結した状態でのアプローチは、トラクターの圧力計が 5.0 bar を表示してから可能になります。



警告

サービスブレーキが解除されたときに不意に機械が動き出すことによる、つぶれ、切断、閉じ込め、引き込まれ、または衝撃の危険。
2系統エアブレーキシステム：

デュアルラインエアブレーキシステム：

- まず最初に必ずブレーキラインのホースカップリング（黄色）をつないでから、供給ラインのホースカップリング（赤色）をつなぎます。
- 赤色のホースカップリングをつなぐと、ただちに機械のサービスブレーキは解除されます。

1. トラクターのカップリングヘッドのカバーを開いてください。
2. エアブレーキシステム：
 - 2.1 ブレーキラインのカップリングヘッド（黄色）を、指示どおりに黄色のマークが付いたトラクターのカップリングに固定します。
 - 2.2 供給ラインのカップリングヘッド（赤色）を、指示どおりに赤色のマークが付いたトラクターのカップリングに固定します。

- 供給ライン (赤) 連結時には、トラクターから生じる空圧が、トレーラーブレーキバルブでリリースバルブ用操作ボタンを自動的に押し出します。
- 3. パーキングブレーキを解除し、そして/あるいは輪止めを取り外します。

5.5.3 ブレーキシステムの連結解除



警告

サービスブレーキが解除されたときに不意に機械が動き出すことによる、つぶれ、切断、閉じ込め、引き込まれ、または衝撃の危険。

2系統エアブレーキシステム：

デュアルラインエアブレーキシステム：

- まず最初に必ず供給ラインのホースカップリング（赤色）を取り外してから、ブレーキラインのホースカップリング（黄色）を取り外します。
- 赤色のホースカップリングを取り外して初めて、機械のサービスブレーキはブレーキ位置に移動します。
- 必ずこの順番を守ってください。そうしないと、ブレーキシステムが解除され、機械が動き出す恐れがあります。



機械の連結解除または切断時に、トレーラーブレーキバルブまでの供給ラインがエア抜きされます。トレーラーのブレーキバルブは自動的に切り替わり、自動荷重対応式制動力制御システムに従ってブレーキシステムを作動させます。

1. 機械が不意に走り出さないように固定してください。そのために、パーキングブレーキおよび / または輪止めを使用してください。
2. エアブレーキシステム
 - 2.1 供給ラインのカップリングヘッド（赤色）を切り離します。
 - 2.2 ブレーキラインのカップリングヘッド（黄色）を切り離します。
3. トラクターのカップリングヘッドのカバーを閉じます。

5.6 油圧式ブレーキシステム

油圧ブレーキシステムを制御するには、トラクターに油圧式制動装置が備わっていないなりません。

5.6.1 油圧式ブレーキシステムの連結



清潔な油圧カップリングだけを連結してください。

1. 保護キャップを取り外してください。
2. 必要に応じて、油圧プラグと油圧ソケットを清掃してください。
3. 機械側の油圧ソケットとトラクター側の油圧プラグを連結してください。
4. 油圧ねじ継ぎ手を手で締め付けてください（ある場合）。

5.6.2 油圧式ブレーキシステムの連結解除

1. 油圧ねじ継ぎ手を外してください（ある場合）。
2. 油圧プラグと油圧ソケットに塵防止キャップをはめて、汚れを防いでください。
3. 油圧ホースラインをホースホルダに通してください。

5.6.3 非常ブレーキ

走行中に機械がトラクターから外れると、非常ブレーキにより機械が制動されます。

図 32/...

- (1) ケーブル
- (2) 蓄圧器付きブレーキバルブ
- (3) ブレーキの負荷を解除するためのハンドポンプ
- (A) ブレーキ解除
- (B) ブレーキ作動

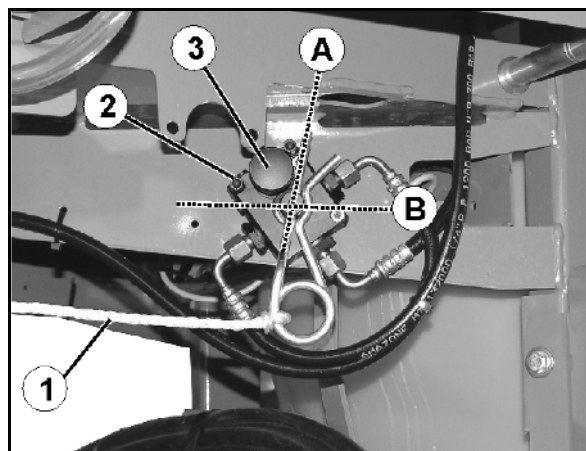


図 32



危険

走行前に、ブレーキを使用場所に移動させます。

このために:

1. トラクターの堅固な箇所に、ケーブルを固定します。
2. トラクターエンジンが稼働し、油圧ブレーキが接続されている状態で、トラクターのブレーキを操作します。

→ 非常ブレーキの蓄圧器をロードします。



危険

正常に機能しないブレーキにより事故の危険があります！

R ピンを抜いた後（非常ブレーキの作動時など）、必ず同じ側から R ピンをブレーキバルブに差し込みます（図 32）。さもないとブレーキは機能しません。

R ピンを再び差し込んだ後、サービスブレーキと非常ブレーキのブレーキテストを実行してください。



機械の連結を解除すると、蓄圧器は油圧オイルを

- ブレーキに押し込み、機械を制動します。

または

- トラクターへのホースラインに押し込み、トラクターでのブレーキラインの連結を困難にします。

この場合、ブレーキバルブにおいて圧力をハンドポンプで解消します。

5.7 パーキングブレーキ

パーキングブレーキをかけると、連結解除した機械が不意に動き出すのを防ぎます。クランクを回すと、軸とケーブルによってパーキングブレーキが操作されます。

- (1) クランク、静止位置にロック
- (2) 使用位置のクランク

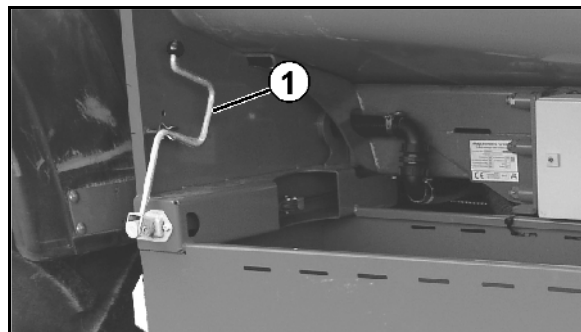


図 33

終了時の解除 / 締め付け用クランク位置。

(パーキングブレーキの締め付け力は、手動で 20 kg になります)。

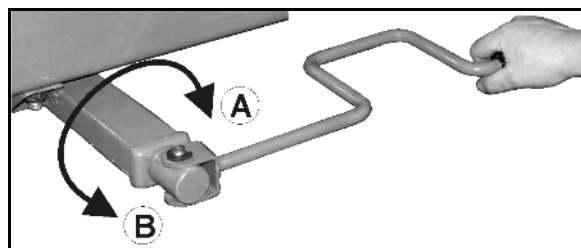


図 34

高速解除 / 締め付け用のクランク位置。

- (A) パーキングブレーキを締め付けます。
- (B) パーキングブレーキを解除します。

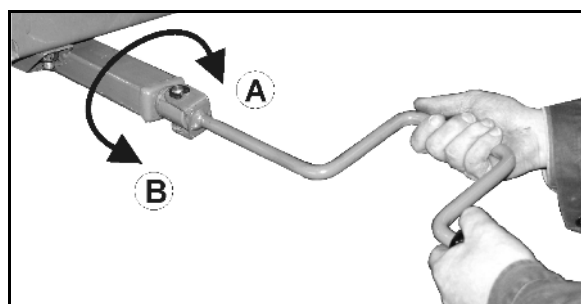


図 35



- 軸のクランプストロークが足りない場合、パーキングブレーキの設定を修正してください。
- ケーブルが他の車両パーツ上に載ったり擦れたりしないようにしてください。
- パーキングブレーキを解除すると、ケーブルは少したるまなければなりません。

5.8 折り畳み式の輪止め

各輪止めは 1 個の蝶ねじによって、機械右側に固定されています。



図 36

押しボタンを押すことで、折りたたみ式輪止めを使用位置に設定し、連結解除する前にホイールの手前に配置します。

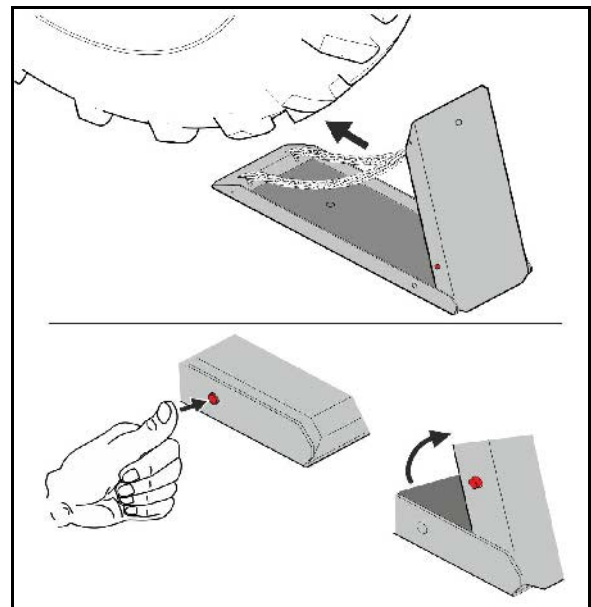


図 37

5.9 ブレーキシステムなしの機械用のセーフティチェーン

該当する国の規則に従い、ブレーキシステムがない機械 / シングルラインブレーキシシステムを備えた機械には、セーフティチェーンが備わっています。

セーフティチェーンは、走行前にトラクターの適切な箇所に、規則に従って取り付けする必要があります。

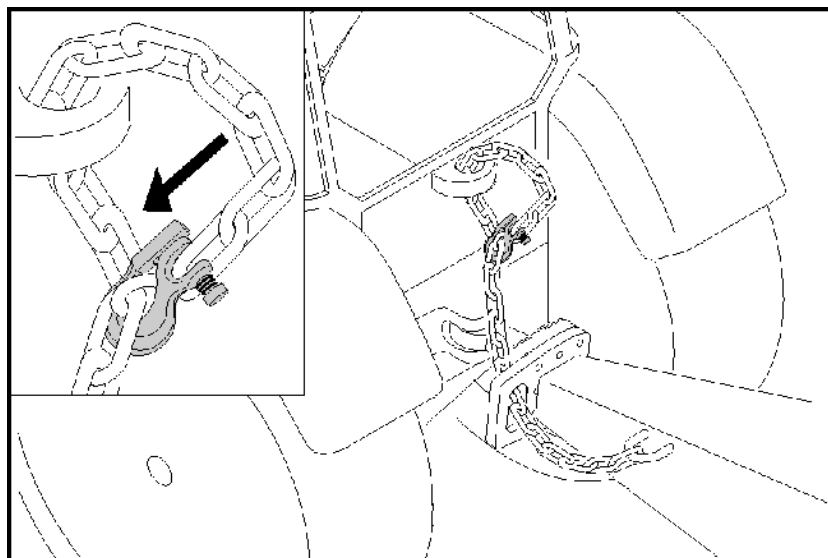


図 38

5.10 タンデム軸

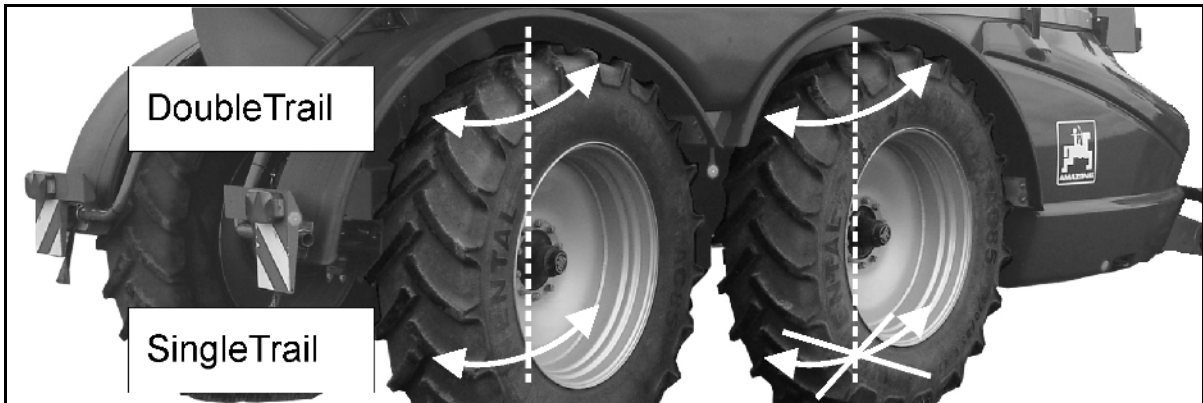


図 39

機械には、装備に応じて次のタンデム軸が備わっています：

- 2 本のステアリング軸で構成された、DoubleTrail タンデム軸
- 固定軸および後置軸で構成される SingleTrail タンデム軸

DoubleTrail タンデム軸

操作端末で圃場、道路、傾斜した地形および操車のモードを設定。

圃場モード：両軸は油圧で制御およびステアリングします。

道路モード：前軸は、操作端末によって、油圧式でロックされます。後軸は油圧で制御およびステアリングします。

SingleTrail タンデム軸

前軸は固定軸として設計されています。

後側のステアリング軸には、トラクター制御装置への接続部があります。

圃場モード：

後軸は、トラクターの後ろをロックされずに追走します。

→ トラクター制御装置 ナチュラル をフロート位置で駆動します。

道路モード：後軸を中央位置でロックします。

→ トラクター制御装置 ナチュラル を操作し、ロックします。

15 km/h 未満の速度では、軸はロックせずに追走できます。

DoubleTrail タンデム軸 :

トラクターに対する機械の角度検知は、トラクターに連結するボールカップリングヘッド 50 のステアリングロッドで行います。

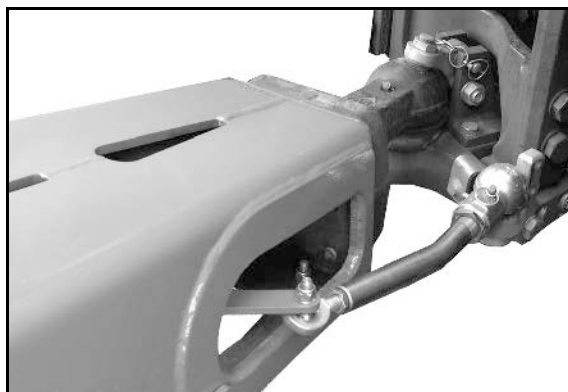


図 40

5.11 ハイドロニューマチック・サスペンション

ハイドロニューマチック・サスペンションには、荷重状態に左右されないように車高を自動調整する装置が組み込まれています。

以下の目的のために、機械を手動モードで下降できます。

- 頭上空間を減らす
- サスペンションを OFF にする



警告

不安定な走行挙動による事故の危険！

ハイドロニューマチック・サスペンションは必ず自動モードで使用してください。

操作端末の取扱説明書を参照。

5.12 油圧式サポートスタンド

油圧式のサポートスタンドは、連結解除したスプレーヤーを支えます。操作は複動式制御バルブによって行います。

トラクター制御装置 青色



危険

油圧式のサポートスタンドに機械を降ろす際には、サポートスタンドは垂直状態から 30° を超えて傾斜してはいけません。



- トラクターでサポートスタンドを操作する際には、クラッチを踏み、直線型 / ヒッチ型接続部からピンを解除します。
- サポートスタンドが上昇している場合、サポートスタンドのマーク (図 42/1) が見えます。



図 41

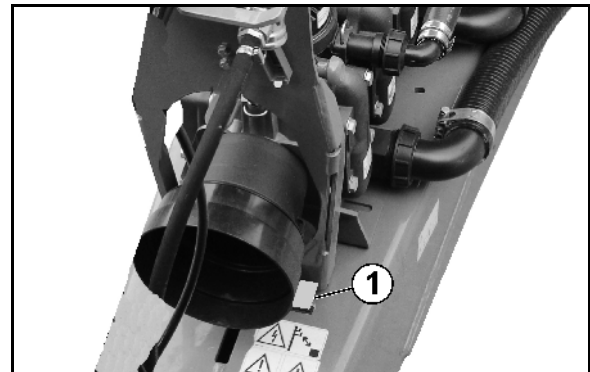


図 42

5.13 散布液タンク

散布液タンクの充填は、以下を介して行われます。

- 充填口
- 吸込口の吸引ホース (オプション)
- 圧力充填接続部 (オプション)

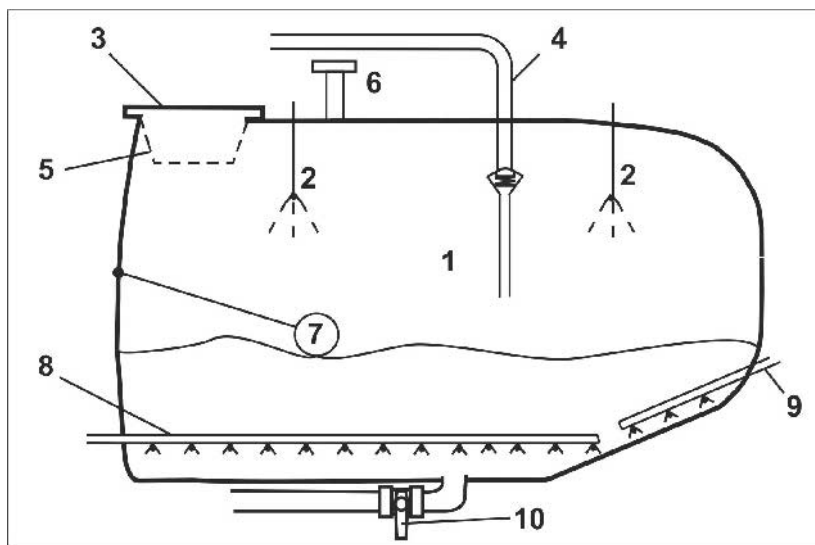


図 43

- (1) 散布液タンク
- (2) 内部清掃
- (3) 充填口のヒンジ式/ねじ式フタ
- (4) 外部充填接続部
- (5) 充填用ストレーナー
- (6) 換気
- (7) 充填レベル検出のためのフロート
- (8) アジテーター
- (9) 補助アジテーター
- (10) 漏れがある場合に不意に流出することを防ぐための停止栓



機械を使用する際には、フレームパーツによって散布液タンクで摩擦箇所が生じる場合があります。これは散布液タンクの製品寿命に影響しません！

充填口のヒンジ式/ねじ式フタ

- フタを開くには左に回し、上に開きます。
- フタを閉めるには下に降ろし、右に回して締め付けます。

5.13.1 アジテーター

アジテーターを作動すると、散布液タンク内の散布液が混ぜ合わせられ、散布液が均一になります。

このスプレーヤーには、自動メインアジテーター（アジテーター）と手動式の補助アジテーターが備わっています。どちらのアジテーターも、油圧式のアジテーターとして設計されています。

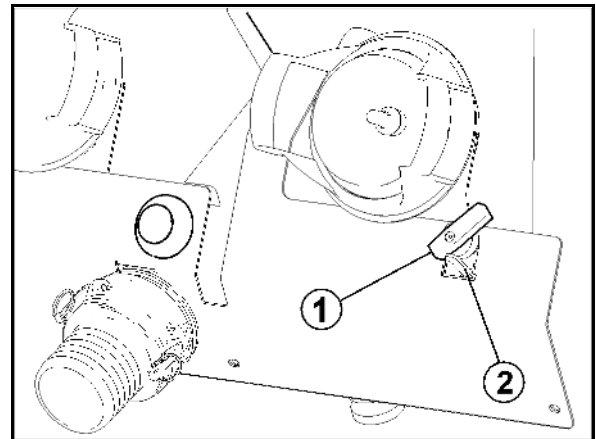


図 44

アジテーター：

- 遠隔操作による攪拌強度の制御。
- 操作端末での攪拌強度の手動制御。
- メインアジテーターの充填レベルに応じた自動制御
- 散布剤タンク充填レベル 5 %
未満での自動アジテーター遮断
- 2 台のアジテーターポンプがメインアジテーターへの供給を行います。

補助アジテーター：

- 補助アジテーターへの供給は、作動ポンプによって行います。
- 攪拌出力は、切り替え栓（図 44/1）でそれぞれ無段階式に設定可能です。
- 補助アジテーターは、自浄式圧力フィルタの洗浄とも組み合わせられます。

圧力フィルタの排出機能の安全装置（図 44/2）。

5.13.2 梯子付きのメンテナンス用プラットフォーム

ドーム型充填部にアクセスするための下に旋回可能な梯子を備えたメンテナンス用プラットフォーム。



危険

- 有毒な蒸気が害を及ぼす危険があります！
決して散布液タンクの中に入らないでください。
- 機械の上に乗ると、落下する危険があります！
スプレーヤーの上に乗ることは固く禁止されています！



梯子が走行位置でロックされていることを必ず確認してください。

図 45/...

(1) 上に畳まれ、走行位置でロックされた梯子。

(2) 自動ロック

自動ロックを解除するには、レバーを上旋回させます。



図 45

5.13.3 散布液タンク充填用の吸入口（オプション）

図 46/...

- (1) 吸引ホース（8 m、4"）。
- (2) クイックカップリング。
- (3) 吸引フィルター（吸入水の濾過用）。
- (4) 逆止バルブ。充填中に突然負圧がなくなった場合に、散布液タンク内の液体が流出するのを防止します。

充填停止：

希望する充填量に達すると、充填は自動停止します。

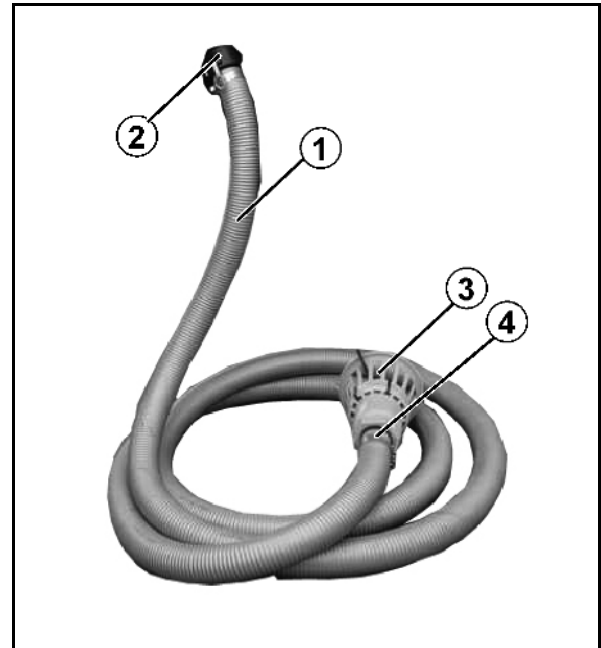


図 46

5.13.4 散布液タンクの圧力充填用接続部（オプション）

- ・ 一時的に管の外を流れる方法、または巡回可能な排出口による充填（図 47）。
- ・ 逆戻りしない直接充填。公共の水道設備からの充填は許可されていません。



図 47

図48/...

- (1) 圧力充填接続部
- (2) 充填開始 / 停止ボタン

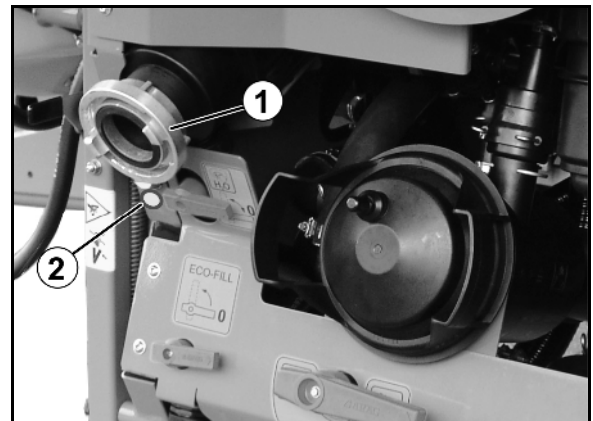


図48

5.14 洗浄水タンク

洗浄水タンクには、清潔な水が入れます。
この水は以下の用途に使われます。

- 散布作業終了時に散布液タンク内に残っている残留物の希釈。
- 圃場で、スプレーヤー全体を清掃（洗浄）すること。
- 散布剤タンク満タン時に、吸引装置と散布ラインを清掃すること。

2 個の相互接続された洗浄水タンク。（合計容量 900 l）。

図 49/1： 洗浄水タンク

図 50/1： 充填量インジケータ



図 49

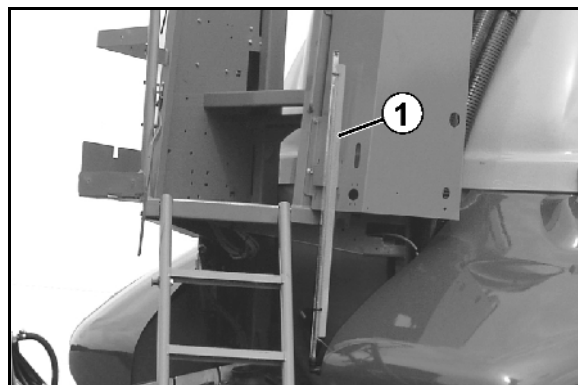


図 50

図 51/...

- (1) 圧力充填接続部
- (2) 洗浄水タンク充填切り替え栓



洗浄水タンクには、清潔な水だけを入れてください。

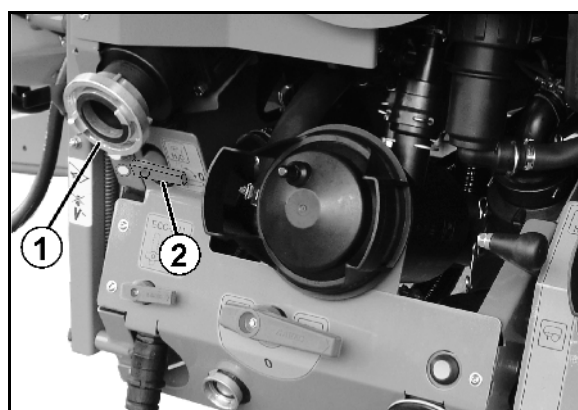


図 51

洗浄水タンクの充填

1. 充填ホースを接続します。



2. 切り替え栓を  位置にします。
3. 洗浄水タンクに充填接続部を通じて充填します（充填レベル表示を監視します）。

5.15 缶洗浄装置がある薬液混合タンク

図 52/...

- (1) 農薬および尿素を注入・溶解・吸引するための、旋回可能な薬液混合タンク。
- (2) ヒンジ式フタ。
- (3)
- (4) スプレーガン
- (5) ヒンジ式フタのロック
- (F) リングライン / 薬剤缶洗浄切り替え栓

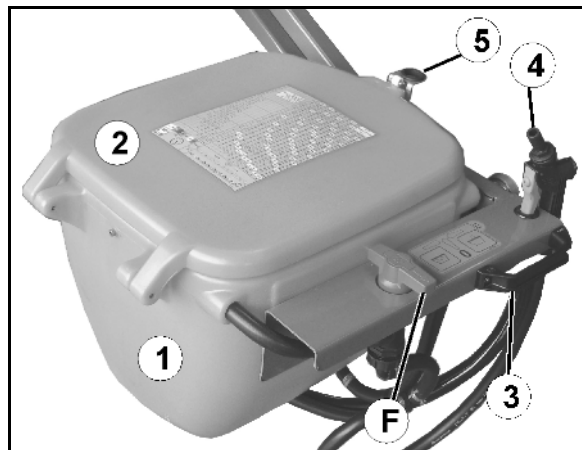


図 52

図 53/...

薬液混合タンクには、走行位置にあるときに薬液混合タンクが不意に下に旋回するのを防ぐために固定する走行安全用留め具が付いています。

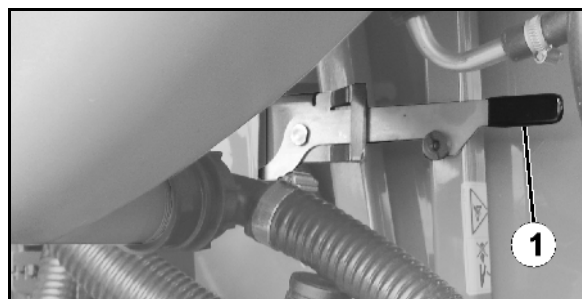


図 53

薬液混合タンクを充填位置に旋回させるには：

1. 薬液混合タンクのハンドグリップを握ります。
2. 走行安全用留め具（図 53/1）のロックを解除します。
3. 薬液混合タンクを下へ旋回させます。

図 54/...

- (1) 薬液混合タンク内のボトムストレーナーは、かたまりや異物が吸い込まれるのを防止します。
- (2) 回転式薬剤缶洗浄ノズル（薬剤缶または他の容器を洗浄するため）。
- (3) 圧力プレート。
- (4) 農薬と尿素を溶解・混入するためのリングライン。
- (5) 目盛り

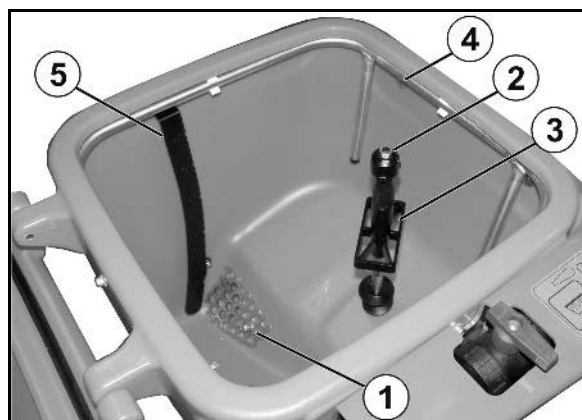


図 54

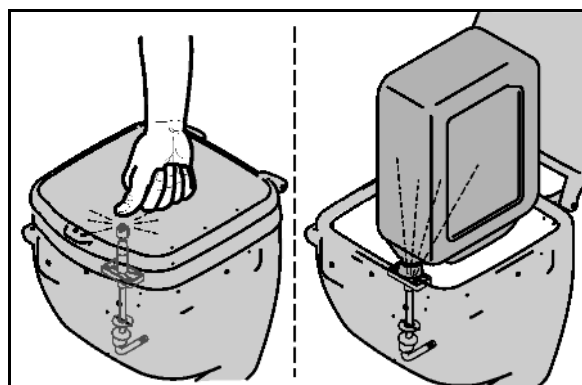


図 55



以下の場合には、缶洗浄ノズルから水が漏れます。

- 圧カプレートが下方に押された場合。
- 閉じているヒンジ式フタによって、薬剤缶洗浄ノズルが下方に押された場合 (図 73)。



警告

薬液混合タンクを洗浄する前に、ヒンジ式フタを閉じてください。

薬液混合タンクをすすぐためのスプレーガン

スプレーガンは、洗浄プロセス中または洗浄プロセス後に薬液混合タンクを洗淨水ですすぐためのものです。



スプレーガンが意図せず作動しないように、ロック (図 56 / 1) で保護してください。

- 散布を一時停止する前に毎回
- 清掃作業後に散布スプレーガンをホルダーに置く前



図 56

5.16 Ecofill 充填接続部 (オプション)

Ecofill 接続部により、Ecofill 散布剤タンクから散布剤を吸引します。

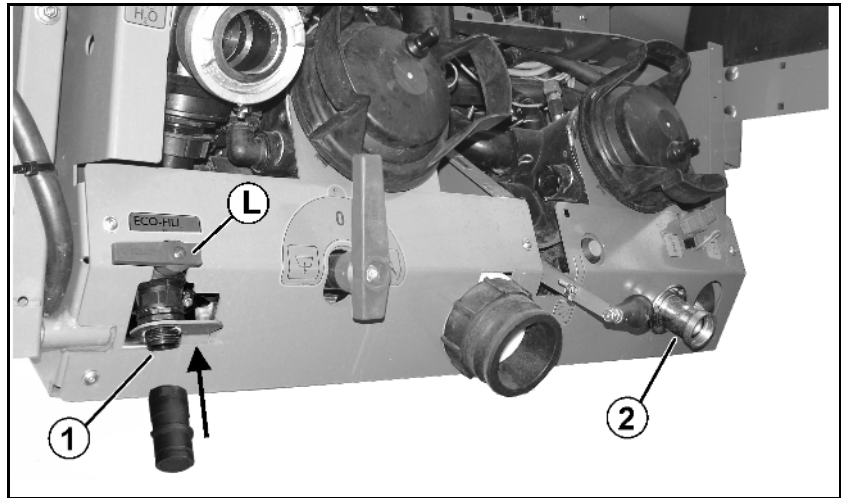


図 57

- (1) Ecofill 充填接続部 (オプション)。
- (2) ECOFILLカウンターの洗浄接続部
- (L) Ecofill の切り替え栓

5.17 ハンドウォッシュ装置

図 58/...

- (1) ハンドウォッシュタンク (散布剤タンク
容量 : 20l)
- (2) ホース



警告

ハンドウォッシュタンク内の不潔な水
による中毒の危険。

ハンドウォッシュタンク内の水は、飲
用水としては絶対に使用しないでくだ
さい！ハンドウォッシュタンクの材料
は、食品安全基準を満たしていません
。

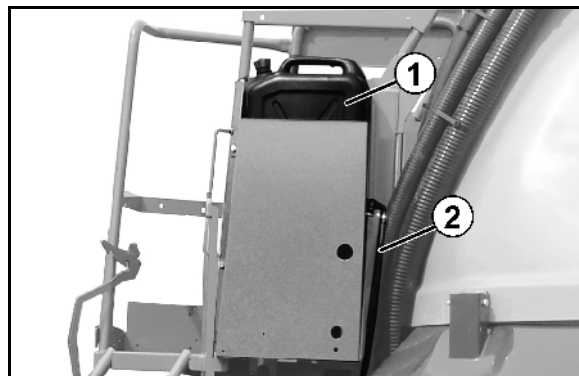


図 58

図 59/...

- (1) ソープディスペンサー
- (2) 清潔な水用の排水栓
 - 手を洗うため、または
 - 散布ノズルを清掃するため

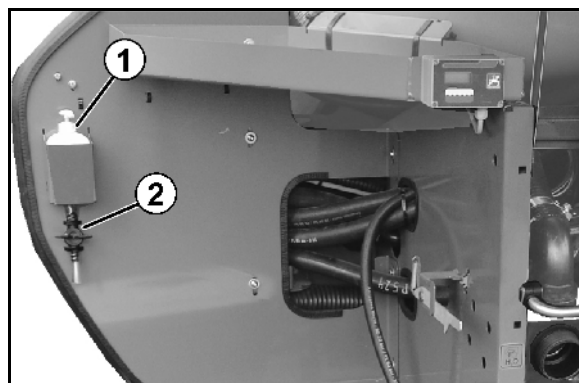


図 59



警告

農薬または散布液による、容認できないハンドウォッシュタンク汚
染。

ハンドウォッシュタンクには清潔な水だけを充填し、農薬や散布液
は絶対に入れないでください。



スプレーヤーを使用するときは、つねに十分な量の清潔な水が利用
できることを確認してください。散布液タンクに充填する際には、
ハンドウォッシュタンクも確認および充填してください。

5.18 ポンプ装置

農薬に直接触れるすべての部品は、プラスチックコーティングが施されたダイキャストアルミニウム製か、またはプラスチック製です。当社の把握する限り、このポンプは市販されている農薬と液体肥料の散布に適しています。



ポンプ最大許容駆動回転数 540 min^{-1} を絶対に超過しないでください！

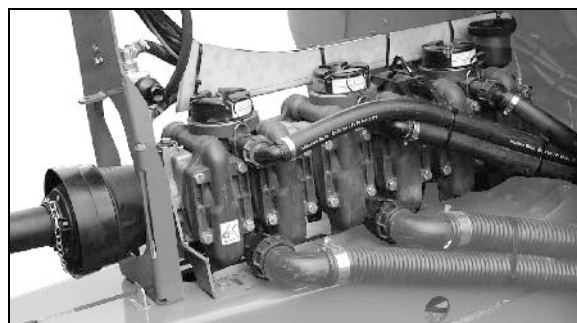


図 60

5.18.1 油圧ポンプ駆動（オプション）

- 最大ポンプ回転数は、油圧で 540 min^{-1} に制限されています。
- ポンプ回転数が少ない場合には、オイルの流量をトラクターの側で減らしてください。
- ポンプ回転数は操作端末に表示されます。

5.19 フィルタ装置



- フィルタ装置と一緒に供給されるすべてのフィルタを使用してください。フィルタは定期的に清掃してください（「清掃」の章、188 ページを参照）。散布液を適切に濾過することによってのみ、故障のないスプレーヤー作業が可能になります。作物保護対策を成功させる上で、適切な濾過は非常に重要となります。
- フィルタとメッシュサイズの許容される組み合わせに注意してください。自浄式圧力フィルタおよびノズルフィルタのメッシュサイズは、つねに該当するノズルのノズル開口部よりも小さくなければなりません。
- 使用する農薬を確実に濾過できるよう、ある種の農薬については、80または100メッシュ/インチの圧力フィルタインサートを使用してください。個別のケースについては、農薬のメーカーにお問い合わせください。

5.19.1 充填用ストレーナー

充填用ストレーナーは、ドーム型充填部から散布液タンクに充填する際に、散布液の汚染を防ぎます。

メッシュサイズ：1.00 mm

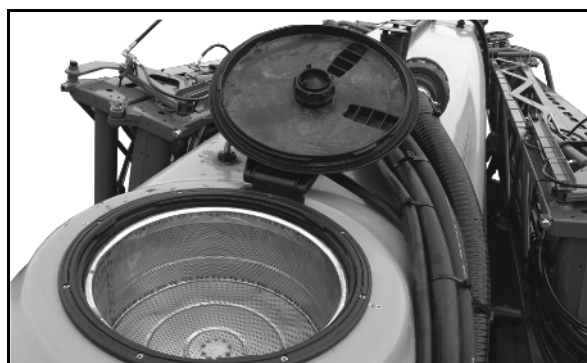


図 61

5.19.2 吸引フィルタ

吸引フィルター（図 62/1）は、次のものを濾過します。

- 散布液（散布作業中）。
- 水（吸引ホースを用いて散布液タンクを充填する場合）。

メッシュサイズ：0.60 mm

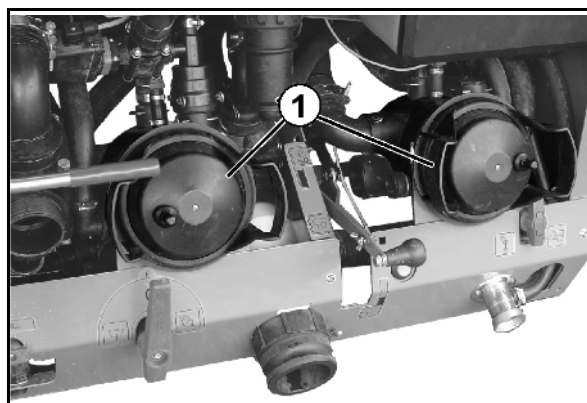


図 62

5.19.3 自浄式圧カフィルタ

自浄式圧カフィルタ（図 63/1）は、

- 散布ノズルの上流にあるノズルフィルタの目詰まりを防止します。
- 吸引フィルタよりもメッシュ数/インチが多いフィルタが使われています。

補助アジテーターが作動していると、圧カフィルタインサートの内面は継続的に洗い流され、散布剤の溶け残りや埃の粒子は散布液タンクに戻されます。

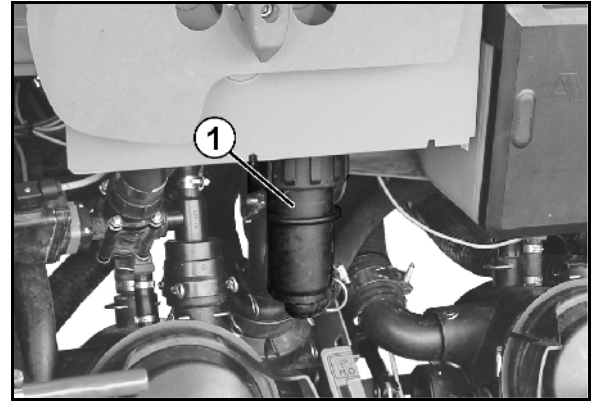


図 63

圧カフィルタインサートの概要

- 50 メッシュ / インチ（標準）、
ノズルサイズ「03」以上向け
ろ過面積： 216 mm²
メッシュサイズ： 0.35 mm
- 80メッシュ / インチ、
ノズルサイズ「02」向け
ろ過面積： 216 mm²
メッシュサイズ： 0.20 mm
- 100メッシュ/インチ
ノズルサイズ「015」以下向け
ろ過面積： 216 mm²
メッシュサイズ： 0.15 mm

5.19.4 ノズルフィルタ

ノズルフィルタ（図 64/1）は、散布ノズルの目詰まりを防止します。

ノズルフィルタの概要

- 24 メッシュ/インチ
ノズルサイズ「06」以上向け
ろ過面積： 5.00 mm²
メッシュサイズ： 0.50 mm
- 50 メッシュ/インチ（標準）
ノズルサイズ「02」～「05」向け
ろ過面積： 5.07 mm²
メッシュサイズ： 0.35 mm
- 100メッシュ/インチ
ノズルサイズ「015」以下向け
ろ過面積： 5.07 mm²
メッシュサイズ： 0.15 mm

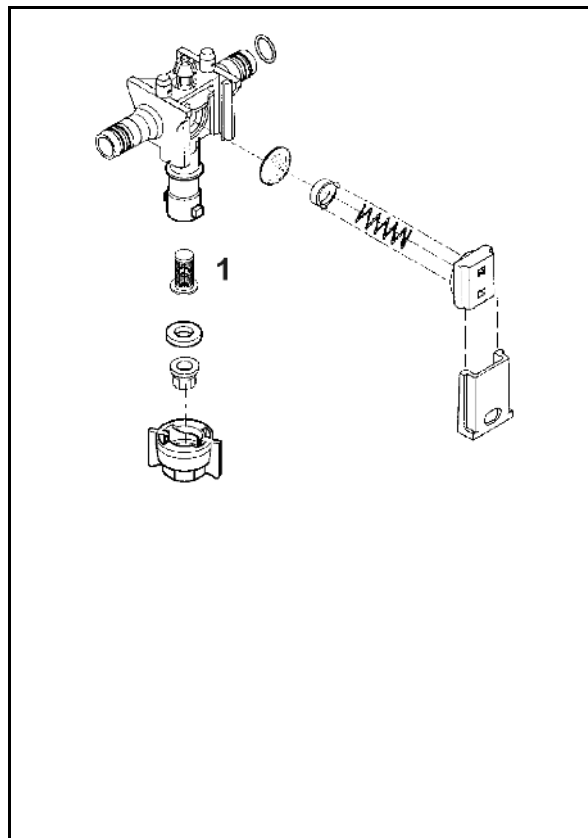


図 64

5.19.5 薬液混合タンクのボトムストレーナー

薬液混合タンク内のボトムストレーナー（図 65/1）は、かたまりや異物が吸い込まれるのを防止します。

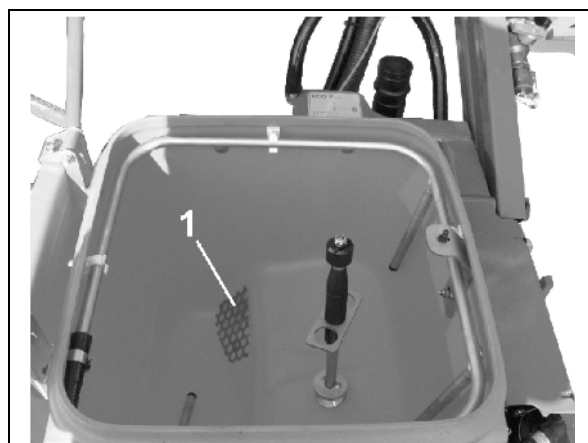


図 65

5.20 運搬ボックス

保護服と付属品を保管するための輸送・安全容器（図 66/1）。

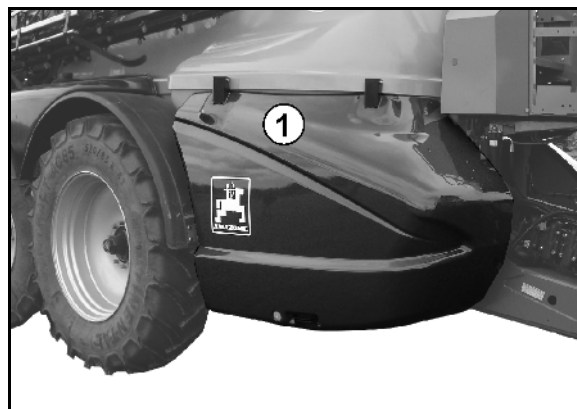


図 66

5.21 底面の作物保護パーツ（オプション）

底面の作物保護パーツは左側で開閉可能な仕様になっており、スプレーヤーの排水用のアクセスが可能になります。

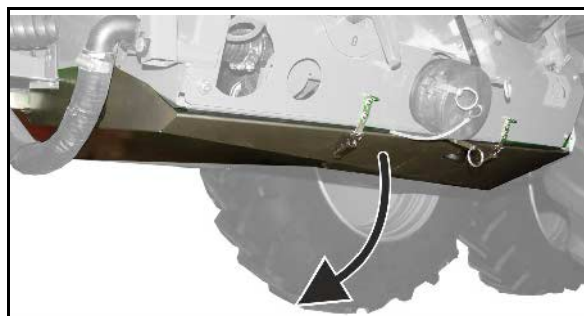


図 67

5.22 外部洗浄装置 (オプション)

図 68/...

外部洗浄装置は、スプレーヤーおよび以下のコンポーネントを清掃するためのものです。

- (1) ホースリール
- (2) 20 m 圧力ホース
- (3) スプレーガン

作業圧力： 10 bar

水発射量： 18 L/min



警告

スプレーガンの意図しない操作により、圧力のかかった液体が漏れたり、散布液で汚染される危険。

スプレーガンが意図せず作動しないように、ロック (図 69 / 1) で保護してください。

- 散布を一時停止する前に毎回
- 清掃作業後に散布スプレーガンをホルダに置く前

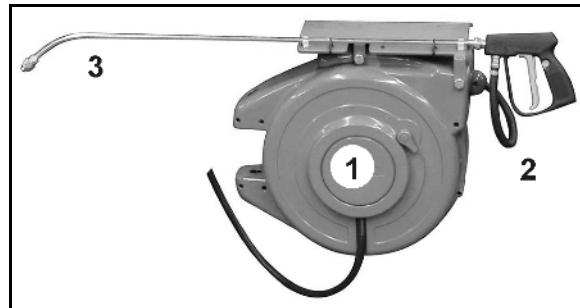


図 68



図 69

5.23 カメラシステム



警告

最悪で死に至る負傷の危険

カメラディスプレイを用いだけで操車を行うと、人やものを見損なってしまうことがあります。カメラシステムはひとつの補助手段です。カメラシステムは、オペレーターが極近の周囲に向ける注意に代わるものではありません。

- 操車前に直接目を見て、進行方向に人や物が存在しないことを確認してください。

本機械には、カメラ（図 70/1）を 1 台搭載できます。

特性：

- 視角は 135°
- ヒーターおよびロータスコーティング
- 赤外線ナイトビジョンテクノロジー
- 自動バックライト機能

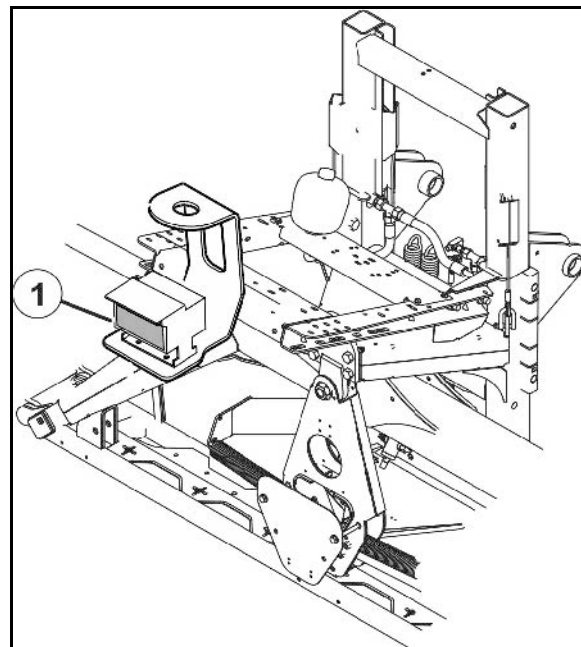


図 70

5.24 作業灯

スプレーヤーブームとプラットフォームにそれぞれ2台ある作業ライト



図 71

個々のノズル用の LED 照明:



図 72



2つのタイプ :

- トラクターからの個別の電力供給が必要、スイッチボックスで操作。
- ISOBUSを介して電力供給および操作を行います。

5.25 コンフォート仕様

コンフォート仕様の機能:

- トラクターを去ることなく散布プロセスを中断または終了した場合の清掃 – 遠隔操作による残留物の希釈と内部洗浄。
 - 散布位置 (図 73/A) から洗浄位置 (図 73/B) への遠隔操作による切り替え。
 - メインアジテーターと補助アジテーターのスイッチ OFF。
 - 遠隔操作による内部清掃の切り替え。
- アジテーター – 遠隔操作による攪拌強度の制御。
 - メインアジテーターの充填レベルに応じた自動制御。
 - 充填レベル 5 % 未満でアジテーターの自動 OFF。
 - 操作端末での攪拌強度の手動設定。
- 吸引接続部による充填時の充填停止。
 - 希望する充填量に達した際の、充填自動終了。
 - 手動による充填終了。

操作端末または制御装置 (図 73/1) を介した、
 充填位置 (図 73/C) から
 散布位置 (図 73/A) への
 切り替え

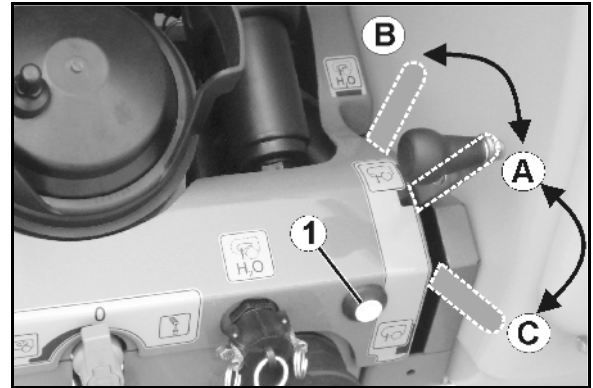


図 73



ボタンによる吸引室の切り替え

- 散布から洗浄への切り替えは、操作端末が作業メニューになっており、
- 充填から散布への切り替えは、操作端末が充填メニューになっていなければなりません。



ISOBUS ソフトウェアの取扱説明書を参照してください！

5.26 操作端末

操作端末を介して行うのは以下の操作です：

- 機械固有データの入力。
- 作業関連データの入力。
- スプレーヤーの制御（散布作業で使用する散布量の変更）。
- スプレーヤーブームの全機能の操作。
- 特別機能の操作。
- 散布作業中のスプレーヤーの監視。

操作端末はジョブコンピュータを制御します。制御時にはジョブコンピュータが必要な情報をすべて受信し、入力された散布量（規定量）と現在の走行速度[km/h]に応じて、散布面積に基づく散布量制御[l/ha]を行います。



ソフトウェア ISOBUS の取扱説明書を参照してください。

AMATRON 3



AMAPAD



CCI

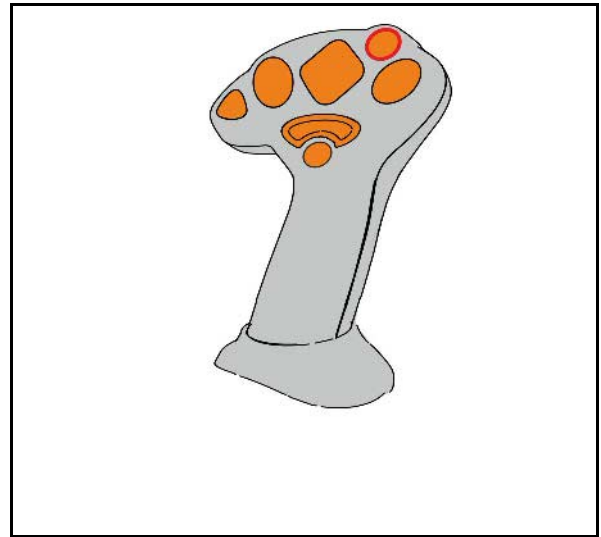


5.27 AmaPilot / AmaPilot+ マルチファンクションハンドル

AmaPilotとAmaPilot+により、機械のすべての機能を実行できます。

- キーの配置が固定されたAmaPilot
- AmaPilot+
はキーの割り当てを自由に選択できるAUX-N操作エレメントです（キーはAmaPilotと同様に事前に割り当て済み）

親指で押すことで 30 種類の機能を選択できます。ここでは 2 つの階層を切り替えられます。



6 スプレーヤーブームの構造と機能

スプレーヤーブームの状態と散布高さは、散布液の均一な分布に大きな影響を及ぼします。作物に対するスプレーヤーブームの散布高さを正しく設定すると、完全なオーバーラップが実現されます。ノズルは 50 cm 間隔でブームに取り付けられています。

Profi-folding :

ブームの操作は、操作端末を使って行います。

→ この理由から使用中は、トラクター制御装置 赤色を固定してください。

ISOBUS ソフトウェアの取扱説明書を参照してください！

Profi-foldingは以下の機能で構成されます。

- スプレーヤーブームの折り畳み・展開
- 油圧式の高さ調節
- 油圧式の傾き調節
- スプレーヤーブームの片側折り畳み・展開
- スプレーヤーブームのサイドアームの片側を個別に立てる・倒す (Profi-folding II のみ)

散布高さの調節



警告

スプレーヤーブームを上昇/下降させているときに、スタッフ引き込まれて衝撃を受けたり押しつぶされる危険。

高さ調節を使ってスプレーヤーブームを上昇/下降させる前に、機械の危険区域から離れるように周囲の人々に指示してください。



スプレーヤーブームは、つねに地面に対して平行になるようにしてください。そうして初めて、すべてのノズルが指定された散布高さになります。

折り畳み/展開



注意

走行中は、スプレーヤーブームの折り畳み/展開を行うことは禁止されています。



危険

スプレーヤーブームの折り畳み/展開は、つねに高架送電線から十分に離れた場所で行ってください。高架送電線と接触すると、致命傷を負う場合があります。



警告

横方向に回転する機械部品にスタッフが捕らえられ、体全体が衝撃を受けたり押しつぶされる危険。

この危険は、深刻な重傷や場合によっては致命傷の原因となる可能性があります。

トラクターのエンジンの作動中は、可動機械部品から十分に安全な距離を取って離れてください。

可動機械部品からスタッフ全員が十分に安全な距離を取って離れていることを確認してください。

部品を旋回させる前に、可動機械部品の旋回範囲から外に出るようにスタッフに指示してください。



警告

折り畳み/展開中に第三者がブームの旋回範囲に立っている場合、衝撃を受けたり、ブーム可動部品に捕らえられ、押しつぶされたり引き込まれたりする危険。

- ブームの折り畳み/展開を行う前に、ブームの旋回範囲から外に出るようにスタッフに指示してください。
- 誰かが旋回範囲内に立ち入ったら、ただちにブームの折り畳み/展開操作を中断してください。



ブーム折り畳み/展開用の油圧シリンダーは、ブームを折り畳んだ状態と広げた状態の両方で、各終端位置（走行位置と作業位置）を維持します。



スイング補正 (図 75/1) のロックは、操作端末に表示されます。

図 75/...

- (1) スイング補正ロック解除
- (2) スイング補正ロック

この図では見やすくするため、スイング補正から保護装置を取り外しています。

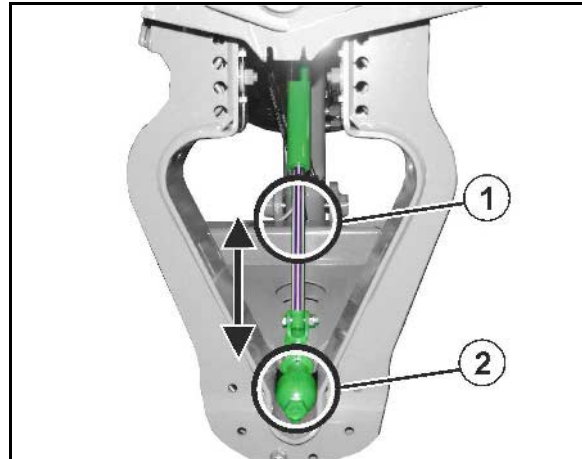


図 75

スイング補正のロック解除:



均一な横方向の分布は、スイング補正をロック解除した状態でのみ実現されます。

スプレーヤーブームを完全に展開した後、さらに 5 秒間操作レバーを操作したままにしてください。

- スイング補正 (図 75/1) がロック解除され、展開したスプレーヤーブームはブームフレームの反対側に自由に回転可能になります。

スイング補正をロックします:



- 道路を走行する場合！
- ブームの折り畳み/展開を行う場合！



トラクター制御装置による折り畳み・展開: スイング補正はサイドアームを折り畳む前に自動的にロックされます。

外側ブームのロック

外側サイドアーム安全装置は、外側サイドアームが硬い障害物に衝突した際に、ブームが損傷するのを防ぎます。安全装置は、関節軸により進行方向または逆方向に動いて、外側サイドアームの損傷を回避するものです。回避後は、自動的に作業位置に戻ります。

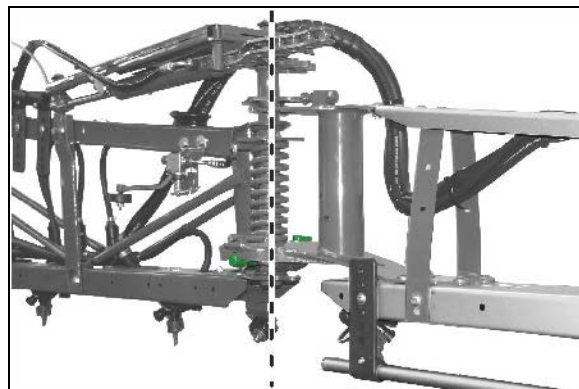


図 76

6.1 Super (スーパー) L ブーム

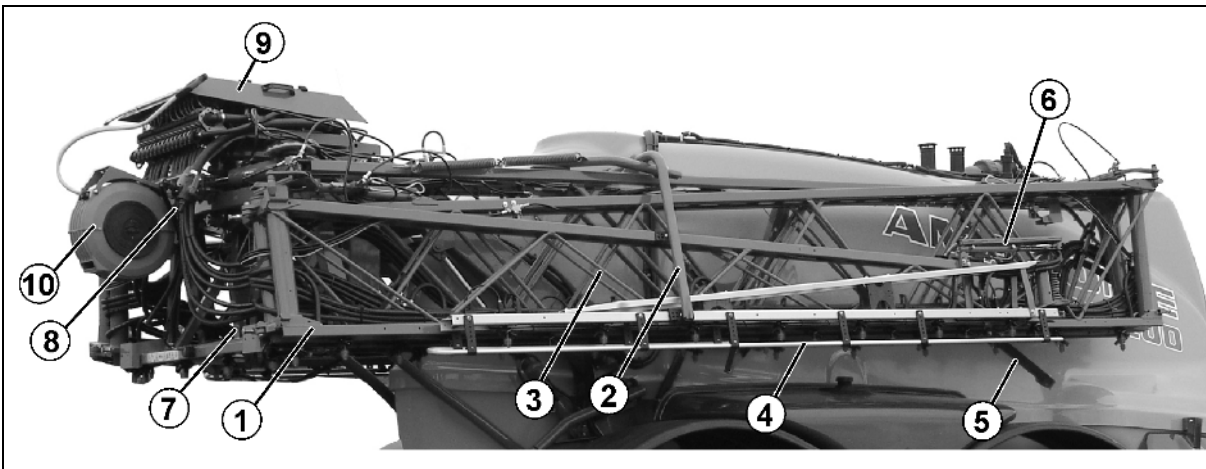


図 77

- | | |
|---|----------------------------------|
| (1) スプレーヤーブーム (散布ライン付き) | (4) ノズル保護チューブ |
| (2) 走行安全フレーム 走行安全フレームは、折り畳まれて走行位置にあるスプレーヤーブームが不意に展開するのを防止します。 | (5) スペーサー |
| (3) 平行四辺形フレーム (スプレーヤーブームの高さ調節用) | (6) 外側ブームのロック (121 ページのページを参照) |
| | (7) スイング補正 (120 ページのページを参照) |
| | (8) DUSシステム用の切り替え栓およびバルブ |
| | (9) ブーム装置 (図 78ページを参照) |
| | (10) 外部洗浄装置 |

図 78/...

- | |
|---------------------------------------|
| (1) 散布圧力計のための圧力接続部 |
| (2) 流量計 (散布量 [L/ha] を測定するため) |
| (3) 散布液タンク内に戻る散布液を検出するためのリターン流量計 |
| (4) モーターバルブ (ブームセクションの ON/OFF切り替え用) |
| (5) バイパスバルブ |
| (6) 圧力解放バルブ |
| (7) 圧力センサ |

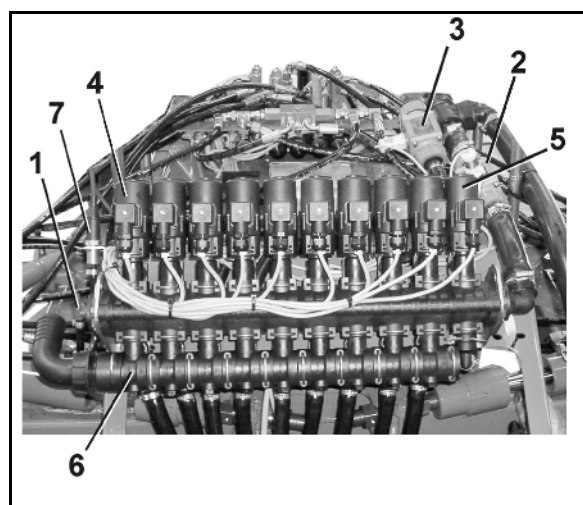


図 78

6.1.1 スペーサー

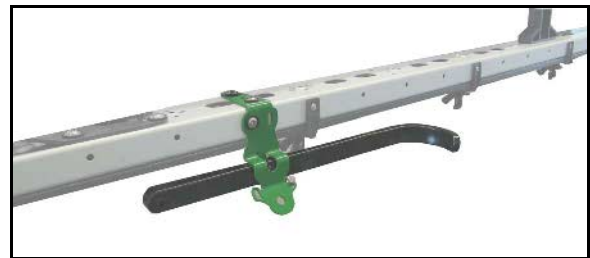
スペーサーは、ブームが地面に衝突するのを防ぎます。



いくつかノズルを使用する際には、スペーサーはスプレーコーンの中に設置されます。

この場合スペーサーは、水平にキャリアに固定します。

蝶ネジを使用します。



走行安全用留め具のロックおよびロック解除



警告

走行位置で折り畳まれたブームが走行中に不意に展開すると、人に対してつぶれや衝撃による危険が生じます。

輸送走行の前に、折り畳んだブームは走行位置において走行安全用留め具でロックしてください。

走行安全フレームは、折り畳まれて走行位置にあるスプレーヤーブームが不意に展開するのを防止します。

走行安全用留め具のロック解除

スプレーヤーブームを展開する前に走行安全フレームを上を旋回させ、スプレーヤーブーム (図 79/A) のロックを解除します。

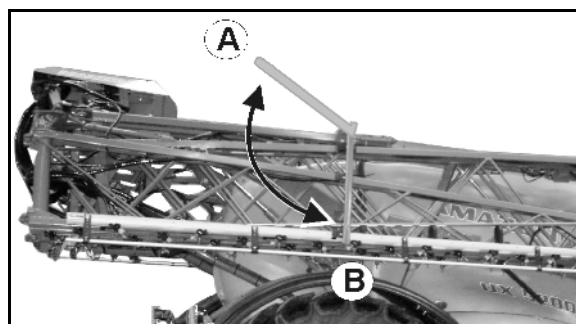


図 79

走行安全用留め具のロック

スプレーヤーブームを折り畳んだ後、走行安全フレームを下を旋回させ、スプレーヤーブームをロックします

(図 79/B)。

6.2 スプレーヤーブームを片側だけ広げた状態での作業



スプレーヤーブームを片側だけ広げた状態での作業は、次の場合のみ許可されます。

- スイング補正をロックした状態でのみ。
- 障害物（木、送電用鉄塔など）の脇を通るために一時的に。



- スプレーヤーブームを片側だけ折り畳むか展開する前に、スイング補正をロックします。

スイング補正をロックしていない場合には、スプレーヤーブームが片側に寄ってしまう場合があります。展開したサイドアームが地面に当たると、スプレーヤーブームは損傷する恐れがあります。

- スイング補正がロックされている状態での、スプレーヤーブームの揺れや地面との衝突を防ぐために、散布作業時には走行速度を十分に下げてください。スプレーヤーブームのガイドが不安定な場合、横方向の分布が均等にならない恐れがあります。

スプレーヤーブームは完全に展開しています！

1. スイング補正をロックしてください。
2. スプレーヤーブームを高さ調節機能によって真ん中の高さまで上昇させてください。
3. 希望するサイドアームを折り畳んでください。



警告

折り畳んだ後、サイドアームは前方の走行位置に旋回します！

→ 片側散布のための折り畳み・展開プロセスは早めに中断します！

4. 傾き調節により、スプレーヤーブームを目標面に対して平行にしてください。
5. スプレーヤーブームと地面の距離が 1 m 以上になるように、スプレーヤーブームの散布高さを設定してください。
6. 折り畳んだサイドアームのブームセクションを OFF にします。
7. 散布作業の際は、走行速度を十分に落としてください。

6.3 外側サイドアームの削減用ジョイント（オプション）

削減用ジョイントにより、作業幅を削減するために外側サイドアームの外側エレメントを手動で折りたたむことができます。

ケース 1:

外側ブームセクションの ノズル数	=	折りたたみ式外側エレメントの ノズル数
---------------------	---	------------------------

→ 作業幅を減らして散布する場合には、外側のブームセクションを OFF のままにします。

ケース 2:

外側ブームセクションの ノズル数	≠	折りたたみ式外側エレメントの ノズル数
---------------------	---	------------------------

→ 外側ノズルを手動で閉めます（トリプルノズルヘッド）。

→ 操作端末で変更を行います。

- 変更した作業幅を入力
- 外側ブームセクションの変更したノズル数を入力

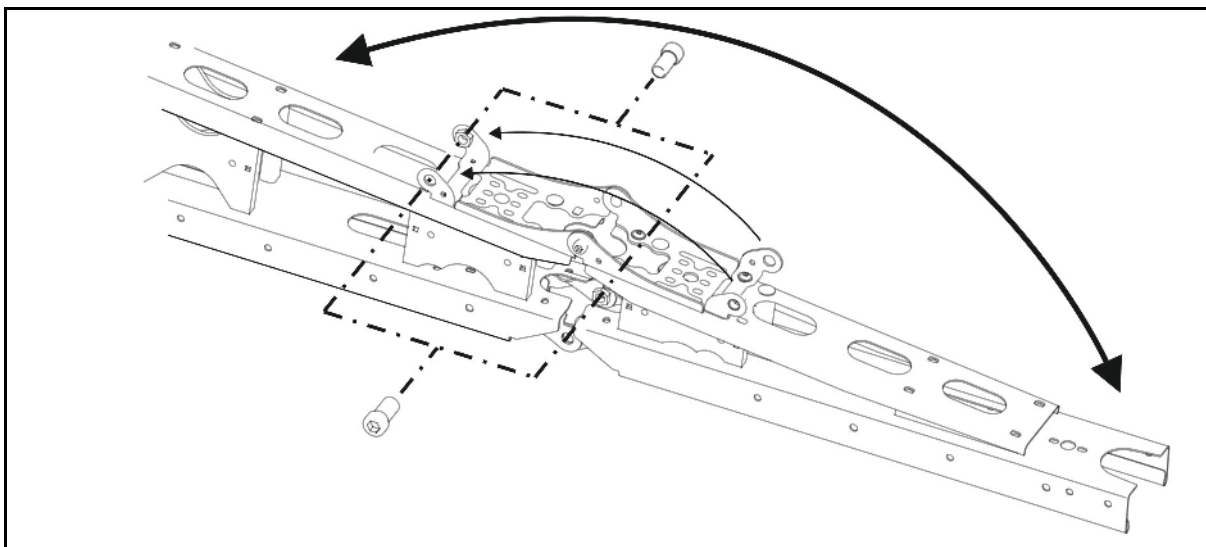


図 80

2本のねじは、折り畳んだり展開した外側エレメントを、それぞれ最終位置で固定します。



注意

ブームを折りたたんだ状態で移動用ロックが作用するように、輸送走行前に外側のエレメントを再び展開してください。

6.4 ブーム幅縮小 (オプション)

ブーム幅縮小により、仕様に応じて作業中に 1 つまたは 2 つのブームを折り畳んだままにすることが可能です。

さらに衝突ガードとして、油圧蓄圧器 (オプション) を ON にします。



該当するブームセクションを、操作端末で OFF にする必要があります。

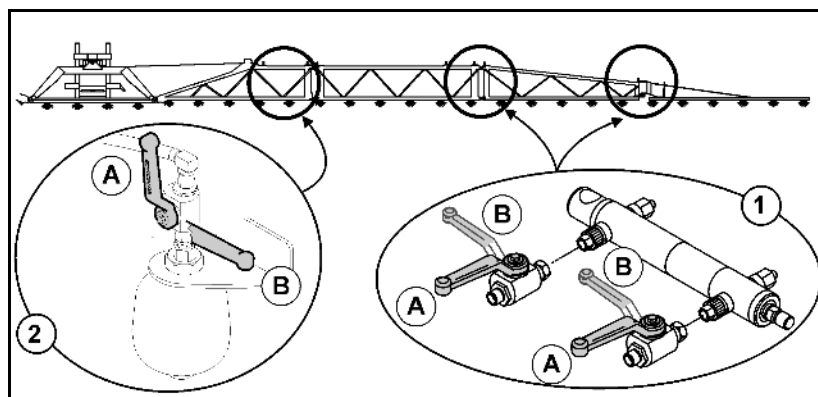


図 81

- (1) ブーム幅縮小
- (2) ブーム幅ダンパー
- (A) 停止栓 (開)
- (B) 停止栓 (閉)

縮小した作業幅での作業

1. 油圧でブーム幅を縮小します。
2. ブーム幅縮小のための停止栓を閉じます。
3. ブームダンパーの停止栓を開きます。
4. 該当するブームセクションを操作端末で OFF にします。
5. 縮小した作業幅で使用します。



ブームダンパーの停止栓を閉じます。

- 道路を走行する場合
- 作業幅全体を使用する場合



ディスタンスコントロール plus (プラス) を搭載した機械:

作業幅を削減する場合には、それぞれ外側のセンサーを180°回転させて取り付け、内側の接続を外します。

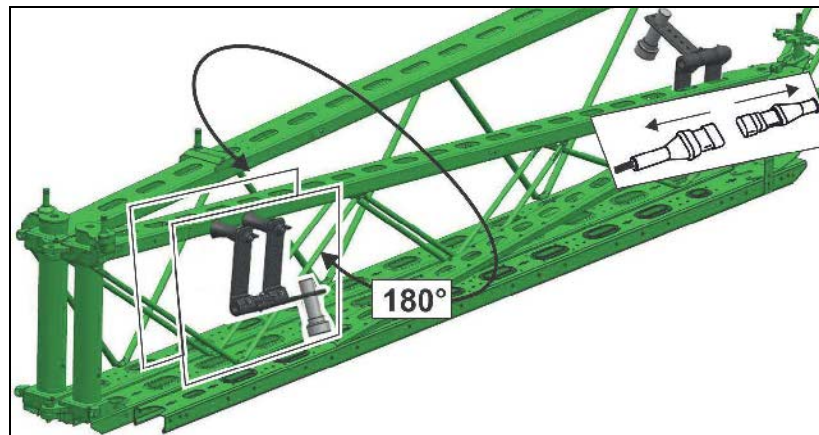


図 82

6.5 延長ブーム (オプション)

延長ブームにより、作業幅は無段階に最大1.20 m拡大されます。

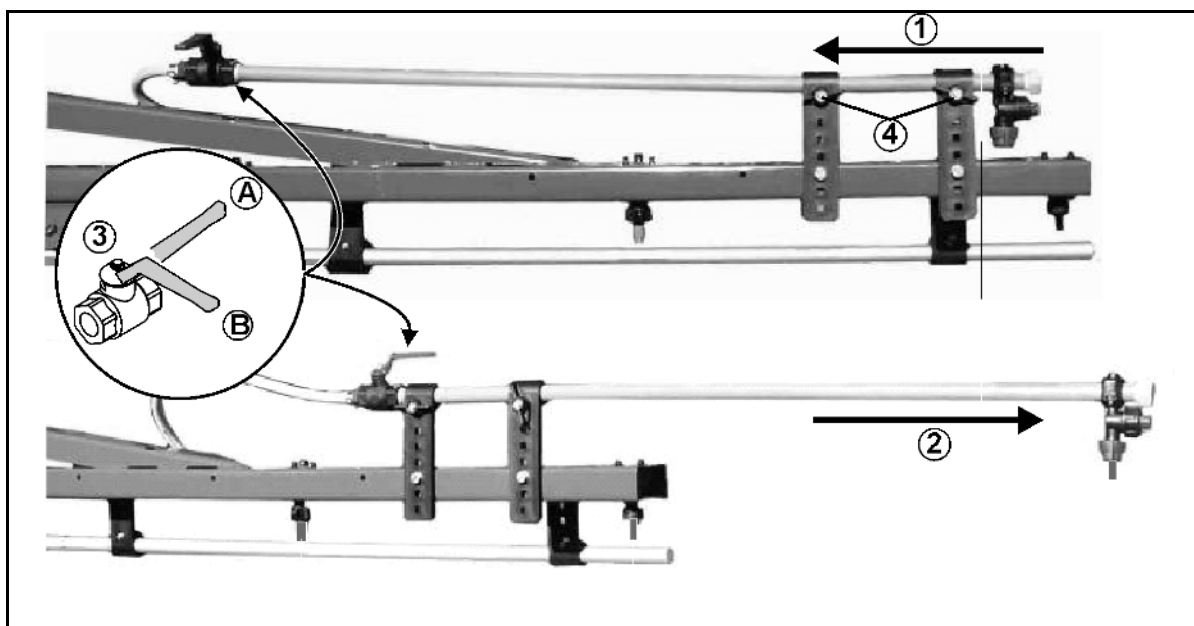


図 83

(1) 延長ブーム (走行位置)

(2) 延長ブーム (作業位置)

(3) 外側ノズルの停止栓

(A) 停止栓 (開)

(B) 停止栓 (閉)

- (4) 蝶ネジ (延長ブームを走行位置または作業位置に固定するため)

6.6 油圧式の傾き調節 (オプション)

地面の状態が好ましくない場合 (例: わだちの深さが異なる場合、または車両の片側だけ溝に落ちた状態で走行する場合など) は、油圧式の傾き調節を使って、スプレーヤーブームを地面または基準面に対して平行にすることができます。

操作端末による設定。



操作端末の取扱説明書を参照。

6.7 ディスタンスコントロール (オプション)

スプレーヤーブーム制御装置であるディスタンスコントロールは、スプレーヤーブームを希望の距離で地表と平行に維持します。

- 2個のセンサーを備えたディスタンスコントロール
- 4個のセンサーを備えたディスタンスコントロール plus (プラス)

超音波センサ (図 84/1) は、地面または作物までの距離を測定します。片側が希望の高さから逸脱すると、ディスタンスコントロールが傾き調節を行い、高さを調整します。両側で地表位置が高くなった場合は、高さ調節によってブーム全体が上昇します。

枕地でスプレーヤーブームをOFFにすると、自動的にスプレーヤーブームは約50 cm上昇します。再びONにすると、スプレーヤーブームは元の調整済みの高さに下がります。

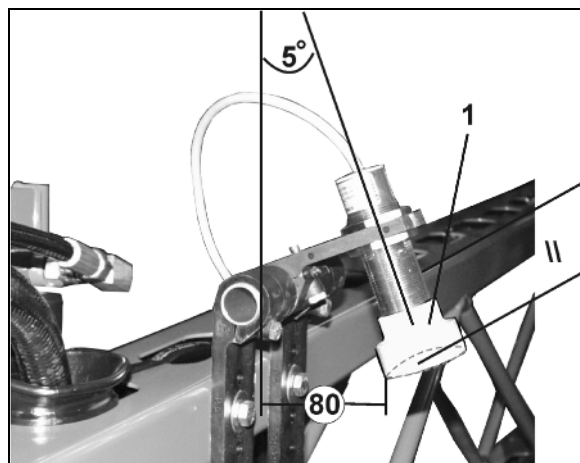


図 84

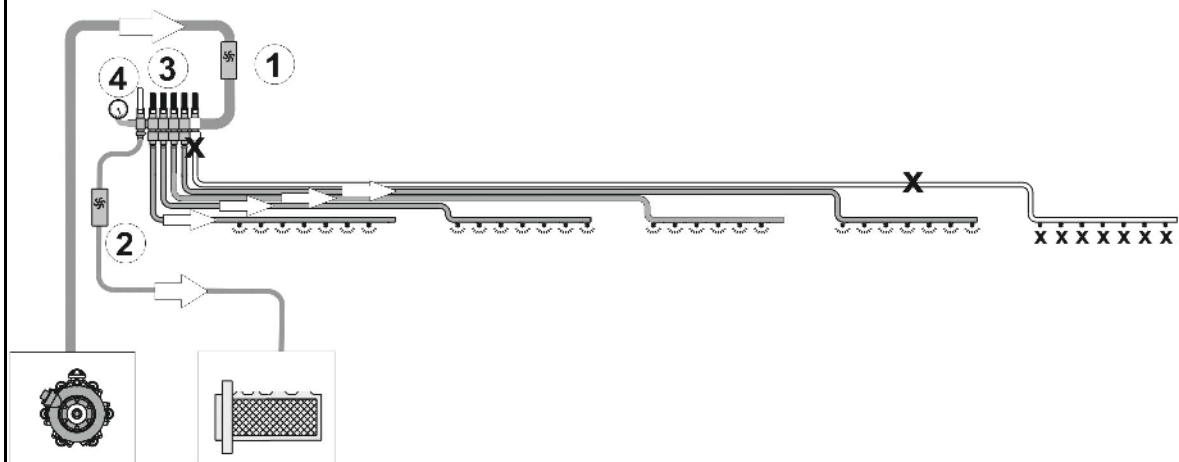


ソフトウェア ISOBUS
の取扱説明書を参照してください。

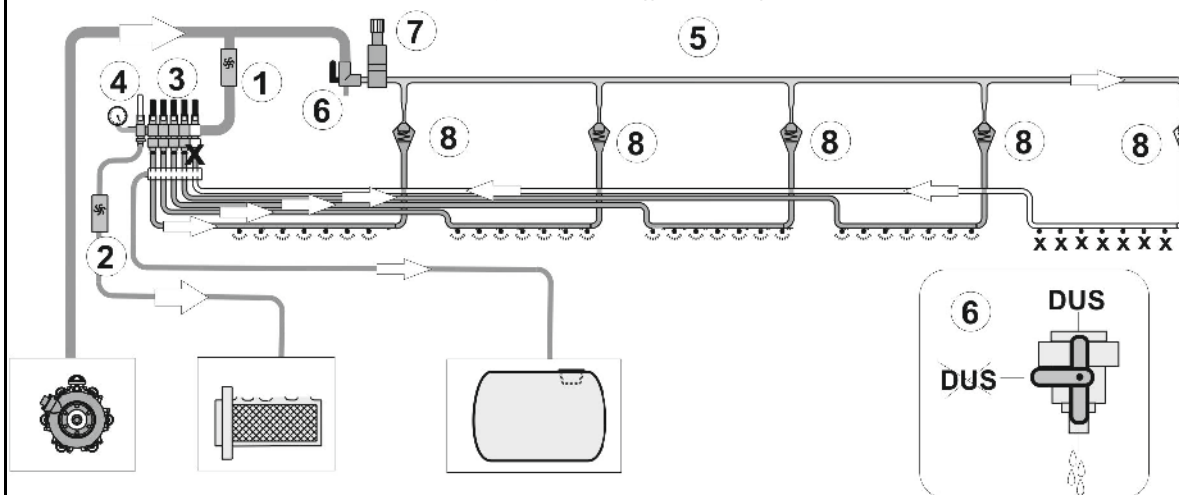
- 超音波センサの設定 :
→ 図 84 を参照してください。

6.8 散布ライン

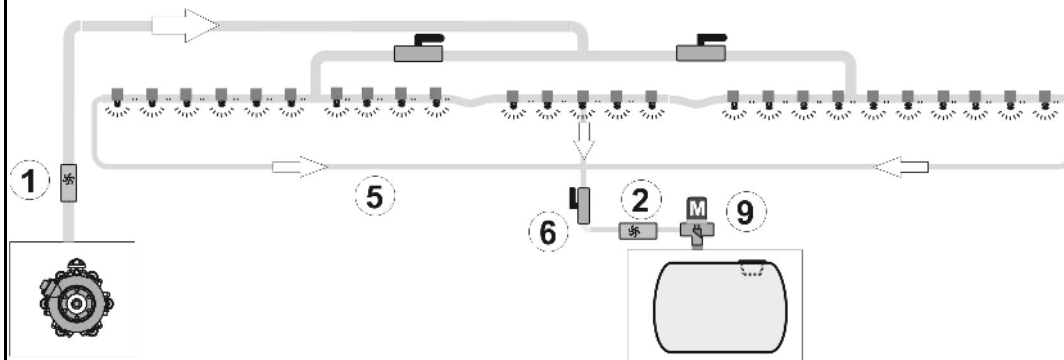
ブームセクションバルブを備える散布ライン



ブームセクションバルブと圧力循環システム DUS を備える散布ライン



個別ノズル切り替えと圧力循環システム DUS Pro を備える散布ライン



- | | |
|-----------------------|-------------|
| (1) 流量計 | (6) DUS 停止栓 |
| (2) リターン流量計 | (7) 圧力解放バルブ |
| (3) ブームセクションバルブ | (8) 逆止バルブ |
| (4) 散布量が少ない場合のバイパスバルブ | (9) 圧力解放バルブ |
| (5) 圧力循環ライン | |

圧力循環システム DUS



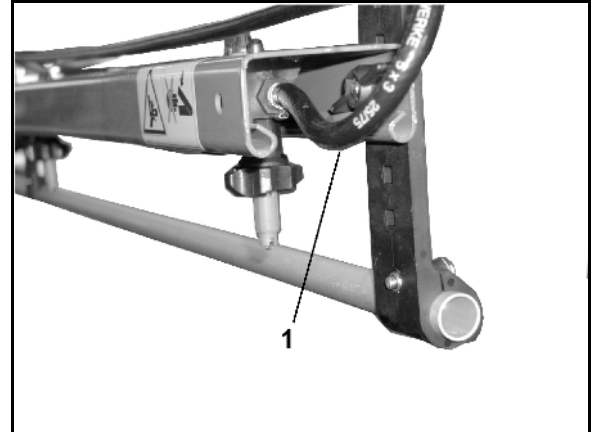
ブームセクションの切り替え：ドラッグホースを使用する場合は、一般的に圧力循環システムを OFF にします。

圧力循環システムは、

- 散布ラインにおけるコンスタントな液体循環を可能にします。
- 散布液または洗浄水を用いて作業できます。
- すべての散布ラインで未希釈の残留物を減少します。

液体のコンスタントな循環

- スプレーヤーブームを ON にした直後に、時間遅延なく散布液が全ての散布ノズルに達するので、最初から均一な散布パターンが可能になります。
- 散布ラインの損傷が防止されます。



6.8.1 シングルノズル

図 85/...

- (1) ノズル本体、差し込み接続（標準）。
- (2) ダイアフラム。散布ライン内の圧力が約 0.5 bar以下に下がると、スプリングエレメント（3）によってダイアフラムはノズル本体のダイアフラムシート（4）に押し付けられます。このため、スプレーヤーブームを OFFにし、ノズルが作動しなくなっても、その後で液体が漏れ出すことはありません。
- (3) スプリングエレメント。
- (4) ダイアフラムシート。
- (5) スライダー。ノズル本体内にダイアフラムバルブ全体を保持します。
- (6) ノズルフィルタ（標準では 50メッシュ / インチ）は下からノズル本体に取り付けられます。「ノズルフィルタ」の章を参照してください。
- (7) ゴム製シール。
- (8) ノズル;
- (9) 差し込み接続。
- (10) 差し込み口金（色付き）。
- (11) スプリングエレメントハウジング。

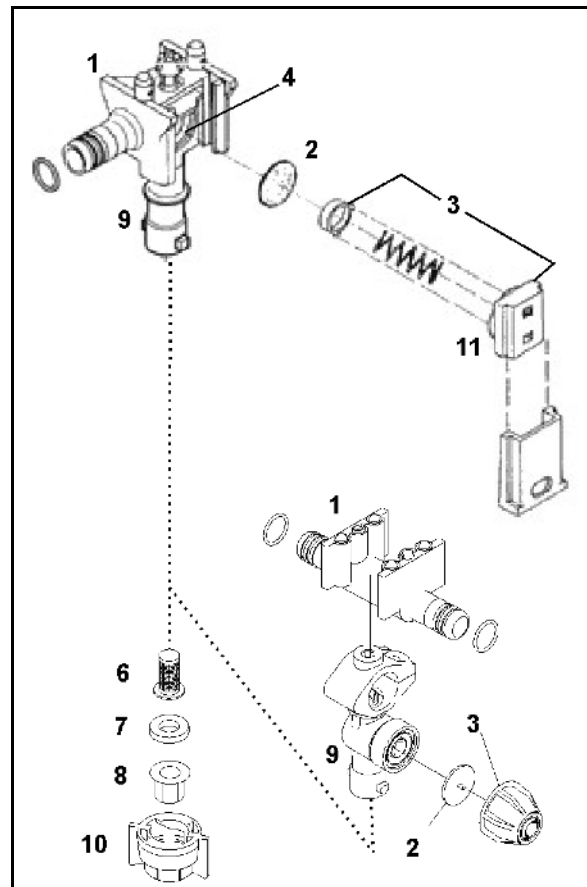


図 85

6.8.2 マルチノズル (オプション)

様々なノズルタイプを使用したい場合は、マルチノズルヘッド (図 86) を用いると便利です。いずれの場合も、垂直な位置にあるノズルに液体が供給されます。

マルチノズルヘッド (図 86/1) を反時計回りに回すと、他のノズルを使用できます。

中間位置にすると、マルチノズルヘッドは OFF になります。これにより、ブームの作業幅を縮小することができます。



マルチノズルヘッドを他のタイプのノズルに切り替える場合は、その前に散布ラインを洗浄してください。

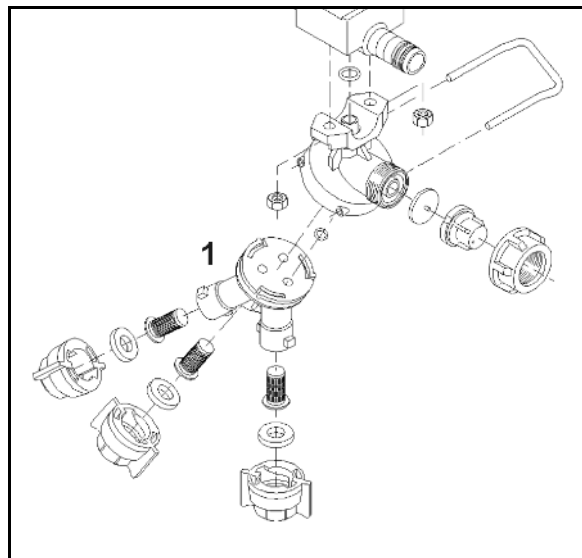


図 86

- (1) ノズルキャリア。
- (2) トリプルノズルヘッド。
- (3) ダイアフラム。ノズルライン内の圧力が約 0.5 bar 以下に下がると、スプリングエレメント (4) によってダイアフラムは3方向ノズルキャリアのダイアフラムシート (5) に押し付けられます。このため、スプレーヤーブームをOFFにし、ノズルが作動しなくなっても、その後で液体が漏れ出すことはありません。
- (4) スプリングエレメント。
- (5) ダイアフラムシート。
- (6) スリーブナット。3方向ノズルキャリア内にダイアフラムバルブ全体を保持します。
- (7) ノズルフィルタ。50メッシュ/インチの機械には標準装備されます。
- (8) ゴム製シール。
- (9) 差し込み口金
- (10) Oリング。

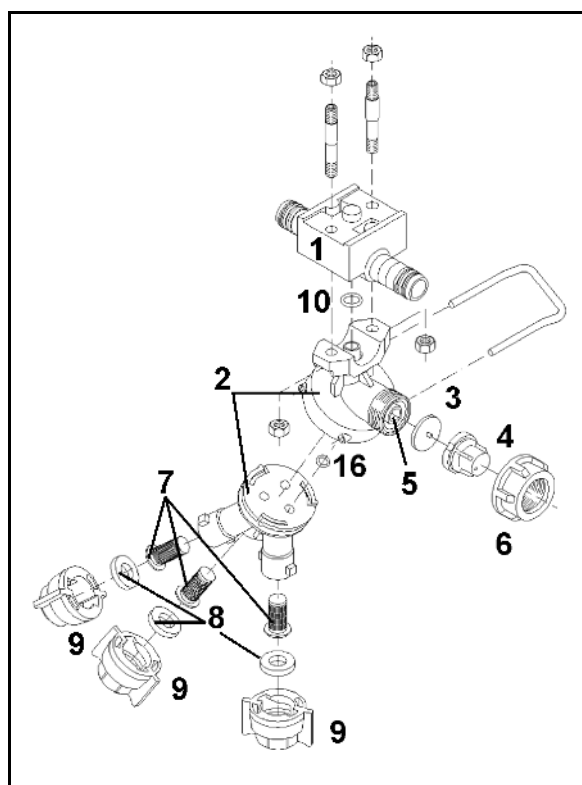


図 87

6.8.3 限界ノズル、電動または手動

限界ノズルの切り替えにより、最後のノズルを OFF にし、そこから 25 cm 外側（圃場境界線の位置）の境界ノズルを電動で ON にできます。

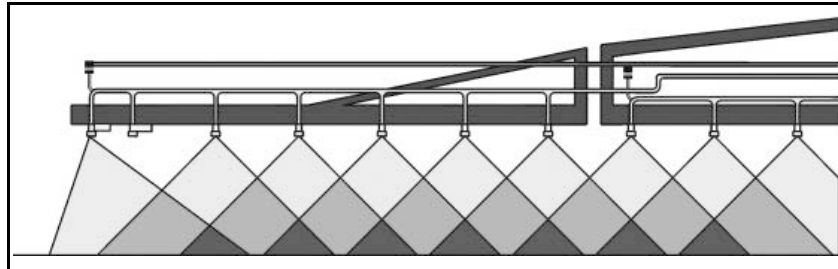


図 88

6.8.4 電動末端ノズル切り替え（オプション）

エンドノズルの切り替えにより、水源に近い圃場境界線において、トラクターから電動で最大 3 個の外側ノズルを OFF にできます。

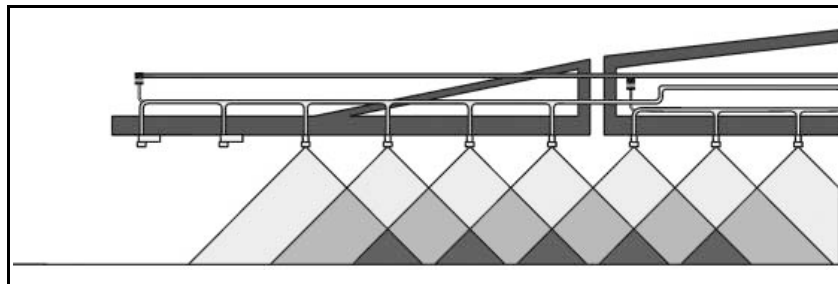


図 89

6.8.5 電動追加ノズル切り替え（オプション）

追加ノズルの切り替えを使用すると、もう1つの外側のノズルが ON になり、作業幅が 1 m 拡大します。

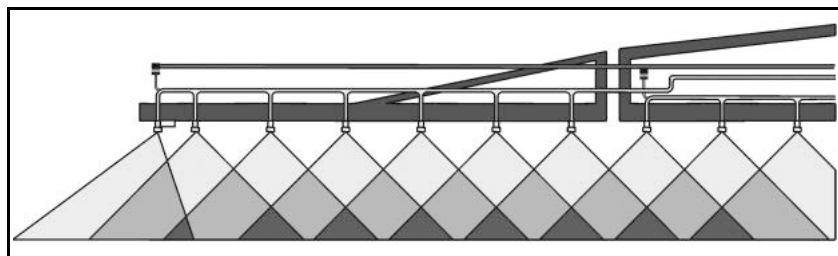


図 90

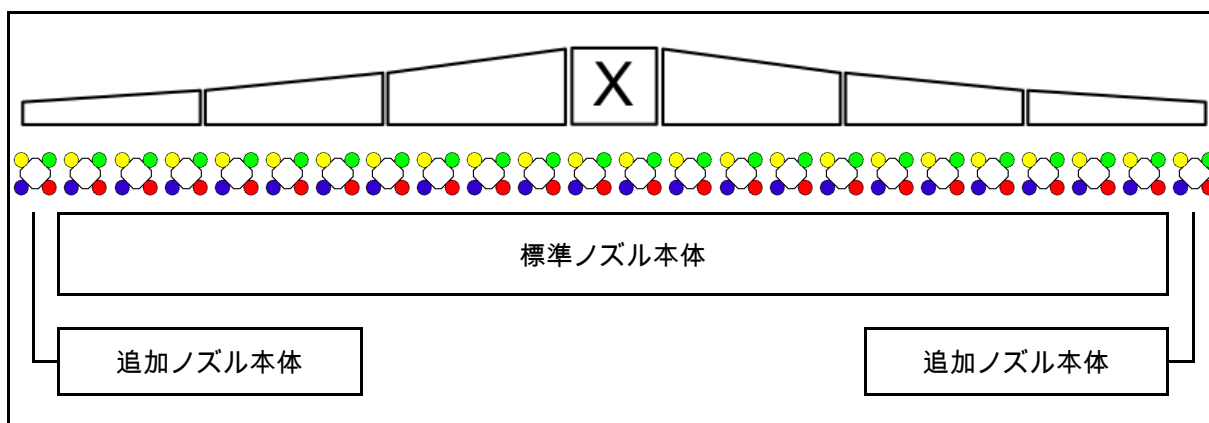
6.9 自動の個別ノズル切り替え (オプション)

電動個別ノズル切り替えにより、50 cmのブームセクションを個々に切り替えることが可能です。セクションコントロールの自動ブームセクション切り替えとの組み合わせにより、重複を最少範囲に抑えることができます。

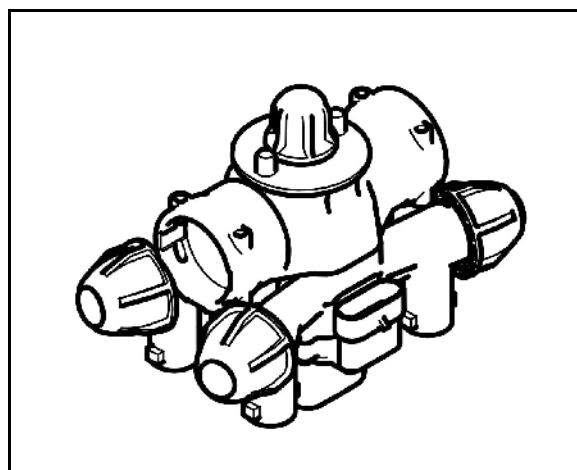
6.9.1 個別ノズル切り替え AmaSwitch

Section Controlを介して、各ノズルを個別にオン / オフにすることができます。

6.9.2 4つの個別ノズル切り替え AmaSwitch

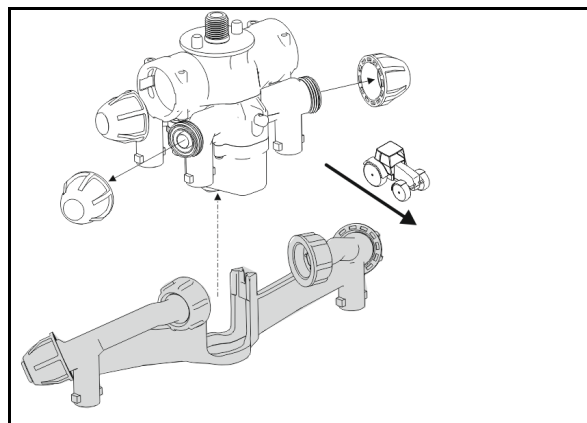


- スプレーヤーブームには4つのノズルが付いたノズル本体が備わっています。各ノズル本体はそれぞれ一個の電気モーターで作動します。
- ノズルは任意にOFF / ONにすることができます (Section Controlに応じて異なる)。
- ノズル本体にノズルが4つ備わっていることにより、1つのノズル本体内で複数のノズルを同時にアクティブにできます。
- ノズルは手動で選択することも可能です。
- 縁エリアでの作業用に、追加ノズルを個別に設定できます。
- ノズル本体内に、LED個別ノズル照明が内蔵されています。



スプレーヤーブームの構造と機能

- 25 cm のノズル間隔が可能です
組み立ての際には、機械側の前方に向けた
両排出口が、組み立てに用いられる点に注
意します。

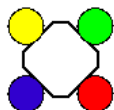


手動でのノズル選択:

ノズルまたはノズルの組み合わせの選択は、操
作端末で行えます。

自動ノズル選択:

ノズルまたはノズルの組み合わせは、入力した
縁エリアの条件に応じて、散布中に自動的に選
択されます。



AmaSelect ノズルハウジング用の記号。

矢印は走行方向を表します。

→ これはノズル本体でのノズルの装着に重要です!

6.10 液体肥料についての特別オプション装備

現在、主に 2 種類のタイプの液体肥料が用意されています。

- 硝酸アンモニウム/尿素溶液 (AUS) (AUS 100 kgあたり28 kgのN)。
- NP溶液10-34-0 (NP溶液100 kgあたり10 kgのNと34 kgの P_2O_5)。



フラットファンノズルを使って液体肥料を散布する場合は、散布表に記載されている該当する散布量の数値 (L/ha) に、AUSの場合は0.88を、NP溶液の場合は0.85を乗じてください (記載されている散布量 (L/ha) は水にのみ適用されます)。

原則として、

植物の肥料焼けを防ぐため、液体肥料を散布するときは粗い液滴にしてください。大きすぎる液滴は葉から滑り落ちてしまい、小さすぎる液滴はレンズの役割を果たして葉焼けの原因となります。肥料が多すぎると、肥料に含まれる塩分濃度によって葉焼けを起こすことがあります。

原則として、例えば 40 kg の窒素を越す液体肥料は散布しないでください (「液体肥料散布換算表」も参照)。穂の肥料焼けは特に悪影響を及ぼすので、開発段階 (EC-39) にあるノズルベースでの AUS の施肥はおやめください。

6.10.1 3線ノズル (オプション)

植物の葉よりも根に向けて液体肥料を散布したい場合は、3線ノズルを使用すると効果的です。

3つの開口部を備えた投与口がノズルに組み込まれているため、液滴の粗い、ほとんど圧力がかからない状態での液体肥料の散布が可能になります。これにより、好ましくない散布ミストや、細かい液滴の形成が防止されます。3線ノズルが生み出す粗い液滴は、植物にぶつかる際の衝撃が小さく、植物の表面から滑り落ちます。これにより、焼けを可能な限り防ぐことができます。ただし、遅い追肥には3線ノズルは使用せず、ドラッグホースを使用してください。

以下に列举されたすべての3線ノズルについては、黒色の差し込みナットだけを使用してください。

各種3線ノズルと散布量 (8 km/h時)

- | | |
|------|---------------------|
| • 黄色 | 50 ~ 80l AUS / ha |
| • 赤色 | 80 ~ 126l AHL / ha |
| • 青色 | 115 ~ 180l AUS / ha |
| • 白色 | 155 ~ 267l AUS / ha |

6.10.2 散布ライン用ラインフィルタ (オプション)

ラインフィルター (図 91/1) は、

- ブームセクションごとに散布ラインに取り付けられます。
- 散布ノズルの汚れを防ぐための、さらなる対策となります。

フィルタインサートの概要

- 50メッシュ/インチのフィルタインサート (青色)
- 80メッシュ/インチのフィルタインサート (灰色)
- 100メッシュ/インチのフィルタインサート (赤色)

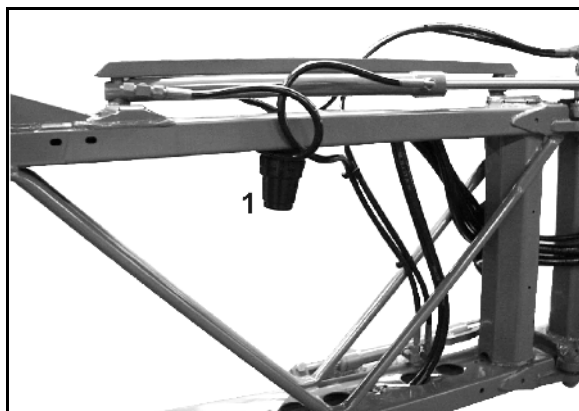


図 91

6.10.3 7 穴ノズル / FD ノズル (オプション)

7 穴ノズル / FD ノズルの場合にも、3 線ノズルと同じ使用条件が当てはまります。3 線ノズルとは異なり、7 穴ノズル / FD ノズルの場合は、出口が下向きではなく、横向きとなっています。そのため、わずかな衝撃しか与えずに、植物上に非常に大きな液滴を作り出すことが可能です。

図 92: → 7 穴ノズル

図 93: → FD ノズル



図 92



図 93

以下の 7 穴ノズルが用意されています。

- SJ7-02-CE 74 ~ 120 l AUS (8 km/h の場合)
- SJ7-03-CE 110 ~ 180 L AUS
- SJ7-04-CE 148 ~ 240 L AUS
- SJ7-05-CE 184 ~ 300 L AUS
- SJ7-06-CE 222 ~ 411 L AUS
- SJ7-08-CE 295 ~ 480 L AUS

以下の FD ノズルが用意されています。

- FD 04 150 ~ 240 l AUS/ha (8 km/h の場合)
- FD 05 190 ~ 300 L AUS / ha
- FD 06 230 ~ 360 L AUS / ha
- FD 08 300 ~ 480 L AUS / ha
- FD 10 370 ~ 600 L AUS / ha*

6.11 発泡マーカース (オプション)

発泡マーカースは任意の場所に後付け可能です。

マーキングは泡を使って行います。泡は調整可能な間隔 (約10～15 m) で置かれ、はっきり視認可能な誘導ラインとなります。泡は一定時間経過後に消え、あとに残留物は一切残りません。

泡の個別噴射の間隔の設定は、以下のように溝付きねじを使って行います。

- 時計回りに回すと - 距離が拡大します。
- 反時計回りに回すと - 距離が縮小します。

図 94/...

- (1) 散布剤タンク
- (2) 溝付きネジ
- (3) コンプレッサ

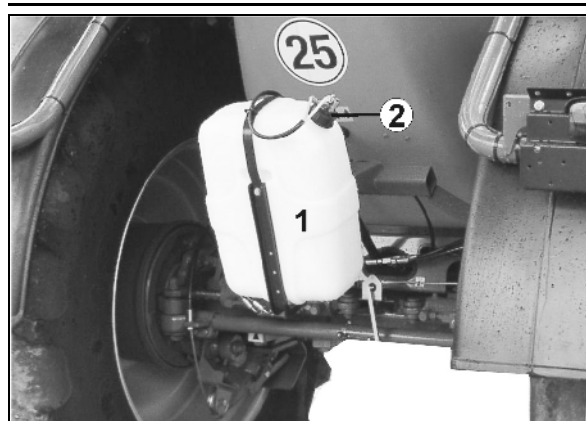


図 94

図 95/...

- (1) 空気/液体アジテーター
- (2) 樹脂製フレキシブルノズル



ソフトウェア ISOBUS の取扱説明書を参照してください。

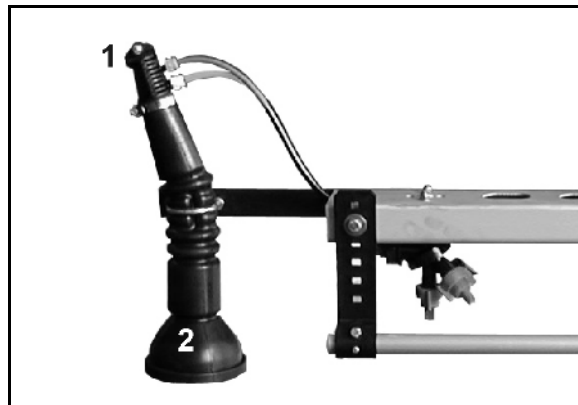


図 95

6.12 リフティングモジュール (オプション)

リフティングモジュールを使用することで、スプレーヤーブームをさらに70 cm上昇させ、3.20 mのノズル高さまで持ち上げることができます。

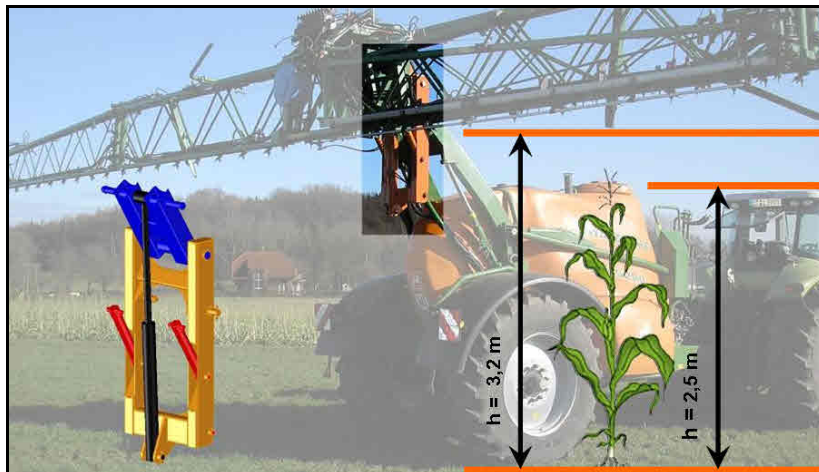


図 96

リフティングモジュールの操作は、黄色いトラクターコントローラーで行います。



危険

事故の危険と機械損傷の危険

- 道路走行時は、リフティングモジュールでスプレーヤーブームを上昇させてはなりません。
- 機械とリフティングモジュールの総高度は、4 mを大きく超える場合があります。
- リフティングモジュールは、スプレーヤーブームを展開させている場合以外は使用しないでください。
- スプレーヤーブームを収納する前に、リフティングモジュールを再度降下させます。そうでない場合、スプレーヤーブームを輸送位置にしまうことができません。
- リフティングモジュールは必ずストップ位置まで上昇または降下させてください!

7 運転開始

この章には、次の情報が含まれます。

- 機械の初期設定についての情報
- 機械をご使用のトラクターに取り付け可能かどうか/トラクターで牽引可能かどうかを調べる方法



- 機械を初めて作動させる前に、オペレーターは本取扱説明書をよく読み、理解する必要があります。
- 以下の場合は、「ユーザーのための安全上の注意事項」の章（33 ページ以降）の内容を守ってください。
 - 機械の連結と連結解除
 - 機械の輸送
 - 機械の使用
- 機械の連結と輸送には、必ず適切なトラクターを使用してください。
- トラクターと機械は、各国の道路交通規則に適合している必要があります。
- 道路交通法を守ることは、オペレーターとユーザーの責任となります。



警告

油圧式または電動式可動部品のエリアで、つぶれ、変形、切断、引き込まれ、および挟まれの危険があります。

折り畳んだり、旋回させたり、押したりするなどの、構成部品の油圧または電気による動作を直接操作するためのトラクターの操作部をブロックしてはいけません。対応する操作部を離すと、それぞれの動作が自動的に停止します。これは以下のような装置の動作には当てはまりません。

- 継続して行われる動作
- 自動制御される動作
- 機能に応じてフロート位置または圧力位置を要求

7.1 トラクターの適正を確認



警告

トラクターの不適切な使用のため、運転時の損傷、不十分な安定性、不十分なトラクターの操舵力と制動力による危険があります。

- 機械をトラクターに取り付けるか連結する前に、トラクターの適正を確認してください。

機械は、適切なトラクターのみで取り付けまたは牽引することができます。

- 機械を取り付けまたは牽引している状態でもトラクターが必要な制動減速度を得られるかどうか確認するために、ブレーキテストを実行してください。

トラクターの適正要件には、特に次のものがあります。

- 許容総重量
- 許容軸荷重
- トラクターの連結点における支持荷重
- 取り付けたタイヤの許容負荷
- 許容牽引負荷が十分な値であること

これらの情報はトラクターの銘板、車両証、そして取扱説明書を参照してください。

トラクターの前輪軸には、トラクターの自重の 20 % 以上が常にかかっていなければなりません。

機械を取り付けまたは牽引している状態でも、トラクターはトラクターのメーカーが指定した制動減速度を得られなければなりません。

7.1.1 トラクターの総重量、軸荷重、タイヤの許容負荷、必要な最小バラスト値の実際の値の計算



車両証に記載されているトラクターの許容総重量は、以下の値の合計よりも大きくなければなりません。

- トラクター自重
- バラスト重量
- 取り付けた機械の総重量または牽引する機械の支持荷重



この注記はドイツ国内のみを対象とします。

軸荷重および/または許容総重量を、可能なあらゆる方法を駆使しても守れない場合には、公的な専門家の車両走行についての鑑定をベースに、トラクターのメーカーの同意の下、国の法律に基づく管轄官庁は、§ 70 StVZOに基づく例外許可ならびに§ 29 3 項 StVOに基づく必要な許可を出すことができます。

7.1.1.1 計算に必要なデータ

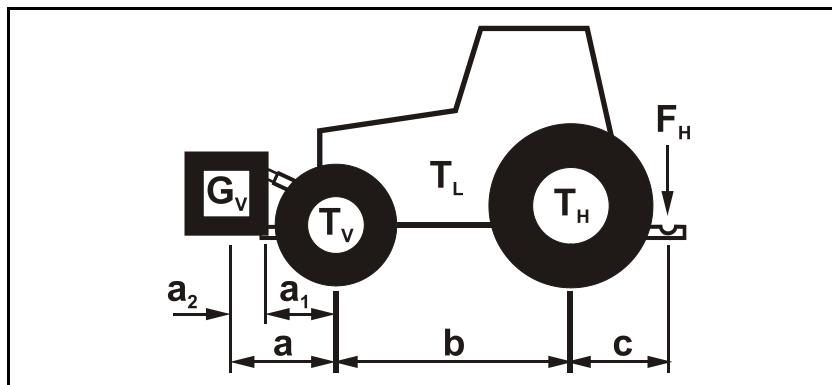


図 97

T_L	[kg]	トラクター自重	トラクターの取扱説明書または車両証を参照
T_V	[kg]	トラクターの自重の前輪軸負荷	
T_H	[kg]	トラクターの自重の後輪軸負荷	
G_V	[kg]	フロントバラスト (ある場合)	フロントバラストの主要諸元を参照するか、計量する
F_H	[kg]	最大支持荷重	機械の主要諸元を参照
a	[m]	フロント側に取り付けた機械またはフロントバラストの重心から、前輪軸の中心までの距離 (合計 $a_1 + a_2$)	トラクターおよびフロント側に取り付けた機械またはフロントバラストあるいは寸法の主要諸元を参照
a_1	[m]	前輪軸の中心とリフトアーム接続部の中心の距離	トラクターの取扱説明書または寸法を参照
a_2	[m]	リフトアーム接続点の中心と、トラクターの前に取り付けた機械またはフロントバラストの重心の距離 (重心距離)	フロント側に取り付けた機械またはフロントバラスト、あるいは寸法の主要諸元を参照
b	[m]	トラクターの軸距	トラクターの取扱説明書または車両証、あるいは寸法を参照
c	[m]	後輪軸中心とリフトアーム接続部中心の距離	トラクターの取扱説明書または車両証、あるいは寸法を参照

7.1.1.2 操舵力を確保するために、トラクターに必要なフロント側最小バラスト値 $G_{V \min}$ の計算

$$G_{V \min} = \frac{F_H \cdot c - T_V \cdot b + 0,2 \cdot T_L \cdot b}{a + b}$$

トラクターのフロント側で必要となる、最小バラスト値 $G_{V \min}$ の計算した値を表 (7.1.1.7 章) に記入してください。

7.1.1.3 トラクターの実際の前輪軸荷重 $T_{V \text{tat}}$ の計算

$$T_{V \text{tat}} = \frac{G_V \cdot (a + b) + T_V \cdot b - F_H \cdot c}{b}$$

計算した実際の前輪軸荷重の数値と、トラクターの取扱説明書に記載されているトラクター許容前輪軸荷重を、表 (7.1.1.7 章) に記入してください。

7.1.1.4 トラクターと機械の組み合わせの実際総重量を計算

$$G_{\text{tat}} = G_V + T_L + F_H$$

計算した実際の総重量の数値と、トラクターの取扱説明書に記載されているトラクター許容総重量を、表 (7.1.1.7 章) に記入してください。

7.1.1.5 トラクターの実際の後輪軸荷重 $T_{H \text{tat}}$ を計算

$$T_{H \text{tat}} = G_{\text{tat}} - T_{V \text{tat}}$$

計算した実際の後輪軸荷重の数値と、トラクターの取扱説明書に記載されているトラクター許容後輪軸荷重を、表 (7.1.1.7 章) に記入してください。

7.1.1.6 タイヤの許容負荷

以下の表 (7.1.1.7 章) に、許容タイヤ負荷 (タイヤメーカーの文書などを参照) の 2 倍の値 (タイヤ 2 本) を記入してください。

7.1.1.7 表

	計算に基づく実際の値	トラクターの取扱説明書による許容値	許容タイヤ負荷の 2 倍 (タイヤ 2 本)
最小バラスト値 フロント側 / リア側	/ kg	--	--
総重量	kg	≤ kg	--
前輪軸荷重	kg	≤ kg	≤ kg
後輪軸荷重	kg	≤ kg	≤ kg



- トラクターの総重量、軸荷重およびタイヤ負荷の許容値を、トラクターの車両証から読み取ってください。
- 実際に算出した値は、この許容値以下でなければなりません (≤)。



警告

不安定であることによる、さらにトラクターの操舵力と制動力が不十分であることによる、つぶれ、切断、閉じ込め、引き込まれ、および衝撃の危険があります！

次の場合には、算出の基礎となったトラクターに機械を連結することはできません。

- 実際に算出した各値のうち、いずれか 1 つでも許容値を超過している場合。
- フロント側に必要な最小バラスト値 ($G_{V\min}$) を得るためのフロントバラスト (必要な場合) を、トラクターに固定していない場合。



- 少なくともフロント側の必要最小バラスト値 ($G_{V\min}$) になるように、フロントバラストを使用しなければなりません！

7.1.2 機械を牽引したトラクターを運転するための前提条件



警告

連結装置を不適切に組み合わせることにより、コンポーネント運転時に破損する危険があります！

- 次のことに注意してください。
 - トラクターの連結装置が、実際の支持荷重に対して十分な許容支持荷重を有していなければなりません。
 - 支持荷重によって変化したトラクターの軸負荷と重量が、許容範囲内でなければなりません。疑わしい場合には計量してください。
 - 静止状態でのトラクターの実際の後輪軸負荷が許容後輪軸負荷を超過してはいけません。
 - トラクターの許容総重量を遵守しなければなりません。
 - トラクターのタイヤの許容負荷を超過してはいけません。

7.1.2.1 連結装置の組み合わせ可能性

表は、トラクターおよび機械と連結装置の、認可された組み合わせ可能性を示しています。

トラクター	連結装置	
	AMAZONE 社の機械	
上部アタッチメント		
ピンカップリング A、B、C 型 A 非自動 (ISO 6489-2) B 自動 滑らかなピン C 自動 球形ピン	ルネットアイ	ブシュ $\varnothing$ 40 mm (ISO 5692-2)
	ルネットアイ	$\varnothing$ 40 mm (ISO 8755)
	ルネットアイ	$\varnothing$ 50 mm、A 型とのみ互換性あり (ISO 1102)
上部 / 下部アタッチメント		
ボールヘッドカップリング $\varnothing$ 80 mm (ISO 24347)	牽引ボール	$\varnothing$ 80 mm (ISO 24347)
下部アタッチメント		
カップリングフック / ヒッチフック (ISO 6489-19)	ルネットアイ	中央穴 $\varnothing$ 50 mm (ISO 5692-1) フック $\varnothing$ 30 mm
	回転式ルネットアイ	Y 型とのみ互換性あり、ボア $\varnothing$ 50 mm (ISO 5692-3)
	ルネットアイ	中央穴 $\varnothing$ 50 mm (ISO 20019) アイ $\varnothing$ 30-41 mm
牽引バー - カテゴリー 2 (ISO 6489-3)	ルネットアイ	中央穴 $\varnothing$ 50 mm (ISO 5692-1) アイ $\varnothing$ 30 mm
		ブシュ $\varnothing$ 40 mm (ISO 5692-2)
		$\varnothing$ 40 mm (ISO 8755)
		$\varnothing$ 50 mm (ISO 1102)
牽引バー (ISO 6489-3)		(ISO 21244)
牽引バー / Piton-fix (ISO 6489-4)	ルネットアイ	中央穴 $\varnothing$ 50 mm (ISO 5692-1) アイ $\varnothing$ 30 mm
	回転式ルネットアイ	Y 型とのみ互換性あり、ボア $\varnothing$ 50 mm (ISO 5692-3)
非回転式の直線型牽引バー (ISO 6489-5)	回転式ルネットアイ	(ISO 5692-3)
リフトアームアタッチメント (ISO 730)	リフトアームトラバース (ISO 730)	

7.1.2.2 許容 D_c 値を実際の D_c 値と比較



警告

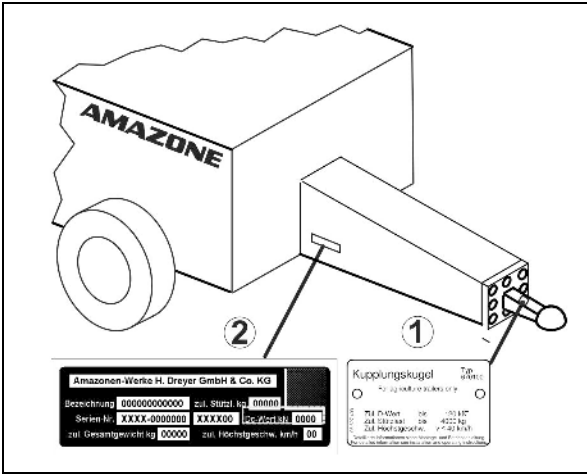
トラクターの不適切な使用のため、トラクターと機械の間の連結装置が破損する危険があります！

1. トラクターと機械の組み合わせの、実際の D_c 値を計算してください。
2. 実際の D_c 値を、以下の許容 D_c 値と比較してください。
 - 機械の連結装置
 - 機械の牽引バー
 - トラクターの連結装置

該当する組み合わせ用に計算した、実際の D_c 値は、指定された D_c 値以下 ($\leq$) でなければなりません。

機械の許容 D_c 値は、連結装置 (1) および牽引バー (2) の銘板に記されています。

トラクター連結装置の許容 D_c 値は、連結装置自体 / トラクター取扱説明書に記載されています。



該当する組み合わせ用に計算した
実際の D_c 値

指定された D_c 値

$\leq$ $\leq$ $\leq$	トラクターの連結装置	kN
	機械の連結装置	kN
	機械の牽引バー	kN

連結する組み合わせの実際の D_C 値を計算

連結する組み合わせの実際の D_C 値は次のように計算します:

$$D_C = g \times \frac{T \times C}{T + C}$$

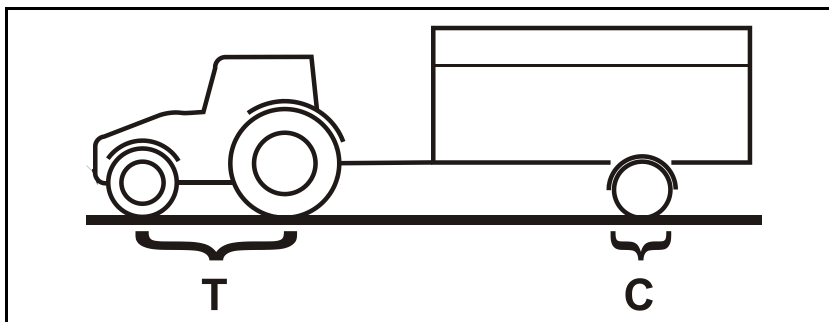


図 98

T: トラクターの許容総重量 [t] (トラクターの取扱説明書または車両証を参照)

C: 許容質量 (積載重量) による負荷がかかる機械の軸負荷 [t]、支持荷重なし

g: 重力加速度 (9.81 m/s²)

7.1.3 専用のブレーキシステムがない機械



警告

トラクターの制動力が不十分であることによる、つぶれ、切断、閉じ込め、引き込まれ、および衝撃の危険があります!

機械を牽引している状態でも、トラクターはトラクターのメーカーが指定した制動減速度を得られなければなりません。

機械に専用のブレーキシステムが備わっていない場合、

- トラクターの実際の重量は、牽引している機械の実際の重量以上 (≥) でなければなりません。

異なる規定が適用される国もあります。例えばロシアでは、トラクターの重量は牽引している機械の重量の 2 倍でなければなりません。

- 最大許容走行速度は 25 km/h になります。

7.2 トラクターにプロペラシャフトの長さを適合させる



警告

以下のような危険があります。

- トラクターに連結されている機械を上昇/下降する際に、プロペラシャフトの長さが適切に調節されていないためにプロペラシャフトが押しつぶされたり両側に引っ張られたりすると、構成部品が破損し、さらに/または破損して飛び出すことにより、ユーザー / 第三者への危険がある。
- プロペラシャフトの取り付けが正しくないか、プロペラシャフトに許可されない設計変更を加えることにより、閉じ込めと巻き込まれの危険がある。

プロペラシャフトを初めてトラクターに連結する前に、あらゆる運転状態でのプロペラシャフトの長さのチェックを専門工場に依頼し、必要に応じて調節してください。

プロペラシャフトの調節をする際には、同梱のプロペラシャフト取扱説明書の記載を必ず守ってください。



プロペラシャフトのこの調節は、その時点で使用しているトラクターに対してのみ有効です。機械を別のトラクターに連結する場合には、場合によってはプロペラシャフトの調節を再度実行する必要があります。



警告

プロペラシャフトの取り付けが正しくないか、プロペラシャフトに許可されない設計変更を加えることにより、引き込まれと挟まれの危険があります。

プロペラシャフトに構造的な変化を加えてよいのは、専門工場だけです。この際、プロペラシャフトメーカーの取扱説明書の記載を守る必要があります。

プロファイルカバーの必要最小長さを考慮してプロペラシャフトの長さを調節することは認められます。

プロペラシャフトのメーカーに取扱説明書で指定されていないプロペラシャフトの設計変更は認められません。

**警告**

プロペラシャフトが最も長くなる運転位置と最も短くなる運転位置を検出するために機械を上昇および下降させる際に、トラクターの後部と機械の間で押しつぶされる危険があります。

トラクターの3点式油圧システム用操作部での操作は以下に従ってください。

- 所定の操作場所でのみ操作
- トラクターと機械の間の危険エリアにいる場合には、絶対に操作しないでください。

**警告****不意に**

- トラクターおよび連結されている機械が動き出し、押しつぶされる危険があります。
- 上昇している機械が下降し、押しつぶされる危険があります！

プロペラシャフトの調節のためにトラクターと上昇している機械の間の危険エリアに立ち入る前に、機械とトラクターが不意に作動して走り出すことがないように固定し、また上昇している機械が不意に降下することがないように固定してください。



プロペラシャフトは、水平になったときに最も短くなります。機械を完全に上昇させた時、プロペラシャフトは最も長くなります。

1. トラクターと機械を連結します (プロペラシャフトは連結しない)。
2. トラクターのパーキングブレーキを引きます。
3. プロペラシャフトの最も短い動作位置と最も長い動作位置で、機械のリフト高さを検出します。
 - 3.1 このためにトラクターの3点式油圧システムにより機械を昇降させてください。

所定の操作場所において、トラクター後部でトラクターの3点式油圧システム用操作部を操作してください。
4. 検出したリフト高さにおいて、上昇した機械が不意に降下することがないように固定してください (支持部材を使用したりクレーンで吊り下げるなど)。

5. トラクターと機械の間の危険エリアに立ち入る前に、不意に始動することがないようにトラクターを固定してください。
6. プロペラシャフトの長さを検出する際や、短縮する際には、プロペラシャフトメーカーの取扱説明書を順守してください。
7. プロペラシャフトの短縮された片側を再びはめ込んでください。
8. プロペラシャフトを接続する前に、トラクターの PTO とギアボックスの入力軸にグリースを塗布します。

プロペラシャフトの保護パイプにあるトラクターマークは、プロペラシャフトのトラクター側の接続部を表します。

7.3 トラクター/機械が不意に始動して走り出すことのないように固定



警告

機械での作業中に、以下のことによって生じる、つぶれ、変形、切断、閉じ込め、引き込まれ、または衝撃の危険。

- トラクターの 3 点式油圧システムで上昇させた、固定されていない機械が不意に降下。
- 上昇した、固定していない機械部品の意図しない落下。
- トラクターと機械が不意に始動して走り出すこと。
- 機械に対する作業を始める前に、不意に作動して走り出すことがないように、トラクターと機械を固定してください。
- 以下の場合には、機械での作業（例：設置、調整、故障解決、清掃、メンテナンスおよび修理）は一切禁止されています。
 - 機械の作動時
 - プロペラシャフト/油圧系統が接続された状態でトラクターのエンジンが稼働している場合
 - イグニッションキーをトラクターに差し込んでおり、プロペラシャフト/油圧系統を接続している状態でトラクターのエンジンが不意に稼働する可能性がある場合
 - 不意に走り出すことがないように、各パーキングブレーキを引いておらず、かつ/または輪止めでトラクターと機械を固定していない場合。
 - 可動部品が不意に動作することがないようにブロックされていない場合

こうした作業を実施するときは、固定していない機械部品と接触する危険が高まります。

1. 上昇して固定されていない機械、上昇して固定されていない機械パーツは下降させてください。
- 以下の手段により、意図しない下降を防ぎます。
2. トラクターのエンジンを OFF にします。
 3. イグニッションキーを抜き取ります。
 4. トラクターのパーキングブレーキをかけます。
 5. 機械が不意に動き出すことがないように、以下のように固定します（牽引されている機械の場合のみ）。

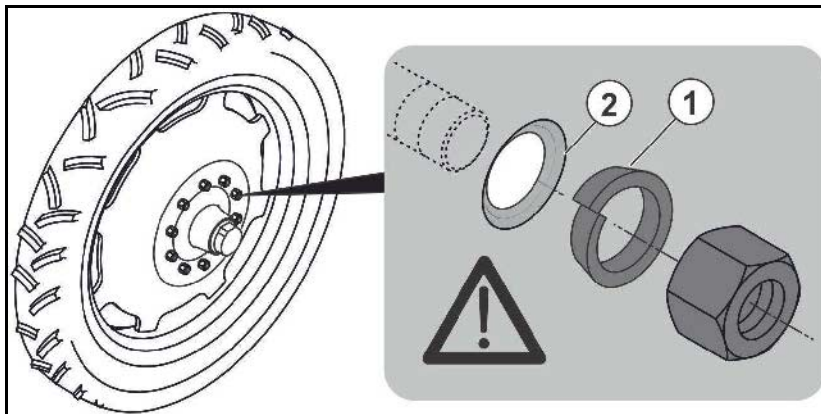
- 平坦な土地においてはハンドブレーキ (備わっている場合) または輪止めによって
- 起伏の激しい土地または傾斜の場合は、ハンドブレーキと輪止めによって

7.4 ホイールの取り付け



ホイール取り付けには次を使用してください：

- (1) ホイールナットの前の円錐リング
- (2) 円錐リングを収容するための、適合するくぼみがあるリムのみ



機械に非常用ホイールが装備されている場合には、初期設定の前に通常ホイールを取り付ける必要があります。



警告

- 主要諸元（67 ページ参照）により許容されたタイヤだけを使用できます。
- タイヤに適合するリムは、周囲を溶接したリムでなければなりません！



直径が 1860 mm を上回るタイヤでは、油圧サポートスタンドを延長し、梯子を取り付ける必要があります。

1. 機械をクレーンで少し持ち上げます。



危険

ベルト用に印がある取り付けポイントを使用してください。
これについては「積載」の章（49 ページ）を参照してください。

2. 非常用ホイールのホイールナットを外します。
3. 非常用ホイールを取り外します。

**注意**

非常用ホイールを取り外す際、さらに通常ホイールを取り付ける際に注意してください！

4. 通常ホイールをねじピンに取り付けます。
5. ホイールナットを締め付けます。



ホイールナット用の必要な締め付けトルク: 510 Nm

6. 機械を降下させ、スリングを取り外します。
7. 10 運転時間後、ホイールナットを締め直します。

7.5 ブレーキシステムの初期設定



スプレーヤーに充填した状態、およびスプレーヤーが空の状態ブレーキテストを実行し、トラクターおよび連結しているスプレーヤーの制動挙動をテストしてください。

ブレーキ挙動を最適にし、ブレーキライニングの磨耗を最小化するために、トラクターとスプレーヤーの間のブレーキ調節を専門工場に依頼することを推奨します（これについては「メンテナンス」の章、232 ページを参照）。

7.6 油圧システムをシステム設定ねじで設定

Profi-folding の場合のみ：



油圧ブロックは、機械の右前の、カバーシートの背後にあります。



- トラクターと機械の油圧システムは、相互に適合するように必ず調整してください。
- 機械油圧システムの設定は、機械の油圧ブロックにあるシステム設定ねじで行います。
- 油圧オイルの温度が上昇する場合、それはシステム設定ねじの設定が正しくなくて、トラクター油圧系統の圧力解放バルブに負荷がかかり続けているのが原因です。
- 設定は必ず圧力を抜いた状態で行ってください。
- 初期設定時にトラクターと機械の間で油圧機能に異常がある場合には、サービスパートナーに連絡してください。

(1) システム設定ねじは位置 A と B に設定可能

(2) 負荷感知型制御ライン用の LS 接続

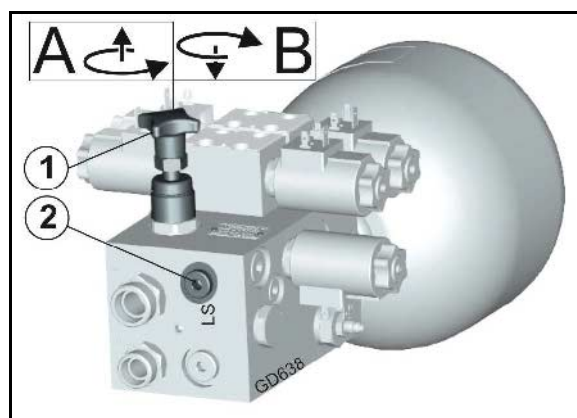


図 99

機械側の接続部：

(1) P – 順流、圧力ホース、プラグ 規格幅 20

(2) LS – 制御ライン、プラグ 規格幅 10

(3) T – 逆流、スリーブ 規格幅 20

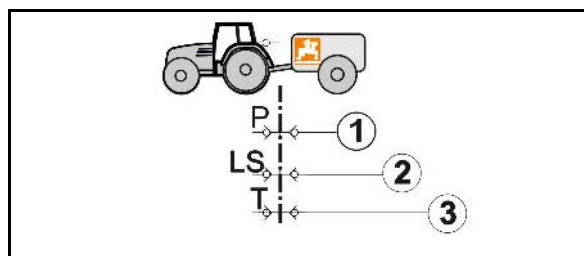


図 100

運転開始

- (1) 定量ポンプ（ギアポンプ）または可変容量形ポンプを備えたオープンセンター油圧システム

→ システム設定ねじを位置 A にします。



可変容量形ポンプ：トラクター制御装置で必要最大オイル量を設定します。オイル量が少なすぎると、機械の正常な機能を保証できません。

- (2) 直接的な負荷感知機能ポンプ接続部とLS可変容量形ポンプを備える負荷感知型油圧システム（圧力制御および電力制御の可変容量形ポンプ）。

→ システム設定ねじを位置 B にします。

- (3) 定量ポンプ（ギアポンプ）付き負荷感知型油圧システム。

→ システム設定ねじを位置 B にします。

- (4) 圧力制御式可変容量形ポンプを備えたクローズドセンター油圧システム。

→ システム設定ねじを位置 B にします。



油圧システムのオーバーヒートの危険: クローズドセンター油圧システムは、油圧モーターによる稼動にあまり適していません。

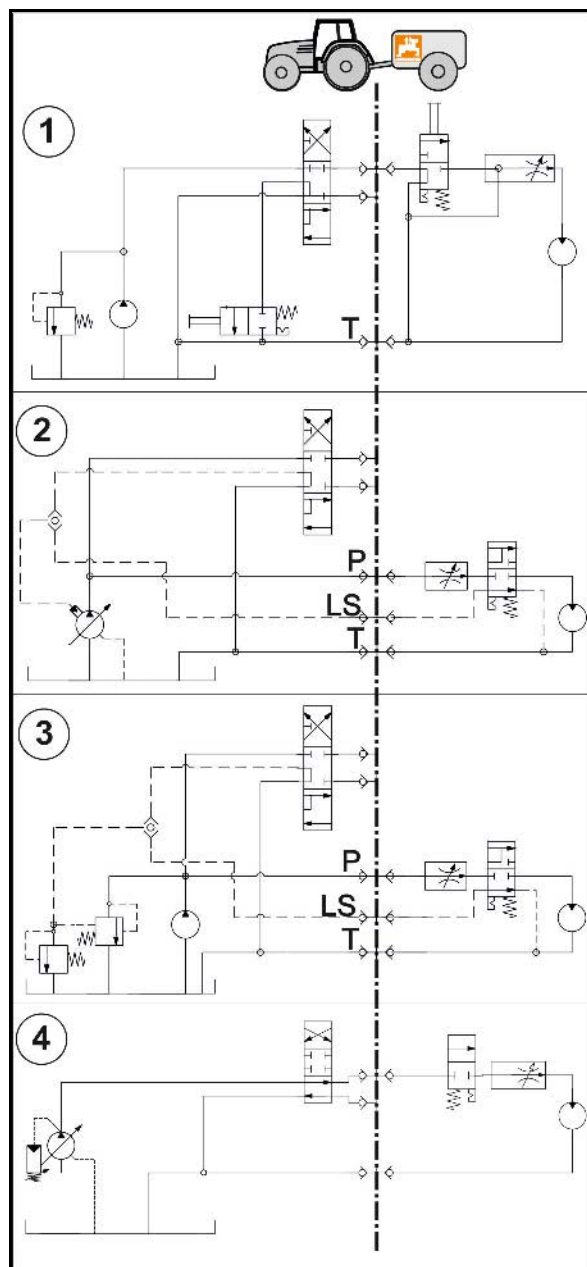


図 101

7.7 DoubleTrail 回転角度エンコーダー

DoubleTrail を使用するために、トラクター側で ISO 26402 準拠のボールヘッドカップリング 50 をステアリングユニット用に取り付けていなければなりません。

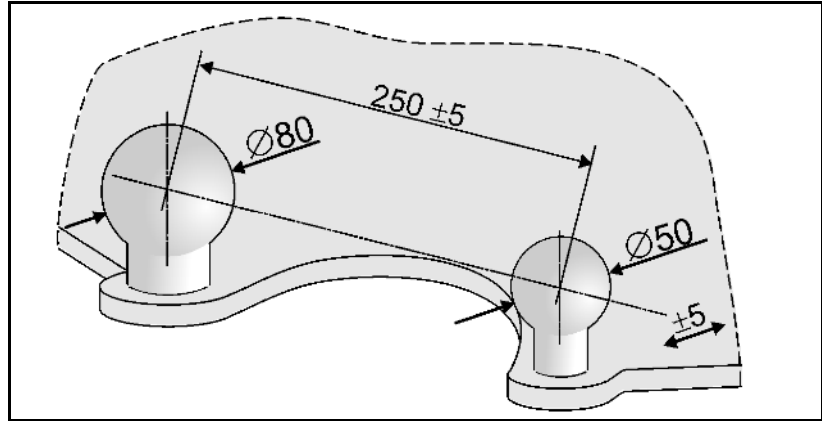


図 102

8 機械の連結と連結解除



機械の連結と連結解除時は、「ユーザーのための安全上の注意事項」の章（33 ページ）の内容を守ってください。



警告

機械の取り付け・取り外し時に機械とトレーラーが不意に作動して走り出し、押しつぶされる危険があります。

連結および連結解除のために機械とトラクターの間の危険エリアに立ち入る前に、不意に作動して走り出すことがないように、機械とトラクターを固定してください（155 ページを参照）。

8.1 機械の連結



警告

トラクターの不適切な使用のため、運転時の損傷、不十分な安定性、不十分なトラクターの操舵力と制動力による危険があります。

機械は、適切なトラクターのみで取り付けまたは牽引することができます。これについては「トラクターの適正を確認」の章（143 ページ）を参照してください。



警告

機械連結時に機械とトラクターの間で押しつぶされる危険があります。

機械に向けて走行する前に、機械とトラクターの間の危険エリアから離れるように周囲の人々に指示してください。

誘導して手伝う人は、トラクターと機械の横にいて、車両の間には停車しているときだけ立ち入ることができます。



警告

機械がトラクターから不意に離れる場合、つぶれ、閉じ込め、引き込まれおよび衝撃の危険があります。

トラクターと機械の接続には、所定の装置を適切に使用してください。

**警告**

供給ラインの損傷によりトラクターと機械間のエネルギー供給が停止する危険があります。

供給ラインを接続する際には、供給ラインの配線に注意してください。供給ラインは、

- すこしたるみがある状態で、かつ取り付けた機械または牽引する機械のあらゆる動きにおいて、引っ張られたり、折れたり、あるいは擦れることがないようにしなければなりません。
- 他の物体で擦れることがあってはいけません。

1. 機械に向けて走行する前に、機械とトラクター間の危険エリアから離れるように周囲の人々に指示します。
2. 機械とトラクターを連結する前に、まず供給ラインを連結します。
 - 2.1 トラクターと機械の間に空きスペース（およそ 25 cm）が残る程度に、トラクターを機械に接近させてください。
 - 2.2 トラクターが不意に始動して走り出すことがないように固定してください。
 - 2.3 トラクターの PTO が OFF になっているか確認してください。
 - 2.4 プロペラシャフトと供給ラインをトラクターにつなぎます。
 - 2.5 油圧ブレーキ: パーキングブレーキのケーブルをトラクターに固定します。
3. 連結装置を連結できるように、トラクターを機械に向けて後進させます。
4. 連結装置を連結します。
5. サポートスタンドを走行位置に上昇させます。
6. 輪止めを外し、パーキングブレーキを解除します。



機械を連結してから初めてカーブを走行する際には、トラクターのコンポーネントと機械が衝突しないことを確認してください。

8.2 機械の連結解除



警告

連結解除した機械の転倒または不安定であることによる、つぶれ、切断、閉じ込め、引き込まれ、または衝撃の危険。

機械は空にした状態で、水平で地面が硬い場所に置きます。



機械の連結を解除する場合には、機械の前に常に大きい空きスペースを確保し、再び連結する際にトラクターがまっすぐ機械にアプローチできるようにします。

1. 機械は空にした状態で、水平で地面が硬い場所に置きます。
2. 機械をトラクターから連結解除します。
 - 2.1 機械が意図せず作動したり、走り出さないように固定してください。155ページを参照してください。
 - 2.1 サポートスタンドをパーキング位置に降下させます。
 - 2.2 連結装置を取り外します。
 - 2.3 トラクターをおよそ 25 cm 引き出してください。
 - トラクターと機械の間に空きスペースが生じることで、プロペラシャフトと供給ラインの連結解除をしやすくなります。
 - 2.4 トラクターと機械が意図せず作動したり、走り出すことのないように固定してください
 - 2.5 プロペラシャフトの連結を解除します。
 - 2.6 プロペラシャフトをホルダに置きます。
 - 2.7 供給ラインの接続を外します。
 - 2.8 供給ラインは適切なパーキングソケットに固定してください。
 - 2.9 油圧ブレーキ: パーキングブレーキのケーブルをトラクターから外します。

8.2.1 連結解除した機械の取り回し



危険

ブレーキシテムを解除した状態で取り回し作業をする際には、取り回し車両だけでスプレーヤーを制動するため、十分に注意してください。

トレーラーのブレーキバルブでリリースバルブを操作する前に、機械を取り回し車両と連結しておく必要があります。

取り回し車両はブレーキをかけていなければなりません。



空気タンク内の空圧が 3 bar 未満まで下がると、ブレーキシテムはリリースバルブで解除できなくなります (リリースバルブを繰り返して操作した場合、またはブレーキシテムに漏れが生じている場合など)。

サービスブレーキを解除するために

- 空気タンクを充填します。
- 空気タンクの排水バルブでブレーキシテムを完全にエア抜きします。

1. 機械を操縦車両と接続します。
2. 操縦車両のブレーキをかけます。
3. 輪止めを外し、パーキングブレーキを解除します。
4. エアブレーキシテムのみ:
 - 4.1 リリースバルブで操作ボタンをストッパーの位置まで押し込みます (85 ページ参照)。
- ブレーキシテムが解除され、機械の取り回しが可能になります。
- 4.2 取り回しプロセスが完了したら、リリースバルブで操作ボタンをストッパー位置まで引き出します。
- 空気タンクの空圧により、スプレーヤーが再び制動されます。
5. 操車プロセスが完了したら、操縦車両を再度制動します。
6. パーキングブレーキを再びかけ、機械が動き出さないように輪止めで固定します。
7. 機械と操縦車両の連結を解除してください。



機械を操車して後退させる前に、後側の軸をまっすぐな位置でロックしなければなりません。

油圧ブロックの停止栓を閉じます。

9 輸送走行



- 輸送走行時には、「ユーザーのための安全上の注意事項」の章（35 ページ）の内容を守ってください。
- 輸送走行前に、以下のことを確認してください。
 - 供給ラインが正しく接続されているか
 - 照明システムが損傷していないか、正しく作動するか、汚れていないか
 - ブレーキおよび油圧系統に明らかな故障がないか
 - パーキングブレーキが完全に解除されているか
 - ブレーキシステムの機能。



警告

機械の不意の運動により、つぶれ、変形、切断、閉じ込め、巻き込まれ、引き込まれ、挟まれまたは衝撃の危険があります。

- 可倒式機械の場合、走行時用のロックが正しく働いているか確認してください。
- 輸送走行前に、機械が不意に運動することが無いように固定してください。



警告

転倒または不安定であることによる、つぶれ、切断、閉じ込め、引き込まれ、または衝撃の危険。

- 機械を取り付けた、あるいは機械を牽引するトラクターを、つねに完全に制御できる状態で運転してください。
そのためには、あなた個人の能力、路面・交通・視界・天候の諸条件、さらにはトラクターの走行特性および取り付けた機械または牽引する機械の影響を考慮に入れてください。



警告

トラクターの不適切な使用のため、運転時の損傷、不十分な安定性、不十分なトラクターの操舵力と制動力による危険があります。

これらの危険は、重傷や死に至る原因となります。

取り付けた機械または牽引する機械の最大荷重と、トラクターの許容軸荷重および許容支持荷重を遵守してください。必要に応じて、タンクを満タンにせずに使用してください。



警告

指示に反して、機械の上に乗り、落下する危険。

作動中は、機械の上に乗ったり登ったりすることは禁止されています。

機械に近づく前に、積載場所から離れるように周囲の人々に指示してください。



注意

- 輸送走行時には、「ユーザーのための安全上の注意事項」の章（35 ページ）の内容を守ってください。
- 折り畳まれたスプレーヤーブームを、不意に展開することがないように走行位置でロックするための移動用ロック機構を使用してください。
- スプレーヤーブームを輸送位置に動かし、機械的に固定してください。
- 外側エレメントの作業幅を縮小する部品が取り付けられている場合、輸送を行うためにこれを展開してください。
- 走行位置に上げられた薬液混合タンクが、不意に下がるのを防ぐために、走行安全用留め具を使用してください。
- 上昇させた梯子が不意に下に倒れることがないようにロックするために、移動用ロック機構を使用してください。
- 安全エレメントがフックにかかり、走行位置にある梯子が不意に下に倒れないようにします。
- 延長ブーム（オプション）が取り付けられている場合は、走行位置に移動させてください。
- 他の道路利用者にとって眩しくないように、輸送走行中は作業灯を切ったままにしてください。

**危険**

不安定な走行挙動による事故の危険

ハイドロニューマチック・サスペンションが稼働するように、トラクターのオイル供給を確認してください。

DoubleTrail:

操作端末 DoubleTrail

で道路ステアリングモードを選択してください！

SingleTrail:

輸送走行のためには、後側ステアリング軸を走行方向で、前軸と揃うように位置合わせします。

このために適切なトラクター制御装置 **ナチュラル** を操作します。

10 機械の使用



機械を使用するときは、以下の章の記載を守ってください。

- 「機械上の警告マークとその他の記号」(23ページ以降)
- 「ユーザーのための安全上の注意事項」(33ページ以降)

この記載を守ることは、あなたの安全にとって重要です。



操作端末と機械制御ソフトウェアの取扱説明書にも注意してください。



警告

ディスタンスコントロール

レーダーセンサ照射範囲への立ち入りにより、自動モードのスプレーヤーブームが不意に動き、怪我をする危険。



スプレーヤーブームをロックしてください。

- トラクターから離れる前に。
- 部外者がスプレーヤーブームの作動範囲にいる場合。



警告

トラクターの不適切な使用のため、運転時の損傷、不十分な安定性、不十分なトラクターの操舵力と制動力による危険があります。

取り付けた機械または牽引する機械の最大荷重と、トラクターの許容軸荷重および許容支持荷重を遵守してください。必要に応じて、タンクを満タンにせずに使用してください。



警告

トラクター/牽引する機械の転倒または不安定であることによる、つぶれ、切断、引き込まれ、挟まれ、または衝撃の危険。

機械を取り付けた、あるいは機械を牽引するトラクターを、つねに完全に制御できる状態で運転してください。

そのためには、あなた個人の能力、路面・交通・視界・天候の諸条件、さらにはトラクターの走行特性および取り付けた機械または牽引する機械の影響を考慮に入れてください。

**警告**

以下のことによる、つぶれ、変形、切断、閉じ込め、引き込まれ、または衝撃の危険。

- 上昇した、固定していない機械部品の意図しない落下。
- トラクターと機械が不意に始動して走り出すこと。

機械の不具合を直す前に、不意に作動して走り出すことがないように、トラクターと機械を固定してください（155 ページを参照）。

機械の危険区域に立ち入る前に、機械が静止するまで待ってください。

**警告**

トラクターの PTO のドライブ回転数が許容値を超過すると、部品が破損して飛び出し、ユーザー / 第三者に対する危険が生じる恐れがあります。

トラクターの PTO を ON にする前に、機械の許容駆動速度に注意してください。

**警告**

閉じ込めと巻き込まれの危険と、駆動するプロペラシャフトの危険エリア内で検知された異物が飛び出る危険があります。

- 機械を使用する前に、プロペラシャフトの安全装置と保護装置が不備なく完全に機能する状態であるか確認してください。
プロペラシャフトの安全装置と保護装置が損傷している場合には、専門工場にすぐに交換させてください。
- チェーンによってプロペラシャフト保護パーツが回転しないよう固定しているか確認します。
- 作動しているプロペラシャフトからは十分に安全な距離を取って離れてください。
- 現場にいる人に対し、駆動しているプロペラシャフトの危険エリアから立ち去るように指示してください。
- 危険がある場合には、トラクターのエンジンを速やかに OFF にしてください。



警告

意図せず農薬 / 散布液に触れる危険。

- 次の場合に個人用保護具を着用してください。
 - 散布液を準備する際
 - 散布作業時に散布ノズルを清掃 / 交換する場合
 - 散布作業後にスプレーヤーを清掃するためのあらゆる作業時
- 必要な保護服を装着するには、使用する農薬のメーカーの指示、製品情報、使用説明書、安全データシートまたはユーザーマニュアルに従ってください。例えば以下を使用してください。
 - 耐薬品性の手袋
 - 耐薬品性のオーバーオール
 - 耐水性のある靴
 - 安全マスク
 - 呼吸保護
 - 保護メガネ
 - 皮膚の保護剤、その他



警告

意図せず農薬 / 散布液に触れて、健康を損なう危険。

- 以下の作業を行う前に、保護手袋を着用してください。
 - 農薬の取り扱い
 - 汚れたスプレーヤーにおける作業、または
 - スプレーヤーの清掃
- 次の場合には、ハンドウォッシュタンクの清潔な水で保護手袋を洗ってください。
 - 農薬に触れた直後、必ず
 - 保護手袋を外す前

10.1 散布作業の準備



- 農薬を適切に散布するためには、スプレーヤーが正しく作動する必要があります。試験装置を使い、定期的にスプレーヤーのテストを行わせてください。不具合が見つかった場合はすぐに除去してください。
- フィルター装置が適正かどうか注意してください (108 ページを参照)
- 異なる農薬を使用する場合は、その前にスプレーヤーを完全に清掃してください。
- 以下の場合にはノズルラインを予備洗浄してください
 - ノズルを変更する度
 - マルチノズルヘッドを他のノズルに回転させる前「清掃」の章 (220 ページ) を参照してください。
- 洗浄水タンクとハンドウォッシュタンクを充填してください。

10.2 散布液を準備



警告

意図せずに農薬および / または散布液に触れる危険。

- 農薬は、原則的に混入容器を介して、散布液タンクに混入してください。
- 農薬を薬液混合タンクに入れる前に、薬液混合タンクを充填位置に旋回してください。
- 農薬の使用説明書に記載されている、農薬取り扱いおよび散布液準備の際に、身体と呼吸を保護するための安全規則を守ってください。
- 井戸や地表水の近くでは、散布液の準備を行わないでください。
- 適切な身体保護を行い、適切な行動を取ることで、農薬および / または散布液の漏れや、その結果生じる汚染を防いでください。
- 第三者への危険を回避するため、準備済みの散布液や未使用の農薬、未清掃の農薬缶、未清掃のスプレーヤーなどを放置しないでください。
- 汚れた農薬缶や、汚れたスプレーヤーに、雨が当たらないようにしてください。
- リスクを最小限に抑えるため、散布液準備作業の終了時および終了後には、十分に清潔であることを心がけてください（例えば、使用した手袋は外す前によく洗い、洗浄水や清掃液は正しく廃棄処分します）。



危険

不安定な走行挙動による事故の危険

ハイドロニューマチック・サスペンションが稼働するように、トラクターのオイル供給を確認してください。



- 指定の水/薬剤の散布量は、農薬の使用説明書に記載されています。
- 薬剤の使用説明書を読み、指定された注意事項を守ってください。



警告

散布液タンクの充填中に、人または動物が意図せず散布液と接触する危険。

- 農薬の取り扱い時や散布液タンクから散布液を排出する際には、個人用保護具を着用してください。必要な個人用保護具のタイプは、使用する農薬についてのメーカーの指示、製品情報、使用説明書、安全データシート、ユーザーマニュアルなどによって異なります。
- 充填中は、絶対にスプレーヤーを放置したまま、その場を離れないでください。
 - 散布液タンクには、決して定格容量以上の充填を行わないでください。
 - 散布液タンクを充填する際は、決してスプレーヤーの支持荷重を超えないようにしてください。各種液体の比重に注意してください。
 - 充填時には常に充填量インジケータを監視し、散布液タンクへの過充填を防いでください。
 - 散布液タンクの充填中はシール面に注意し、散布液が下水道に流れ込まないようにしてください。
- 充填する前に毎回、スプレーヤーに損傷（散布剤タンクやホースの漏れなど）がないか、またすべての操作部が正しい位置にあるかどうか点検してください。



充填時には、スプレーヤーの支持荷重に注意してください。スプレーヤーを充填する場合は、必ず各液体ごとに異なる比重 [kg/L] を考慮に入れてください。

各種の液体の比重

液体	水	尿素	AUS	NP溶液
密度 [kg/L]	1	1.11	1.28	1.38



操作端末：

操作端末内の作業メニューから、充填インジケータを呼び出してください。



- 環境にやさしい方法で残留物を廃棄するのは難しいため、必要な補充 / 充填量は慎重に計算し、散布作業終了時に残留物が残らないようにしてください。
 - 散布液タンクの最後の補充に必要な量を計算するには、「残り散布範囲のための充填表」を参照してください。その場合、算出された補充量からスプレーヤーブーム内にある未希釈の技術的残留物を差し引いてください。
- 「残り散布範囲のための充填表」の章を参照してください。

手順

1. 農薬の使用説明書を参照して、必要な水および薬剤の散布量を算出してください。
2. 処理する面積に必要な充填 / 補充量を計算してください。
3. 機械に充填し、薬剤を混入してください。
4. 散布作業を開始する前に、散布剤メーカーの指示に沿って散布液を攪拌してください。



機械はできれば吸引ホースで充填し、充填中に薬剤を注入してください。

そうすることにより、注入される領域が常に水ですすがれます。



- 散布剤タンクの充填レベルが 20 %に達したら、充填しながら薬剤の注入を開始してください。
- 数種類の薬剤を使用する場合
 - 薬剤を注入することに、すぐに缶を清掃してください。
 - 注入ラインは、薬剤注入後に毎回洗浄してください。



- 充填中は、散布液タンクから外に泡が出ないように注意してください。
- 泡抑制剤を追加しても、散布液タンクの過剰な泡形成を抑えられます。



機械には自動充填停止機能が備わっており、希望する充填量に達すると充填が終了します。



通常アジテーターは、充填から散布終了まで ON になったままです。これに関しては、薬剤メーカーの指示を優先させてください。



- アジテーターの作動中に、水溶性のビニール袋を散布液タンク内に直接入れます。
- 散布の前に液体を循環させ、尿素を完全に溶かしてください。大量の尿素を溶かすと、散布液の温度が比較的大幅に低下するため、尿素はゆっくりとしか溶けません。水の温度を高くするほど、より素早く尿素が溶けきるようになります。



- 空になった薬剤・散布剤缶はよく洗い、使用不能な状態にし、回収した後、規定に即して廃棄処分してください。他の目的に再使用しないでください。
- 薬剤・散布剤容器を洗うために散布液しか使用できない場合は、まず散布液を使って下洗いをします。その後、清潔な水が利用可能になった時に（例：次の散布液タンク充填の準備前に、あるいは前回の散布液タンク充填で生じた残留物の希釈時に）、念入りに洗ってください。
- 空になった薬剤・散布剤容器は（例えば缶洗浄装置を用いて）丁寧に水洗いし、使用した水は散布液に混ぜてください！



水の硬度が 15°dH（ドイツ硬度）を超える場合、石灰が堆積することが考えられます。このような石灰は、機械の機能を損なう場合がありますので、定期的に取り除いてください。

10.2.1 充填/補充量の計算



散布液タンクの最後の補充に必要な量を計算するには、「残り散布範囲のための充填表」を利用してください。

例1：

以下の条件だとします。

散布剤タンクの定格容量 1000 L

散布剤タンク内の残量 0 L

水の消費量 400 L/ha

必要な薬剤（haあたり）

薬剤 A 1.5 kg

薬剤 B 1.0 L

問題：

面積2.5

haの土地を処理するのに、何Lの水、何kgの薬剤A、何Lの薬剤Bを使用する必要があります？

答え：

水	400 L/ha	x	2.5 [ha]	=	1000 L
薬剤 A:	1.5 kg/ha	x	2.5 [ha]	=	3.75 kg
薬剤 B	1.0 L/ha	x	2.5 [ha]	=	2,5 L

例2：

以下の条件だとします。

散布剤タンクの定格容量	1000 L
散布剤タンク内の残量	200 L
水の消費量	500 L/ha
推奨濃度	0.15 %

問題1：

散布剤タンクを一杯まで充填するには、何 L または何 kg の薬剤が必要ですか？

問題2：

散布後に散布剤タンク内に 20 L の残量が残っている場合、処理した面積はどのくらいの広さ (ha) ですか？

問題1についての計算式と答え：

$$\frac{\text{水の補充量 [L]} \times \text{濃度 [\%]}}{100} = \text{薬剤の追加量 [L または kg]}$$

$$\frac{(1000 - 200) \text{ [L]} \times 0.15 \text{ [\%]}}{100} = 1.2 \text{ [L または kg]}$$

問題2についての計算式と答え：

$$\frac{\text{利用可能な散布剤の量 [L]} - \text{残量 [L]}}{\text{水の消費量 [L/ha]}} = \text{処理した面積 [ha]}$$

$$\frac{1000 \text{ [L]} (\text{散布剤タンクの定格容量}) - 20 \text{ [L]} (\text{残量})}{500 \text{ [L/ha]} (\text{水の消費量})} = 1.96 \text{ [ha]}$$

10.2.2 残り散布範囲のための充填表



- 指定の補充量は、散布量 100 L/ha についてのものです。散布量が異なる場合は、乗算によって補充量を調整してください。
- ブーム内の残量を考慮してください。

機械の使用

走行距離 [m]	作業幅 [m]													
	15	16	18	20	21	24	27	28	30	32	33	36	39	40
	補充量 [l]													
10	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	4	4	4
20	3	3	4	4	4	5	5	6	6	6	7	7	8	8
30	5	5	5	6	6	7	8	8	9	10	10	11	11	12
40	6	7	7	8	8	10	11	11	12	13	13	14	15	16
50	8	8	9	10	11	12	14	14	15	16	17	18	19	20
60	9	10	11	12	13	14	16	17	18	19	20	22	23	24
70	11	11	13	14	15	17	19	20	21	22	23	25	27	28
80	12	13	14	16	17	19	22	22	24	26	26	29	30	32
90	14	15	16	18	19	22	24	25	27	29	30	32	34	36
100	15	16	18	20	21	24	27	28	30	32	33	36	38	40
200	30	32	36	40	42	48	54	56	60	64	66	72	74	80
300	45	48	54	60	63	72	81	84	90	96	99	108	114	120
400	60	64	72	80	84	96	108	112	120	128	132	144	152	160
500	75	80	90	100	105	120	135	140	150	160	165	180	190	200

図 103

10.2.3 吸込口を介して散布液タンクを充填し、同時に薬剤を注入



できる限り公共の取水場所からではなく、適した散布剤タンクから充填してください。



警告

吸入口を通じて圧力充填すると、吸引装置が破損します！

吸入口は圧力充填には適していません。これは取水場所の位置がより高い場合にも当てはまります。



操作端末内の作業メニューから充填インジケータを呼び出し、補充量を入力して自動充填停止を使用してください。

1. 充填接続部と取水場所に吸引ホースを接続します。
2. ポンプを駆動し（最小 400 min⁻¹）、散布剤タンクを充填します。

3. 操作端末：  吸引装置を、吸引カップリングを通じた吸引にします。/

ボタン 吸引装置 G を  位置にします。

→ 散布剤タンクは自動的に限度信号まで充填されます。

→ 再びボタンを押すと、充填が早期に終了します。



- 充填レベルの限度信号は正しく入力してください。
- 散布剤タンクが充填されると、信号音が鳴ります。

図 104



インジェクタを ON にすることによる吸引力の増加:

切り替え栓 F を  位置にします。

ポンプで水を吸引した後に、インジェクタを ON にできます。

- インジェクタで吸引した水は吸引フィルターを通過しません。
- 充填停止機能を備えたコンフォート仕様：
追加のインジェクタを ON
にはできません。さもないと自動充填停止が働きません。

4. 散布剤タンクの充填レベルが 20 %に達したら、薬剤の注入を開始してください。

薬剤の注入



(薬剤をECOFILLを介して注入します。184
ページを参照してください。)

5. 混入容器のフタを開きます。
6. 切り替え栓 L を閉じます。
7. 切り替え栓 A を  位置にします。
8. 切り替え栓 D を開きます
9. 切り替え栓 E を  位置にします。
10. 切り替え栓 F を  位置にします。



注入中に、切り替え栓 E と F
で水の供給と吸引速度を調節できます。

11. 充填剤タンク充填のために算出および計測した量の薬剤を、薬液混合タンクに入れます。

→ 混入容器の中身が吸引されます。

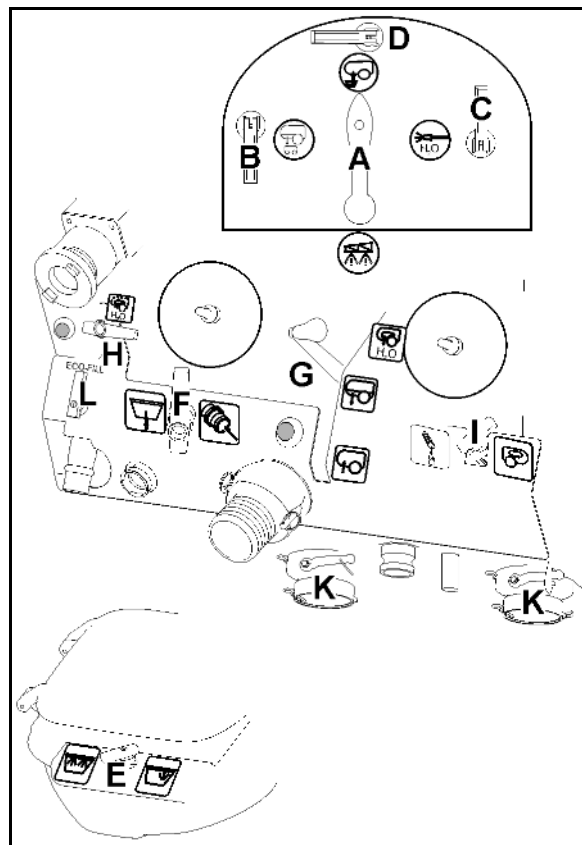


図 105



例えば粉末薬剤使用時にユーザー保護を高めるために、まず薬剤を薬液混合タンクに入れ、カバーを閉じてから、薬剤を溶解し、吸引してください。

缶を洗浄する

12. 缶その他の容器を缶洗浄装置にかぶせます。

13. 切り替え栓 E を  位置にします。

14. 缶を 30 秒以上上下に押し込みます。

→ 缶が水ですすがれます。

15. 切り替え栓 E を 0 位置にし、缶を取り外します。

16. 切り替え栓 F を 0 位置にします。

17. 切り替え栓 D を閉じます。

18. 切り替え栓 A を  位置にします。

散布剤タンクが規定の充填レベルに達した場合：

19. 操作端末：  最新の充填量の値を適用します。

→ 充填後は、自動的に吸入側は散布に切り替わります。

20. 吸引ホースを充填接続部から外します。

→ 吸引ホースはまだ水で満たされてます。

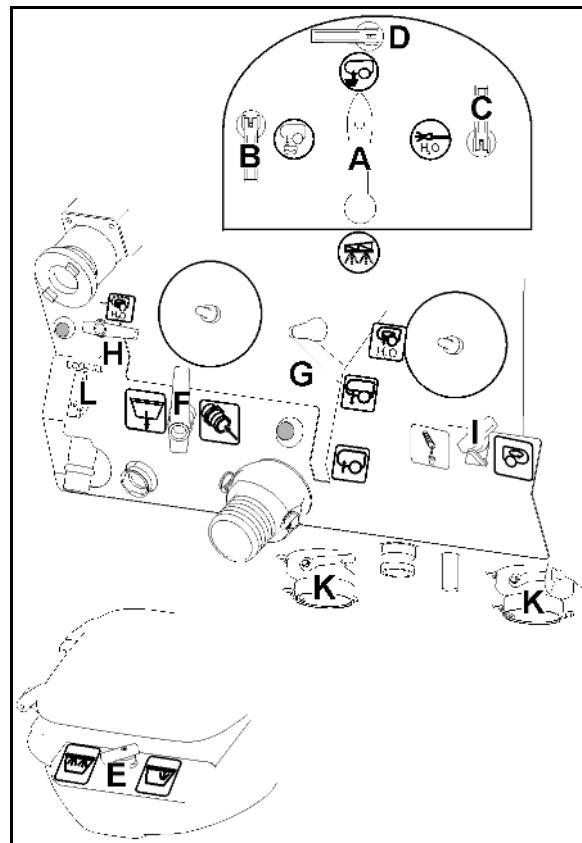


図 106



危険

追加のインジェクタを充填終了時に ON にしてはいけません。さもないと自動充填停止が働きません。

切り替え栓 F を 0 位置にします。



公共の取水場所から吸引ホースを使って散布液タンクに充填する場合は、規則を遵守してください。

10.2.4 ECOFILL での注入

1. ポンプを駆動します。
 2. ECOFILL 容器と ECOFILL 接続部をつなぎます。
 3. 切り替え栓 A を  位置にします。
 4. 切り替え栓 D を開きます。
 5. 切り替え栓 E と F を 0 位置にします。
 6. 切り替え栓 L を 1 位置にします。
- Ecofill 容器を吸引します。
7. Ecofill 容器から希望する量を吸引したら、切り替え栓 L を 0 位置にします。

Ecofill カウンターをすすぐ:

1. ホースを Ecofill 容器から外し、そのホースを洗浄スタンドに接続します。
 2. 切り替え栓 L を 1 位置にします。
- カウンターが洗浄されます。
3. 切り替え栓 L、および D を再び 0 にし、カウンターの連結を解除します。

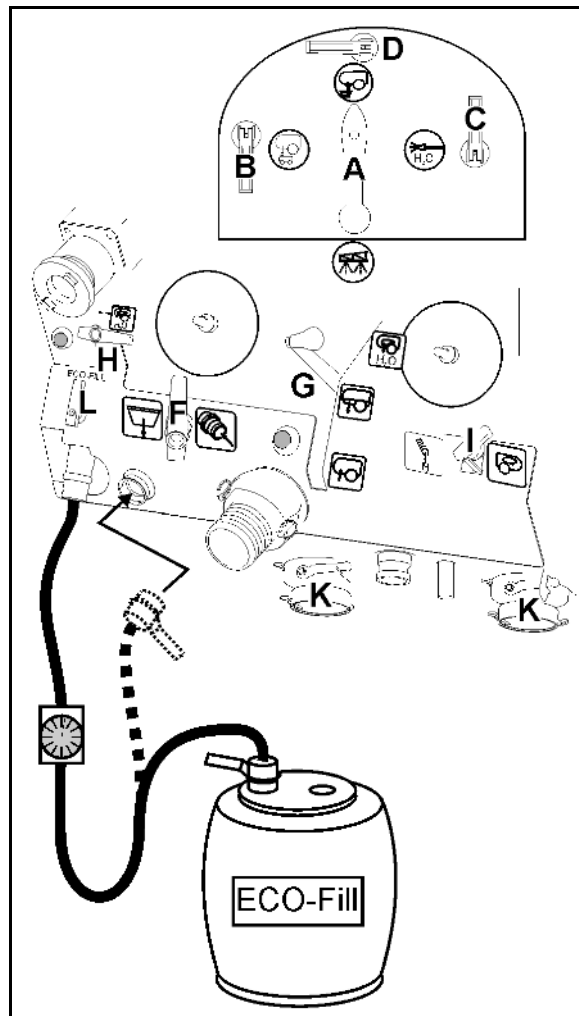


図 107

10.2.5 充填接続部を介した散布液タンクの充填と、薬剤の注入



操作端末内の作業メニューから充填インジケータを呼び出し、補充量を入力して自動充填停止を使用してください。

1. 圧力ホースを制御装置の充填接続部に接続します。
2. 制御装置の圧力充填ボタンを押します。
- 散布剤タンクは自動的に限度信号まで充填されます。
3. 散布剤タンクの充填レベルが 20 % に達したら、薬剤の注入を開始してください。

薬剤の注入

(薬剤を Ecofill を介して注入します。

184 ページを参照してください。)

4. ポンプを駆動し、ポンプ回転数を 400 min^{-1} に設定します。
5. ボタン 吸引装置 G を押し、吸引装置を



位置にします。

6. 切り替え栓 A を  位置にします。

7. 切り替え栓 D を開きます。

8. 混入容器のフタを開きます。

9. 切り替え栓 E を  位置にします。

10. 切り替え栓 F を  位置にします。



注入中に、切り替え栓 E と F で水の供給と吸引速度を調節できます。

11. 散布剤タンク充填のために算出および計測した量の薬剤を、薬液混合タンクに入れます (最大 50 l) 。

→ 混入容器の中身が吸引されます。

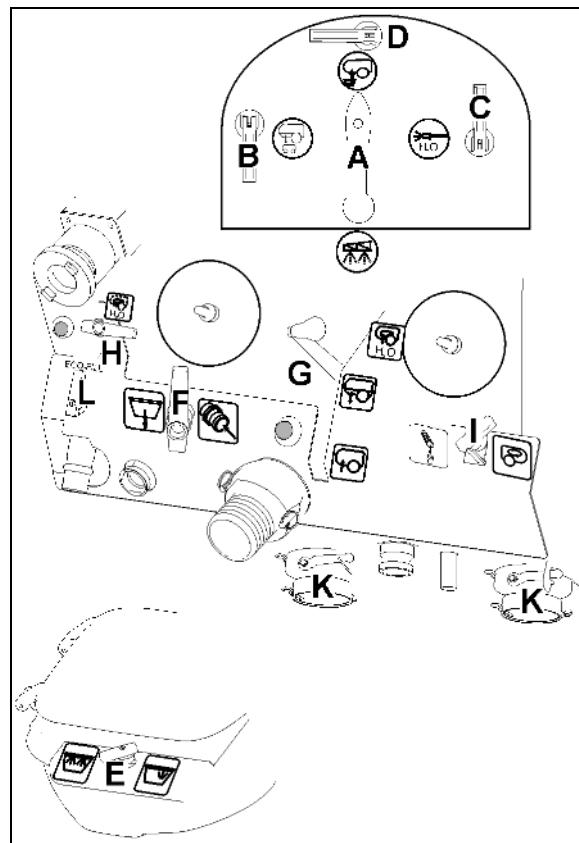


図 108



例えば粉末薬剤使用時にユーザー保護を高めるために、まず薬剤を薬液混合タンクに入れ、カバーを閉じてから、薬剤を溶解し、吸引してください。

缶を洗浄する

12. 缶その他の容器を缶洗浄装置にかぶせます。

切り替え栓 E を  位置にします。

13. 缶を少なくとも 30 秒間下方向に押します。

→ 缶が散布液ですすぐれます。



複数の缶を洗浄するには、缶を空にした後すぐに散布液ですすいでください。

その後で缶を 1 つずつ順番に洗浄水ですすぎます。

14. 操作端末：  吸引装置を洗浄水吸引にします /

ボタン： 吸引装置 G を  位置にします。

15. 切り替え栓 D を閉じます。
16. 缶を少なくとも 30 秒間下方向に押し

ます。

缶が洗浄水ですすぐれます。



事前に散布液を使用していた場合は、洗浄水がノズルに来るまで少し時間がかかります。

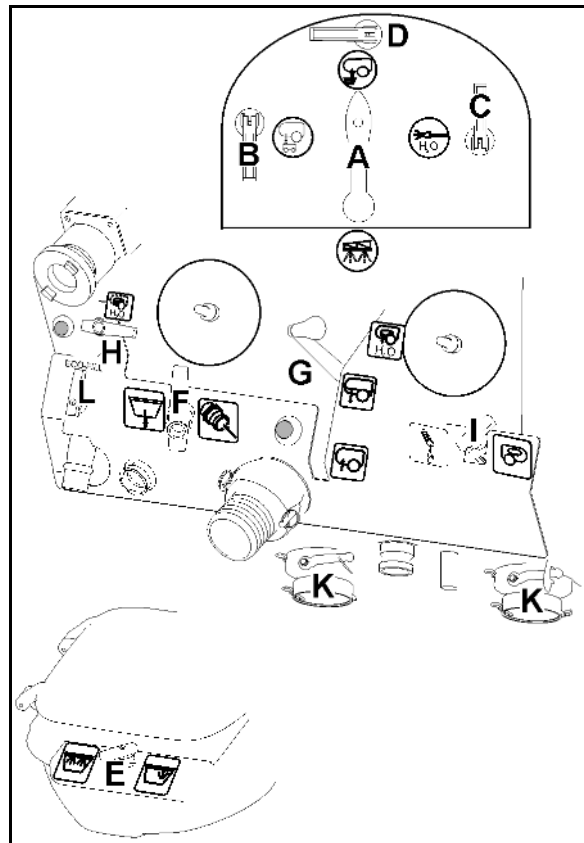


図 109

17. 切り替え栓 E を 0 位置にし、缶を取り外します。

18. 切り替え栓 D を開きます。



洗浄水をあまり消費しないように、切り替え栓 D は必要な間だけ開けてください。

19. 切り替え栓 F を  位置にします。

薬液混合タンクの中身が吸引されます。

20. 切り替え栓 E を  位置にします。

→ 薬液混合タンクが清掃されます。

21. 切り替え栓 E と F を位置 0 にします。

22. 切り替え栓 D を再び閉じます。

23. 切り替え栓 A を  位置にします。

散布剤タンクが規定の充填レベルに達した場合
:

→ 充填メニューに入力された充填レベルに達すると、自動的に充填が終了します。

24. 充填ホースの外部停止栓を閉じます。

25. 充填ホースの圧力解放:
制御装置のボタンを押します。

26. 圧カラインの連結を解除します。

27.  最新の充填量の値を適用します。

10.3 散布作業



別にある操作端末用の取扱説明書を遵守してください。

散布作業についての特別な注意事項



- 以下の場合には、キャリブレーションを実施してスプレーヤーをテストしてください。
 - シーズンが始まる前。
 - 実際に表示される散布圧と、散布表で指定されている散布圧との間に、ずれがある場合。
- 散布を開始する前に、農薬メーカーの指示を参照しながら、必要な正確な散布量を特定してください。
- 散布を開始する前に、必要な散布量（規定量）を操作端末に入力してください。
- 散布作業中は、以下のために必要な散布量 [L/ha] を正確に守ってください。
 - 作物保護対策によって最良の結果を得るため。
 - 不必要な環境の汚染を避けるため。
- 散布開始前に、以下のことを考慮し、散布表から必要なノズルタイプを選択します。
 - 意図する走行速度
 - 必要な散布量
 - 作物保護を行うために使用する農薬に必須となる噴霧特性（微粒、中程度または粗い）。
「各種ノズル（フラットファン、ドリフト防止、インジェクタ、空気混合の各タイプ）についての散布表」の章（274ページの）を参照してください。
- 散布開始前に、以下のことを考慮し、散布表から必要なノズルサイズを選択します。
 - 意図する走行速度
 - 必要な散布量
 - 目標散布圧
「各種ノズル（フラットファン、ドリフト防止、インジェクタ、空気混合の各タイプ）についての散布表」の章（274ページの）を参照してください。

- ドリフトによる無駄を防ぐには、低い走行速度と低い散布圧を選択してください。
「各種ノズル (フラットファン、ドリフト防止、インジェクタ、空気混合の各タイプ) についての散布表」の章 (274 ページの) を参照してください。
- 風速が 3 m/s に達したら、追加のドリフト低減対策を取ってください (「ドリフト低減対策」の章 (192 ページ) を参照)。



- 平均風速が 5 m/s を超えたら (葉と細い枝が動く状態)、使用を見合わせてください。
- スプレーヤーブームの ON/OFF 切り替えは走行中のみ行うようにすることで、過剰な量の散布を避けてください。
- スプレーヤーブームを ON にしたまま枕地で方向転換したり、不正確な圃場往復をすると、オーバーラップによって過剰な量が散布されますので、おやめください。
- 走行速度を上げる際には、ポンプの最大許容駆動回転数 550 min⁻¹ を超過しないように注意してください。
- 散布作業中は、処理面積を踏まえながら、実際の散布液消費量を常にチェックしてください。
- 実際の散布量と表示される散布量とが異なる場合は、流量計のキャリブレーションを実施してください。
- 実際に走行した距離と表示される距離とが異なる場合は、距離センサ (パルス/100 m) のキャリブレーションを実施してください。ソフトウェア ISOBUS の取扱説明書を参照してください。
- 悪天候により散布作業を中断する場合は、吸引フィルタ、ポンプ、バルブ室および散布ラインを清掃してください。198 ページを参照してください。



- 散布圧とノズルサイズは、散布液の液滴の大きさと量に影響を与えます。散布圧が高くなればなるほど、噴出される散布液の液滴の直径が小さくなります。液滴が小さいと、好ましくないドリフトが増加しやすくなります。



- ポンプ吐出量はポンプ駆動回転数に応じて異なります。スプレーヤーブームとアジテーターに常に十分な流量があるように、ポンプ駆動回転数を選択してください (400 ~ 550 min⁻¹)。その際、走行速度が速い場合および散布量が多い場合に、より多くの散布液を送る必要があることに必ず注意します。
- 通常、アジテーターは、充填から散布終了まで作動し続けます。これに関しては、薬剤メーカーの指示を優先させてください。
- 散布圧が突然急降下するような場合には、散布液タンクが空になっています。
- 散布液タンクの残留物は、圧力損失 25% までは、規定どおりに散布できます。
- 他の条件が変わっていないのに、散布圧が下がった場合は、吸引フィルタまたは圧カフィルタが目詰まりしています。

10.3.1 散布液の散布



- スプレーヤーを規則に従ってトラクターに連結してください。
- 散布開始前に、操作端末で次の機械データを確認してください。
 - スプレーヤーブームに取り付けた散布ノズルの許容散布圧範囲の値
 - 値「100 m あたりインパルス」
- 散布作業時にディスプレイにエラー通知が現れる場合は、適切な措置を講じてください。
- 散布作業時に表示された散布圧を確認します。

表示される散布圧は、例えばプラスボタンとマイナスボタンで散布量を変更する際に、散布表の目標散布圧から $\pm 25\%$ を超えて外れないようにしてください。目標散布圧との相違がこれを超える場合には、作物保護対策は最適に行われず、環境に負担がかかります。

再び目標散布圧の許容範囲内になるまで、走行速度を減少または増加します。

例：

必要な散布量：	200 L/ha
意図する走行速度	8 km/h
ノズルタイプ：	LU/XR
ノズルサイズ：	'05'
散布ノズル装着時の許容圧力範囲	最小圧力 1 bar 最大圧力 5 bar
目標散布圧：	3.7 bar
許容散布圧： 3.7 bar $\pm$ 25 %	最低2.8 bar、最高4.6 bar

1. 農薬メーカーの指示に従って、散布液を適切に準備・攪拌します。

2. 操作端末： 吸引装置を散布にします /

ボタン：吸引装置 G を  位置にします。

3. 切り替え栓 A を  位置にします。

4. 操作端末を ON にします。

5. スプレーヤーブームを展開します。

6. 使用するノズルに応じて、散布表を基にスプレーヤーブームの作業高さ（ノズルと作物の間隔）を設定します。

7. 必要な散布量の値を操作端末に入力してください。

8. ポンプ運転回転数でポンプを駆動します。

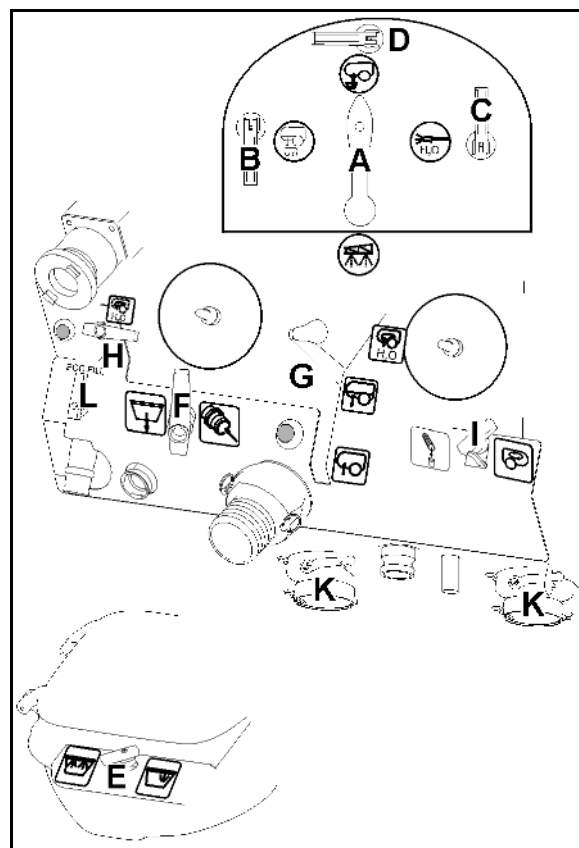


図 110



消費量が少ない場合には、エネルギー節約のためにポンプ回転数を減らすことができます。

9. 操作端末 :  散布を ON にします。

アジテーターをONにした状態での圃場への走行

1. 操作端末を OFF にします。
2. ポンプ駆動を ON にします。
3. 希望する攪拌強度を設定します。

10.3.2 ドリフト低減対策

- 処理のスケジュールを早朝または夕方の時間帯にずらします（一般に風が少ないため）。
- より大きなノズル、より多い水散布量を選択します。
- 散布圧を減らします。
- ブームの作業高さを正確に維持します（ノズル間の距離が広がるとドリフトの危険が急上昇するため）。
- 走行速度を下げます（8 km/h 未満にします）。
- いわゆるドリフト防止（AD）ノズルまたはインジェクタ（ID）ノズル（高い割合で粗い液滴を生成するノズル）を使用します。
- 各農薬の距離要件を守ります。

10.3.3 洗浄水を用いた散布液の希釈

1. ポンプを駆動し、ポンプ回転数を
450 min⁻¹ に設定します。

2. 操作端末 :  希釈を開始します。

→ 補助アジテーターを介して散布剤タンクに
洗浄水が注がれます。

3. 散布剤タンク充填レベルを監視します。

4. 操作端末 :  希釈を終了します。

Zustand:		spülen	
Füllstand:	2300	Liter	
verdünnen:		aus	
Behälterinnen-		aus	
reinigung:			
Rührwerk:		automatisch	
Rührdruck:	3.5 bar		

図 111



DUS搭載機では散布ラインが洗浄され
ます。改めて散布を開始する際は、濃
縮された農薬を散布できるようになる
まで2~5分の時間がかかります。

10.4 残留物

次の3種類の残留物が区別されます

- 散布作業終了時に散布液タンク内に残った余剰残留物。
- 余剰残留物は希釈して散布するか、ポンプで排出し廃棄します。
- 散布圧が 25 % 低下した際に、まだ散布液タンク、吸引装置および散布ラインに残っている技術的残留物。

吸引装置は、吸引フィルタ、ポンプおよび圧力コントローラーといったアセンブリから構成されています。技術的残留物の値に注意を払ってください (130 ページを参照) 。

- 技術的残留物は、スプレーヤーの洗浄中に希釈されて、圃場に散布されます。
- 清掃後にノズルから空気が排出されるようになって、まだ散布液タンク、吸引装置および散布ライン内に残っている最終残留物。
- 希釈された最終残留物は、清掃後に排出されます。

残留物の排除



- 散布ライン内の残留物がまだ未希釈の濃度で散布されていることを確認してください。この残留物は、必ず未作業の圃場に散布してください。この未希釈の残留物を使い尽くすのに必要な距離は、「散布ラインの主要諸元」の章 (130 ページ) に記載されています。散布ラインに含まれている残留物の量は、スプレーヤーブームの作業幅によって異なります。
- 散布液タンク内の残量が定格容量の 5% になったら、散布液タンクを完全に空にするためにアジテーターを OFF にしてください。アジテーターが ON になっていると、表示されている量より技術的残留物が多くなります。
- ユーザー保護のための対策は、残留物を空にするときにも適用されます。農薬メーカーの指示を守り、適切な防護服を着用してください。

散布ライン内の未希釈の残留物を散布するのに必要な距離
(単位: m) を算出するために使用する公式

$$\text{必要な距離 [m]} = \frac{\text{希釈不可能な残留物 [L]} \times 10,000 \text{ [m}^2\text{/ha]}}{\text{散布量 [L/ha]} \times \text{作業幅 [m]}}$$

10.4.1 散布作業終了時における散布液タンク内の余剰残留物の希釈と希釈した残留物の散布



コンフォート仕様の機械、ソフトウェア ISOBUS の取扱説明書を参照。

1. 操作端末 :  散布を OFF にします。
2. ポンプ運転回転数でポンプを駆動します。
3. 操作端末 :  希釈を開始します。
→ 余剰残留物を10倍の量の洗浄水で希釈します。
4. 散布剤タンク充填レベルを監視します。
5. 操作端末 :  希釈を終了します。
6. 操作端末で散布を ON にします。
→ 余剰残留物をすでに作業を行った圃場に散布します。
→ 希釈した残留物をノズルから空気が漏れるまで散布します。
7. 操作端末で散布を OFF にします。
8. スプレーヤーを清掃してください。

Zustand:		spülen	
Füllstand:	2300	Liter	
verdünnen:		aus	
Behälterinnen-		aus	
reinigung:			
Rührwerk:		automatisch	
Rührdruck:		3.5 bar	
			

図 112



残留物をすでに作業を行った圃場に散布する際には、薬剤の最大許容散布量に注意してください。

10.4.2 ポンプによる散布液タンクの排出

1. 適切な排出用ホースを 2 インチカムロックカップリングで機械側の排出用接続部に連結します。

2. 切り替え栓 A を  位置にします。

3. 切り替え栓 B を開きます。

4. 操作端末 : 
吸引装置を散布にします /

ボタン : 吸引装置 G を  位置にします。

5. ポンプを駆動させます (540 min⁻¹) 。

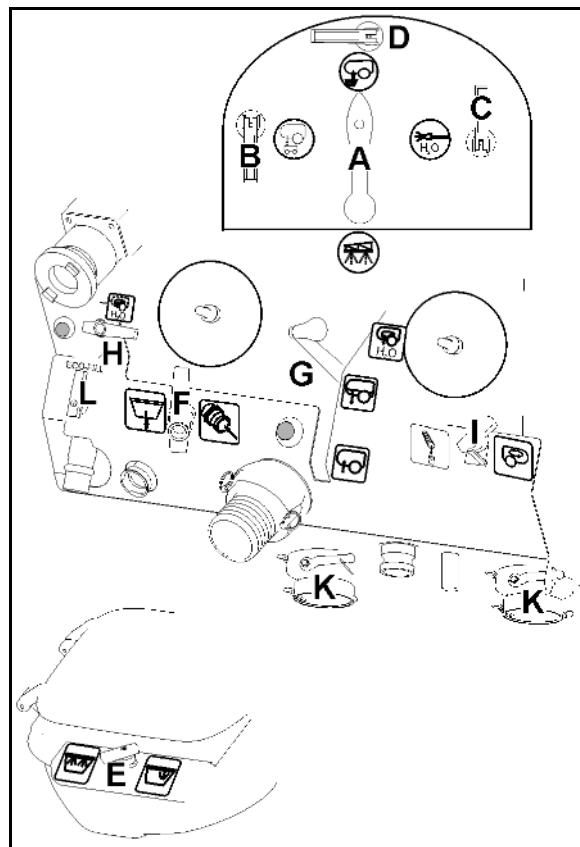


図 113

10.5 スプレーヤーの清掃



- 作用時間は、散布作業終了後に毎日清掃することなどによって可能な限り短くしてください。散布液は、例えば一晩放置するなど、必要以上に長い時間散布液タンクに入れたままにしないでください。

スプレーヤーの寿命と信頼性は、主にスプレーヤー素材に対する、農薬の作用時間に左右されます。

- 異なる農薬を使用する場合は、その前にスプレーヤーを完全に清掃してください。
- 清掃は、最後に作業を行った圃場で実施してください。
- 清掃は洗浄水タンクの水で行ってください。
- 回収装置（バイオベッドなど）があれば、清掃を農場の建物や庭などで行うことができます。

これについては国内規定を遵守してください。

- 残留物をすでに作業を行った圃場に散布する際には、薬剤の最大許容散布量に注意してください。



コンフォート仕様の機械、ソフトウェア ISOBUS の取扱説明書を参照。

10.5.1 散布液タンクが空の状態でのスプレーヤーの清掃



- 散布液タンクは毎日清掃してください！
- 洗浄水タンクは、完全に充填されていなければなりません。
- 清掃を行うには、洗浄と散布を 3 度繰り返してください。

清掃

前提条件 散布剤タンク充填レベル < 1%
(できれば散布剤タンクは空にする)。

1. ポンプを駆動し、ポンプ回転数を
450 min⁻¹ に設定します。

2. 操作端末:  清掃を開始します。

→ メインアジテーターと補助アジテーターが
洗浄され、散布剤タンク内部の清掃が ON
になります。

→ 散布剤タンク充填レベルが 4 % になると、
清掃は自動的に終了します。

→ DUS搭載機では、散布ラインも自動的に清
掃されます。

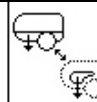
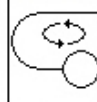
Zustand:		spülen	
Füllstand:	2300	Liter	
verdünnen:		aus	
Behälterinnen-		aus	
reinigung:			
Rührwerk:		automatisch	
Rührdruck:		3.5 bar	

図 114

散布剤タンクを空にする：

3. 操作端末:  散布を ON にします。
4. 作業済みの圃場を走行しながら、希釈した
残留物を散布します。

散布は走行中に最低でも10回はON / OFF
に切り替えてください。



ON / OFFに切り替えることにより、
バルブとリターンパイプが洗浄されま
す。

→ 希釈した残留物をノズルから空気が漏れる
まで散布します。

5. 操作端末:  散布を OFF にします。

6. 手順 1~3 を 1~2 回繰り返します。

7. 最終残留物を排出します (201 ページを参照)。
8. 吸引フィルターと圧力フィルターを清掃します (202 ページ、204 を参照)。

個別ノズル切り替え AmaSelect は使用することに清掃

AMASELECT ノズル本体を清掃するには、各ノズル本体の 4 つすべてのノズルエリアを清掃しなければなりません。

1.  手動ノズル選択を設定します。
2.  ノズルごとに 5 秒以上洗浄します。
3.  両側の限界ノズルを 5 秒以上洗浄します。
4.  追加ノズルを 5 秒以上洗浄します。

10.5.2 危険な薬剤を交換する際のスプレーヤー集中清掃

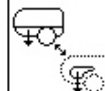
1. 通常通り 3 回の手順で、スプレーヤーを清掃します (198 ページを参照)。
2. 洗浄水タンクを充填します。
3. 2 回の手順で、スプレーヤーを清掃します (198 ページを参照)。
4. 前に圧力接続部を用いて充填していた場合 :
混入容器をスプレーガンで清掃し、混入容器の中身を吸引します。
5. 最終残留物を排出します (201 ページを参照)。
6. 吸引フィルターと圧力フィルターは必ず清掃します (202 および 204 ページを参照)。
7. 1 回の手順で、スプレーヤーを清掃します (198 ページを参照)。
8. 最終残留物を排出します (201 ページを参照)。

10.5.3 化学清掃の実施



- 化学清掃は、危険な薬剤変更および長期保管の前におすすめします。
- 集中清掃後に化学清掃を実施します。

- 機械の集中清掃を実施します。
 - ポンプを駆動します。
 - 散布剤タンクに水を 100 l 充填して、メーカー規定量の洗剤を加えます。
 - 操作端末：  清掃を開始します。
- ポンプを用いて、混合液を機械内で循環させます (10 分) 。
- 作業済みの圃場に混合液を散布します。

Zustand:		spülen	
Füllstand:	2300	Liter	
verdünnen:		aus	
Behälterinnen-		aus	
reinigung:			
Rührwerk:		automatisch	
Rührdruck:	3.5 bar		

使用可能な洗剤のリスト

製品	製造者
Agro-Quick	Adama
JET CLEAR	Sudau agro
Proagro Spritzenreiniger	proagro GmbH

10.5.4 最終残留物の排出



- 圃場で行う場合は、最終残留物を排出します。
- 農場の建物（または庭）で行う場合は、
 - 吸引装置の排出口下と、圧力フィルタ用排出ホースの下に適した受け容器を置き、最終残留物を回収します。
 - 容器で受けた散布液残留物は、該当する法規に従い廃棄してください。
 - 散布液残留物は、適した散布剤タンクに集めてください。

1. ポンプを OFF にします。



2. 操作端末：

吸引装置を散布にします /



ボタン 吸引装置 G を
位置にします。

3. 切り替え栓 I を  位置にします。

4. 停止栓 K を開きます。

→ 最終残留量が排出されます。

5. 停止栓 K を再び閉じ、切り替え栓 I を 0 位置にします。

Zustand:		spülen	
Füllstand:	2300	Liter	
verdünnen:		aus	
Behälterinnen-		aus	
reinigung:			
Rührwerk:		automatisch	
Rührdruck:		3.5 bar	

図 115

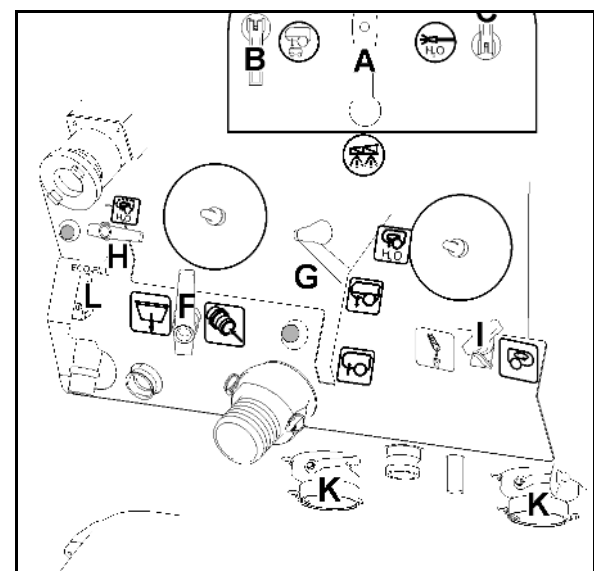


図 116

10.5.5 散布剤タンクが空の状態ですりフィルターを清掃する



吸引フィルター（図 117）は、スプレーヤーの清掃後に毎日清掃してください。

1. 吸引フィルターのカバーを外します（図 117/2）。
2. 吸引フィルター付きカバー（図 117/3）を取り外し、水で清掃します。
3. 逆の手順で吸引フィルターを再び組み立てます。
4. フィルターケースに漏れがないか点検します。

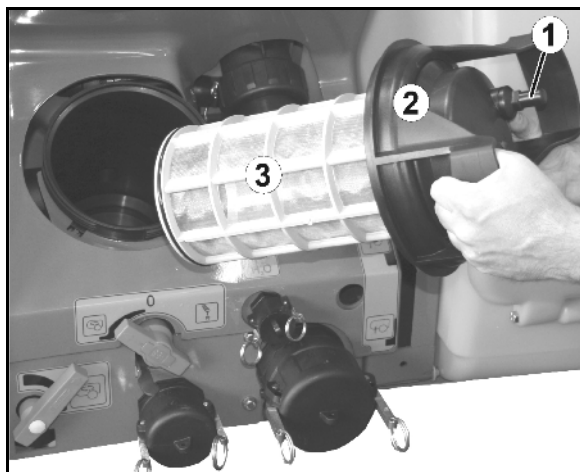


図 117

10.5.6 散布剤タンクが充填された状態で吸引フィルタを清掃する

散布剤タンクが充填された状態で吸引フィルターを清掃する場合は、充填メニューを呼び出す必要があります！



1. 操作端末：  充填メニューを呼び出します。
2. ポンプを駆動し、ポンプ回転数を 300 min⁻¹ に設定します。
3. 吸引カップリングにストッパーキャップをかぶせます。



4. 切り替え栓 A を  位置にします。



5. ボタン： 吸引装置 G を  位置にします。

→ フィルタカップが空になるまで吸引されます。

6. 吸引フィルターのカバーを外します。
7. 吸引フィルターの解放バルブを操作します。
8. 吸引フィルター付きカバーを取り外し、水で清掃します。
9. 逆の手順で吸引フィルターを再び組み立てます。



図 118

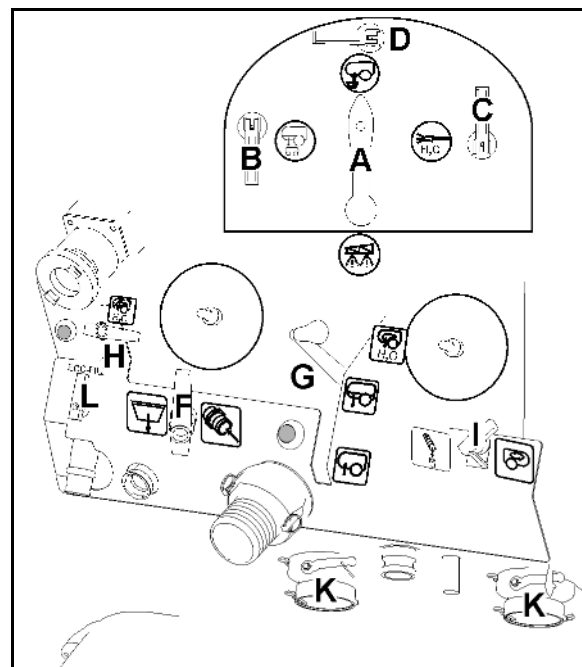


図 119

10. フィルターのカバーの気密性が保たれているか確認します。



11. ボタン： 吸引装置 G を  位置にします。



12. 切り替え栓 A を  位置にします。

10.5.7 散布剤タンクが空の状態です圧力フィルター を清掃する

1. ユニオンナットを緩めます。
2. 圧力フィルター (図 120/1) を取り外して、水で洗います。
3. 圧力フィルターを再び取り付けます。
4. ねじがしっかりしまっているか点検します。

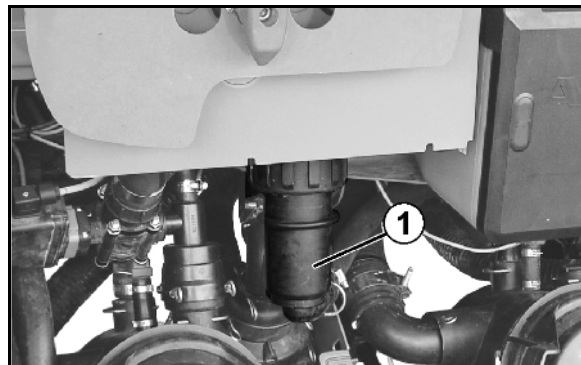


図 120

10.5.8 散布剤タンクが充填された状態で圧力フィルタを清掃する

1. ボタン： 吸引装置 G を  位置にします。
 2. 切り替え栓 I を  位置にします。
- 圧力フィルター内の残留量が排出されます。
1. ユニオンナットを緩めます。
 2. 圧力フィルター (図 120/1) を取り外して、水で洗います。
 3. 圧力フィルターを再び取り付けます。
 4. ねじがしっかりしまっているか点検します。
5. 切り替え栓 I を位置 0 にします。

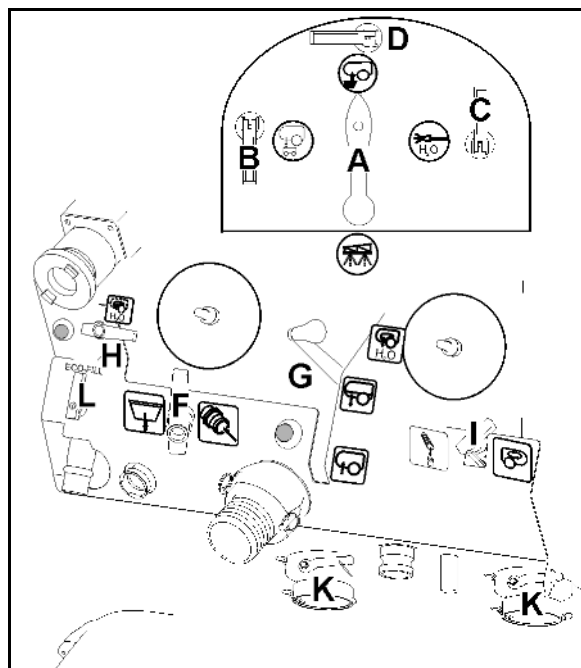


図 121

10.5.9 外部の清掃

1. ポンプを駆動します。
2. ボタン 吸引装置 G を  位置にします。
3. 切り替え栓 A を  位置にします。
4. 切り替え栓 C を開きます。
5. スプレーガンを用いて、スプレーヤーとスプレーヤーブームを清掃します。

外部の清掃後

6. 切り替え栓 C を閉じ、さらに
7. 切り替え栓 A を  位置にします。
8. ボタン 吸引装置 G を  位置にします。

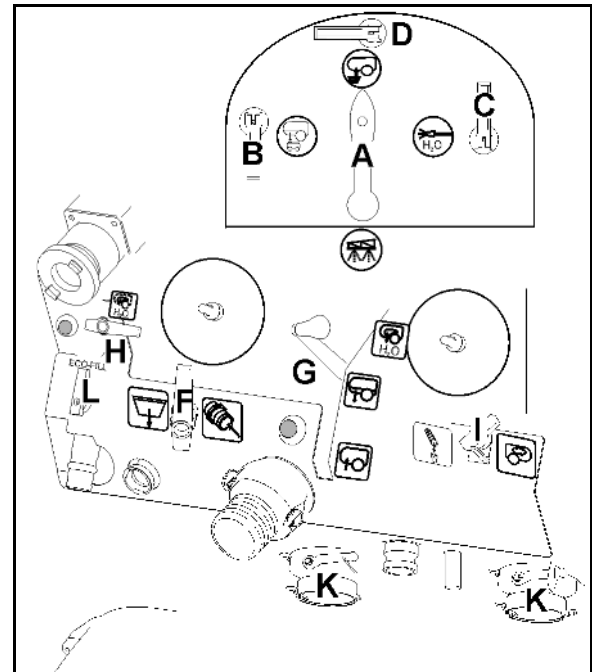


図 122

10.5.10 散布剤タンクが充填された状態でスプレーヤーを清掃する（作業の中断）



悪天候により散布作業を中断する場合は、吸引室（吸引フィルター、ポンプ、圧力コントローラー）および散布ラインを必ず清掃してください。

1. ポンプを駆動します。



2. 操作端末： 吸引装置を洗浄水吸引にします /



ボタン 吸引装置 G を 位置にします。

→ 洗浄水が吸引され、アジテーターが閉じます。

Zustand:		spülen	
Füllstand:	2300	Liter	
verdünnen:		aus	
Behälterinnen-		aus	
reinigung:			
Rührwerk:		automatisch	
Rührdruck:	3.5 bar		

DUSが搭載されていない場合

図 123



3. 操作端末： 散布を ON にします。

走行しながら、最低でも 50Lの洗浄水を未作業の圃場に散布します。

→ スプレーヤーが洗浄水で清掃されます。

- 散布剤タンクとアジテーターはまだ清掃されていません！
- 散布剤タンク内の散布液濃度は変化していません。

DUSが搭載されている場合

→ スプレーヤーが洗浄水で清掃されます。

これには作業幅1mごとに2Lの洗浄水が使用されます（充填レベルに注意してください）。



4. 操作端末： 散布を一時的に ON にします。

→ ノズルが洗浄されます。

5. 薬剤の濃度が下がってしまうので、すぐにポンプを OFF にします。
- 散布剤タンクとアジテーターはまだ清掃されていません！
 - 散布剤タンク内の散布液濃度は変化しています。

散布作業を続行する



散布作業を続行する前に、ポンプを 5 分間 540 rpm で駆動させ、アジテーターを完全に ON にします。

11 DoubleTrail



危険

事故の危険があります！

道路を走行するには、道路ステアリングモードを ON にしてください！

トレーラー連結の角度エンコーダー



危険

電圧・油圧供給がまだ差し込まれており、牽引車両が稼働している場合、角度エンコーダーの連結が解除され、作動すると、ステアリングされる軸によって負傷する恐れがあります！

角度エンコーダーの連結を解除する前に、必ず電圧供給を先に遮断してください。



危険

トレーラーの連結エリアで作業する際に負傷する危険があります。角度エンコーダーの連結には負荷をかけないでください。

走行開始前に、連結部が不規則に曲がっていないか確認してください。連結部が曲がっていると、まっすぐに走り出せなくなり、ステアリング角度が正しくなくなります。



危険

走行開始前に、角度エンコーダーと電圧・油圧供給が正しく接続されていることを確認してください！走行開始から最初の数メートルの間、ステアリングシステムのエラー信号を観察してください。

11.1 操作端末

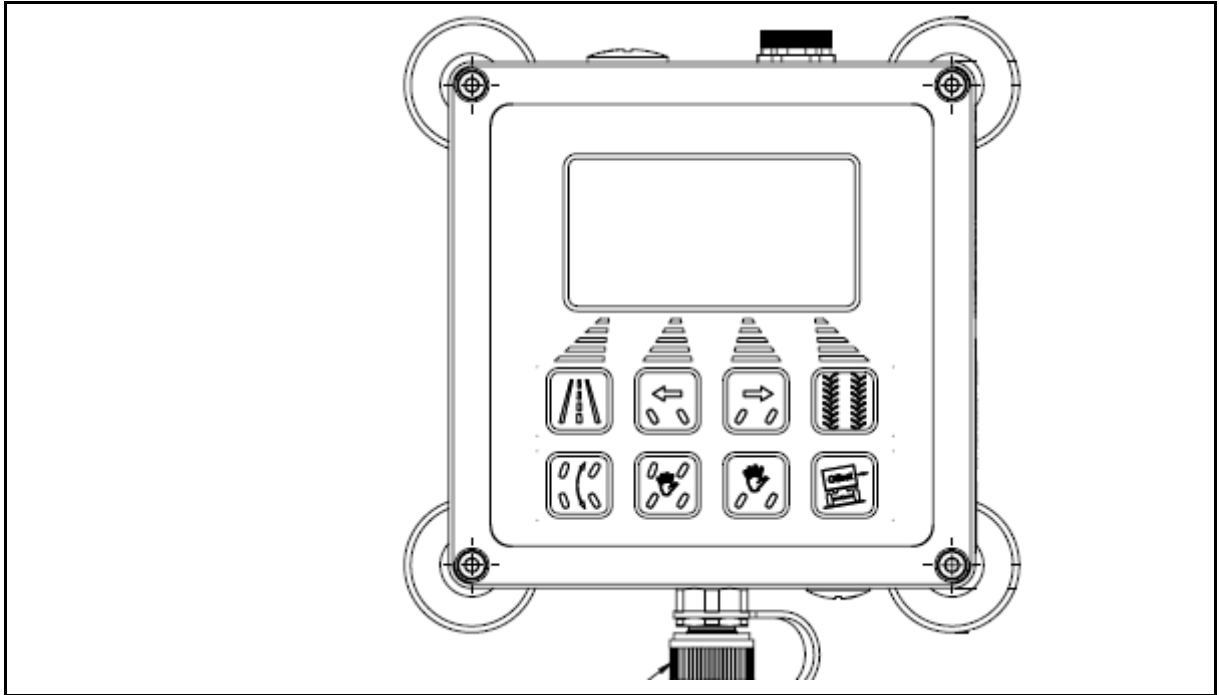


图 124

操作ボタン



選択したステアリングプログラムは、該当するボタンが点灯すること
で示されます。



圃場ステアリングモード (全輪ステアリング)



道路ステアリングモード (後軸をステアリング
)



自動



手動



軸を左へ



軸を右へ



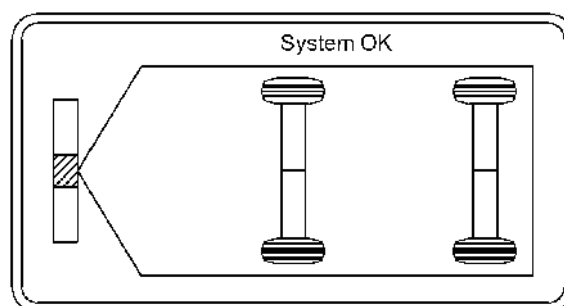
圃場モードステアリングプログラム
:
クラブステアリング



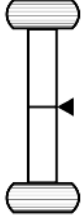
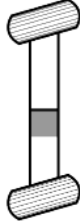
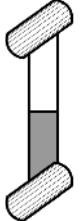
機能なし

グラフィック表示

ステアリングされる各軸のステアリング実測値が、グラフィックデ
ィスプレイに記号で表示されます。



エラーメッセージはエラーコードとして表示されます。さらに、新
しいエラーが発生するごとに、そしてエラー状態で始動する際に、
ブザー音が短く鳴ります。

		
軸をロック	軸をステアリング	軸を最大限ステアリング

11.2 道路走行モード

- ステアリングシステムを ON にすると、このシステムは通常、道路走行ステアリングモードになっています。
- ステアリングシステムが圃場ステアリングモードになっている場合、 ボタンを押すことで道路ステアリングモードに切り替えることができます。
- 走行速度 20 km/h 以上になると、ステアリングシステムは自動的に道路モードに切り替わります。

道路モードでは、前軸は固定軸として稼働し、後軸は機械と牽引車両の間の曲がり角度に対応して逆向きにステアリングされます。

11.3 圃場モード



警告

圃場モードで道路を走行することにより、事故の危険があります。ステアリングプログラムの圃場モードは、公道走行には使用できません！このモードは、圃場において轍に沿って追走すること、あるいは農場で操車することだけを目的に使用するものです。

11.3.1 圃場モードのスイッチ ON と OFF

-  圃場モードボタンを押し、それから離します。
→ ボタンの LED が点滅します。
- 希望するステアリングプログラムのボタンを押します：
 -  圃場での全輪ステアリング



○ 操車用の手動ステアリング

- 可能な選択肢を表すために、選択可能なステアリングプログラムのボタンの LED が点滅します。
- しばらくしてもステアリングプログラムが選択されていない場合、操作シーケンスは自動的に OFF になります。
圃場モードボタンの LED が消灯します。圃場モードが有効になりませんでした。

圃場モードが有効になると、圃場モードボタンの LED が常時点灯します。

次の場合には、ステアリングプログラムのボタンが点滅します：

- 軸が選択したステアリングプログラムに対してまだ正しくない。
- 1 本以上の軸がストッパー上にあり、これ以上偏向できない。
運転者は、ステアリング挙動が変化しており、ステアリングで強いズレが発生する場合があることに注意してください。
- 車両速度は圃場モード用の警告閾値を超過しました。
車両は圃場モードで最大許容車両速度との境界範囲で走行します。

次の条件が満たされている場合にのみ、圃場モードを **ON** にできます。

- 機械が止まっている。
- 速度信号にエラーがない。
- 深刻なエラーが発生していない。
- 操作シーケンスが正しく実行されている。

走行モードは以下によって OFF になります：

- 道路ボタンを押す。
- 許容走行速度の超過時の自動 OFF。
- ステアリングシステムを OFF にし、ON にする。

ステアリングプログラム間の切り替え



圃場モード内で、低速の走行速度まで、ステアリングプログラムを切り替えることができます。

走行中の切り替え時には、軸の同期が自動的に行われます。

11.3.2 ステアリングプログラムトラックフォローステアリング

1.  圃場ボタンを押します
2.  トラックフォローステアリングボタンを押します。

→ このステアリングプログラムでは、機械が牽引車両の轍の上を最も良く追走するような形状で走行します。

補助ボタン  と  により、軸の規定角度にオフセットを与えることができます。これにより、トラックフォローステアリングにおいても、傾斜でのずれに対応できます。



をもう一度押すと、このオフセットが再びリセットされます。

11.3.3 手動モードステアリングプログラム

1.  圃場ボタンを押します
2.  手動モードボタンを押します。
3.  / 

ボタンは、手動で希望するステアリング角度に到達するために押します

→ このステアリングプログラムは、主に農場内での操車に使用します。



この際、矢印方向は走行方向における牽引車両のステアリング方向に相当します。

運転者はこれにより、規定値に従って軸のステアリングを直接制御できます。



警告

曲がり角度と、ステアリング角度に対する手動オフセットに、同時に依存したり、あるいはこれらが相互に影響するように依存することにより、事故が発生する危険があります。

このオフセットは慎重に用いてください。

11.4 軸の同期

ステアリングシステムの運転状況が変化すると、ステアリングされる軸が形状的に正しくない位置をとる場合があります。正しい位置へ到達するための軸の最初のステアリングを、軸の同期と呼びます。

運転ステータスの変化の例：

- ステアリングシステムの OFF および ONN
- ステアリングプログラムの切り替え

軸の同期を実行するには、走行速度が低速でなければなりません。

11.5 テストとエラー

11.5.1 スイッチ ON テスト

ステアリングシステムをオンにした後、ステアリングシステムは照明とブザーのテストを実行します。すべての照明とブザーが短く 2 回制御されます。

油圧バルブを点検します。



- スイッチ ON テストのために、機械は停止していなければなりません。
- ステアリングシステムのエラーを見分け、取り除くために、このスイッチ ON テストに注意してください。

11.5.2 エラーランプとエラーブザー

システムのイベントは、エラーランプで表示されます。一度発生したイベントは、その理由がまだ存在するかどうかにかかわらず、通常は恒久的に存在し続けます。イベント発生時に車両が動作中である場合には、さらにエラーブザーが鳴ります。ステアリングコンピュータが完全に故障しているのでなければ、エラー状態で走り出す際にも、エラーブザーが鳴ります。

イベントの原因を取り除いたか、あるいは原因がなくなった場合、ステアリングコンピュータを OFF にしてから ON にすることで、表示はリセットできます。

11.5.3 エラーメモリー

発生したエラーは、ステアリングコンピュータの EEPROM に恒久的に保存されます。このメモリーには 32 件のイベントの容量があります。各イベントは、ここでエラーコードとともに保存されます。

12 障害



警告

以下のことによる、つぶれ、変形、切断、閉じ込め、引き込まれ、または衝撃の危険。

- トラクターの 3 点式油圧システムで上昇させた機械が不意に降下。
- 上昇した、固定していない機械部品の意図しない落下。
- トラクターと機械が不意に始動して走り出すこと。

機械の不具合を直す前に、不意に作動して走り出すことがないように、トラクターと機械を固定してください (155 ページを参照) 。

機械の危険区域に立ち入る前に、機械が静止するまで待ってください。

不具合	原因	対策
ポンプによって吸引されない	吸引側 (吸引フィルタ、フィルタインサート、吸引ホース) の詰まり。	詰まりを取り除きます。
	ポンプがエアを噛んでいる。	吸込口の吸引ホース (オプション) のホース接続部に漏れがないか点検します。
ポンプが弱々しい	吸引フィルタとフィルタインサートの汚れ。	吸引フィルタとフィルタインサートを清掃します。
	バルブの固着または損傷。	バルブを交換します。
	ポンプが空気を吸い込んでいます (散布液タンク内の気泡で分かります) 。	吸引ホースのホース接続部に漏れがないか点検します。
円錐状の散布範囲が揺れ動く	ポンプからの吐き出しが不規則。	吸引側と圧力側のバルブを点検し、必要に応じて交換します (260 ページのページを参照) 。
オイルと散布液の混合液がオイル注入口にあるか、オイルの消費がはっきり確認できる	ポンプのダイヤフラムの不具合。	6つのピストンダイヤフラムをすべて交換します (261ページを参照) 。
入力した必要な散布量に達しない	走行速度が速い。ポンプ駆動回転数が低い。	故障メッセージが消えて警告音がやむまで、走行速度を遅くし、ポンプ駆動速度を上げます。

スプレーヤーブームに装着されたノズルが、許容散布圧範囲から逸脱している	規定の走行速度からの逸脱（これは散布圧に影響を及ぼします）	走行速度を変え、散布作業向けの規定の範囲内の走行速度に戻します。
散布液が流出	漏れ	散布剤タンクの下の停止栓を閉じ、漏れを解消します。

13 清掃、メンテナンスおよび修理



警告

以下のことによる、つぶれ、変形、切断、閉じ込め、引き込まれ、または衝撃の危険。

- トラクターの 3 点式油圧システムで上昇させた機械が不意に降下。
- 上昇した、固定していない機械部品の意図しない落下。
- トラクターと機械が不意に始動して走り出すこと。

機械に対する清掃、メンテナンスまたは修理作業を実施する前に、不意に作動して走り出すことがないように、トラクターと機械を固定してください (155 ページを参照)。



警告

保護されていない危険箇所による、つぶれ、変形、切断、閉じ込め、引き込まれ、または衝撃の危険。

- 機械の清掃やメンテナンス、修理のために取り外した保護装置を取り付けてください。
- 不具合のある保護装置は、新品のものに交換してください。



危険

- メンテナンス・修理を実施する際は、安全上の注意事項 (特に 44 ページのページの「スプレーヤーの操作」) を守ってください。
- 上昇した位置にある可動機械部品の下でメンテナンス・修理作業を行う場合は、それらの部品が不意に下降しないよう、必ず適切なフィットするロック装置によって固定してください。

始動する前に毎回

1. ホース / パイプと接続部に、目に見える欠陥 / 密閉されていない場所がないか確認してください。
2. ホースとパイプにこすり傷があれば修理します。
3. 摩耗または破損したホースとパイプをすぐに交換します。
4. 漏れのある接続部をすぐに取り除いてください。



- 定期的に正しいメンテナンスを行うことで、スプレーヤーを長期間、良好な状態に維持し、早期の磨耗を防ぐことができます。定期的に正しいメンテナンスを実施することは、弊社の保証条件の要件のひとつとなっています。
- 必ず AMAZONE 純正交換部品を使用してください（これについては「交換・磨耗部品および補助装置」の章、21 ページを参照）。
- 必ず AMAZONE 純正交換用ホースを使用し、V2A のホースクランプを使って取り付けてください。
- テスト・メンテナンス作業を実施するには専門知識が必要です。この専門知識は、本取扱説明書には記載されていません。
- 清掃・メンテナンス作業を実施するときは、環境保護対策を守ってください。
- 潤滑油（例：オイル、グリース）を廃棄処分にするときは、法令を順守してください。これらの潤滑油と接触する部品も、これらの法令の対象となります。
- 高圧グリースガンを使って注油する場合は、注油圧力が 400 bar を超えないようにしてください。
- 以下のことは禁止されています。
 - ドリルを使ってシャシーに穴を開けること。
 - フレームにすでに存在する穴を、ドリルを使って拡大すること。
 - 荷重支持部品を溶接すること。
- 特に重要な場所で以下の作業を行う場合は、保護対策（ラインを覆う、ラインを外すなど）が必要になります。
 - 溶接、ドリル穴あけ、研削作業時。
 - 樹脂製ワイヤーや電気配線の近くで、切断ホイールを使って作業する場合。
- 修理作業を実施するときは、事前にスプレーヤーを入念に水で洗浄してください。
- スプレーヤーの修理作業は、ポンプが停止した状態で実施してください。
- 散布液タンク内の修理作業を行う場合は、その前に入念に洗浄してください！ 散布液タンクの中には入らないでください。

- いずれのメンテナンス作業においても、機械ケーブルをボードコンピュータから外し、ボードコンピュータへの電源供給を遮断してください。この指示は特に機械の溶接作業時に当てはまります。

13.1 清掃



- ブレーキ、空気および油圧ホースラインは、特に入念に点検してください。
- ブレーキ、空気または油圧ホースラインには、絶対にベンジン、ベンゼン、灯油または鉱油は使用しないでください。
- 清掃後（特に高圧洗浄機/スチームジェットまたは脂溶性溶媒を使って清掃したあと）は、スプレーヤーに注油してください。
- 洗浄剤の取り扱いと除去については、法令を順守してください。

高圧洗浄機/スチームジェットを使った清掃



- 高圧洗浄機/スチームジェットを使用して清掃する場合は、必ず以下の点を守ってください。
 - 電気部品は一切、清掃しないでください。
 - クロムめっきした部品は一切、清掃しないでください。
 - 注油箇所、支持箇所、機器銘板、警告表示および接着フィルムに対しては、絶対に高圧洗浄機 / スチームジェットの洗浄ノズルを直接向けて清掃しないでください。
 - 高圧洗浄機 / スチームジェットの洗浄ノズルと機械との間には、必ず 300 mm 以上の間隔をあけてください。
 - 高圧洗浄機 / スチームジェットの設定圧力は、120 bar を超過してはなりません。
 - 高圧洗浄機を使って作業する場合は、安全規則を守ってください。

13.2 冬季の保管および長期間使用しない場合

1. 冬季保管を行う前に、スプレーヤーを念入りに清掃してください。
 - 散布剤タンクが空の状態ですプレーヤーを清掃します (198 ページ参照)。
 - 最終残留物を排出します。
 2. 洗浄作業が完了し、散布ノズルから液体が出なくなったら、散布ポンプを回転数を落として駆動し、「空気をポンプで送る」ようにします。
 3. 停止栓 K を開き、吸引側の技術上の理由による残留量を排出し、吸引装置 G において様々な位置の間で切り替えを繰り返し、その後停止栓 K を再び閉じます。
 4. 切り替え栓 I を位置  にし、吐出側の技術上の理由による残留量を排出し、切り替え栓 A において様々な位置の間で切り替えを繰り返し、その後切り替え栓 I を再び位置 0 にします。
 5. 各スプレーヤーブームセクションごとに、ノズル本体からダイヤフラムバルブを取り外し、ノズルラインが空運転できるようにします。
 6. 吸引装置と圧力装置で位置を複数回切り替えた後に、ノズルラインのどのセクションからも液体が出なくなったら、ポンプ駆動装置を OFF にします。
 7. 吸引フィルタと圧力フィルタを取り外して清掃してください。
 8. ポンプの圧力ホースを分解し、残った水を圧力ホースと圧力装置から排出させます。
 9. 圧力装置のすべての位置に、もう一度切り替えます。
 10. ポンプ吐出側の接続部から液体が出なくなるまで、約 30 秒間スプレーヤーポンプを作動させます。
-  残量分が圧力接続部から高圧で吹き出るおそれがあります。
11. 汚れを防ぐために、ポンプの圧力接続部を覆います。
 12. プロペラシャフトのユニバーサルジョイントに注油し、長期間使用しない場合には、異形パイプにグリースを塗布します。
 13. 冬季保管の前に、ポンプのオイル交換を行います。

14. 混入容器とインジェクタのホースから液体を排出します。
15. 排出口のキャップナットを外して、洗浄水タンクを空にしてください。



- 氷点下の温度では、氷の残留物によってピストンとピストンダイヤフラムが損傷するのを防ぐため、ピストンダイヤフラム式ポンプを初期設定の前に手で回してください。
- 圧力計および電子付属品は、霜が付着しない場所で保管してください。

16. Super (スーパー) L ブーム :
ブームの圧力センサーは、ブームを降下させた状態で、ホースを外すことで排水します。

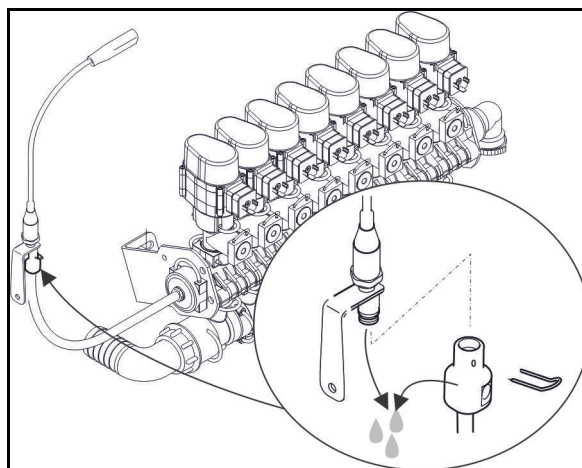


図 125

17. メインアジテーターの圧力センサーは、圧力センサーのねじを外すことで排水します。

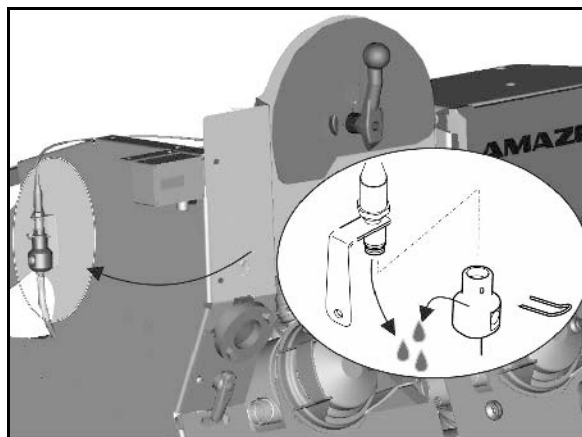


図 126



初期設定を再実行する前に：

- 取り外したすべての部品を取り付けます。
- 吸引室の切り換え栓を閉じます。
- 氷点下の温度では、氷の残留物によってピストンとピストンダイヤフラムが損傷するのを防ぐため、ピストンダイヤフラム式ポンプを初期設定の前に手で回してください。
- 圧力計および電子付属品は、霜が付着しない場所で保管してください。

13.3 注油規定



すべてのグリースニップルに注油してください（ガスケットは汚さないようにしてください）。

規定の間隔で機械に注油（グリースを塗布）してください。

機械の注油ポイントには、ラベル（図 127）が貼付されています。

汚れが軸受の内部に入り込まないように、注油の前に、注油ポイントとグリースガン을丁寧に清掃してください。汚れたグリースは完全に軸受から押し出し、新しいグリースに置き換えてください。

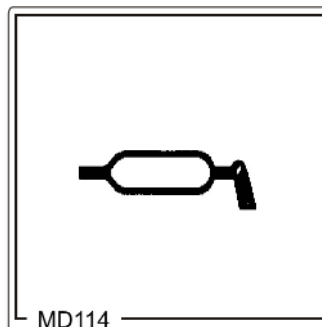


図 127

潤滑剤



潤滑作業には多目的リチウム鹼化グリース（EP 添加剤あり）を使用してください。

会社	潤滑剤の名称	
	通常の使用条件	過酷な使用条件
ARAL	Aralub HL 2	Aralub HLP 2
FINA	Marson L2	Marson EPL-2
ESSO	Beacon 2	Beacon EP 2
SHELL	Retinax A	Tetinax AM

13.3.1 注油ポイントの概要

	注油ポイント	間隔 [h]	注油ポイントの数	注油タイプ
図 128				
1	サポートスタンド用の油圧シリンダー	100	2	注油ニップル
2	牽引バーベアリング	50	2	注油ニップル
3	ルネットアイ	50	1	グリースを塗布
図 129				
1	パーキングブレーキ	100	1	ケーブルとプーリーにグリースを塗布します。 注油ニップルで軸に注油します。
図 130				
1	リフトシリンダー	100	4	注油ニップル
図 133				
1	ハイドロニューマチック・サスペンションの油圧シリンダー サスペンション	100	4	注油ニップル
図 134				
	プロペラシャフト		5	注油ニップル
図 131	トラッキング用ステアリング軸			
図 132	標準軸			
1	キングピンベアリング、上下	40		注油ニップル
2	ステアリング軸のステアリングシリンダーヘッド	200		注油ニップル
3	ブレーキ軸ベアリング、外側と内側	200		注油ニップル
4	スラックアジャスター	1000		注油ニップル
5	オートスラックアジャスター ECO マスター	1000		注油ニップル
6	ホイールハブベアリングのグリースを交換し、円錐ころ軸受が磨耗していないか確認	1000		注油ニップル

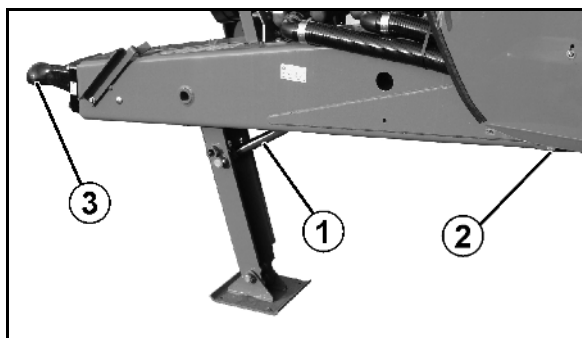


図 128

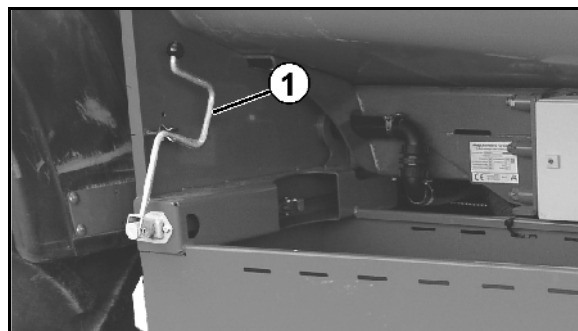


図 129

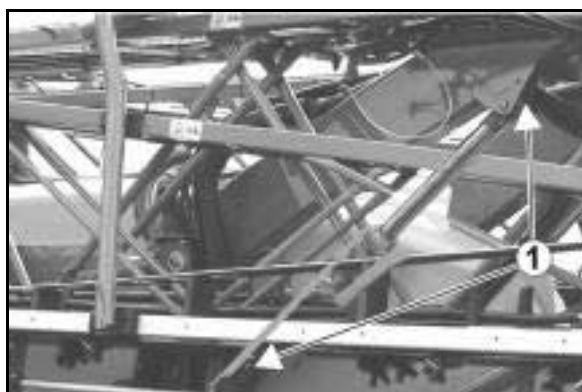


図 130

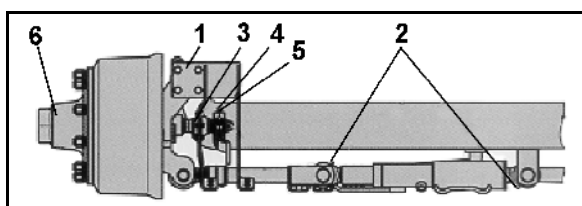


図 131

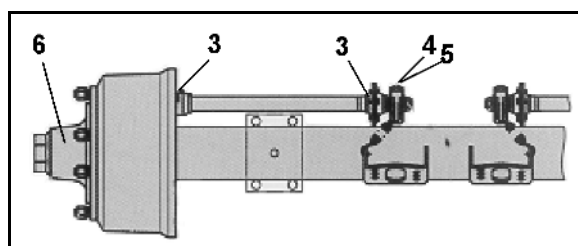


図 132

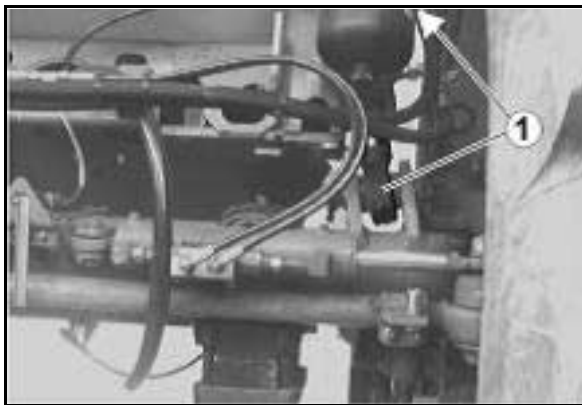


図 133

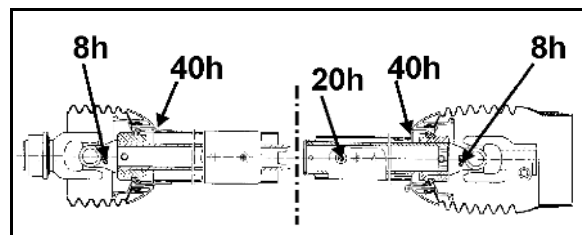


図 134



- 冬期の運転時には、保護パイプにグリースを塗布し、凍結を防ぎます。
- プロペラシャフトに付けられている、プロペラシャフトメーカーによる取付け時の注意事項とメンテナンス注記を遵守してください。

ステアリング軸のステアリングシリンダーヘッド

この潤滑作業のほかに、ステアリングシリンダーと供給ラインが常にエア抜きされていることを確認してください。

ブレーキ軸ベアリング、外側と内側

注意！ブレーキにグリースやオイルが到達してはいけません。シリーズによっては、カムベアリングはブレーキ側で密閉されていません。

滴点が 190°C を上回るリチウム石鹼グリースを使用してください。

オートスラックアジャスター ECO マスター

ブレーキライニングを交換するごとに:

1. ゴム製ストッパーキャップを取り外します。
2. 調整ねじから新しいグリースが十分に出てくるまで、注油します (80 g)。
3. ボックスレンチを用いて、調整ねじを約 1 回転戻します。
ブレーキレバーを、何度も手で操作します。
4. その際、自動再調整がスムーズに行われなければなりません。
必要なら、何度も繰り返します。
5. ストッパーキャップを取り付けます。再びグリースを塗布します。

ホイールハブベアリングのグリースを交換

1. 事故が生じないように車両をジャッキで持ち上げ、ブレーキを解除します。
2. ホイールと塵除けキャップを取り外します。
3. スプリントを外し、軸ナットを回し取ります。
4. 適切な工具を用いてホイールハブを、ブレーキドラムや円錐ころ軸受、シールと共に、ステアリングナックルから引き抜きます。
5. 取り外したホイールハブとベアリングケージに印をつけ、組み立てる際に間違えないようにします。
6. ブレーキを清掃して、磨耗や完全性、機能を確認し、磨耗したパーツを交換します。
ブレーキの内側に潤滑剤や汚れが入ることがないようにしてください。
7. ホイールハブの内側と外側を入念に清掃します。古いグリースを完全に取り除きます。ベアリングとシールを入念に清掃し（ディーゼル油）、再び使用できるか確認します。
ベアリングを取り付ける前に、ベアリングシートに軽くグリースを塗布し、逆の手順ですべての部品を取り付けます。プレスフィットのパーツをパイプブッシュと共に、ねじったり損傷したりすることなく、慎重にはめます。
ベアリング、ベアリング間のホイールハブの空洞部分、およびちり除けキャップは、取り付け前にグリースを塗布します。グリースは、取り付けたハブにおいて空洞のおよそ四分の一から三分の一充填する量が適切です。
8. 軸ナットを取り付け、ベアリングおよびブレーキの設定を行います。最後に機能を点検して、相応のテスト走行を実施し、欠陥があれば取り除きます。



ホイールハブベアリングの潤滑には、滴点 190°C を超える BPW 特殊ロングライフグリースだけを使用できます。

不適切なグリースを使用したり、グリースの使用量が多すぎる場合、損傷につながる恐れがあります。

リチウム石鹸グリースとナトリウム石鹸グリースを混ぜて使用してはいけません。損傷につながるおそれがあります。

13.4 メンテナンス計画 – 概要



- 初回点検間隔に達したら、メンテナンス作業を実施してください。
- 他社製品については、同梱された製品の説明書に記載されている回数、継続的な整備またはメンテナンス間隔を優先してください。

負荷がある状態での初回走行後

構成部品	整備作業	参照ページ	工場での作業
タイヤ	ホイールナットの確認	242	
ハイドロニューマチック・サスペンション	ねじがしっかり締まっているか点検します。	246	
牽引装置	ねじがしっかり締まっているか点検します。	246	
油圧系統	漏れがないか点検	247	
散布ポンプ	オイル量の点検	258	

毎日

構成部品	整備作業	参照ページ	工場での作業
機械全体	明らかな故障がないか目視検査		
オイルフィルタ (Profi-folding の場合)	汚染インジケータを確認します	252	
	必要に応じて交換します。		X
散布ポンプ	清掃、洗浄	258	
散布液タンク		197	
ノズルライン内のラインフィルタ (備わっている場合)		269	
散布ノズル		265	
ブレーキ	空気タンクの排水	249	

毎週 / 50 運転時間ごと

構成部品	整備作業	参照ページ	工場での作業
油圧系統	漏れがないか点検	247	X
タイヤ	空圧をチェックします。	242	
連結装置	破損や変形、亀裂がないか点検します。	244	

3 ヶ月 / 200 運転時間ごと

構成部品	整備作業	参照ページ	工場での作業
ブレーキ	- 密閉性検査 - 空気タンクの圧力を点検 - ブレーキシリンダー圧力を点検 - ブレーキシリンダーの目視検査 - ブレーキバルブ、ブレーキシリンダーおよびブレーキライニングのジョイント	239	X
	自動緩み調整装置のブレーキ設定	236	X
	ブレーキライニングの確認		
タイヤ	ホイールハブベアリングのあそびを確認	235	X
ラインフィルタ	- 清掃 - 損傷したフィルタインサートの交換	269	
ハイドロニューマチック・サスペンション	ねじがしっかり締まっているか点検します。	246	
パーキングブレーキ	ブレーキをかけた状態で制動効果を確認します。	241	
ブーム	サイドアームに亀裂や亀裂の兆候がないか確認します。		
連結装置	摩耗がないか、取り付けボルトが緩んでいないか点検します。	244 244	

毎年 / 1000 運転時間ごと

構成部品	整備作業	参照ページ	工場での作業
散布ポンプ	• オイル交換	259	X
	• バルブを点検し、必要に応じて交換	260	X
	• ピストンダイヤフラムの点検（必要に応じて交換）	261	X
	• 圧力ダイヤフラムを点検し、必要に応じて交換	263	X
流量計とリターン流量計	• 流量計のキャリブレーション • リターン流量計を比較	263	
ノズル	• スプレーヤーのキャリブレーション、横方向の分布の点検、必要に応じて、磨耗したノズルの交換	265	
ブレーキドラム	• 汚れがないか点検	234	X
タイヤ	• ホイールナットの確認	242	
ブレーキ	自動緩み調整装置: • 機能点検 • ブレーキ設定	236	X
油圧系統	• 蓄圧器の点検	247	X

必要に応じて

構成部品	整備作業	参照ページ	工場での作業
Super (スーパー) L ブーム	• 設定の修正	255	X
マグネットバルブ	• 清掃	253	X
油圧スロットルバルブ	• 操作速度の設定	255	
牽引バー	• 磨耗部品を交換	244	
油圧プラグ	• 油圧プラグ内のフィルターをすすぐ / 交換する	254	

13.5 軸とブレーキ



制動挙動を最適にし、ブレーキライニングの磨耗を最小化するために、トラクターとスプレーヤーの間でブレーキ調節を推奨します。このブレーキ調節は、ブレーキシステムを適切な時間使用した後、専門工場に依頼してください。

ブレーキライニングで過度の磨耗を見つけた場合には、この経験に基づく値に達する前に、ブレーキ調節を実行してください。

ブレーキで問題が発生するのを避けるために、EC 指令 71/320 EEC に基づき車両全体を設定してください！



警告！

- ブレーキシステムの修理と調整作業は、訓練を受けた専門作業員だけが実行できます。
- ブレーキラインの近くで溶接、切断トーチを使った切断、またはドリル加工を行うときは、特に注意してください。
- ブレーキシステムの調整および修理作業を行ったあとは、必ずブレーキテストを入念に実施してください。

一般的な目視検査



警告

ブレーキシステムに対して一般的な目視検査を実施してください。次の基準を遵守し、点検してください:

- パイプライン、ホースラインおよびカップリングヘッドの表面に損傷や腐食箇所があってははいけません。
- ジョイント (フォークヘッドのジョイントなど) は正しく固定され、支障なく稼働し、がたつきがない状態でなければなりません。
- ケーブル
 - 問題なくガイドされていないではありません。
 - 裂け目があってははいけません。
 - 結び目があってははいけません。
- ブレーキシリンダーの行程を確認し、必要な場合には調節します。
- 空気タンクは
 - テンションベルト内で動いてはいけません。
 - 損傷してはいけません。
 - 腐食による損傷が見られてはいけません。

ブレーキドラムに汚れがないか点検（工場での作業）

1. ブレーキドラム内側の両カバーシート（図 135/1）を回して取り外します。
2. 中に汚れや植物の残骸があれば取り除きます。
3. カバーシートを再び取り付けます。



注意

侵入した汚れはブレーキライニング（図 135/2）で堆積し、これによりブレーキ性能が大幅に低下する恐れがあります。

事故の危険があります！

ブレーキドラム内に汚れがある場合には、専門工場にブレーキライニングの点検を依頼してください。

このためにホイールとブレーキドラムを取り外す必要があります。

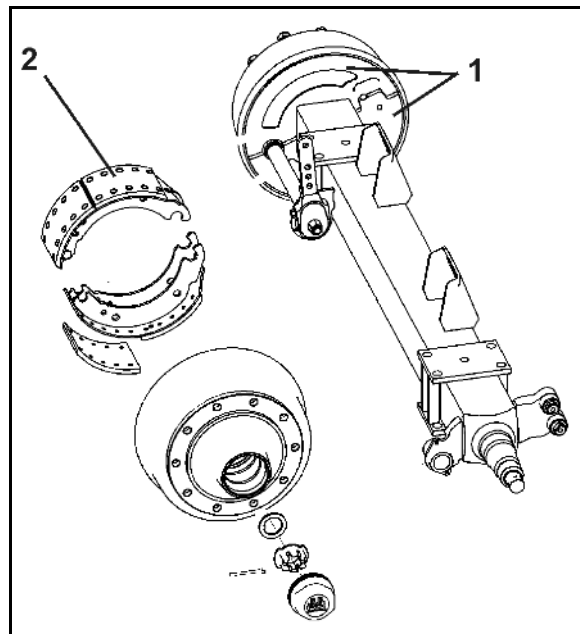


図 135

ホイールハブベアリングの遊びを確認（工場での作業）

ホイールハブベアリングのあそびを確認するには、タイヤが浮き上がるまで軸を持ち上げます。ブレーキを解除します。タイヤと地面の間にレバーをセットし、あそびを点検します。

ベアリングのあそびを確認できる場合:

ベアリングのあそびの設定

- ちり除けキャップまたはハブキャップを外します。
- スプリントを軸ナットから外します。
- ホイールが回転している際にホイールハブの動きが少し制動されるまで、ホイールナットを締め付けます、
- 軸ナットを最も近いスプリント穴まで回して戻します。ぴったり重なっている場合、次の穴まで（最大 30°）。
- スプリントをセットし、少し上に曲げます。
- ちり除けキャップにロングライフグリースを少し補充し、ホイールハブにはめるか、ねじで固定します。

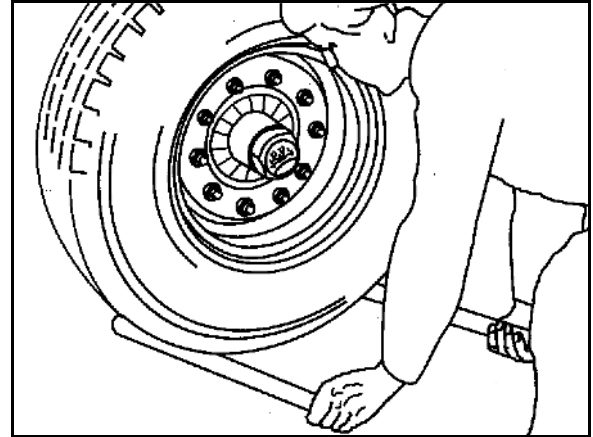


図 136

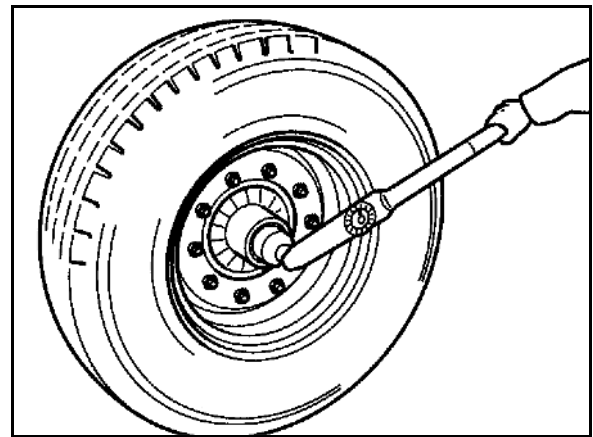


図 137

ブレーキライニングの確認

のぞき穴 (図 138/1) はゴム栓 (ある場合) を引き抜いて開きます。

ブレーキライニングの厚さが

- a: リベットで固定したライニングで
5 mm
(N 2504) で 3 mm

- b: 粘着したライニングで 2 mm

の場合、ブレーキライニングを新品に交換しなければなりません。

ラバータブを再び差し込みます。

ブレーキの調整

磨耗が機能に影響しているかどうか、ブレーキが機能するかどうか、走行時にブレーキ機能を点検し、必要に応じて再調整を実施します。急ブレーキの際に最大シリンダーストロークの約三分の二を使用している場合には、調整が必要です。このために軸をジャッキで持ち上げ、不意に動くことが無いように固定します。

緩み調整装置の設定 (工場での作業)

スラックアジャスターを手で圧力方向に操作します。ロングストローク・ダイヤフラムシリンダー・プレッシャーロッドのストロークが最大 35 mm

の場合、ホイールブレーキの調節が必要です。

設定は、スラックアジャスターの再調整六角で行います。ストローク「a」を、接続しているブレーキレバー長さ「B」の 10～12%

に設定した場合、

たとえばレバー長さ 150 mm = ストローク 15～18 mm。

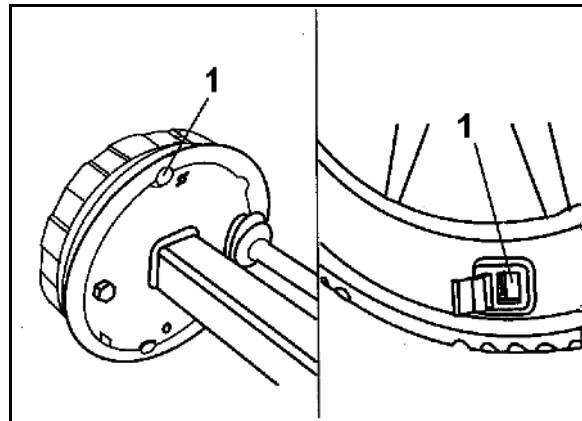


図 138

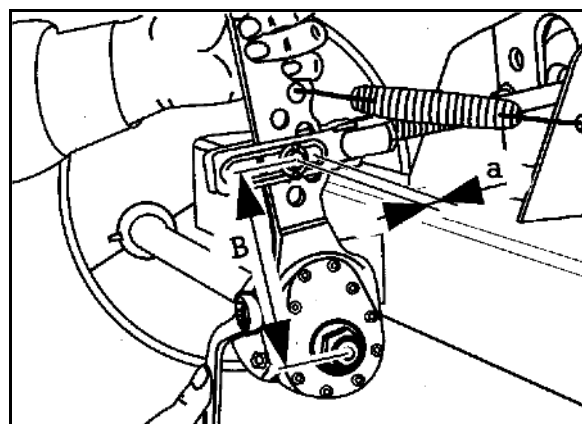


図 139

自動緩み調整装置の設定（工場での作業）

標準的な緩み調整装置の基本設定は、アナログで行われます。再調整は、約 15° カム回転する際に、自動的に行われます。

レバーの理想的な位置（シリンダーの固定によって影響を受けない）は、操作方向に対してレバーが直角の手前約 15° になっている状態です。

自動緩み調整装置の機能チェック

1. ゴム製のストッパーキャップを取り外します。
2. 調整ねじ（矢印）をキーリングで、反時計回りに約 $\frac{3}{4}$ 回転戻します。レバー長さが 150 mm の場合、ストロークは 50 mm 以上なければなりません。
3. ブレーキレバーを何回も手で作動させます。この際、自動調整はスムーズに行われなければなりません。ギアカップリングがカチッと合まる音が聞こえ、リターンストロークでは調整ねじが少し時計回りに回転します。
4. ストッパーキャップを取り付けます。
5. BPW 特殊 ロングライフグリース ECO_Li91 を塗ります。

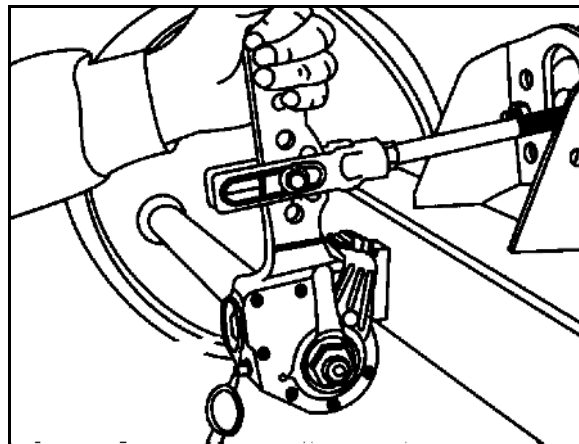


図 140

空気タンク



空気タンク内の液体は毎日排出してください

(1) 空気タンク

(2) 排水バルブ

(3) 圧力計用の点検用コネクター

1. 空気タンクから水が出てこなくなるまで、リングを用いて排水バルブを横方向に引いてください。

→ 排出バルブから水が流れ出ます。

2. 排水バルブを回して空気タンクから外し、汚れがあれば空気タンクを清掃してください。

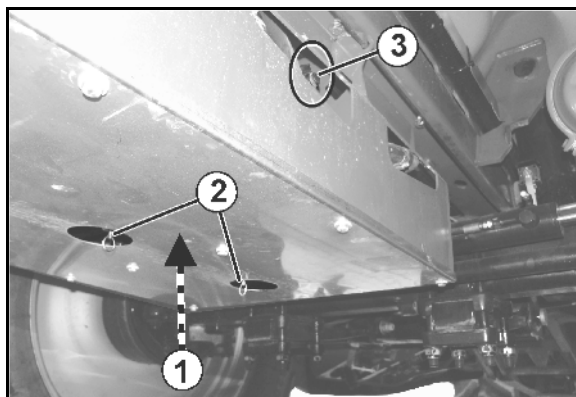


図 141

デュアルラインブレーキシステムの検査指示 (工場での作業)

1. 密閉性検査

1. 全てのコネクタとパイプ / ホース / ねじ接続部を、漏れがないか点検してください。
2. 漏れをなくします。
3. パイプやホースに摩耗している箇所があれば修理します。
4. 穴が開いていたり故障しているホースを交換します。
5. 10 分以内に圧力損失が 0.15 bar を超過しない場合、デュアルラインブレーキシステムに漏れがないと見なされます。
6. 漏れをなくすか、漏れがあるバルブを交換します。

2. 空気タンクの圧力を確認

1. 圧力計を空気タンクの検査用コネクタに接続してください。
規定値 6.0 ~ 8.1 + 0.2 bar

3. ブレーキシリンダー圧力を点検

1. 圧力計をブレーキシリンダーの検査用コネクタに接続してください。
規定値: ブレーキを操作していない場合 0.0 bar

4. ブレーキシリンダーの目視検査

1. 泥除けまたはベローズ (5) に損傷がないか点検します。
2. 破損した部品を交換してください。

5. ブレーキバルブ、ブレーキシリンダーおよびブレーキライニングのジョイント

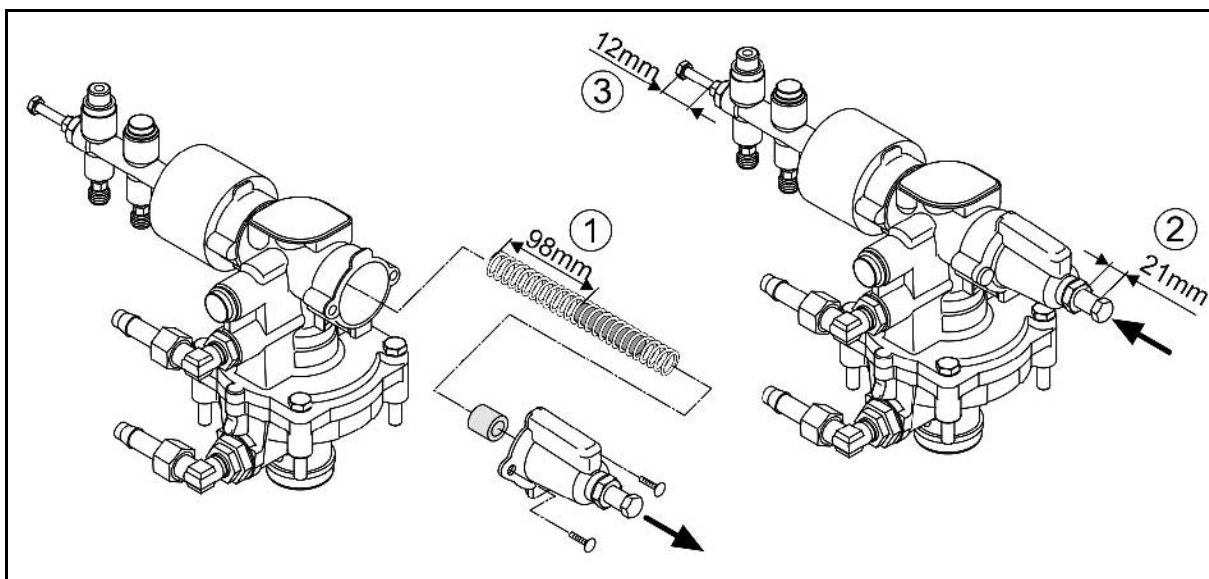
ブレーキバルブとブレーキシリンダー、ブレーキリンクエージのジョイントはスムーズにスライドしなければなりません。必要ならグリースを塗布するか、軽く注油します。

自動荷重対応式制動力調整器 (ALB) 用の設定値



制動力調整器の交換時には、調整値 1、2、3
を設定しなければなりません。

- (1) 圧力ばねの作用長さ
- (2) ナットとキャップの間で空いているねじの長さ
- (3) ナットとボルトの間で空いているねじの長さ



13.5.1 油圧式ブレーキ

油圧式ブレーキの確認

- すべてのブレーキホースで摩耗がないか確認
- すべての継手で漏れがないか確認
- 摩耗した、または破損した部品を新品に交換します。

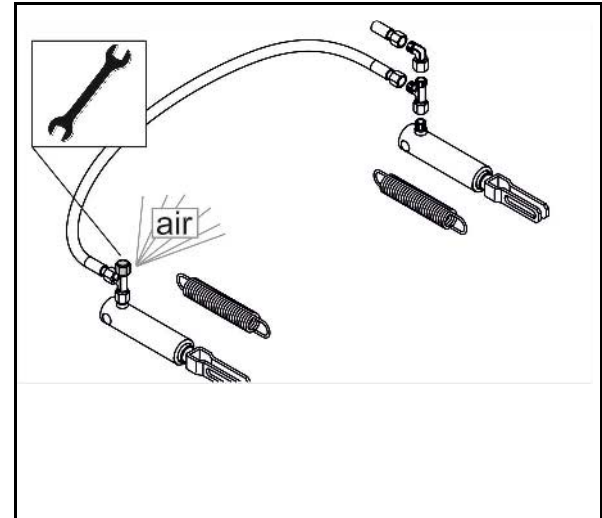
油圧式ブレーキ装置の空気抜き（工場での作業）

ブレーキの修理で装置を開いた後は、空気が圧力ラインに入り込んでいる場合があるため、必ずブレーキシステムの空気を抜いてください。

1. 排気バルブを少し緩めます。
2. トラクターのブレーキを作動させます。
3. オイルが流れ出たら、排気バルブを閉じます。

→ 流れ出るオイルを収容してください。

4. ブレーキの点検を実行します。



13.6 パーキングブレーキ



新しい機械では、パーキングブレーキのブレーキケーブルが伸びる場合があります。

次の場合には、パーキングブレーキを調整します。

- パーキングブレーキをかけるために軸のクランプストロークの四分之三が必要である場合。
- ブレーキを新しく配置した場合。

パーキングブレーキの調整



ブレーキケーブルは、パーキングブレーキを解除した状態では少したるんでいなければなりません。この際、ブレーキケーブルは車両の別の部分に載っていたり擦れたりしてはいけません。

1. ケーブルクランプを解除します。
2. ブレーキケーブルを適切に短縮し、ケーブルクランプを再び締め付けます。
3. パーキングブレーキを引いたときに、制動力が正常に働くか確認してください。

13.7 タイヤ/ホイール

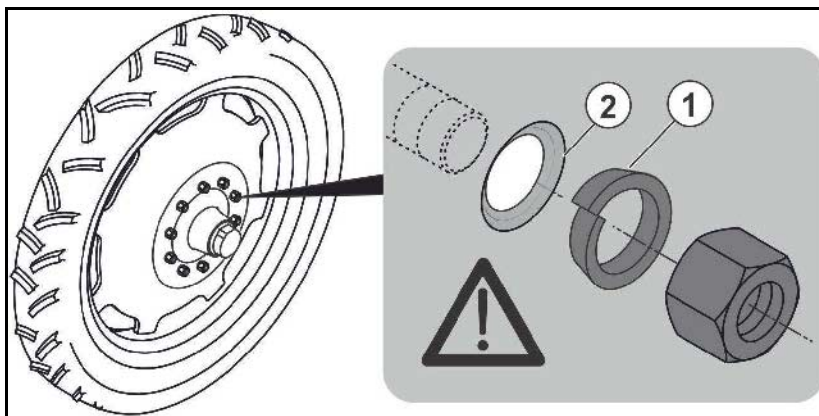


- ホイールナットまたはボルトの必要な締め付けトルク: 510 Nm



ホイール取り付けには次を使用してください：

- (1) ホイールナットの前の円錐リング
- (2) 円錐リングを収容するための、適合するくぼみがあるリムのみ



- 定期的に以下のものを点検してください。
 - ホイールナットがしっかりと締め付けられているか。
 - タイヤ空気圧（これについては 13.7.1 章を参照）。
- 必ず弊社指定のタイヤとリムを使用してください（67ページを参照）。
- タイヤの修理作業は、必ず適切な組み付け工具を使用する専門工場が実施する必要があります。
- タイヤの取り付けには、十分なスキルと適切な組み付け工具が必要です。
- ジャッキは必ずマークが付いたジャッキポイントに置いてください。

13.7.1 タイヤ空気圧



- 必要なタイヤ空気圧は、以下のものに左右されます。
 - タイヤサイズ。
 - タイヤの耐荷重能力。
 - 走行速度。
- タイヤの性能は以下のものによって制限されます。
 - 過負荷。
 - タイヤ空気圧が低すぎる場合。
 - タイヤ空気圧が高すぎる場合。



- タイヤが冷たいとき（つまり走行開始前）に、定期的にタイヤ空気圧を点検してください（67 ページ参照）。
- 前輪または後輪の左右タイヤ間の圧力差は、0.1 bar 以下でなければなりません。
- タイヤ空気圧は、高速での走行後や暑い時には 1 bar ほど上昇することがあります。タイヤが冷えた後にタイヤ空気圧が低すぎることになってしまうため、タイヤ空気圧は決して下げないでください。

13.7.2 タイヤの装着（工場での作業）



- 新品のタイヤまたは他のタイヤを装着する前に、ホイールリムの装着面にサビの兆候が見られる場合は取り除きます。サビは、車両の使用中に、ホイールリムの損傷の原因となる可能性があります。
- 新品のタイヤを装着するときは、必ず新品のインナーチューブまたはチューブレスタイヤ向けの新品のバルブを使用してください。
- バルブには、必ずガスケットインサートが付いたバルブキャップを取り付けてください。

13.8 連結装置の点検



危険！

- 交通安全のため、破損した牽引バーはすぐに新しい牽引バーに交換してください。
- 修理作業はメーカーの工場だけが行えます。
- 安全上の理由から、牽引バーへの溶接や穴開け加工を禁じます。

連結装置（牽引バーや下部リンクトラバース、牽引ボール、ルネットアイ）に以下が生じていないか点検します：

- 破損、変形、亀裂
- 摩耗
- 取り付けボルトの緩み

連結装置	摩耗程度	取り付けボルト	数	締め付けトルク
リフトアームトラ バース	カテゴリー 3 : 34.5 mm カテゴリー 4 : 48.0 mm カテゴリー 5 : 56.0 mm	M20 8.8	8	410 Nm
牽引ボール				
K80 (LI009)	82 mm	M16 10.9	8	300 Nm
K80 (LI040)	82 mm	M20 10.9	8	560 Nm
K80 (LI015)	82 mm	M20 10.9	12	560 Nm
ルネットアイ				
D35 (LI038)	36.5 mm	M16 12.9	6	340 Nm
D40 (LI017)	41.5 mm	M16 10.9	6	300 Nm
D40 (LI006)	42.5 mm	M20 8.8	8	395 Nm
D46 (LI034)	48 mm	M20 10.9	12	550 Nm
D50 (LI037)	51.5 mm	M16 12.9	4	340 Nm
D50 (LI010)	51.5 mm	M16 10.9	8	300 Nm
D50 (LI012)	51.5 mm	M20 10.9	4	540 Nm
D50 (LI011)	51.5 mm	M20 8.8	8	410 Nm
D50 (LI030)	52.5 mm	M20 8.8	8	395 Nm
D51 (LI039)	53 mm	M20 10.9	12	600 Nm
D58 (LI031)	60 mm	M20 10.9	12	550 Nm
D62 (LI007)	63.5 mm	M20 10.9	8	590 Nm
D79 (LI021)	81 mm	M20 10.9	12	550 Nm

13.9 油圧空気圧スプリングサスペンション

ねじがしっかり締まっているか点検します。

指定締め付けトルクを遵守してください。

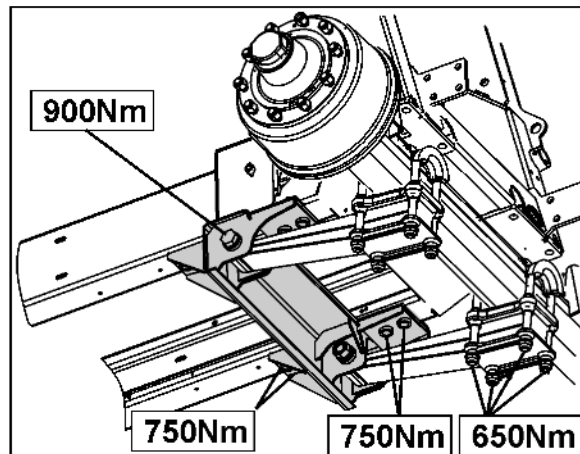


図 142

13.10 牽引装置

ねじがしっかり締まっているか点検します。

指定締め付けトルクを遵守してください。

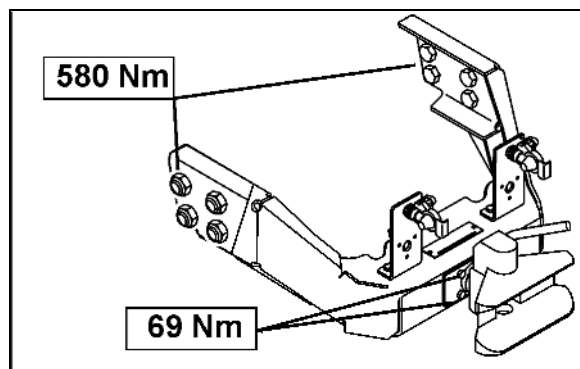


図 143

13.11 油圧系統



警告

油圧系統の高圧油圧油が体内に入り込むことによる感染の危険。

- 油圧系統について作業を実施することができるのは、専門工場だけです。
- 油圧系統の作業を行う前に、油圧系統の圧力を抜いてください。
- 漏れている箇所を探す場合は、必ず適切な補助装置を使用してください。
- 油圧ホースラインの漏れは、絶対に手や指でふさごうとしないでください。

漏れ出た高圧の油圧オイルが皮膚から体内に入り、重傷の原因となる可能性があります！

油圧油によって怪我を負った場合は、ただちに医師の診察を受けてください。感染の危険があります。



- 連結されている機械の油圧系統に油圧ホースラインを接続するときは、必ず牽引車両とトレーラーの両方の油圧系統の圧力を抜いてください。
- 油圧ホースラインが正しく接続されていることを確認してください。
- すべての油圧ホースラインとカップリングに損傷や汚れがないか、定期的に点検してください。
- 油圧ホースラインは、少なくとも毎年1回、正しく作動するかどうか専門工場で点検を受けてください。
- 損傷や劣化が見つかったら、油圧ホースラインを交換してください。必ず AMAZONE 純正油圧ホースラインを使用してください。
- 油圧ホースラインの使用限度は6年間です。この期間には、最大2年間の保管期間も含まれます。正しく保管・使用した場合でも、ホースおよびホース接続部は経年劣化するため、使用期間の制限が設けられています。ただし、経験値から使用期間を特定することも可能です（特に、潜在的な危険を考慮に入れる場合）。熱可塑性プラスチック製のホースおよびホース接続部の場合は、他の指針値が決め手となる可能性があります。
- 古いオイルは、適切な方法で廃棄処分してください。廃棄処分についてご不明な点がございましたら、オイルメーカーまでお問い合わせください。
- 油圧油は子供の手の届かないところで保管してください！
- 油圧油が地面や川などに流れないように注意してください。

13.11.1 油圧ホースラインの記号

バルブ部の識別データには、以下の情報が記載されています。

図 144/...

- (1) 油圧ホースラインについてのメーカーのマーク (A1HF)
- (2) 油圧ホースラインの製造日 (02 04 = 2004年2月)
- (3) 最大許容運転圧力 (210 bar)。

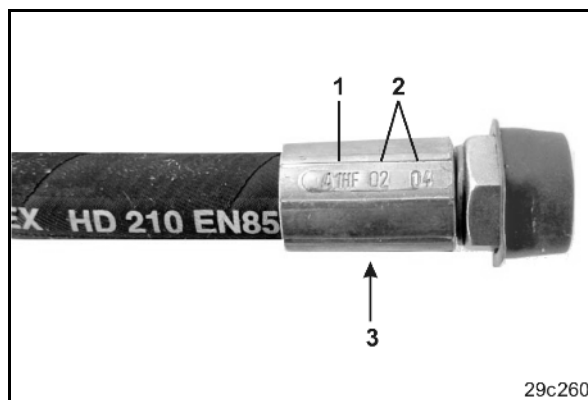


図 144

13.11.2 メンテナンス間隔

最初の10運転時間後、ついで50運転時間ごと

1. 油圧系統の全構成部品に漏れがないか点検します。
2. 必要に応じてねじ接続部を締め付けます。

始動する前に毎回：

1. 油圧ホースラインに目に見える損傷がないか点検します。
2. 油圧ホースラインとパイプに摩耗箇所があれば修理してください。
3. 油圧ホースラインに摩耗や損傷が見つかったら、直ちに交換してください。

13.11.3 油圧ホースラインの点検基準



ご自身の安全のため、環境への負担を減らすため、以下の点検基準を守ってください。

以下の1つ以上の基準に該当するホースは、交換してください。

- 外側の層に損傷があり、プライまで達している（例：こすれ、切断、ひび割れ）。
- 外側の層がもろくなっている（ホースの素材にひび割れができている）。
- ホース本来の形状とは異なる変形。圧力を抜いた状態と圧力をかけた状態の両方、または曲げたとき（例：層の分離、気泡の形成、締め付け、曲げ）。
- 漏れている箇所。
- 設置要件を満たしていない。

- 寿命（6年間）を超えている。

この6年間を決めるのは、油圧ホースラインの製造日です。製造日が「2004」の場合は、ホースは2010年2月までしか使用できません。「油圧ホースラインの記号」を参照してください。



ホース / パイプや接続部の漏れの原因の多くは以下にあります。

- O リングやシールの欠落
- O リングの破損や不適切な設置
- もろくなった、あるいは変形した O リングかシール
- 異物
- 不安定なホースクリップ

13.11.4 油圧ホースラインの取り付けと取り外し



以下のものだけを使用してください。

- AMAZONE 純正交換用ホースのみ。この交換用ホースは化学物質、機械的・熱的負荷に耐えます。
- ホース取り付け時には基本的に V2A のホースクランプ。



油圧ホースラインの着脱時には、必ず以下のことを守ってください。

- 清潔性を確保してください。
 - 油圧ホースラインを取り付ける場合は、すべての作動位置において必ず以下のことが確保されるようにしてください。
 - ホース自体の重み以外には張力がかかっていないこと。
 - 長さ不足による、がたつきの可能性がないこと。
 - 油圧ホースラインに対する外部からの機械的な影響がないこと。

適切に取り回して固定することで、ホースが他の構成部品に当たってこすれたり、ホース同士がこすれるのを防いでください。必要に応じて保護カバーを使って油圧ホースラインを固定してください。縁が鋭利な構成部品には覆いをかけてください。

- 許容曲げ半径を超えてはなりません。



- 油圧ホースラインを可動部品に接続するときは、動きの全範囲において最小許容曲げ半径を下回らないよう、また油圧ホースラインに過度な張力がかからないよう、ホースを適切な長さにする必要があります。
- 油圧ホースラインは、指定された固定ポイントに取り付けてください。その場合、ホースクリップは避けてください（ホースの自然な動きと長さの変化が損なわれるため）。
- 油圧ホースラインをコーティングすることは許可されません。

13.11.5 オイルフィルタ

- オイルフィルタ (Profi-folding)
- 油圧ポンプ駆動オイルフィルタ

汚染表示器 (図 145/2) が付いた油圧オイルフィルタ (図 145/1)

- 緑色 フィルタは正常に機能している
- 赤 フィルタを交換

フィルタを取り外すには、フィルタカバーを回して外し、フィルタを取り出します。



注意

あらかじめ油圧系統の圧力を抜いてください。

さもないと高圧で流れ出る油圧オイルによる負傷の危険があります。

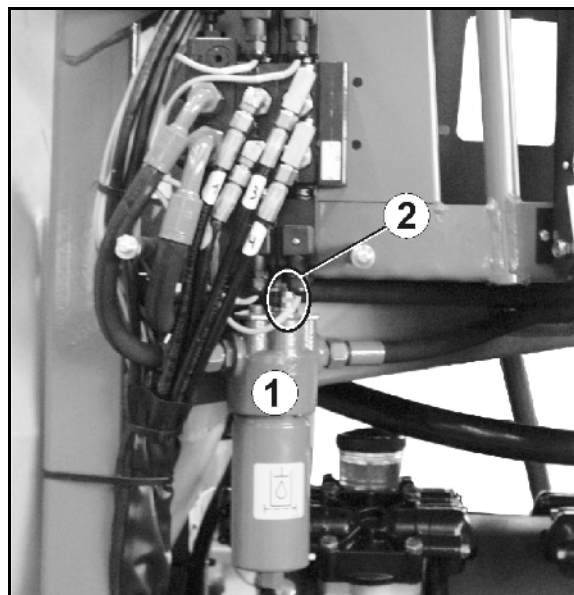


図 145

オイルフィルタを交換した後、汚染インジケータを再び押し込んでください。

→ 緑色のリングが再び見えるようになります。

13.11.6 マグネット弁の清掃

- 油圧ブロック Profi-folding

マグネット弁の汚れを取り除くには、これを洗浄します。堆積物のためにシャッターの完全な開閉が阻害される場合には、この洗浄作業が必要になることがあります。

1. マグネットキャップ (図 146/1) を回して外します。
2. マグネットコイル (図 146/2) を取り外します。
3. バルブロッド (図 146/3) をバルブ座と共に回して外し、圧縮空気または油圧オイルで汚れを落とします。

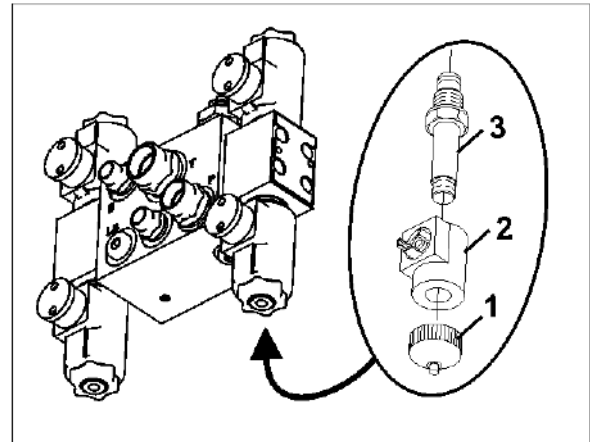


図 146



注意

高圧で流れ出る油圧オイルによる負傷の危険があります。

油圧系統での作業は、必ず圧力を抜いてから行ってください。

13.11.7 油圧プラグのフィルター の清掃 / 交換

Profi-folding の場合は除きます。

油圧プラグにはフィルター (図 147/1) が備わっています。このフィルターは目詰まりする場合があります、清掃 / 交換が必要になります。

油圧機能の働きが遅くなった場合、フィルターの清掃 / 交換が必要です。

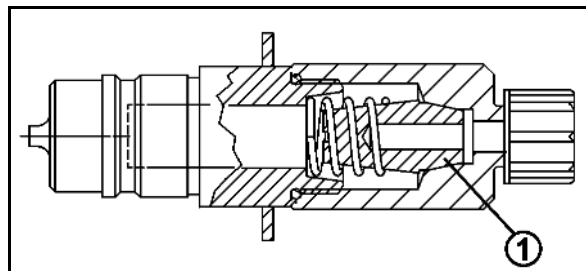


図 147

1. 油圧プラグを回して、フィルターハウジングから外します。
2. 圧力ばねとフィルターを取り外します。
3. フィルターを清掃 / 交換します
4. フィルターと圧力ばねを、再び正しく取り付けます。
5. 油圧プラグを、再びねじ込みます。この際 O リングが正しく取り付けられていることに注意してください。



注意

高圧で流れ出る油圧オイルによる負傷の危険があります。

油圧系統での作業は、必ず圧力を抜いてから行ってください。

13.11.8 ハイドロニューマチック蓄圧器

**警告**

蓄圧器付き油圧系統で作業する際に負傷する危険があります。

蓄圧器を接続した油圧ブロックおよび油圧ホースでの作業は、必ず専門作業員が実行してください。

油圧コンポーネントを取り外す前に、蓄圧器の圧力を抜いてください。

蓄圧器でのメンテナンス作業：

- 充填可能な蓄圧器のプレチャージ圧を確認します。
(2年ごと、安全に関連する蓄圧器の場合: 毎年)
- 接続部を目視点検し、しっかり固定されているか、漏れがないか、固定部材の状態はどうかを確認します。
(2年ごと、安全に関連する蓄圧器の場合: 毎年)

13.11.9 油圧スロットルバルブの調整

個別の油圧機能の作動速度は、バルブブロックから該当する油圧スロットルバルブを使って工場で設定されています(例: スプレーヤーブームの折り畳み/展開、スイング補正のロック/ロック解除など)。ただし、トラクターのタイプによっては、これらの速度設定の調整が必要になることもあります。

特定の絞りペアに対応する油圧機能の作動速度は、該当する絞りの六角穴付きネジを締める/緩めることで調節可能です。

- 作動速度を遅くする = 六角穴付きネジを締めます。
- 作動速度を速くする = 六角穴付きネジを緩めます。



油圧機能の作動速度を調節するときは、必ず絞りペアの2つの絞りを等しく調節してください。

Profi-folding I

図 148/...

- (1) スロットル - 右側ブームを折り畳む。
- (2) スロットル - 右側ブームを展開する。
- (3) スロットル - スイング補正をロックする。
- (4) 走行安全用留め具スロットル。
- (5) 油圧ジョイント - 傾き調節（絞りは傾き調節用の油圧シリンダーに付いています）。
- (6) スロットル - 左側ブームを折り畳む。
- (7) スロットル - 左側ブームを展開する。

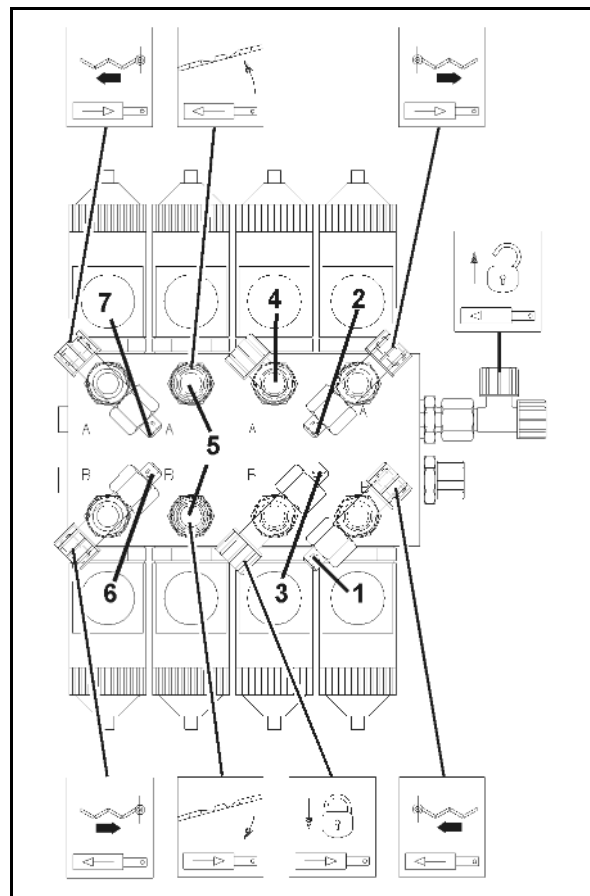


図 148

Profi-folding II

図 149/...

- (1) スロットル - 右側ブームを下げる。
- (2) スロットル - 右側ブームを上げる。
- (3) スロットル - 右側ブームを折り畳む。
- (4) スロットル - 右側ブームを展開する。
- (5) スロットル - スイング補正をロックする。
- (6) 走行安全用留め具スロットル。
- (7) 油圧ジョイント - 傾き調節 (絞りは傾き調節用の油圧シリンダーに付いています) 。
- (8) スロットル - 左側ブームを折り畳む。
- (9) スロットル - 左側ブームを展開する。
- (10) スロットル - 左側ブームを下げる。
- (11) スロットル - 左側ブームを上げる。

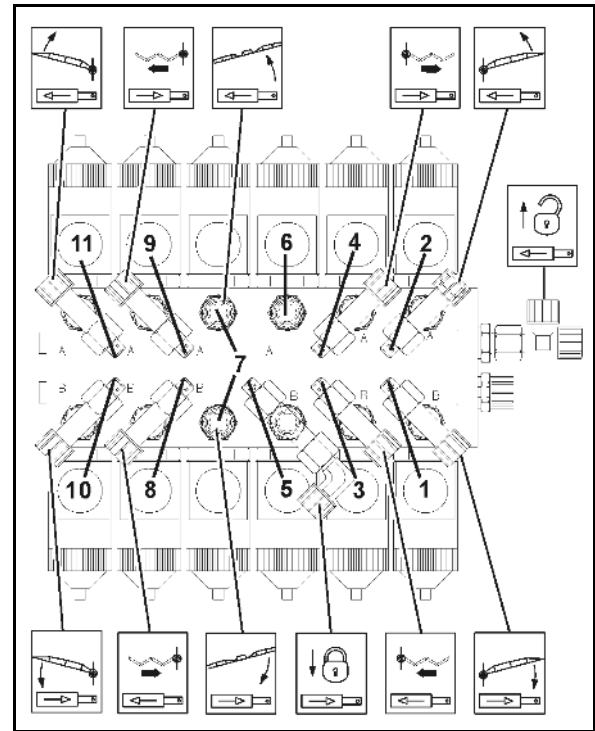


図 149

13.12 ポンプ

13.12.1 オイル量の点検



- ブランドオイル 20W30 またはマルチグレードオイル 15W40 のみを使用してください。
- オイル量は適正に維持してください。オイル量は、多すぎても少なすぎても、損傷の原因となることがあります。
- ヒッチ型牽引バーでポンプが水平になっていないため、読み取られたオイルレベルの平均を出す必要があります。
- 泡の発生やオイルの濁りは、ポンプのダイヤフラムの破損を示唆しています。

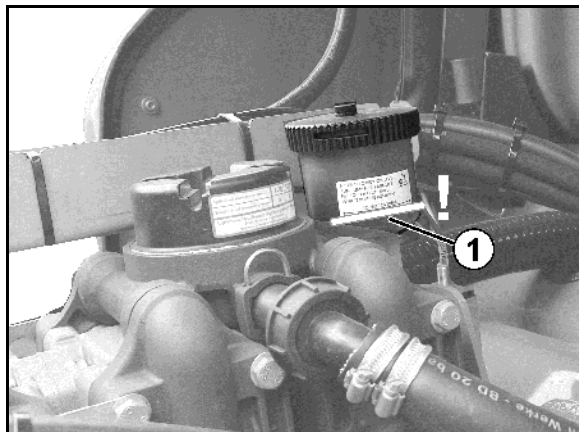


図 150

1. ポンプ稼働中に、オイルレベルが点検窓で見えるかどうか、確認します。
2. 必要に応じて、ポンプが稼働していない状態でオイルを補充します（最大でマーク（図 150/1）まで）。

13.12.2 オイル交換



- 2～3時間運転したらオイル量を点検し、必要に応じて補充します。

1. ポンプを取り外します。
2. カバーを取り外します。
3. オイルを排出します。
 - 3.1 ポンプを逆さまにします。
 - 3.2 使用済みオイルがすべて流れ出るまで、手でドライブシャフトを回転させます。

さらに、排出ねじからオイルを排出することも可能です。ただし、この方法だとポンプに若干のオイル残留物が残るため、最初の方法を推奨します。
4. ポンプを平らな場所に置きます。
5. ドライブシャフトを左右に交互に回転させ、新しいオイルをゆっくりと充填します。マーク (図 150 / 1) でオイルが見えるようになったら、オイル量は適正です。

13.12.3 清掃



使用後には、新鮮な水を数分間循環させることにより、ポンプを入念に清掃してください。

13.12.4 吸引側と圧力側のバルブの点検と交換（工場での作業）



- バルブアセンブリを取り外す前に、吸引側と圧力側のバルブの取り付け位置に注意してください。
- 組み立て時には、バルブガイドが損傷しないように注意してください。損傷していると、バルブの固着の原因となる可能性があります。

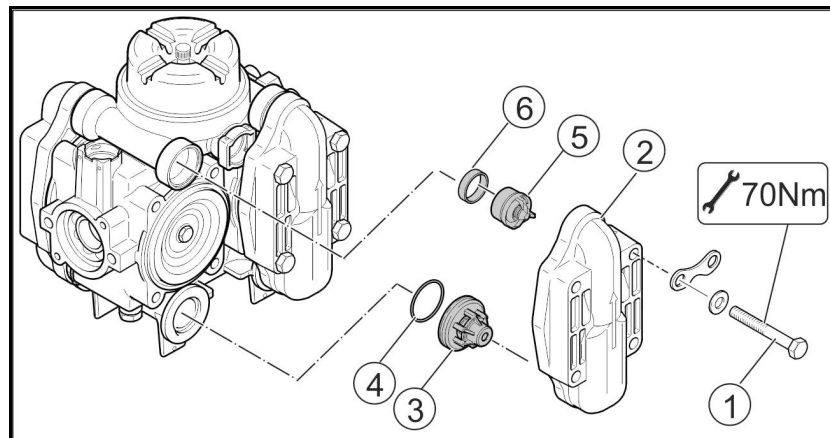


図 151

1. 必要ならポンプを取り外します。
2. ねじ（図 151/1）を外します。
3. バルブカバー（図 151/2）を取り外します。
4. バルブアセンブリ（図 151/3）を取り外します。
5. バルブシールリング（図 151/4）と O リング（図 151/5）を取り出します。
6. バルブ座とバルブ、バルブスプリング、バルブガイドに損傷や摩耗がないか点検します。
7. 損傷部品を交換します。
8. 点検および清掃後に、バルブアセンブリを取り付けます。
9. 新しい O リングを取り付けます。
10. バルブカバーを再び取り付け、ねじを 70 Nm のトルクで締め付けます。

13.12.5 ピストンダイヤフラムの点検と交換（工場での作業）



- 少なくとも年に 1 度ピストンダイヤフラムを取り外して、完璧な状態であるか点検してください。
- バルブアセンブリを取り外す前に、吸引側と圧力側のバルブの取り付け位置に注意してください。
- ピストンダイヤフラムは、各ピストンごとに個別に点検し、交換してください。点検したピストンを再び完全に取り付けるまで、次のピストンは取り外さないでください。
- 点検するピストンは必ず上方に旋回させ、ポンプハウジング内のオイルが流出しないようにしてください。
- 歪みや破裂、穴が見つかったピストンダイヤフラムが 1 つだけでも、原則としてすべてのピストンダイヤフラムを交換してください。

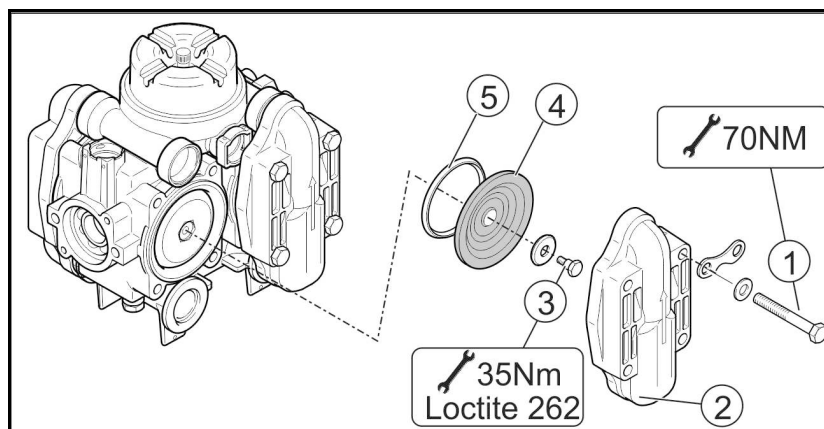


図 152

ピストンダイヤフラムの点検

1. 必要ならポンプを取り外します。
2. ねじ（図 152/1）を外します。
3. バルブカバー（図 152/2）を取り外します。
4. ピストンダイヤフラム（図 152/4）とウェッジリング（図 152/5）を点検します。
5. 破損したパーツを交換します。

ピストンダイヤフラムの交換

1. ねじ (図 152/3) を外し、ピストンダイヤフラム (図 152/4) を止めワッシャーと共にピストンから取り外します。
2. ピストンダイヤフラムが破損している場合は、オイルと散布液の混合液をポンプハウジングから排出します。
3. 汚れを落とすために、ディーゼル燃料または灯油でポンプハウジングを念入りに洗ってください。
4. すべてのシール面を清掃してください。
5. ピストンダイヤフラムとウェッジリングを正しく配置し、取り付けます。
ねじ接続部に対して、中程度の接続強度用の接着剤を使用してください。
6. バルブカバーを再び取り付け、ねじを 70 Nm のトルクで締め付けます。

13.13 蓄圧器のダイヤフラムを点検し、交換する（工場での作業）



少なくとも年に 1 度、蓄圧器のダイヤフラムを取り外して、完璧な状態であるか点検してください。

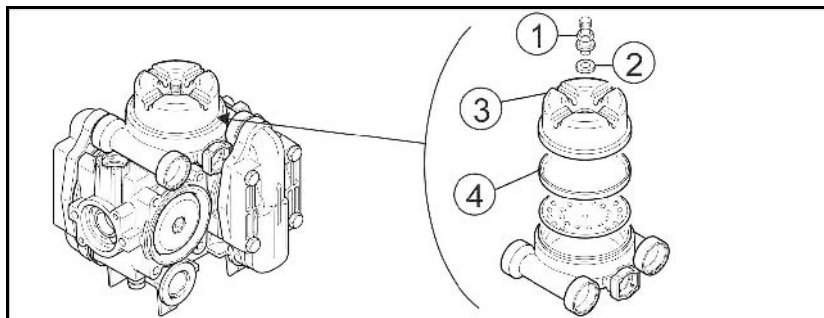


図 153

1. バルブ（図 153/1）とワッシャー（図 153/2）を取り外します。
→ 空圧が逃げます。
2. 補助工具をカバーの溝に入れ、カバー（図 153/3）のねじを外します。
3. ダイヤフラム（図 153/4）を確認し、故障したダイヤフラムを交換します。
4. 必要に応じてカバーを清掃します。
5. カバー、ワッシャーおよびバルブを再び取り付けます。
6. 蓄圧器に再び 3 bar の空圧で圧力を加えます。



ポンプがスムーズに稼働しない場合、蓄圧器内の空圧が変化する場合があります。空圧は、散布圧の範囲内でなければなりません。

13.14 流量計のキャリブレーション



これについては、操作端末の取扱説明書にある「リッターあたりインパルス」の章に注意を払ってください。

13.15 システム内の石灰化を除去

石灰化がある場合の症状：

- ノズル本体が開かない / 閉じない。
- 操作端末にエラー通知が出る

石灰化を除去するには、特殊な酸性化剤（例えば Sudau Agro 社の PH FIX 5）を使用します。



危険

酸性化剤との接触による、健康の危険。

パッケージの使用説明に注意してください！

1. 空のスプレーヤーを完全に清掃します。
2. 20 ~ 50 リットルの洗浄水を散布液タンクに充填します。
3. 散布ポンプを駆動します。
4. 酸性化剤（3 L）を、ヒンジ式フタから散布液タンクに入れます。
5. 混合液は、散布ライン内を 10 ~ 15 分循環させます。
6. ポンプ駆動を中断して、それから 5 分間混合液を静止させます。
7. カラーコーディングが黄色に変わるまで、混合液を洗浄水で希釈します。

→ （pH 7- 黄色、pH 6 – オレンジ、pH 5 未満 – ピンク）



8. Amaselect : ポンプ駆動せずに、ノズル手動選択で、全てのノズル位置に変更。

→ 希釈された混合液は無害で、散布液に加えることができます。

13.16 スプレーヤーのキャリブレーション

以下の場合には、キャリブレーションを実施してスプレーヤーをテストしてください。

- シーズンが始まる前
- ノズル変更ごと
- 散布表の設定上の注記の確認のため
- 実際の散布量と必要散布量 [L/ha] で相違がある場合。

実際の散布量と必要散布量 [L/ha]

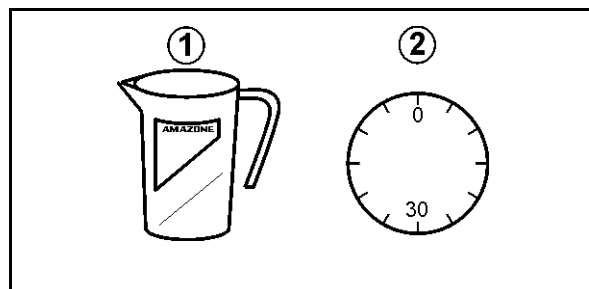
に相違が生じる原因は、以下によって発生することが考えられます。

- 実際の走行速度と速度計に表示される走行速度の相違、および /または
- 散布ノズルの自然な磨耗

キャリブレーションのために必要な付属品：

(1) クイックチェックカップ

(2) ストップウォッチ



個々のノズル出力による、停止状態での実際の散布量の検出

3 個以上のノズルにおいて、ノズル出力を検出します。ここでは、左右のサイドアームおよびスプレーヤーブームの中央部にあるノズルをそれぞれ次のように確認してください。

1. 作物を保護するために必要な散布量 [L/ha] を、正確に算出してください。
2. 必要な散布圧を算出します。
3. 操作端末：
 - 3.1 必要な散布量を操作端末に入力します。
 - 3.2 スプレーヤーブームに取り付けた散布ノズルの許容散布圧範囲を、操作端末に入力します。
 - 3.3 操作端末を自動モードから手動モードに切り替えます。
4. 散布液タンクに水を充填します。
5. アジテーターを ON にします。
6. 必要な散布圧を手動で設定します。
7. 散布を ON にして、すべてのノズルが問題なく機能するか確認します。

8. 複数のノズルにおいて、個々のノズル出力 [L/min] を検出します。

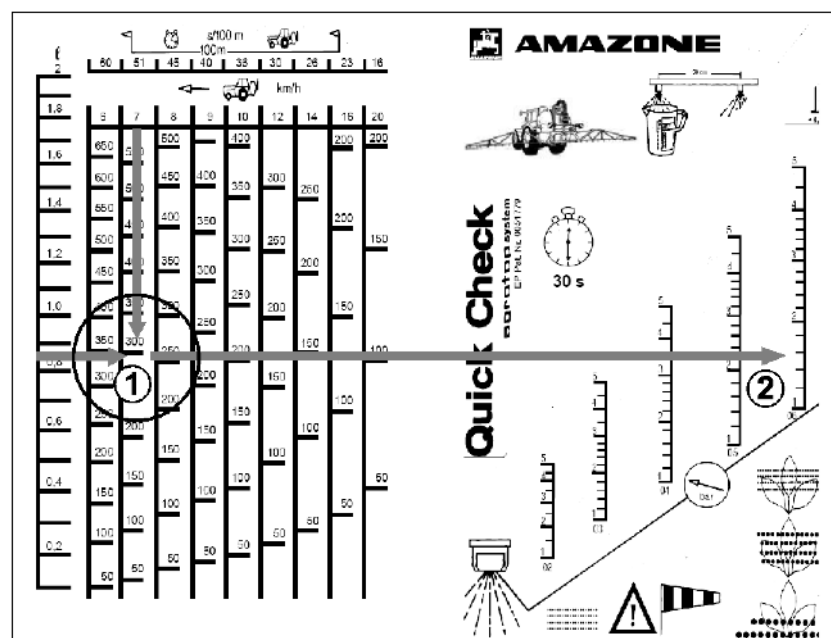
このため、クイックチェックカップを正確に 30 秒間ノズルの下に保持します。

9. 散布を OFF にします。
10. 次の方法で、個々のノズルの平均出力 [L/ha] を突き止めます。
- クイックチェックカップ上の表を使用。
 - 計算する。
 - 散布表を使用。

例：

ノズルサイズ	'06'
意図する走行速度	7 km/h
左側サイドアームのノズル出力:	0.85 l/30s
中央でのノズル出力	0.84 l/30s
右側サイドアームのノズル出力:	0.86 l/30s
計算した平均値:	0.85 l/30s → 1.7 L/min

1. クイックチェックカップにより個々のノズル出力 [L/ha] を検出



- (1) → 検出された散布量 290 l/ha
- (2) → 検出された散布圧 1.6 bar

2. 個々のノズル出力 [L/ha] を算出

$$\frac{d \text{ [l/min]} \times 1200}{e \text{ [km/h]}} = \text{散布量 [l/ha]}$$

- o d: ノズル出力 (計算した平均値) [L/min]
- o e: 走行速度 [km/h]

$$\frac{1.7 \text{ [l/min]} \times 1200}{7 \text{ [km/h]}} = 291 \text{ [L/ha]}$$

3. 個々のノズル出力 [L/ha] を散布表から読み取る

散布表から (278 ページ参照) :

→ 散布量 291 l/ha

→ 散布圧 1.6 bar



散布量と散布圧の検出値が設定値と一致しない場合:

- 流量計をキャリブレーションします (操作端末の取扱説明書を参照)
- すべてのノズルで磨耗や詰まりがないか確認します。

13.17 ノズル

ときどき、スライダー (図 154/7) がしっかりと取り付けられているか点検してください。

- それには親指で中程度の力をかけながら、可能な限りスライダーをノズル本体 (図 154/2) に差し込んでください。

新品の場合は、絶対にストッパー位置までスライダーを差し込まないでください。

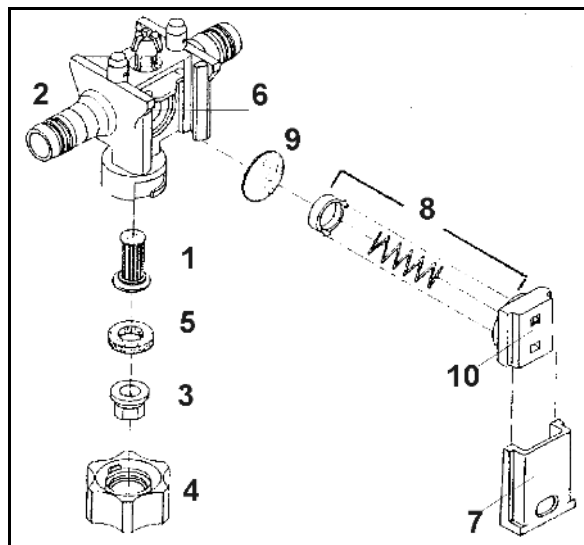


図 154

13.17.1 ノズルの取り付け

1. ノズルフィルタ (図 154/1) を、下からノズル本体 (図 154/2) に取り付けます。
2. ノズル (図 154/3) を差し込みナット (図 154/4) に挿入します。



各種ノズル向けに、異なる色が付いた差し込みナットが用意されています。

3. ノズルの上にゴムシール (図 154/5) を入れます。
4. 差し込みナットのシート面にゴムシールを押し込みます。
5. 差し込みナットをバヨネット接続部にセットします。
6. 差し込みナットをストップ位置までねじ込みます。

13.17.2 ダイアフラムバルブの取り外し（ノズルから液体が垂れている場合）

ダイアフラムシート（図 154/6）に堆積物があると、ブームを遮断したあとにノズルから液体が垂れる原因となります。その場合は、該当するダイアフラムを以下のように清掃してください。

1. スライダー（図 154/7）を、ノズル本体（図 154/2）から差し込みナットの方向へ引き出します。
2. スプリングエレメント（図 154/8）とダイアフラム（図 154/9）を取り外します。
3. ダイアフラムシート（図 154/6）を清掃します。
4. 組み立ては、逆の順で行います。



スプリングエレメントを取り付けるときは、正しい向きに注意してください。取り付ける時には、スプリングエレメントのハウジング(図 154/10)の左右の、段が付いた上向きに傾斜する縁が、ブームの断面の方向に傾斜している必要があります。

13.18 ラインフィルタ

- ラインフィルター（図 155/1）を清掃します（使用状況に応じて3～4カ月に1回）。
- 損傷したフィルタインサートを交換します。

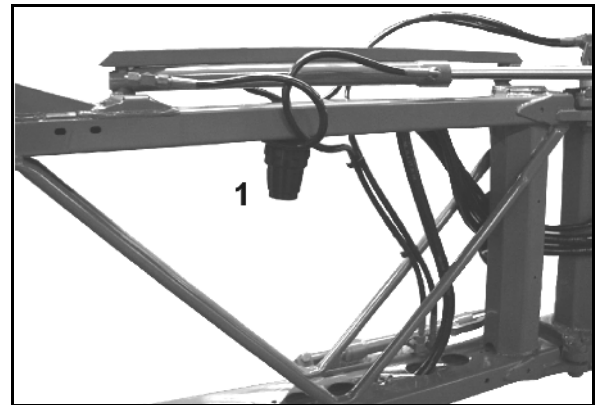


図 155

13.19 スプレーヤーのテストに関する注意事項



- 散布テストを実施することが許可されているのは認定センターだけです。
- 法律により、以下のとおりに散布テストを実施する必要があります。
 - 初期設定の遅くとも6カ月後（購入時に実施しなかった場合）、ついで
 - その後は2年ごと。

スプレーヤーテストキット（オプション）、注文番号：935680

図 156/...

- (1) 押し込み式のキャップ（注文番号：913954）と
プラグ（注文番号：ZF 195）
- (2) 流量計接続部
（注文番号：919967）
- (3) 圧力計接続部
（注文番号：7107000）
- (4) Oリング（注文番号：FC 122）
- (5) ホース接続部（注文番号：GE 095）
- (6) スリーブナット（注文番号：GE 021）
- (7) ホースクリップ（注文番号：KE006）
- (8) プラグソケット（注文番号：919345）
- (9) Oリング（注文番号：FC 112）
- (10) ソケット（注文番号：935679）
- (11) ヒューズプラグ（注文番号：ZF195）

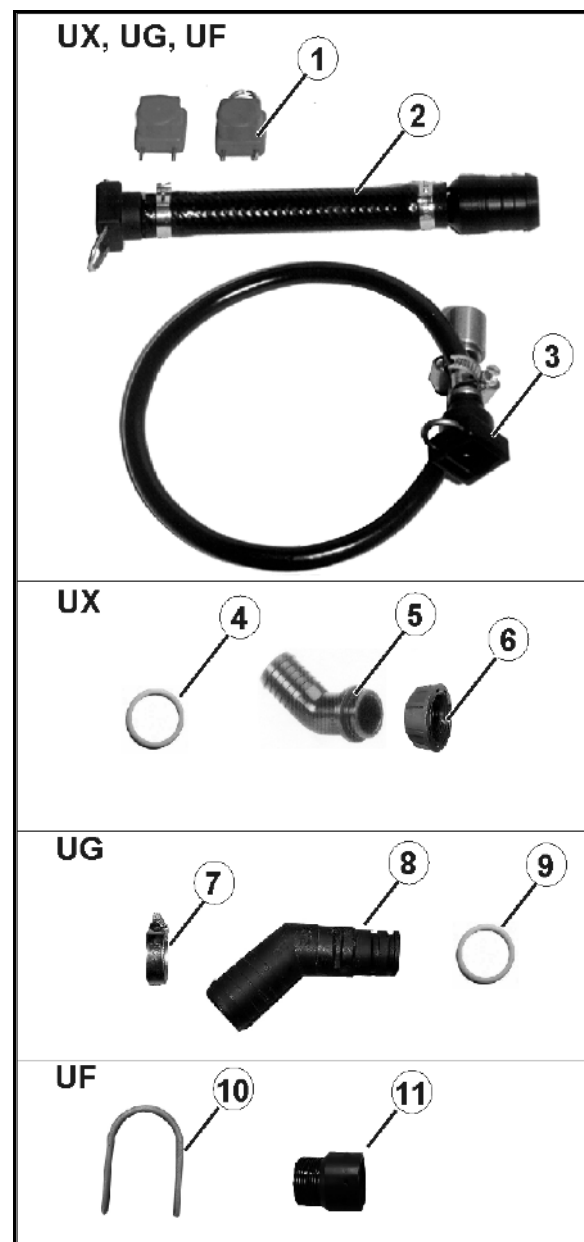


図 156

ポンプのテスト - ポンプの性能 (吐出量、圧力) のテスト

1. ユニオンナット (図 157/1) を緩めます。
2. ホース接続部を差し込みます。
3. スリーブナットを締め付けます。

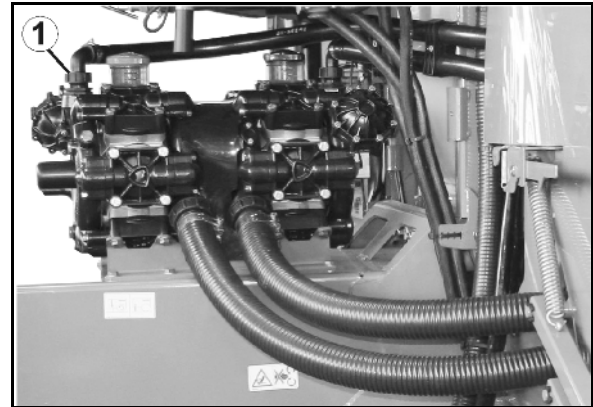


図 157

流量計のテスト

1. ブームセクションバルブ (図 158/1) からすべての散布ラインを取り外します。
2. 流量計接続部 (図 156/2) をブームセクションバルブの 1 つとつなぎ、テスターに接続します。
3. 残りのブームセクションバルブの接続部を、ブラインドキャップ (図 156/1) で塞ぎます。
4. 散布を ON にします。

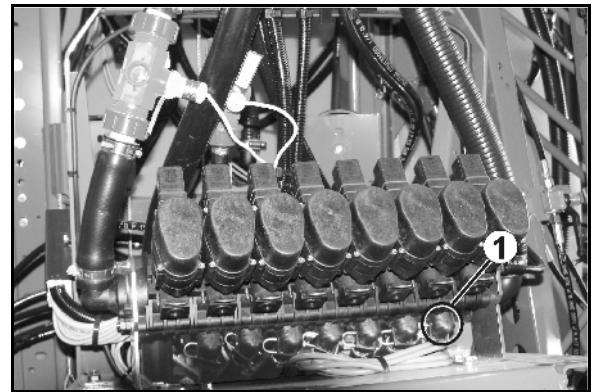
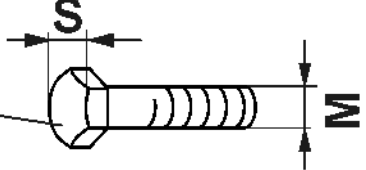


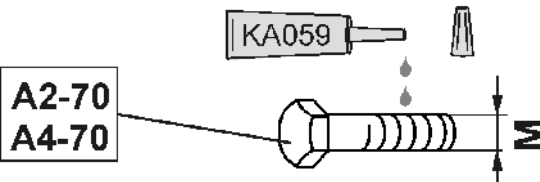
図 158

圧力計のテスト

1. 任意の散布ラインをブームセクションバルブ (図 158/1) から取り外します。
2. ソケットを用いて、圧力計接続部 (図 156/3) をブームセクションバルブに接続します。
3. めねじの中に 1/4 インチの点検用ゲージをねじ込みます。
4. 散布を ON にします。

13.20 ボルト締め付けトルク

8.8 10.9 12.9 				
M	S	Nm		
		8.8	10.9	12.9
M 8	13	25	35	41
M 8x1		27	38	41
M 10	16 (17)	49	69	83
M 10x1		52	73	88
M 12	18 (19)	86	120	145
M 12x1.5		90	125	150
M 14	22	135	190	230
M 14x1.5		150	210	250
M 16	24	210	300	355
M 16x1.5		225	315	380
M 18	27	290	405	485
M 18x1.5		325	460	550
M 20	30	410	580	690
M 20x1.5		460	640	770
M 22	32	550	780	930
M 22x1.5		610	860	1050
M 24	36	710	1000	1200
M 24x2		780	1100	1300
M 27	41	1050	1500	1800
M 27x2		1150	1600	1950
M 30	46	1450	2000	2400
M 30x2		1600	2250	2700

												
M	M4	M5	M6	M8	M10	M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
 Nm	2.4	4.9	8.4	20.6	40.7	70.5	112	174	242	342	470	589



コーティングされたねじの締付けトルクは異なります。

メンテナンスの章にある締付けトルクについての特別な指定を遵守してください。

13.21 スプレーヤーの廃棄



スプレーヤーは廃棄する前に、（内側と外側の）全体を入念に清掃してください。

次の部品はエネルギーの再生利用*

に回せます：散布液タンク、薬液混合タンク、洗浄水タンク、ハンドウォッシュタンク、ホース、プラスチック製付属品。

金属部品は廃棄できます。

個々の材質の廃棄について定めた各法規則に従ってください。

* エネルギーの再生利用は、

燃焼することでプラスチックに含まれたエネルギーを回収し、同時にこのエネルギーを使用して電力および /

または蒸気やプロセス加熱を得るためのものです。エネルギー再生利用は、複数の材質からなる汚れたプラスチック（特に汚染物質に接触したプラスチック）に適しています。

14 散布表

14.1 フラットスプレー / ドリフト防止 / インジェクタ / 空気混合ノズル、散布高さ 50 cm



- 散布表に記載されている散布量[L/ha]は、水にのみ有効です。記載の散布量をAUS向けに変換するには0.88を、NP溶液向けに変換するには0.85を乗じてください。
- 図 159は適正なノズルタイプを選択するのに役立ちます。ノズルタイプは以下のものによって決めます。
 - 意図する走行速度
 - 必要な散布量および
 - 必要な農薬の微粒化特性（微細な液滴、中程度の液滴、粗い液滴）
- 図 160は以下のために使用します。
 - ノズルサイズの決定
 - 必要な散布圧の決定
 - スプレーヤーのキャリブレーションのための必要な個別のノズル出力の決定

各種ノズルタイプおよびサイズの許容圧力範囲

ノズルタイプ	製造者	許容圧力範囲[bar]	
		最小圧力	最大圧力
XRC	TeeJet	1	5
AD	Lechler	1.5	5
Air Mix	agrotop	1	6
Air Mix OC		2	4
IDK / IDKN	Lechler	1	6
ID3 01 - 015		3	8
ID3 02 - 08		2	8
AI	TeeJet	2	8
TTI		1	7
AVI Twin	agrotop	2	8

TD Hi Speed

2

10



ノズル特性の詳細については、ノズルメーカーのウェブサイトを参照してください。

www.agrotop.com / www.lechler-agri.de / www.teejet.com

散布表

ノズルタイプの選択

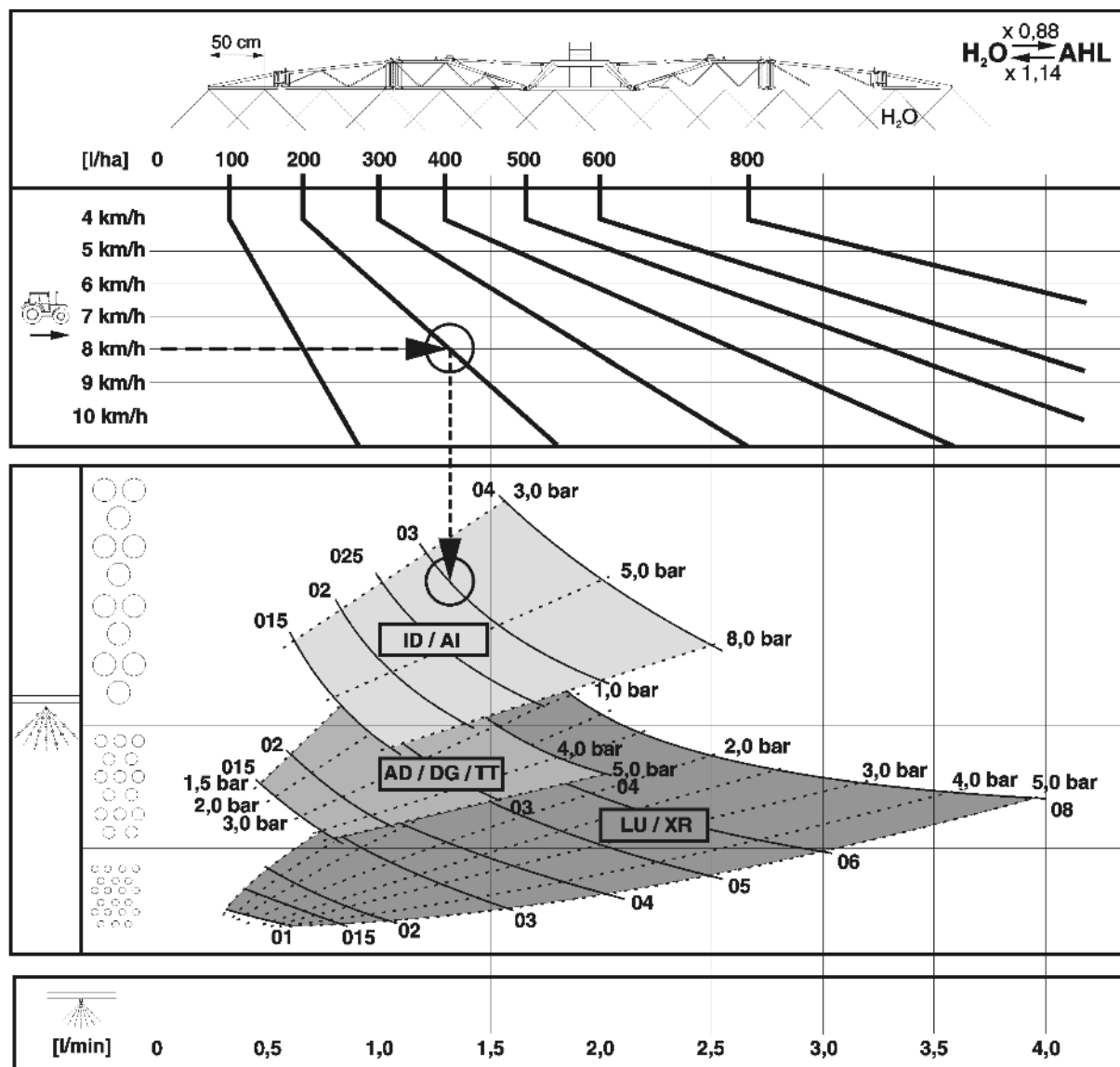


図 159

例：

必要な散布量：	200 L/ha
意図する走行速度：	8 km/h
必要な農薬の微粒化特性：	粗い液滴（少ないドリフト）
必要なノズルタイプ：	？
必要なノズルサイズ：	？
必要な散布圧：	？ bar
スプレーヤーのキャリブレーションのための必要な個別のノズル出力：	？ L/min

ノズルタイプ、ノズルサイズ、散布圧および個別のノズル出力の決定

1. 必要な散布量 (200 L/ha) と予定の走行速度 (8 km/h) のために、動作点を決めます。
 2. 下げ振りなどを使用して、動作点から垂直な線を下に引きます。基準点の位置に応じて、この線は各種ノズルタイプの特性図を通ります。
 3. 必要な噴霧特性 (小さな / 中程度の / 大きな液滴) を踏まえて、実施する作物保護手段に最も適したノズルタイプを選択してください。
- 上の例で選択したノズル :
- ノズルタイプ : AIまたはID
4. 散布表 (図 160) に切り替えます。
 5. 予定の走行速度 (8 km/h) の列で、必要な散布量 (200 L/ha) または必要な散布量に最も近い数字 (ここでは例えば 195 L/ha) を探します。
 6. 必要な散布量 (195 L/ha) の行で、
 - 該当するノズルサイズを読み取ります。適切なノズルサイズを選択します (例: 「03」) 。
 - このノズルサイズの列と、必要な散布量の行とが交わるところで、必要な散布圧を読み取ります (この例では3.7 bar) 。
 - スプレーヤーのキャリブレーションのための必要な個別のノズル出力を読み取ります (1.3 L/min) 。

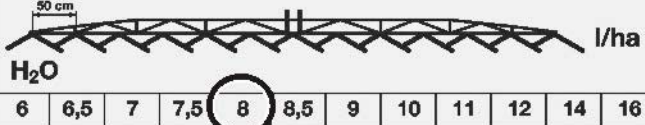
必要なノズルタイプ : AI / ID

必要なノズルサイズ : '03'

必要な散布圧 : 3.7 bar

スプレーヤーのキャリブレーションのための必要な個別のノズル出力 : 1.3 L/min

散布表

 H ₂ O l/ha															 bar							
6	6,5	7	7,5	8	8,5	9	10	11	12	14	16			015	02	025	03	04	05	06	08	
 km/h													l/min									
80	74	69	64	60	56	53							0,4	1,4								
100	92	86	80	75	71	67	60	55					0,5	2,2	1,2							
120	111	103	96	90	85	80	72	65	60	51			0,6	3,1	1,8	1,1						
140	129	120	112	105	99	93	84	76	70	60	53		0,7	4,2	2,4	1,5	1,1					
160	148	137	128	120	113	107	96	87	80	69	60		0,8	5,5	3,1	2,0	1,4					
180	166	154	144	135	127	120	108	98	90	77	68		0,9	7,0	4,0	2,5	1,8	1,0				
200	185	171	160	150	141	133	120	109	100	86	75		1,0		4,9	3,1	2,2	1,2				
220	203	189	176	165	155	147	132	120	110	94	83		1,1		5,9	3,7	2,7	1,5	1,0			
240	222	206	192	180	169	160	144	131	120	103	90		1,2		7,0	4,4	3,2	1,8	1,1			
260	240	223	208	195	184	173	156	142	130	111	98		1,3			5,2	3,7	2,1	1,3	1,0		
280	259	240	224	210	198	187	168	153	140	120	105		1,4			6,0	4,3	2,4	1,6	1,1		
300	277	257	240	225	212	200	180	164	150	129	113		1,5			6,9	5,0	2,8	1,8	1,2		
320	295	274	256	240	226	213	192	175	160	137	120		1,6				5,7	3,2	2,0	1,4		
340	314	291	272	255	240	227	204	185	170	146	128		1,7				6,4	3,6	2,3	1,6		
360	332	309	288	270	254	240	216	196	180	154	135		1,8				7,2	4,0	2,6	1,8	1,0	
380	351	326	304	285	268	253	228	207	190	163	143		1,9					4,5	2,9	2,0	1,1	
400	369	343	320	300	282	267	240	218	200	171	150		2,0					4,9	3,2	2,2	1,2	
420	388	360	336	315	297	280	252	229	210	180	158		2,1					5,4	3,5	2,4	1,4	
440	406	377	352	330	311	293	264	240	220	189	165		2,2					6,0	3,8	2,7	1,5	
460	425	394	368	345	325	307	276	251	230	197	173		2,3					6,5	4,2	2,9	1,6	
480	443	411	384	360	339	320	288	262	240	206	180		2,4					7,1	4,6	3,2	1,8	
500	462	429	400	375	353	333	300	273	250	214	188		2,5						5,0	3,4	1,9	
520	480	446	416	390	367	347	312	284	260	223	195		2,6						5,4	3,7	2,1	
540	499	463	432	405	381	360	324	295	270	231	203		2,7						5,8	4,0	2,3	
560	517	480	448	420	395	373	336	305	280	240	210		2,8						6,2	4,3	2,4	
580	535	497	464	435	409	387	348	316	290	249	218		2,9						6,7	4,6	2,6	
600	554	514	480	450	424	400	360	327	300	257	225		3,0						7,1	5,0	2,8	
620	572	531	496	465	438	413	372	338	310	266	233		3,1								3,0	
640	591	549	512	480	452	427	384	349	320	274	240		3,2								3,2	
660	609	566	528	495	466	440	396	360	330	283	248		3,3								3,4	
680	628	583	544	510	480	453	408	371	340	291	255		3,4								3,6	
700	646	600	560	525	494	467	420	382	350	300	263		3,5								3,8	
720	665	617	576	540	508	480	432	393	360	309	270		3,6								4,0	
740	683	634	592	555	522	493	444	404	370	318	278		3,7								4,3	
x 0,88				608	570	537	507	456	415	380	326	285	3,8									4,5
H ₂ O ↔ AHL				624	585	551	520	468	425	390	335	293	3,9									4,7
x 1,14				640	600	565	533	480	436	400	343	300	4,0									5,0
													LU / XR: 1 – 5 bar AD: 1,5 – 6 bar ID / AI: 2 – 8 bar IDK / Air Mix: 1 – 6 bar TTI: 1 – 7 bar									

ME 735

图 160

14.2 液体肥料向けの散布ノズル

ノズルタイプ	製造者	許容圧力範囲[bar]	
		最小圧力	最大圧力
3ジェット	agrotop	2	8
7穴	TeeJet	1.5	4
FD	Lechler	1.5	4
ドラッグホース	AMAZONE	1	4

14.2.1 3線ノズルについての散布表、散布高さ 120 cm

AMAZONE - 3線ノズル (黄色) の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力		AUS散布量 (L/ha)								
	水	AUS	/ km/h								
	(L/min)		6	7	8	9	10	11	12	14	16
1.0	0.36	0.32	64	55	48	43	39	35	32	28	24
1.2	0.39	0.35	69	60	52	47	42	38	35	30	26
1.5	0.44	0.39	78	67	59	53	47	43	39	34	30
1.8	0.48	0.42	85	73	64	57	51	47	43	37	32
2.0	0.50	0.44	88	75	66	59	53	48	44	38	33
2.2	0.52	0.46	92	78	69	62	55	50	46	39	35
2.5	0.55	0.49	98	84	74	66	57	54	49	52	37
2.8	0.58	0.52	103	88	77	69	62	56	52	44	39
3.0	0.60	0.53	106	91	80	71	64	58	53	46	40

散布表

AMAZONE - 3線ノズル (赤色) の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力		AUS散布量 (L/ha)								
	水	AUS	6	7	8	9	10	11	12	14	16
	(L/min)										
1.0	0.61	0.54	108	93	81	72	65	59	54	47	41
1.2	0.67	0.59	118	101	88	78	70	64	59	51	44
1.5	0.75	0.66	132	114	99	88	79	72	66	57	50
1.8	0.79	0.69	138	119	104	92	83	76	69	60	52
2.0	0.81	0.71	142	122	107	95	85	78	71	61	54
2.2	0.84	0.74	147	126	111	98	88	80	74	63	56
2.5	0.89	0.78	155	133	117	104	93	84	78	67	59
2.8	0.93	0.82	163	140	122	109	98	87	82	70	61
3.0	0.96	0.84	168	144	126	112	101	92	84	72	63

AMAZONE - 3線ノズル (青色) の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力		AUS散布量 (L/ha)								
	水	AUS	6	7	8	9	10	11	12	14	16
	(L/min)										
1.0	0.86	0.76	152	130	114	101	91	83	76	65	57
1.2	0.94	0.83	166	142	124	110	99	91	83	71	62
1.5	1.05	0.93	186	159	140	124	112	102	93	80	70
1.8	1.11	0.98	196	167	147	131	117	107	98	84	74
2.0	1.15	1.01	202	173	152	135	121	110	101	87	76
2.2	1.20	1.06	212	182	159	141	127	116	106	91	80
2.5	1.26	1.12	224	192	168	149	135	122	112	96	84
2.8	1.32	1.17	234	201	176	156	141	128	117	101	88
3.0	1.36	1.20	240	206	180	160	144	131	120	103	90

AMAZONE - 3線ノズル (白色) の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力		AUS散布量 (L/ha) / km/h								
	水	AUS	6	7	8	9	10	11	12	14	16
	(L/min)										
1.0	1.16	1.03	206	177	155	137	124	213	103	89	78
1.2	1.27	1.12	224	192	168	149	134	222	112	96	84
1.5	1.42	1.26	252	217	190	168	151	138	126	109	95
1.8	1.56	1.38	277	237	207	184	166	151	139	119	104
2.0	1.64	1.45	290	249	217	193	174	158	145	125	109
2.2	1.73	1.54	307	263	230	204	185	168	154	132	115
2.5	1.84	1.62	325	279	244	216	195	178	163	140	122
2.8	1.93	1.71	342	293	256	228	205	187	171	147	128
3.0	2.01	1.78	356	305	267	237	214	194	178	153	134

14.2.2 7 穴ノズルの散布表
AMAZONE 7穴ノズルSJ7-02VP (黄色) の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力 (ノズルあたり)		AUS散布量 (L/ha) / km/h								
	水	AUS	6	7	8	9	10	11	12	14	16
	(L/min)										
1.5	0.55	0.49	98	84	74	65	59	53	49	42	37
2.0	0.64	0.57	114	98	86	76	68	62	57	49	43
2.5	0.72	0.64	128	110	96	85	77	70	64	55	48
3.0	0.80	0.71	142	122	107	95	85	77	71	61	53
3.5	0.85	0.75	150	129	113	100	90	82	75	64	56
4.0	0.93	0.82	164	141	123	109	98	89	82	70	62

散布表

AMAZONE 7穴ノズルSJ7-03VP (青色) の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力 (ノズルあたり)		AUS散布量 (L/ha) / km/h								
	水	AUS	6	7	8	9	10	11	12	14	16
(L/min)											
1.5	0.87	0.77	154	132	116	103	92	84	77	66	58
2.0	1.00	0.88	176	151	132	117	106	96	88	75	66
2.5	1.10	0.97	194	166	146	129	116	106	97	83	73
3.0	1.18	1.04	208	178	156	139	125	113	104	89	78
3.5	1.27	1.12	224	192	168	149	134	122	112	96	84
4.0	1.31	1.16	232	199	174	155	139	127	116	99	87

AMAZONE 7穴ノズルSJ7-04VP (赤色) の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力 (ノズルあたり)		AUS散布量 (L/ha) / km/h								
	水	AUS	6	7	8	9	10	11	12	14	16
(L/min)											
1.5	1.17	1.04	208	178	156	139	125	113	104	89	78
2.0	1.33	1.18	236	202	177	157	142	129	118	101	89
2.5	1.45	1.28	256	219	192	171	154	140	128	110	96
3.0	1.55	1.37	274	235	206	183	164	149	137	117	103
3.5	1.66	1.47	295	253	221	196	177	161	147	126	110
4.0	1.72	1.52	304	261	228	203	182	166	152	130	114

AMAZONE 7穴ノズルSJ7-05VP (茶色) の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力 (ノズルあたり)		AUS散布量 (L/ha) / km/h								
	水	AUS	6	7	8	9	10	11	12	14	16
(bar)		(L/min)									
1.5	1.49	1.32	264	226	198	176	158	144	132	113	99
2.0	1.68	1.49	298	255	224	199	179	163	149	128	112
2.5	1.83	1.62	324	278	243	216	194	177	162	139	122
3.0	1.95	1.73	346	297	260	231	208	189	173	148	130
3.5	2.11	1.87	374	321	281	249	224	204	187	160	140
4.0	2.16	1.91	382	327	287	255	229	208	191	164	143

AMAZONE 7穴ノズルSJ7-06VP (灰色) の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力 (ノズルあたり)		AUS散布量 (L/ha) / km/h								
	水	AUS	6	7	8	9	10	11	12	14	16
(bar)		(L/min)									
1.5	1.77	1.57	314	269	236	209	188	171	157	135	118
2.0	2.01	1.78	356	305	267	237	214	194	178	153	134
2.5	2.19	1.94	388	333	291	259	233	212	194	166	146
3.0	2.35	2.08	416	357	312	277	250	227	208	178	156
4.0	2.61	2.31	562	396	347	308	277	252	231	198	173

散布表

AMAZONE 7穴ノズルSJ7-08VP (白色) の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力 (ノズルあたり)		AUS散布量 (L/ha) / km/h								
	水	AUS	6	7	8	9	10	11	12	14	16
	(L/min)										
1.5	2.28	2.02	404	346	303	269	242	220	202	173	152
2.0	2.66	2.35	470	403	353	313	282	256	235	201	176
2.5	2.94	2.60	520	446	390	347	312	284	260	223	195
3.0	3.15	2.79	558	478	419	372	335	304	279	239	209
4.0	3.46	3.06	612	525	459	408	367	334	306	262	230

14.2.3 FDノズルの散布表

AMAZONE FD-04ノズルの散布表

圧力 (bar)	ノズル出力 (ノズルあたり)		AUS散布量 (L/ha) / km/h								
	水	AUS	6	7	8	9	10	11	12	14	16
	(L/min)										
1.5	1.13	1.00	200	171	150	133	120	109	100	86	75
2.0	1.31	1.15	230	197	173	153	138	125	115	99	86
2.5	1.46	1.29	258	221	194	172	155	141	129	111	97
3.0	1.60	1.41	282	241	211	188	169	154	141	121	106
4.0	1.85	1.63	326	279	245	217	196	178	163	140	122

AMAZONE FD-05ノズルの散布表

圧力 (bar)	ノズル出力 (ノズルあたり)		AUS散布量 (L/ha) / km/h								
	水	AUS	6	7	8	9	10	11	12	14	16
	(L/min)										
1.5	1.41	1.24	248	213	186	165	149	135	124	106	93
2.0	1.63	1.44	288	247	216	192	173	157	144	123	108
2.5	1.83	1.61	322	276	242	215	193	176	161	138	121
3.0	2.00	1.76	352	302	264	235	211	192	176	151	132
4.0	2.31	2.03	406	348	305	271	244	221	203	174	152

AMAZONE FD-06ノズルの散布表

圧力 (bar)	ノズル出力 (ノズルあたり)		AUS散布量 (L/ha) / km/h								
	水	AUS	6	7	8	9	10	11	12	14	16
	(L/min)										
1.5	1.70	1.49	298	255	224	199	179	163	149	128	112
2.0	1.96	1.72	344	295	258	229	206	188	172	147	129
2.5	2.19	1.93	386	331	290	257	232	211	193	165	145
3.0	2.40	2.11	422	362	317	282	253	230	211	181	158
4.0	2.77	2.44	488	418	366	325	293	266	244	209	183

AMAZONE FD-08ノズルの散布表

圧力 (bar)	ノズル出力 (ノズルあたり)		AUS散布量 (L/ha) / km/h								
	水	AUS	6	7	8	9	10	11	12	14	16
	(L/min)										
1.5	2.26	1.99	398	341	299	265	239	217	199	171	149
2.0	2.61	2.30	460	394	345	307	276	251	230	197	173
2.5	2.92	2.57	514	441	386	343	308	280	257	220	193
3.0	3.20	2.82	563	483	422	375	338	307	282	241	211
4.0	3.70	3.25	650	557	488	433	390	355	325	279	244

散布表

AMAZONE FD-10ノズルの散布表

圧力 (bar)	ノズル出力 (ノズルあたり)		AUS散布量 (L/ha) / km/h								
	水	AUS	6	7	8	9	10	11	12	14	16
	(L/min)										
1.5	2.83	2.49	498	427	374	332	299	272	249	214	187
2.0	3.27	2.88	576	494	432	384	345	314	288	246	216
2.5	3.65	3.21	642	551	482	429	385	350	321	275	241
3.0	4.00	3.52	704	604	528	469	422	384	352	302	264
4.0	4.62	4.07	813	697	610	542	488	444	407	348	305

14.2.4 ドラッグホース装置の散布表

AMAZONE 投与ディスク4916-26 (直径0.65 mm) を使用した場合の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力 投与ディスクごと		AUS散布量 (L/ha) / km/h								
	水	AUS	6	7	8	9	10	11	12	14	16
	(L/min)										
1.0	0.20	0.18	71	61	53	47	43	37	36	31	27
1.2	0.22	0.19	78	67	58	52	47	43	39	34	29
1.5	0.24	0.21	85	73	64	57	51	47	43	37	32
1.8	0.26	0.23	92	79	69	61	55	50	46	40	35
2.0	0.28	0.25	99	85	74	66	60	54	50	43	37
2.2	0.29	0.26	103	88	77	68	62	56	52	44	39
2.5	0.31	0.27	110	94	82	73	66	60	55	47	41
2.8	0.32	0.28	113	97	85	76	68	62	57	49	43
3.0	0.34	0.30	120	103	90	80	72	66	60	52	45
3.5	0.36	0.32	127	109	96	85	77	70	64	55	48
4.0	0.39	0.35	138	118	104	92	83	76	69	59	52

AMAZONE 投与ディスク4916-32 (直径0.8 mm) を使用した場合の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力		AUS散布量 (L/ha)								
	投与ディスクごと		/ km/h								
	水	AUS	6	7	8	9	10	11	12	14	16
	(L/min)										
1.0	0.31	0.27	110	94	82	73	66	60	55	47	41
1.2	0.34	0.30	120	103	90	80	72	66	60	52	45
1.5	0.38	0.34	135	115	101	90	81	74	68	58	51
1.8	0.41	0.36	145	124	109	97	87	79	73	62	55
2.0	0.43	0.38	152	130	114	101	92	83	76	65	57
2.2	0.45	0.40	159	137	119	106	96	87	80	69	60
2.5	0.48	0.42	170	146	127	113	102	93	85	73	64
2.8	0.51	0.45	181	155	135	120	109	98	91	78	68
3.0	0.53	0.47	188	161	141	125	113	103	94	81	71
3.5	0.57	0.50	202	173	151	135	121	110	101	87	76
4.0	0.61	0.54	216	185	162	144	130	118	108	93	81

AMAZONE 投与ディスク4916-39 (直径1.0 mm) (標準) を使用した場合の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力		AUS散布量 (L/ha)								
	投与ディスクごと		/ km/h								
	水	AUS	6	7	8	9	10	11	12	14	16
	(L/min)										
1.0	0.43	0.38	153	131	114	101	92	84	77	66	57
1.2	0.47	0.41	167	143	124	110	100	91	84	72	62
1.5	0.53	0.47	187	160	141	126	112	102	94	80	71
1.8	0.58	0.51	204	175	154	137	122	112	102	88	77
2.0	0.61	0.53	216	185	162	144	130	118	108	93	81
2.2	0.64	0.56	227	194	170	151	136	124	114	97	85
2.5	0.68	0.59	240	206	180	160	142	132	120	103	90
2.8	0.71	0.62	251	215	189	168	151	137	126	108	95
3.0	0.74	0.64	262	224	197	175	158	143	131	112	99
3.5	0.79	0.69	280	236	210	186	168	153	140	118	105
4.0	0.85	0.74	302	259	226	201	181	165	151	130	113

散布表

AMAZONE 投与ディスク4916-45 (直径1.2 mm) を使用した場合の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力		AUS散布量 (L/ha)								
	投与ディスクごと		/ km/h								
	水	AUS	6	7	8	9	10	11	12	14	16
	(L/min)										
1.0	0.57	0.50	202	173	151	135	121	110	101	87	76
1.2	0.62	0.55	219	188	165	146	132	120	110	94	83
1.5	0.70	0.62	248	212	186	165	149	135	124	106	93
1.8	0.77	0.68	273	234	204	182	164	148	137	117	102
2.0	0.81	0.72	287	246	215	192	172	157	144	123	108
2.2	0.86	0.76	304	261	228	203	183	166	152	131	114
2.5	0.92	0.81	326	279	244	217	196	178	163	140	122
2.8	0.96	0.85	340	291	255	227	204	186	170	146	128
3.0	1.00	0.89	354	303	266	236	213	193	177	152	133
3.5	1.10	0.97	389	334	292	260	234	213	195	167	146
4.0	1.16	1.03	411	352	308	274	246	224	206	176	154

AMAZONE 投与ディスク4916-55 (直径1.4 mm) を使用した場合の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力		AUS散布量 (L/ha)								
	投与ディスクごと		/ km/h								
	水	AUS	6	7	8	9	10	11	12	14	16
	(L/min)										
1.0	0.86	0.76	304	261	228	203	183	166	152	131	114
1.2	0.93	0.82	329	282	247	219	198	180	165	141	124
1.5	1.05	0.93	372	319	278	248	223	203	186	160	139
1.8	1.15	1.02	407	349	305	271	245	222	204	175	153
2.0	1.22	1.08	432	370	324	288	259	236	216	185	162
2.2	1.27	1.12	450	385	337	300	270	245	225	163	168
2.5	1.35	1.19	478	410	358	319	287	261	239	205	179
2.8	1.43	1.27	506	434	380	337	304	276	253	217	190
3.0	1.47	1.30	520	446	390	347	312	284	260	223	195
3.5	1.59	1.41	563	482	422	375	338	307	282	241	211
4.0	1.69	1.50	598	513	449	399	359	327	299	257	225

14.3 硝酸アンモニウム/尿素溶液 (AUS) 液体肥料噴霧換算表

(濃度1.28 kg/L、すなわち液体肥料100 kgにつき約28 kgのN (窒素)、または液体肥料100 Lあたり36 kgのN、ただし510°C時)

窒素 kg	窒素溶液 L	窒素溶液 kg	窒素 kg	窒素溶液 L	窒素溶液 kg	窒素 kg	窒素溶液 L	窒素溶液 kg	窒素 kg	窒素溶液 L	窒素溶液 kg	窒素 kg	窒素溶液 L	窒素溶液 kg
10	27.8	35.8	52	144.6	186.0	94	261.2	335.8	136	378.0	485.0			
12	33.3	42.9	54	150.0	193.0	96	266.7	342.7	138	384.0	493.0			
14	38.9	50.0	56	155.7	200.0	98	272.0	350.0	140	389.0	500.0			
16	44.5	57.1	58	161.1	207.3	100	278.0	357.4	142	394.0	507.0			
18	50.0	64.3	60	166.7	214.2	102	283.7	364.2	144	400.0	515.0			
20	55.5	71.5	62	172.3	221.7	104	285.5	371.8	146	406.0	521.0			
22	61.6	78.5	64	177.9	228.3	106	294.2	378.3	148	411.0	529.0			
24	66.7	85.6	66	183.4	235.9	108	300.0	386.0	150	417.0	535.0			
26	75.0	92.9	68	188.9	243.0	110	305.6	393.0	155	431.0	554.0			
28	77.8	100.0	70	194.5	250.0	112	311.1	400.0	160	445.0	572.0			
30	83.4	107.1	72	200.0	257.2	114	316.5	407.5	165	458.0	589.0			
32	89.0	114.2	74	204.9	264.2	116	322.1	414.3	170	472.0	607.0			
34	94.5	121.4	76	211.6	271.8	118	328.0	421.0	175	486.0	625.0			
36	100.0	128.7	78	216.5	278.3	120	333.0	428.0	180	500.0	643.0			
38	105.6	135.9	80	222.1	285.8	122	339.0	436.0	185	514.0	660.0			
40	111.0	143.0	82	227.9	292.8	124	344.0	443.0	190	527.0	679.0			
42	116.8	150.0	84	233.3	300.0	126	350.0	450.0	195	541.0	696.0			
44	122.2	157.1	86	238.6	307.5	128	356.0	457.0	200	556.0	714.0			
46	127.9	164.3	88	242.2	314.1	130	361.0	465.0						
48	133.3	171.5	90	250.0	321.7	132	367.0	471.0						
50	139.0	178.6	92	255.7	328.3	134	372.0	478.0						



AMAZONEN-WERKE

H. DREYER GmbH & Co. KG

Postfach 51
D-49202 Hasbergen-Gaste
Germany

Tel.: + 49 (0) 5405 501-0
e-mail: amazone@amazone.de
<http://www.amazone.de>

